

診斷 間質性肺炎 腹膜炎

處方

佐氏煎(八〇) 二〇〇〇 沃度加里 一、〇

苦味丁鹽 三、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

三月二十三日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ 佐氏煎劑前方ヲ與フ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

三月二十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

三月二十七日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

四月九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 故アリテ服藥ヲ休止ス

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月十一日

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

四月十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月十六日

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

四月二十四日

電氣膠樣銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

四月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠樣銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

〇、七五

右皮下ニ注射ス

三月二十九日 盜汗大ニ宜シト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

三月三十一日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

四月二日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎依然タリ 佐氏煎劑佐氏塗布藥各前方

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月二十九日

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

五月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

五月七日

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月九日

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

五月十三日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

〇、七五

五月三十日 兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

八月八日 兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

八月九日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 沃度加里

一、〇

苦味丁鹽 三、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑

右朝夕下腹ニ塗布セシム

八月十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

水藥前方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

八月十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

第三十六病例

デヘ 五十歳男

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ 水藥前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十九日 背部ニ異常ナシ腹膜炎依然タリ 水藥前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月二十一日 背部ニ異常ナシ

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十三日 背部ニ異常ナシ

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

以下省略

昨年十一月流行性感冒ニ罹ル本年二月亦感冒ニ罹リ爾來健康恢復

セス且心悸亢進アリ

大正八年三月十三日 診ス兩胸ノ全背骨部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肋腹下腔ニ滯水アリ上下肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射少シタ亢進ス患者云フ途テ行クニ疲勞シ易シト

診斷

間質性肺膜 胸水 多發性神經炎 處方

健胃丸 十二粒 硝酸斯篤里規尼涅丸 〇、〇〇六

右六包トナス一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

三月十五日 丸藥前方ヲ與フ

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、三

右皮下ニ注射ス

三月十七日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ胸水ナシ 丸藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、四五

右皮下ニ注射ス

三月十九日 右肩胛棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、四五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、六

右皮下ニ注射ス

三月二十二日 兩肩胛下隅以上ト左鎖骨下窩以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方ヲ與フ

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

三月二十四日 右肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

三月二十六日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

三月二十八日 背部ハ打音ニ異常ナクシテ兩肩胛間部中央以上ハ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

三月三十日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月三日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月五日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月十二日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十四日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月十六日 右肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥

三九〇

前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 丸藥

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十日 兩肩胛下隅ハ打音輕弱ニシテ呼吸音弱シ 丸藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十二日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十四日 背部ニ異常ナシ 丸藥前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十六日 背部ニ異常ナシ脚部ニ異常ナシ 丸藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

休養

治療日數ノ短縮ヲ思ヒ左ノ試ミヲ行ヒタリ。

第三十七病例 タム 印刷局工女

昨年身體衰弱ノ感アリテ時々惡寒及ヒ腹痛アリト

大正八年五月十八日 診ス兩胸ノ全背部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音

弱シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 腹膜炎

處方

佐氏煎(八、〇)ニ〇〇〇 沃度加里 一、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、一五 ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

五月二十日 工場醫ヨリ休業シテ治療スベキ由ヲ命セラレタリト

水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、三 ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二十二日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方 續々間質性肺炎之特殊療法

方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、四 ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月二十四日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水

藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五 ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月一日 背部ニ異常ナシ 水藥前方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

六月三日 背部ニ異常ナシ 水藥前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

三九一

六月五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月七日 背部ニ異常ナシ 水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン 〇、七五

第三十八病例 ヨセ 二十六才女

昨今貧血ヲ來シ衰弱ヲ覺ヘ且肩ノ凝ルコト甚シト

大正八年五月十八日 診ス左鎖骨下窩ハ打音ニ異常ナク呼吸音不純ニシテ無響水泡音アリ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 腹膜炎 處方

佐氏煎(八〇) 二〇〇〇 沃度加里 一、〇

苦味丁鹽 三、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三、〇〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

右皮下ニ注射ス 六月十一日 背部ニ異常ナシ 水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月十三日 背部ニ異常ナシ 水藥前方

六月十五日 背部ニ異常ナシ 水藥前方ヲ與ヘ休養セシム

七月六日 背部ニ異常ナシ

八月十三日 背部ニ異常ナシ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

五月二十四日 左鎖骨下窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ニ無響水泡音アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク殊ニ兩肩胛上部ニ濁性強シ左腹膜炎アリ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 氣分宜シト左肩胛下隅以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎アリ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

右皮下ニ注射ス 六月十三日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ脾腫大ス

處方

佐氏煎劑 前方

鹽酸規尼溼 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月十五日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 水劑鹽規各前方

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

六月十七日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ脾腫ナシ 水劑鹽規各前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月十九日 胸部ニ異常ナシ 佐氏煎劑塗腹藥各前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月二十一日 本月十日頃マテ月經アリシニ昨日來亦ニ經行アリト背部ニ異常ナシ左腹膜炎愈ス

處方

〇、二五

五月二十八日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左鎖骨下窩打音ニ異常ナクシテ水泡音アリ左腹膜炎アリ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月三十日 胸部ノ所見前日ト同シ腹膜炎亦熱ヲ 水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月二日 兩肩胛間部上三分一以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左鎖骨下窩ハ打音異常ナクシテ水泡音アリ左腹膜炎アリ 水藥前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月四日 胸部ノ所見前日ト同シ患者云フ肩コトナク氣分宜シト 水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

六月十日 月經ノ爲ニ休ミタリト經量常ヨリモ多カリシト兩肩胛間部以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎アリ 水藥前方

ルエスチン 〇、二五

續々間質性肺炎之特殊療法

佐氏煎劑

藥角エキス

右丸四包トナス 朝夕一包頓服

電氣膠様銀

右皮下ニ注射ス

六月二十四日 昨夜來月經ナシト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部打音ニ異常ナシ認メザルモ左脇骨髑部ニ尙ホ壓痛アリ

佐氏煎劑

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

六月二十六日 左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

電氣膠様銀

右皮下ニ注射ス

六月二十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

六月三十日 兩肩胛上部ニ異常ナシ 水藥前方

電氣膠様銀

二、〇

前方

一、〇

二、〇

〇、七五

〇、七五

二、〇

〇、七五

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

第三十九病例 ウケ 二十三才女

約一週間前ヨリ兩肩コリ一昨日頃ヨリ左上肢ヲ體ノ後方ニ廻スニ疼痛アリ且歩行時ニ足重シト

大正七年九月九日 診ス兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左上肢筋右下肢筋ニ握痛アリ右膝蓋腱反射少シ亢進ス

診斷 間質性肺炎 多發性神經炎

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁糖 三、〇

右一日三回二分服

硝酸篤馬里規尼涅丸〇、〇〇六 健胃丸 十二粒

右六包トナス一日三回二分服

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月十一日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各

前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月十三日 右肩ノ痛ハ晝間ハナクシテ夜間ニ發スト右肩胛上部

續々間質性肺炎之特殊療法

三九四

右皮下ニ注射ス

七月二日 右肩胛上部打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

七月四日 背部ニ異常ナシ

處方

佐氏煎(八、〇) 人參煎(八、〇)

苦味丁糖

右一日三回二分服

電氣膠様銀

右皮下ニ注射ス

七月八日 背部異常ナシ腹部ハ他覺的ニ異常ナキモ尙ホ少シク壓痛アリ 水藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

七月十日 背部異常ナシ 水藥前方

電氣膠様銀

右皮下ニ注射ス

七月十二日 尙少シク肩コルト云フモ背部ニ異常ナシ 水藥前方

方

七月二十三日 休養

ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

九月十六日 肩ノ痛ハ大ニヨロシト兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 水藥丸藥各前方ヲ與フ

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

九月十九日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上部トハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 左上膊ノ過後時ニ於ケル疼痛大ニ宜シト右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

三九五

前方

電氣膠樣銀

右皮下ニ注射ス

一、五

九月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

一、〇

九月二十八日 仕事チナス時ハ尙ホ上膊ニ疼痛アリト前膊筋ニ握痛アリ背部ニ異常ヲ認メズ 内服藥各前方

電氣膠樣銀

右皮下ニ注射ス

一、五

九月三十日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

一、〇

十月二日 手ノ痛ハ殆ド忘レタルガ如シト蓋キニ蒼白ナリシ面色ハ少シク恢復ス右肩胛上部ハ打音輕弱ニシテ呼吸音弱シ

三九六

電氣膠樣銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

十月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

一、〇

十月八日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

十月十日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

一、〇

十月十二日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

十月十四日 背部ニ異常ナク上下肢ニ異常ナシ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

一、〇

敍上ノ實驗ニヨリテ吾人ノ注意ヲ要スルハ電氣膠樣銀ヲ注射スル時ハ胸部ノ理學的變常ハ増悪スルカ又ハ再現シテ之ニ青酸々化汞ヲ注射スル時ハ其理學的變常ノ輕減スルカ若クハ亡失スルニアリテ吾人ヲシテ其

療病的作用ニ差異アルヲ思ハシムモノナリ。

左記ノ一例ハ記録ヲ留メザルヲ以テ其詳細ヲ記スルコトヲ得ズト雖モ斯克陳舊ナル病症モ亦治スルヲ以テ參考ノ爲ニ單ニ記憶スルコトノミヲ記ス

第四十病例 ヤケ 五十三才醫士

大正七年十一月某日所用アリテ訪問セシニ褥裡ニアリ告ゲテ曰ク昨今寒サヲ感ズルコト強キモ體温ハ常度ヲ超ヘズ呼吸促進、心悸亢進胸部壓迫ノ感等アリ夜間ハ咳嗽頻發シテ爲ニ就眠スルコトヲ得ズ因テ日本酒二三合位ヲ頓服スレバ呼吸促進、心悸亢進少シク靜マリ咳嗽少シク減シ短時間僅カニ睡眠ニ入ルヲ得故ニ一夜二回位飲酒シ漸クニシテ曉ニ至レバ始メテ就眠スルコトヲ得ルト同氏ハ從水酒客ニシテ久シキ以前ヨリ右胸ノ萎縮アリ之ヲ診スルニ右胸ハ萎縮シ左背部ハ膨大シ共ニ全背濁音ニシテ萎縮部ハ呼吸音ナク他部ハ呼吸音弱シ前胸部ハ異常ナク心ノ左界ハ乳腺外ニアリテ心尖搏動ハ乳腺ニアリテ常位ヨリ低シ心窩部ニ搏動アリ腹部ニ異常ナシ

診斷 新及舊間質性肺炎 喘息 左胸ノ代償性膨大チナスノ結果トシテ横膈膜ノ下降セルガ爲ニ心臟體部ノ自軸左轉カ 處方 喘息ニ對シテ左ノ水劑ヲ飲用スベキヲ告グ 臭素加里 三、〇・ストロファンツス丁幾二、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

杏仁水

八、〇 水

二〇〇、〇

右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

療第一日〇、一五cc 療第三日〇、三cc 療第五日〇、四cc

療第七日〇、六cc

患者云フ水藥服用後呼吸促進心悸亢進咳嗽共ニ減シ一日嚔血アリシモ約半日ニシテ治セリト而シテ連鎖狀球菌「ワクチン」ノ注射後ハ多少胸部ノ理學的變常ノ狹少セシテ倍ズルモ記憶ナシる点チんヲ注射スルコト次ノ如シ

療第九日〇、二五cc 療第十一日〇、五cc 療第十三日〇、七五cc 療第十五日〇、七五cc 療第十七日一、〇cc

電氣膠樣銀トる点チんトサ一同置キニ注射スルコト次ノ如シ

療第十九日膠樣銀二、〇cc 療第二十一日ルエスチン一、〇cc

療第二十三日膠樣銀二、〇cc 療第二十五日ルエスチン一、〇cc

三九七

療第廿七日膠樣銀二、〇cc 療第廿九日ルエスチン一、〇cc
 叙トノ藥劑ノ注射回数ハ不明ナルモ約上記ノ如クニ行ヒ而シテ十
 二月上旬休養セリト信ズ
 胸部ノ理學的變常ハ漸次ニ狭小シ終ニハ右肩胛下部ノ胸壁ノ萎縮
 セル部ニ濁音ト呼吸ノ缺如トヲ殘セシモ之レ亦漸次ニ濁性消失シ
 呼吸音モ顯出スルニ至レリ
 病者ハ注射回数ヲ重ヌルニ從ヒ夜ノ咳嗽ハ漸次ニ輕島トナリ呼吸
 促進心悸亢進亦去リ且永年仰臥スルコトヲ得ザリシモノモ仰臥ス
 ルヲ得ルニ至レリト而シテ歲末ニ近クト病者ノ業務ニ從事シ得ル
 ニ至リシヲ以テ休養セリ

大正八年三月某日訪問ス亦務程ニアリ告ゲテ曰ク昨年十二月以來
 ハ本案ノ如ク業務ニ從事シ別ニ苦痛ヲ感ゼズ但シ疾行スルコトヲ
 得ザル底ナリシニ昨今復々昨年ト同一ナル病症發シテ以テ上記
 ノ水藥ト酒トニ據リテ凌ギ居レリト
 之ヲ診スルニ胸部ノ變常昔日ト同ク依テ上記ノ注射ト同一ナル標
 準ノ下ニ同一ナル藥劑ノ注射ヲ行ヘリ而シテ注射回数ハ前同ニ比
 スレバ少ナクシテ胸部ノ理學的變常亡失シ自覺的症狀輕快シ業務
 ニ從事シ得ルニ至リシヲ以テ休養セリ

大正八年六月某日 訪問ス復々務程ニアリ告ゲテ曰ク其後業務ニ
 從事シ居リシニ一夜劇長ナル心悸亢進ヲ起シ莫爾比濕ノ注射ニヨ

リテ僅カニ之ヲ凌グコトヲ得タリ其後顔面ニ輕度ノ浮腫アリ友人
 某醫診シ且尿ヲ檢セシニ蛋白質アリ依テ腎炎ナリ次テ友人某醫學
 士診シテ血管硬變症ナリト爾來加療スルニ呼吸促進心悸亢進及ヒ
 夜間ノ咳嗽ハ依然トシテ存ス而シテ奇ナルハ從來夜間ノ病苦ヲ醫
 シ來リシ所ノ日本酒ハ今同ハ一盞モ口ニスルコトヲ得ザルノ下戸
 トナレリト之ヲ診スルニ胸部ノ病變亦前日ノ如シ

予笑テ曰ク君ハ從來飲酒家ナリシガ故ニ平素腎臟ヲ酷使シ來リシ
 ナ以テ今日腎臟ニ病氣ヲ來ス固ヨリ其所ニシテ且一般老人ニ殆ド
 普通ナル老人性腎炎ハ寧ロ君ニ來ルノ遲キヲ覺ユ然ルニ顔面ニ浮
 腫アリテ尿中ニ蛋白質存ス故ニ之ヲ腎炎ト診斷ス之レ普通ノ事ナ
 リ又君ハ久シキ以前ヨリ體表血管ノ蛇行スルアリ故ニ之ヲ血管硬
 變症ト診斷ス亦之レ普通ノ觀察ニシテ敢テ惡キニ非ザル可シ故ニ
 假リニ君ノ病症ヲ血管硬變症及ヒ腎炎トナサンカ若シ其腎炎ニシ
 テ血管硬變症ヨリ來リシモノナリトセバ之レ不治ナリ然レドモ尿
 中ニ蛋白質ノ存スルアルモ以テ腎炎ト速了スルヲ得ズ體表血管ニ
 硬變ノ兆アルモ未ダ體內血管ノ硬變スルモノト推定ス可キニアラ
 ズ且實地治療醫ハ患者ノ病苦ヲ救済スルニアリ故ニ假リニ君不治
 ノ病症ノ存スルアリト診スルモノアレバ姑ク之ヲ一隅ニ置キ而
 シテ君ガ現時ノ病苦ヲ除去セザル可カラズ惟フニ右胸ノ萎縮ハ左
 胸ノ代價的膨大ヲ致ス然ルニ肺ニ炎症ヲ發スルハ瓦斯交換面積ノ

減少ハ必發的ニ左胸ノ代價的膨大ノ大ヲ促進セザル可カラザルモ
 既ニ多少ノ餘背ヲナシ且左肩胛下部ハ擴大シ已ニ前後ニ膨大スル
 ノ餘地ナキ結果ハ橫隔膜ノ低下ヲ促サザル可カラズ然ルニ橫隔膜
 ハ平素既ニ多少低下シアリシヲ以テ更ニ之ガ低下ヲ致スニ於テハ
 心臟ハ其安定位ヲ失シテ橫隔膜ニ伴フテ下降セザルヲ得ザルガ爲
 ニ大動脈ハ展伸セラレ心臟ノ體部ハ自軸ニテ左轉シテ益々左腋窩
 ニ轉位スルヲ以テ茲ニ心力ノ衰弱ト血行ノ障礙トヲ起シテ心悸亢
 進ト呼吸促進トヲ來ス故ニ茲ニ飲酒ニヨリテ心力ヲ鼓舞スレバ諸

多少ノ熱候アル間質性肺炎ニ對スル膠樣銀ト青酸々化汞トノ併用治驗ハ次ノ如シ

第四十一病例 カキ 二十六才男工

本日就業中調車ニカ、リ車ヲ一週シテ投ケラレ爲ニ右側ノ上下肢
 ニ運動麻痺ヲ來セリト大正八年五月十四日入院セリ但シ負傷條項
 ハ之ヲ省略ス

五月十五日 診ス兩側ノ肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱
 シ脾腫大ス

稀鹽酸 一、〇 苦味丁幾 二、〇
 橙皮舍利別 五、〇 水 一〇〇、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

症ノ多少緩解セル所ナリ目下ノ急務ハ肺ノ炎症ヲ攻治スルニ在リ
 ト氏諾ス復々叙上ノ注射療法ヲ行フ前同ニ比スレバ注射回数少ナ
 クシテ肺ノ浸潤亡失シ心悸亢進呼吸困難消失シ業務ニ從事スルコ
 トヲ得ルニ致リシハ尙ホ疾行スルコトヲ得ズ而シテ十月初旬電話
 ニヨレバ引續キ業務ニ從事スト云フ

吾人ハ之ニ據リテ慢性肋膜炎ノ胸壁ノ萎縮ニ陷リシモノモ尙ホ
 本療法ヲ試スベキモノナルヲ知ルヲ得タリ

右一日三回分服

鹽酸規尼涅

右一包量與二包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

五月十六日 兩背全部打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 內服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

五月十九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服薬各前方

特製連鎖球菌ワクチン

〇、四

右皮下ニ注射ス

五月二十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
内服薬各前方

特製連鎖球菌ワクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二十二日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
内服薬各前方

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

五月二十四日 昨日來右季肋下部ニ咳嗽時ニ疼痛アリト右背全部
ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腸骨窩部ハ輕濁ニ
シテ抵抗アリ腰痛アリ手足ノ機能ハ大ニ恢復セリ脾ノ腫大ナシ
水藥前方佐氏塗布劑ヲ下腹ニ朝夕塗布スルヲ命ズ

五月二十五日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前
方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 昨日來大腸加害兒ノ症狀ヲ呈ス右肩胛間部中央以
前方

鹽酸キニーネ

〇、五

右一包量與二包朝夕一包頓服

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

六月二日 兩背全部輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服薬各前
方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月四日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬
前方

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

六月六日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫
ナク腹部亦異常ナシ依テ佐氏塗布劑ノ塗腹及ビ鹽規ノ服用トヲ廢
止シ水藥前方ヲ與フ

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前
方

電氣膠樣銀

二、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

上左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

稀鹽酸

一、〇

苦味丁酸

二、〇

メンタ水

五、〇

右一日三回分服

五月二十七日 下痢ナシ右肩胛間部中央以上ト左肩胛上部トハ打
音輕濁ニシテ呼吸音微弱ナリ

處方

佐氏煎(四、〇)

一、〇〇〇

右一日三回分服

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月二十九日 背部ノ所見前日ト同シ 水藥前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

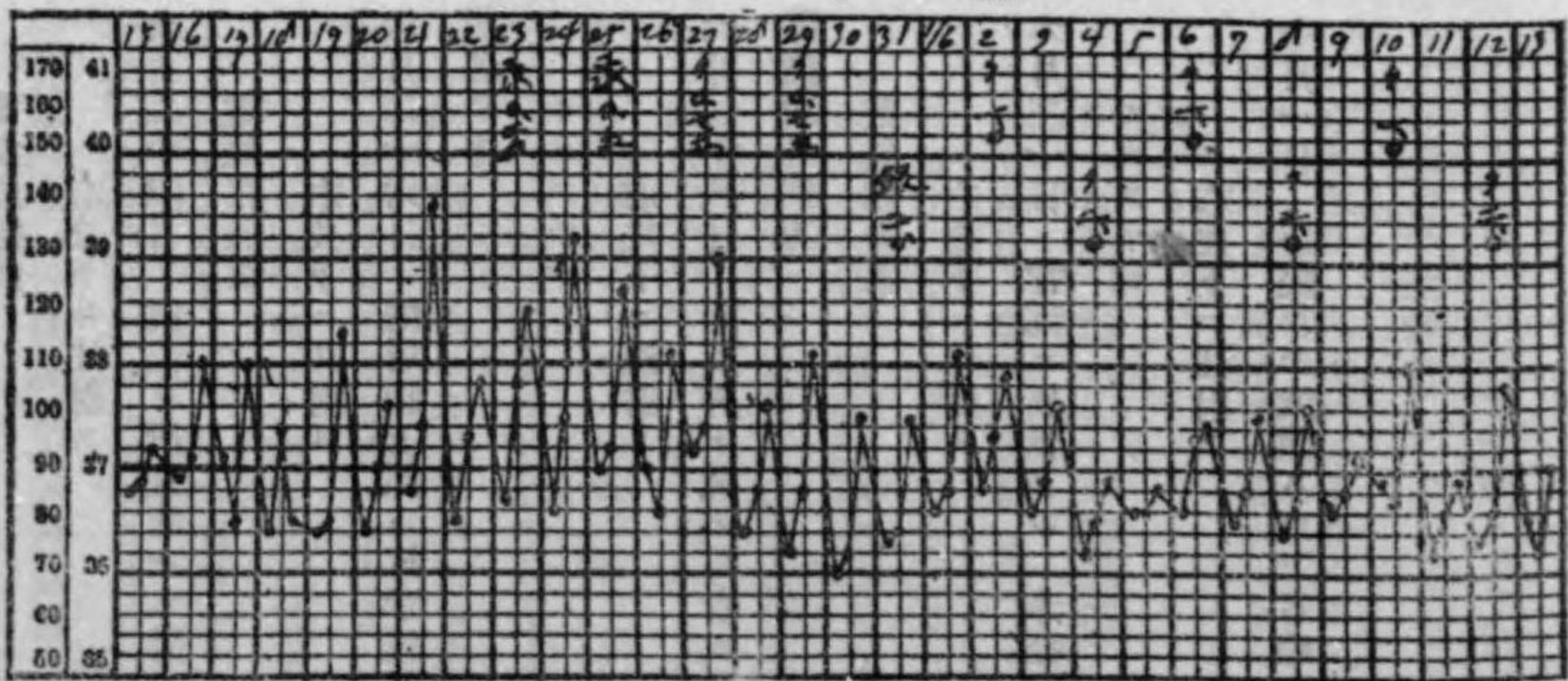
五月三十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
脾腫大ス 處方

佐氏煎劑

一、〇〇〇

前方

第二十圖



右皮下ニ注射ス

六月十日 兩肩胛上部ハ打
音ニ異常ナクシテ呼吸音弱
シ 水藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十二日 兩肩胛上部ハ
打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
水藥前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十四日 右肩胛上部ハ
打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
水藥前方

電氣膠樣銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

六月十六日 兩肩胛上部ハ
打音ニ異常ナクシテ呼吸音
弱シ 水藥前方

ルエスチン

一、〇

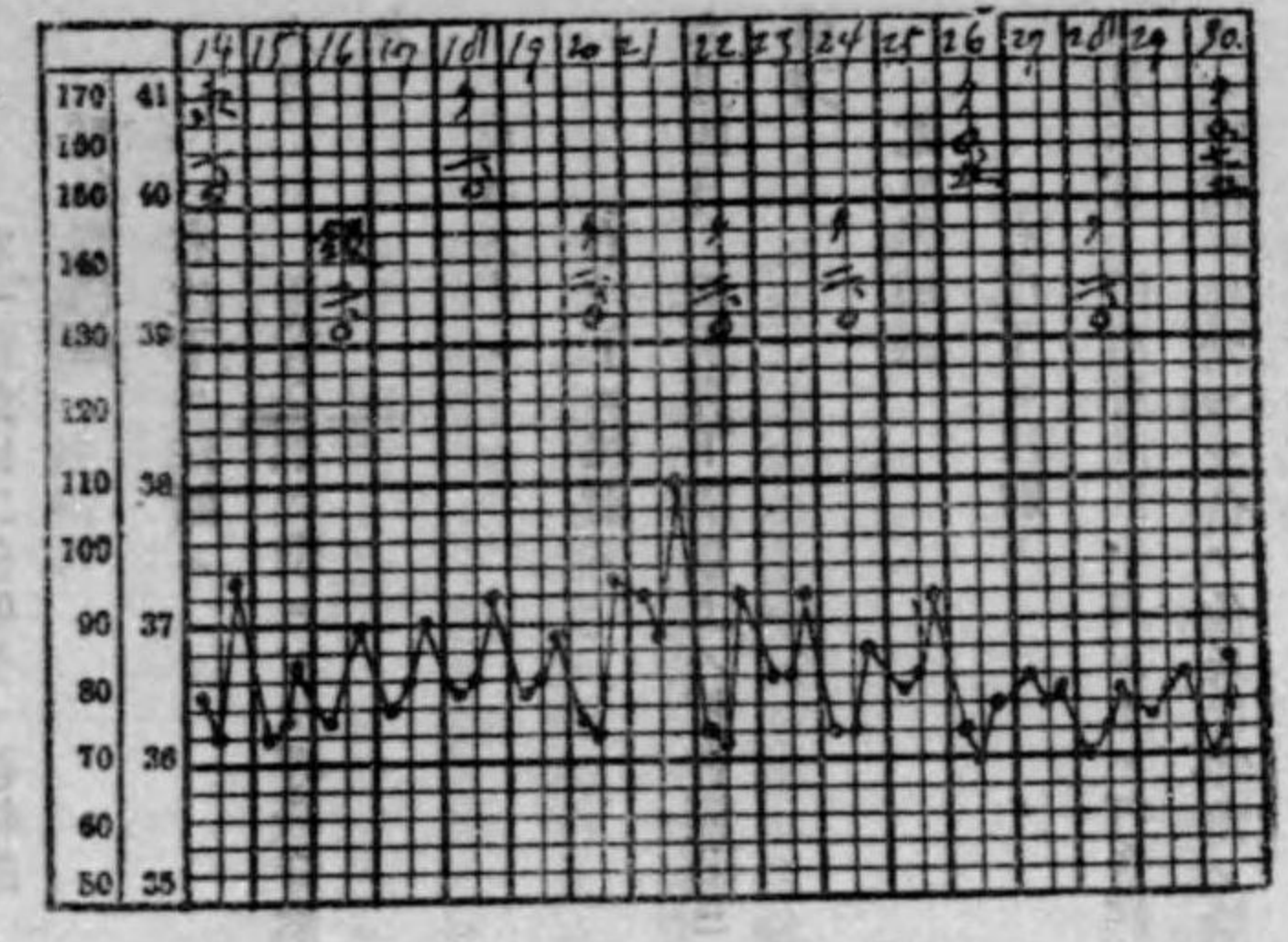
右皮下ニ注射ス

電氣膠樣銀

二、〇

四〇一

右皮下ニ注射ス
 六月十八日 兩肩胛間部下三分ノ一以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥規前方
 ルエスチン
 右皮下ニ注射ス
 六月二十日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 佐氏煎劑前方ヲ與フ
 電氣膠樣銀
 二、〇



第十圖
 六月二十二日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナク三シテ呼吸音弱シ脾腫大處方
 佐氏煎劑 前方
 鹽酸規尼涅〇、五
 右一包量與四包
 朝夕一包頓服

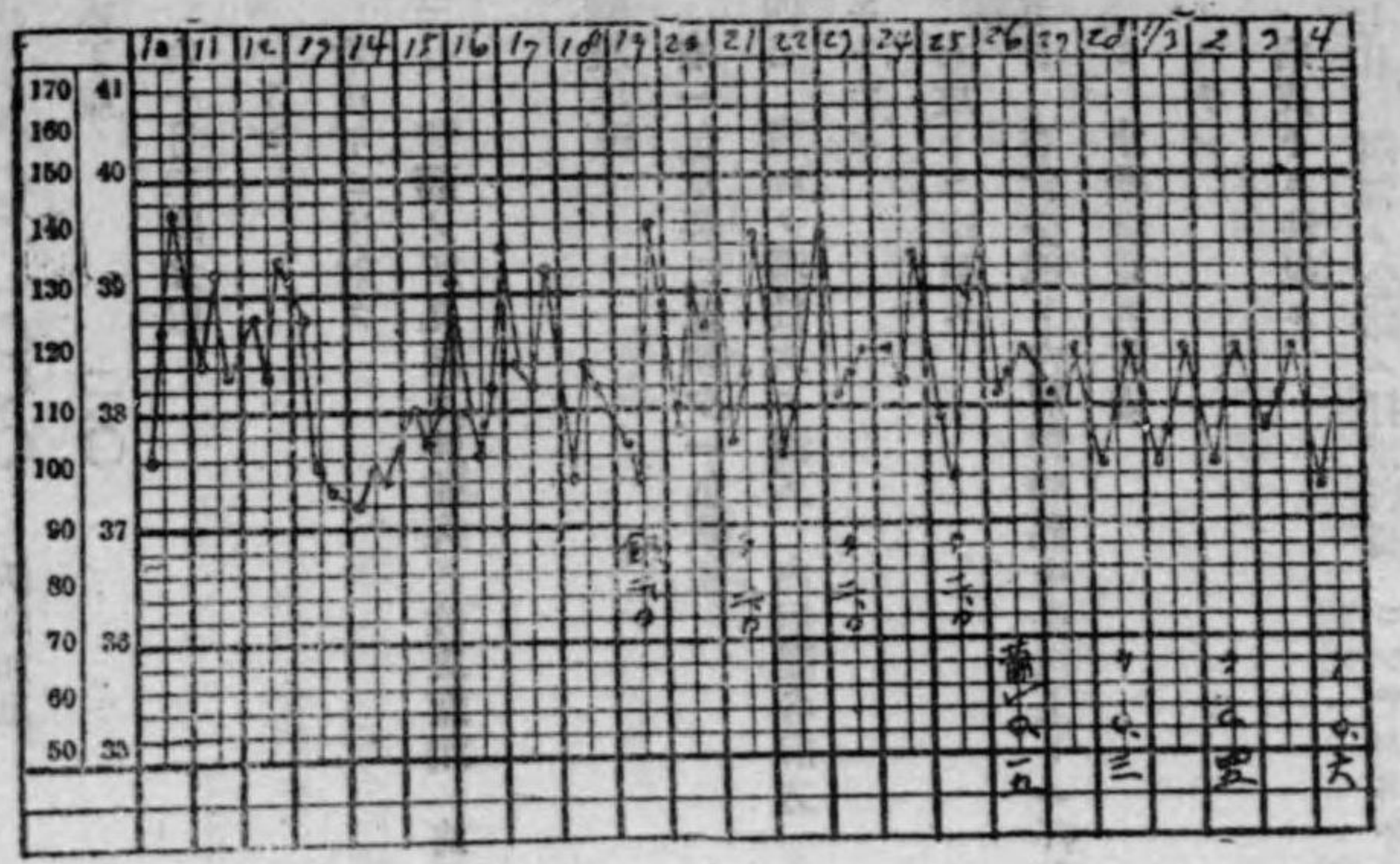
第四十二病例 スイ 二十七才農

四〇二

電氣膠樣銀
 右皮下ニ注射ス
 六月二十四日 胸部ノ所見前々ニ同シ 水藥規各前方
 電氣膠樣銀
 右皮下ニ注射ス
 六月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥規各前方
 ルエスチン
 右皮下ニ注射ス
 六月二十八日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 水藥規各前方
 電氣膠樣銀
 右皮下ニ注射ス
 六月三十日 背部ニ異常ナシ 水藥規各前方
 ルエスチン
 右皮下ニ注射ス
 七月一日 退院シテ就業ス以下省略ス

〇、七五

大正八年二月九日夕刻劇惡寒ヲ以テ發熱シ且關節痛アリ右下腹部ノ最下部ニ疼痛アリ爾後ノ經過ハ大約次ノ如シ



第四十圖

二月十日 劇シキ惡寒アリ規尼涅一、〇頓服
 續々間質性肺炎之特殊療法

四〇三

二月十一日 少シク咳嗽アリ甘求〇、七頓服連鎖狀球菌ワクチン〇、六注射ス
 二月十三日 連鎖狀球菌ワクチン〇、六注射ス
 二月十五日 連鎖狀球菌ワクチン〇、六注射ス夜ニ入りテ劇惡寒アリ
 二月十六日 夜ニ入りテ劇惡寒アリ
 二月十九日 電氣膠樣銀 二、〇ヲ注射スルコト次ノ如シ
 二月二十一日 二十三日 二十五日
 二月二十六日 葡萄狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ
 二月二十八日、三月二日、四日、五日、六日、十日、十六日
 葡萄狀球菌ワクチンノ注射ヲ行フテヨリ體温ハ少シク下降シ朝ハ大約二十七度四五分夕ハ三十八度五分今朝ノ體温ハ三十七度二分ナリ斯ク體温ハ少シク下行スルモ右下腹部ニハ漸次ニ硬結ヲ生ジ按壓スルニ疼痛アリ且約一ヶ月位以前ヨリ右ふらみ軟帶ノ少シク下方ニ淋巴腺腫脹アリ咳嗽時ニハ響テ疼痛アリト
 大正八年三月十二日 診ス兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右骨盤腔内ヨリ少シク腹腔内ニ突出セル硬結アリ硬結ノ表面ハ平滑ナリ右鼠蹊部ニ淋巴腺腫脹ノ硬結アリ共ニ壓痛アリ
 診斷 間質性肺炎 骨盤腔内面ノ硬結アリ

處方

佐比煎(四、〇) 一〇〇〇 沃度加里

〇、五

苦味丁幾 二、〇

右一日三回分服

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

三月十三日 背部ノ所見同上脾腫大ス佐氏煎劑 前方

處方

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與二包朝夕一包頓服

三月十四日 背部ノ濁性大ニ減ズ 内服藥各前方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

三月十五日 右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥鹽規各前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

三月十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁 ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ 水藥鹽規各前方

ルエスチン

〇、七五

四〇四

右皮下ニ注射ス

三月十九日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右背呼吸延

長ス盜汗アリ

處方

佐氏煎劑

前方

硫酸亞篤魯必涅丸

〇、〇〇五

右臨臥時頓服

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

三月二十一日 背部殆ト異常ナシ右鼠蹊ノ淋巴腺腫ニ波動アリ依

テ切開排膿ス 内服藥各前方ヲ與フ

三月二十三日 右肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ熱

候頑強ナルヲ以テ試ニ撒曹ヲ與フ

處方

佐氏煎劑(四、〇) 一〇〇〇

沃度加里 〇、七

撒里失爾酸曹達 二、〇

食鹽 一、五

苦味丁幾 二、〇

メンタ水 五、〇

右一日三回分服

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

三月二十五日 昨日ハ午前十時頃ヨリ甚シキ惡寒アリ次テ高熱ヲ呈シ夜十一時ニ至ルモ尙ホ四十度三分アリ且臍ノ下方ニ疼痛アリテ下痢シ本日午前中既ニ二回下痢セリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大ス右下腹部ノ腫物ハ少シク縮小セルガ如ク思ハシムルモ壓痛ハ却テ増強セリ

處方

佐氏煎(四、〇) 一〇〇〇

沃度加里

〇、七

苦味丁幾 二、〇

右一日三回分服

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與二包朝夕一包頓服

三月二十七日 背部ニ異常ナシ 内服藥各前方

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

三月三十一日 朝惡寒アリ次テ高熱ヲ呈ス而シテ前回ノ如ク發熱スルト必ズ腹痛アリテ下痢スト 内服藥各前方

四月二日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ

處方

佐氏煎(四、〇) 一〇〇〇

沃度加里

一、〇

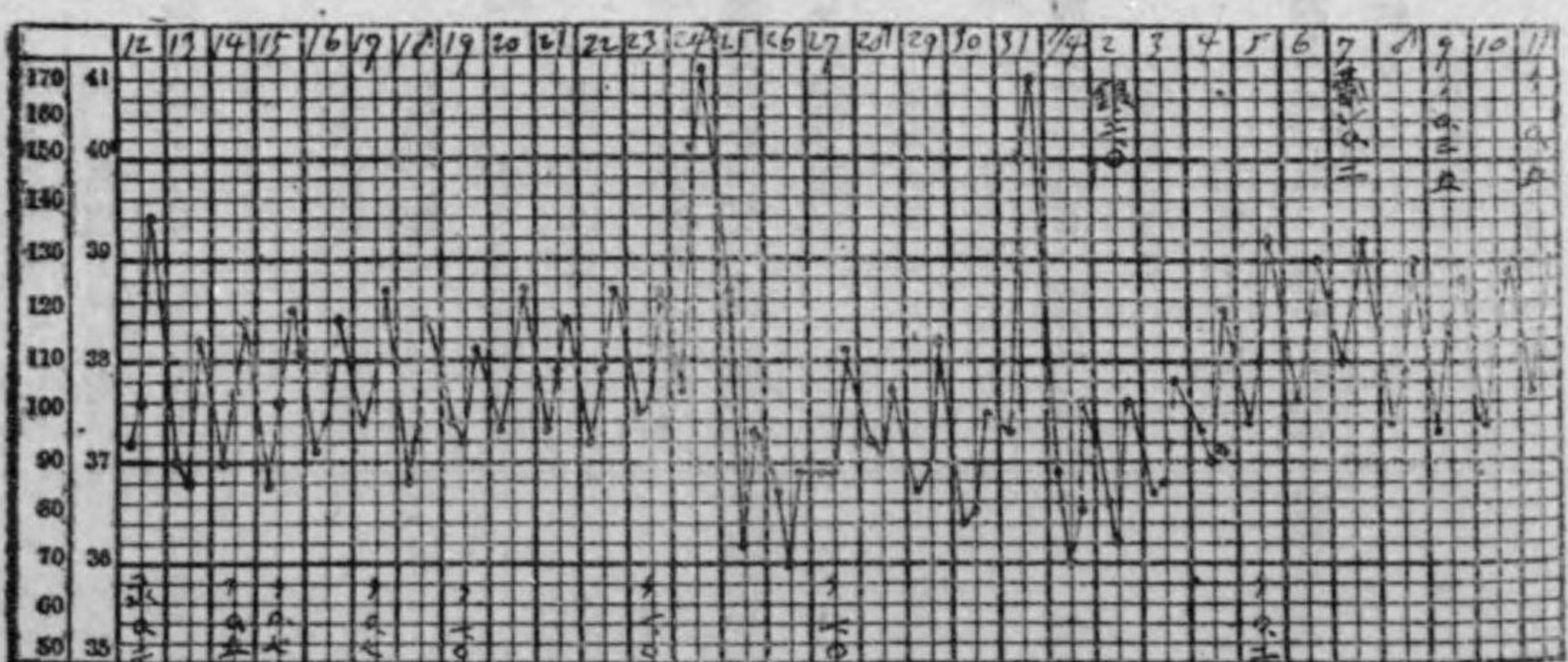
撒里失爾酸曹達 二、〇

食鹽

一、五

續々間質性肺炎之特殊療法

第五十圖



四〇五

苦味丁幾 二、〇

メンタ水 五、〇

右一日三回分服

電氣膠模銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

四月五日 兩背ノ全部ハ打

音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹

部腫痛依然タリ 内服藥前

方

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

四月七日 兩肩胛上部ハ打

音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服藥前方

葡萄狀球菌ワクチン

〇、二

右皮下ニ注射ス

四月九日 兩日來全身ニ

筋痛アリト兩背ノ全部ハ打

音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服薬前方

葡萄球菌ワクチン

〇、三五

右皮下ニ注射ス

四月十一日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

葡萄球菌ワクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

四月十五日 東京醫科大學佐藤外科ニ於テ下腹ヲ切開ス去治醫ノ言ニ據レバ膿ノ性質ハ結核性ナリト爾後隔日ニ佐藤外科ニ於テ細菌交換ス

四月十六日

處方

佐氏煎(五〇) 一〇〇、〇 苦味丁幾

二、〇

右一日三回分服

四月二十日 盗汗多シト其後佐藤外科ニ於テ透射光線ニテ検査セシニ腸骨内面ノ骨膜ニ剝離アリト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

四月二十二日 兩肩胛下隅以上打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

四〇六

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、五

四月二十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎四、〇 人參煎四、〇

一〇〇、〇

苦味丁幾

二、〇

右一日三回分服

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十六日 尙ホ盗汗多シ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月二十八日 背部ニ異常ナシ 佐氏煎前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

四月三十日 兩背ノ全部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ 佐氏煎前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月二日 胸部ノ所見ハ前日ニ同シ 佐氏煎前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

五月四日 佐氏煎

前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

五月六日 盗汗ノ量減シ昨夜ハ更衣セザリシト 佐氏煎前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

五月八日 右背部全部ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服薬前方

一、〇

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

五月十日 盗汗少ナシ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

佐氏煎前方

二、〇

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

五月十二日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

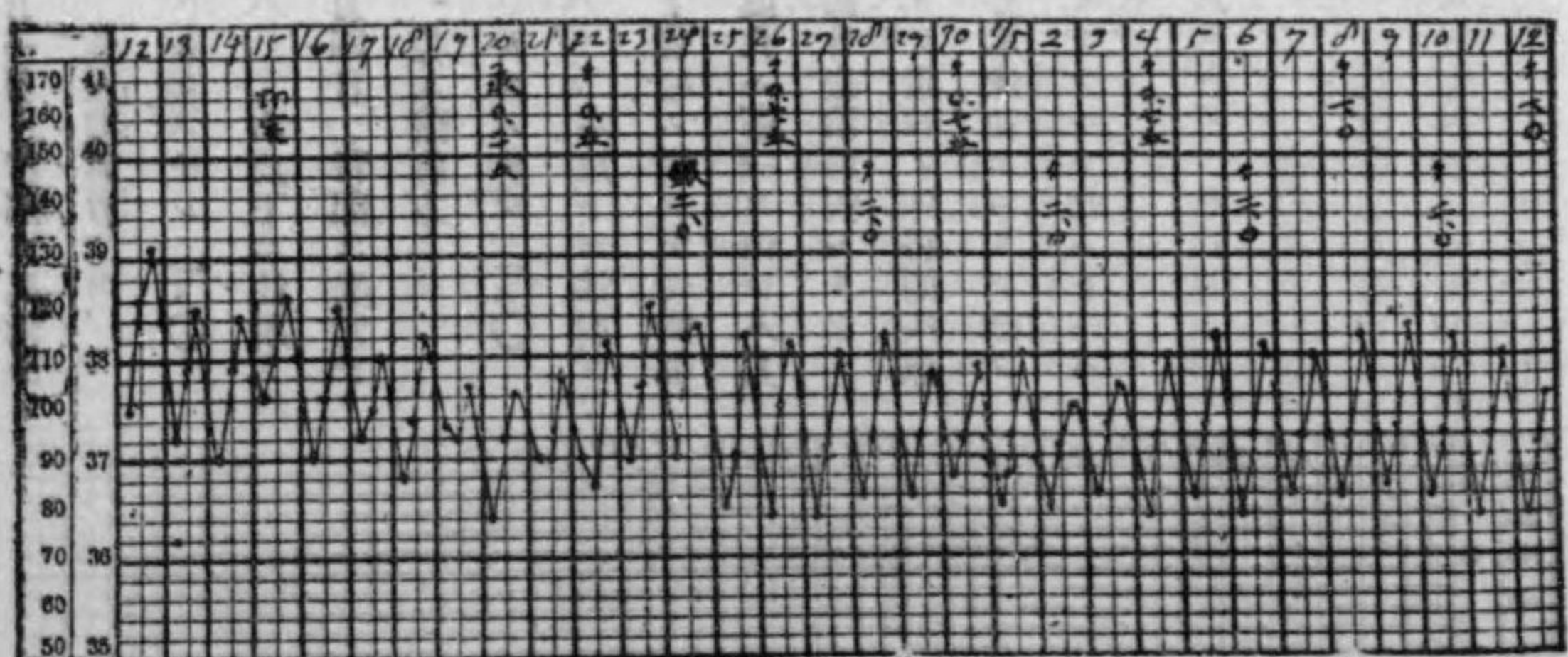
佐氏煎前方

一、〇

ルエスチン

續々間質性肺炎之特殊療法

圖 六 十 第



右皮下ニ注射ス

五月十四日 切開部ノ排膿量減ズト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニテ呼吸音弱シ

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

五月十六日 背部ニ異常ナシ 佐氏煎前方

ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月十八日 背部ニ異常ナシ 佐氏煎前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

五月二十日 背部ニ異常ナシ

ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月二十二日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ

四〇七

呼吸音弱シ 佐人煎前方

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

五月二十四日 背部ニ異常ナシ

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 佐人煎前方

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

五月二十八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

五月三十日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

其二 電氣膠様銀ト電氣膠様水銀ト併用治療ノ治驗 第四十三病例 サモ 三十二才 女

約三年前ヨリ梅雨後ニハ下痢シ易キ癖アリ本年モ七月初旬ヨリ時々下痢アリ今尙ホ下痢ス且肩ノ凝ルコト甚シクシテ殊ニ脚部ノ倦怠ヲ覺ヘ歩行スルニ疲勞シ易シト

大正八年八月二日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク兩側ノ肋膜下腔ニ滲水アリ下腹ハ一般ニ輕濁ニシテ抵抗アリ腰痛アリ上下肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射ハ少シク亢進ス

診斷 間質性肺炎、胸水、多發性神經炎 處方

佐氏煎(八〇)ニ〇〇〇 苦味丁幾 三〇〇

右一日三回二日分服

硝酸斯篤里規尼涅丸〇〇〇六 健胃丸 十二粒

右一日三回二日分服

佐氏塗布劑 三〇〇

右塗腹料朝夕下腹ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇一五

右皮下ニ注射ス

八月四日 下痢止▲兩背全部打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇一三

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

六月一日 背部ニ異常ナシ 佐人煎前方

ルエスチン 一〇〇

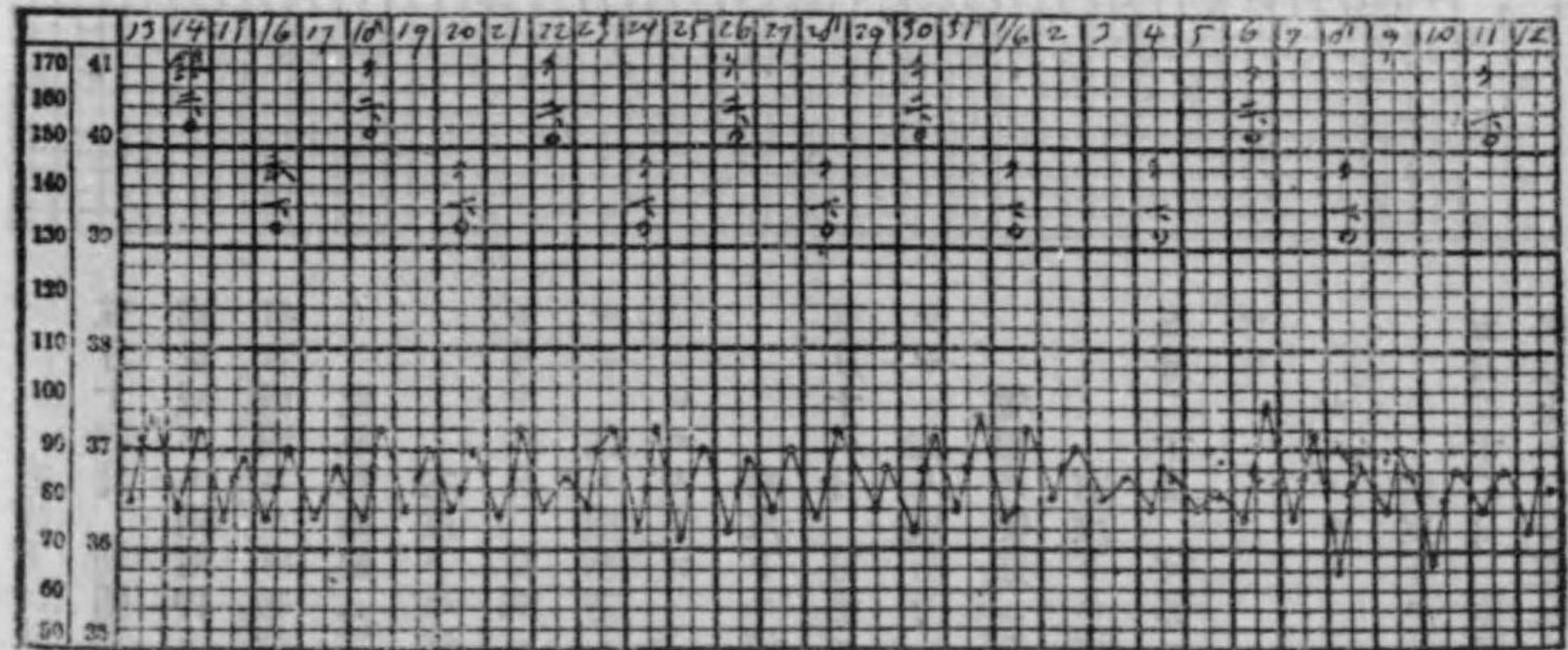
右皮下ニ注射ス

六月四日 背部ニ異常ナシ 佐人煎前方

ルエスチン 一〇〇

右皮下ニ注射ス

以下省略ス而シテ切開部ノ瘻孔ハ漸次ニ治シ八月十四日全治歸國セリ之ニ據リテ遺般ノ外科的疾患モ亦本療法ニヨリテ治スルモノナルヲ知ルヲ得ハシ



圖七十第

八月六日 氣分大ニ宜シク足ノ倦怠亦宜シト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇一四

右皮下ニ注射ス

八月八日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇一五

右皮下ニ注射ス

八月十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

八月十二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

八月十四日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨髑部ニ抵抗アリ

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 〇一五

八月十六日 背部ニ異常ナシ左腹膜炎アリ體重十一貫九百目アリ
内服藥前方

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月十八日 背部ニ異常ナク腹部亦異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十日 背部ニ異常ナク腹部亦異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十七日 從來食慾進々便通毎日一行アリ且下肢ニ異常ナ覺ヘ
ザリシガ一昨日來少シク感冒ノ氣味ナリト兩肩胛上部ハ打音輕濁
ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月十九日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ患者云
フ一昨日空腹時ニ胃部ニ疼痛アリ且少シク嘔氣アリシト胃部ヲ按
壓スルニ少シク過敏ナリ肝腫大ス

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 硫酸苦土 三〇、〇

四一〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

健胃散

右六包トナス一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三五 電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝腫大ス

内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 一昨朝嘔氣アリ昨朝嘔氣アリテ水液ヲ吐セリ今朝
ハ氣分宜シ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ胃部ニ疼痛ナ
シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ下痢多シト

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 硫酸苦土 一五、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

健胃散

佐氏塗布劑

右塗腹料朝夕下腹ニ塗布ス

前方 二〇、〇

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ肝腫
大ナシ電氣膠様水銀製品ス

二、〇

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

健胃丸

右一日三回二分服

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

九月二十七日 一昨日午後三時頃ヨリ夜ノ十二時頃マテニ腹痛アリ
リテ下痢スルコト約八回昨日ハ腹痛ナクシテ二回下痢セリト背部
ニ異常ナシ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 二、〇

第四十四病例 タイ 五十三才女

十七八年前ヨリ毎日頭痛アリ昨今頭痛ハ少シク宜シキモ便秘ニ苦
ミ十日又ハ十五日位ニ一回便通アリ且腹ノ張ルニ苦惱ス二ヶ月程
前ニ腰痛アリ昨今ハ其痛ハ去リシモ益々腹部張リテ堪ヘ難シト
大正八年八月二十三日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

九月二十九日 右肩胛上部打音ニ抵抗アリ呼吸音弱シ腹部ニ異常
ナシ 内服藥前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

十月一日 背部ニ異常ナシ腹部亦然リ體重十二貫四百二十目アリ

内服藥各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

十月三日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前
方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

十月九日 轉居シテ仕事多カリシモ肩ノ凝ルコトナシト背部ニ異
常ナシ 内服藥前方

二、〇

弱シ腹部ハ膨大スルモ潤性及ビ壓痛等ナシ上下肢筋ニ握痛アリ膝
蓋腱反射少シク亢進ス

處方 間質性肺炎 腹膜炎性鼓脹 多發性神經炎

四一一

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 硫酸苦土 三〇、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

硝酸斯篤里規尼涅丸〇、〇〇六 健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇

右塗腹料朝夕一回塗腹ス

八月二十五日 昨夜多量ニ便通アリテ氣分宜シト兩胸ノ前後全部

ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左鎖骨下窩ニ水泡音アリ右腸骨窩部

ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

八月二十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝腫大ス

右腹膜炎アリ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

八月二十九日 服藥後頭痛ナク腹ノ脹ルコトナク食慾少シク進ム

ト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前

方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

八月三十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ内服藥塗

服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝腫大シ右腹

膜炎アリ

電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月四日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前

方

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月六日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ胃部

ニ壓痛アリ

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝ノ腫大

ハ殆ドナシ迴胃部ノ腸壁少シク肥厚ス 内服藥各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性大ニ

減シ腹部ノ膨大已ニナクシテ腹皮ニかぶれ生ジタルヲ以テ佐氏塗

布劑ノ塗布ヲ中止ス 内服藥各前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ胃部ニ尙ホ

壓痛アリ

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

第四十五病例 ウ テ 二十八才女

昨年十月診察セシコトアリ本月十五日三回程腹痛アリテ下痢シ下

痢ハ治セシモ背痛及ヒ腰痛アリ平素肩ノ凝ルコト強ク且朝起ルト

頭部ニ物ヲかぶりタルガ如キ感アリト

大止八年八月二十八日 診ス右背全部ト左肩胛上部トハ打音輕濁

ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ上下

肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射少シク亢進ス

診斷 間質性肺炎 腹膜炎 多發性神經炎

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

八月三十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ内服藥塗

服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝腫大シ右腹

膜炎アリ

電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月四日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前

方

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月六日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ胃部

ニ壓痛アリ

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝ノ腫大

ハ殆ドナシ迴胃部ノ腸壁少シク肥厚ス 内服藥各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腹膜炎ア

リ腹壁ノカブレ治ス依テ再び佐氏塗布劑ヲ塗服セシム内服藥各前

方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥塗

服藥各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

爾後來ラズ

右一日三回二分服

硝酸斯篤里規尼涅丸〇、〇〇六 健胃丸 十二粒

右六包トナス一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇

右塗腹料朝夕一回塗腹ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

八月三十日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹ハ是ト

内服藥前方

四二三

特製連鎖球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、三

九月一日 氣分大ニ宜シト云フ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ 内服藥各前方

特製連鎖球菌ワクチン

〇、四

右皮下ニ注射ス

九月九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹ハ一汎ニ輕濁ニシテ抵抗アリ 内服藥各前方

特製連鎖球菌ワクチン

〇、四

右皮下ニ注射ス

九月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹膜炎依然タリ 佐氏煎劑丸劑塗腹劑各前方

電氣膠様水銀

〇、五

右皮下ニ注射ス

九月十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹膜炎依然タリ

電氣膠様水銀

〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹膜炎アリ患者云フ食後胃部ニ疼痛アリト

四一四

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇

重炭酸曹達

四、〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回食前二日分服

健胃斯篤里丸 塗腹劑

各前方

電氣膠様水銀

〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹膜炎アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

九月十九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹膜炎依然タリ 内服藥前方

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ肝臟腫大ス腹部ニ異常ナク足部亦異常ナシ

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇

硫酸苦土

二〇〇、〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回二日分服

佐氏塗腹劑

前方

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎アリ 内服藥前方

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部異常ナシ

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 動悸シ易シ而シテ昨今ハ夜間ニテモ仕事ヲナスモ肩ノ凝ルコトナシト右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ

佐氏煎(八、〇) 人參煎(八、〇)

二〇〇、〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回二日分服

硝酸斯篤里規尼涅丸〇、〇〇六

健胃丸

十二粒

右一日三回二日分服

四一五

右一日三回食前二日分服

健胃丸

十八粒

右一日三回二日分服

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ右ハ呼吸音弱ク左ハ呼吸音少シク粗雜ナリ左腹膜炎アリ 内服藥塗腹藥各前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎アリ肝臟ノ腫大ナシ

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇

重炭酸曹達

四、〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回二日分服

健胃丸

十八粒

續々間質性肺炎之特殊療法

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、五

第四十六病例 タ ヲ 四十一才女

四月ト五月トハ平素ノ如ク月経アリシニ六月二日エリ再ビ月経様
ニ下リモノアリ十一日夜間多量ノ出血アリ爾來醫藥ヲ加フルモ止
血セズ手術ヲ要スル病症ナリトノ言ニ據リ東京醫科大學婦人科ニ
診テ受ク一日ヲ隔テ、再診ノ際ニ内服藥ヲ與ヘラレタリ之ヲ服用
セシニ氣分少シク宜シキヲ得タリ然レドモ受診ニ行クコトヲ得ザ
ルヲ以テ使テ遣シ單ニ内服藥ノミヲ求メシモ診察セザレバ投藥セ
ズト斷ハラレシヲ以テ診テ乞フト

大正八年七月八日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
左脇骨高部ハ打音輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ他ニ異常ヲ認メズ
診斷 間質性肺炎 腹膜炎 間質性肺炎ニ續發セル子宮出血

處方

佐氏煎(二五、〇)二〇〇、〇 メンタ水 一〇〇、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日二回二日分服

麥角エキス丸

右四包トナス朝夕一包頓服

右一日三回二日分服

施那葉浸(五、〇)一〇〇、〇 硫酸苦土 六、〇

右頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、五

七月十六日 尙ホ時々少シツ、出血アリ然シ氣分宜シク食志進ム
ト右背全部ト左肩胛間部棘以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左
腹膜炎アリ

處方

佐氏煎劑

麥角エキス丸

右四包トナス朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、二五

七月十八日 一昨日晝頃ヨリ下血スルコト少ナシト右背全部ト左
肩胛間部中央以上トハ共ニ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各
前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、五

七月二十日 尙ホ少シク下血シ且便通ナシト兩肩胛上部ハ打音輕

續々間質性肺炎之特殊療法

目下治療中

四一六

佐氏塗布劑

右塗腹料朝夕一回下腹ニ塗布ス

三〇〇

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、一五

七月十日 出血少シク減ズト兩肩胛間部中央上ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱シ左腹膜炎依然タリ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、三

七月十二日 昨日來子宮出血ナシト 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、四

七月十四日 昨夜ハ下血アリシモ今日ハナシト右肩胛間部棘以上
ト左肩胛上部トハ共ニ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹ニ異常ヲ認
メズ患者云フ便通ナク食慾不振ナリト

處方

佐氏煎劑

健胃丸

前方

十二粒

濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎(二五、〇)二〇〇、〇 硫酸苦土 三〇、〇

メンタ水 一〇〇、〇

右一日三回二日分服

麥角エキス丸

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

七月二十二日 殆ト下血ナシト右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸
音弱シ從來單ニ左側腹ヲ診スルノミニ慣レテ下腹全體ヲ診スルコ
トヲ怠タリシニ此日始メテ子宮部ニ硬結アリ按壓スルニ疼痛アル
ヲ知レリ(子宮筋腫カ) 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

七月二十三日 昨日夕刻ヨリ胃部ニ疼痛アリテ且下痢セリト
七月二十四日 背部ニ殆ト異常ナシ患者云フ下腹ニ疼痛アリト

處方

佐氏煎(二五、〇)二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

メンタ水 一〇〇、〇

右一日三回二日分服

四一七

麥角エキス丸

前方

特製連鎖球菌ワクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

七月二十六日 便通ナシト 内服薬前方ヲ與フ

特製連鎖球菌ワクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

七月二十八日 再ビ少シク下血シ且子宮部ニ疼痛アリト子宮ノ

硬結ハ少シク増大セルガ如シ體温三十七度二分 内服薬各前方

七月三十日 尙ホ少シク下血シ且子宮部ニ疼痛アリト兩肩胛間

部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ子宮ハ増大シ其底ハ恥骨

上約三指ニアリ中央ヨリ稍左方ニ偏シ球形ニ腫瘍狀ヲナシ而シテ

其上面ハ恥骨面ヨリ少シク突隆ス之ヲ按壓スルニ疼痛強シ

處方

佐氏煎(二五、〇)二〇〇〇 硫酸苦土

二〇〇〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回二分服

麥角エキス丸

一、二

右一日三回二分服

電氣膠様水銀

〇、五

右皮下ニ注射ス

八月一日 下腹部ノ疼痛ハ昨自來少シク輕キモ同ク少シク下血シ其食慾不進ナト右背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ子宮腫瘍依然ヨリ患者云フ下痢多シト

處方 佐氏煎(二五、〇)二〇〇〇 硫酸苦土

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

麥角エキス丸

二、〇

右四包トナス朝夕各一包頓服

電氣膠様水銀

〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月三日 下腹部ノ疼痛輕減スト體温三十六度五分 内服薬塗服劑各前方

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月五日 子宮部ノ疼痛大ニ宜シ下血スルコト少ナシト右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ子宮ノ腫瘍少シク縮小ス 内服薬前方

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月七日 内服薬各前方

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月九日 子宮腫瘍少シク縮小ス相馬博士ニ手術ヲ依頼セシニ目

下夏季休暇ニテ近日某地ニ遷居ス故ニ九月歸京ノ上ニテ診察スベ

シト家人ニ此旨ヲ告グ且肺ノ病症未ダ全ク治セズ子宮ノ腫瘍ハ漸

次ニ縮小スルノ傾向アリ故ニ從來ノ治療ヲ續行シ幸ニシテ腫瘍亡

失スレバ手術スルヲ要セズ若シ九月ニ至ルモ尙ホ腫瘍ノ治セザル

時ハ手術ヲ行フモ遲キニアラズ縱令今日手術スルモ尙ホ手術後ニ

肺ノ病症ニ向ツテ治療セザルヲ得ザルヲ以テ寧ロ身體ヲ癒シテ兩

シテ後ニ手術スルニ如ズト家人諾ス 内服薬各前方ヲ與フ

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月十一日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ子宮少シク

縮小ス患者云フ食慾不進ナリト

處方

佐氏煎劑 麥角丸

各前方

健胃丸

十二粒

右一日二回二分服

電氣膠様水銀

一、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

八月十三日 子宮大ニ縮小ス尙ホ少シク下血スト兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十五日 子宮大ニ縮小ス尙ホ少シク下血アリト右肩胛關節線以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀

一、二五

右皮下ニ注射ス

八月十七日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十九日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

電氣膠様水銀

一、二五

右皮下ニ注射ス

八月十五日 殆ト子宮ヲ觸レズ背部亦異常ナシ 内服薬各前方

八月二十七日 背部ニ異常ナク子宮ヲ觸知セズ 内服薬各前方

八月三十一日 背部ニ異常ナク子宮ヲ觸知セズ 内服薬前方ヲ與

ヘテ休養セシム

九月二十九日 相馬博士診ス子宮ニ異常ナシト

往年齊藤又二ノ診察セシ大塚停車場附近某新成商ノ妻ノ熱度下降セザルノ故ヲ以テ診セシコトアリ體溫三十八度五分位ニシテ兩前部ノ間質性肺炎兩肋膜下腔ノ滲水及ヒ腹膜炎トアリテ且子宮ノ腫痛アリ恐クハ筋腫ナル可シト云ヘリ其後相馬博士診ス曰ク子宮ノ筋腫ナリト十數日後故アリテ齊藤又二ノ代理トシテ往診ス偶々某産科醫ノ流産トシテ處置シツ、アルニ達フ其後家人ニ告テ曰ク人ハ生身ヲ有スル故必ズシモ一ツノ病氣ノミ存在スルモノト限ルニ非ズ貴家ノ病者ハ約三種ノ疾病アリ然ルニ貴家ノ爲ス所ヲ見ルニ一方ハ内科醫ニ托シ一方ハ産科婦人科醫ニ托ス三種ノ病氣ヲ一時ニ治癒セシメント欲スル者ノ如シ幸ニシテ三病ヲ一時ニ治スレバ可ナルモ若シ三病ヲ一時ニ治癒セシメンガ爲ニ種々ナル手段ヲ悉シ一病ヲモ治セズシテ衰弱ニ陥ルアラバ不幸之レヨリ大ナルハ非ザル可シ由來醫ノ病氣ヲ治スルヤ縱令異類ノ病症二三種アリト雖モ先ア病症ノ前後輕重ヲ査定シ主トシテ病者ヲ苦マシムル所ノ病

症ヲ第一ニ加療シ其治後ニ更ニ第二第三ノ病氣ヲ治療スベキモノナリ今貴家ノ病者ノ最モ苦ム所ハ熱ニシテ子宮ノ腫痛ハ恐ラクハ現時ノ病氣ノ發生以前ヨリ既ニ存スルモノニシテ縱令現時ノ病氣ト多少ノ關係アリト爲スモ之レ主タル病氣ニ非ラズ其熱ノ發生地ハ肺ノ疾病ニアルヲ以テ先ヅ之ニ加療シテ其熱ヲ去リ其病症ヲ治シ體力ノ恢復シタル後ニ更ニ子宮ノ病氣ヲ治療スルモ敢テ遲キニ非ザル可シ家人之ニ從ヒ予ニ解熱療法ヲ托ス依テ特製連鎖狀球菌ワクチンヲ注射セリ其後齊藤又二ノ談ニヨレバ熱ハわくちん注射ノ翌日ヨリ常溫ニ復シ爾後間質性肺炎ニ對シ加療セシニ子宮筋腫モ亦縮小亡失セリト叙上ノ二例ヲ綜合シテ觀スレハ蓋シ間質性肺炎ハ其經過中ニ月經過多又ハ子宮出血ヲ來スコト敢テ稀有ニ非ザルヲ以テ筋腫トノ間ニモ多少ノ關係アルモノナルガ如シ斯病ノ治療ニ從事スル人ノ研鑽ヲ望マザルヲ得ズ

間質性肺炎乃至肺病ニ對スル電氣膠様水銀ノ實驗例ハ之ヲ記述スルコト寡少ニシテ其治效ヲ盡シテ之ヲ了解セシムルニ足ラズト雖モ叙上ノ諸例ト他ノ實驗トヲ綜合スレバ蓋シ電氣膠様水銀ノ此等諸病ニ治效アルハ確實ニシテ復タ疑フ可キニ非ズ然レドモ其治效ヲ探テ之ヲ青酸々化汞ノ治效ニ比シ何レニ優劣アルヤハ未ダ批評シ得ルノ域ニ達セズト雖モ假リニ其治效ヲ同等ナリト爲セバ電氣膠様水銀ハ青酸々化汞ニ比シテ左ノ優良ナル點アルハ之ヲ否認スルコトヲ得ズ因ニ云フ叙上ノ電氣膠様水銀ハ大阪市國光株式會社ノ製品ナリ。

一、電氣膠様水銀ハるゑすちんニ比シテ刺戟性少ナク且之ヲ皮下ニ注射スルモ局部ニ浸潤ヲ來スコト殆ト無シ。

二、青酸々化汞ハ時トシテ輕キ口内炎ヲ發スルコトアルモ電氣膠様水銀ニ於テハ絶ヘテ口内炎ヲ來スコトナシ。

三、青酸々化汞ハ其注射後ニ腹痛、嘔吐、下痢若クハ大腸加答兒、甚シキハ血便ヲ痢スルコト數々ナルモ電氣膠様水銀ニハ此等副作用ヲ呈スルハ絶無ナリトス。

四、青酸々化汞ハ其副作用ヲ發シ易キノ傾向アルガ爲ニ下劑ヲ併用スルヲ躊躇セザル可カラザルモノナリト雖モ電氣膠様水銀ハ硫酸苦土ヲ同時ニ用ユルモ何等ノ障礙ヲ來スコトナシ之レ治療上ニ大ニ有利ナルモノトス。

予ハ叙上ノ諸點ニ於テ本病患者ノ治療ニハ青酸々化汞ニ比スレバ電氣膠様水銀ヲ優レルモノナリト爲サザルヲ得ズ。

第十章 脾臟腫大

間質性肺炎乃至肺癆ニ於テハ其病症ノ爲ニ脾臟ノ腫大ヲ來スモノニ非ズト雖モ此等病者ハ既ニ治療ノ始メヨリ脾腫ノ存スルアリ或ハ其治療中ニ脾腫ヲ來スアリ故ニ斯病ヲ治療スルニ際シテハ常ニ甚大ナル注意ヲ要ス

ルモノナルハ業ニ續間質性肺炎之特殊療法篇ニ於テ詳述セル所ナリ故ニ茲ニ論述スルノ要ナキガ如シト雖モ
斯病ニ水銀製劑ノ注射療法ヲ行フニ際シテハ曩キニ連鎖狀球菌わくちん療法ノ麻拉里亞及ビ麻拉里亞性脾腫
ヲ催起スルガ如ク思ハシムルト同ジク窒扶斯及ビ窒扶斯性ノ脾腫ヲ誘發シ爲ニ治療ノ經過ヲ擾亂スルヤヲ疑
ハシムルモノ少ナカラザルヲ以テ再ビ脾腫ニ就テ茲ニ叙說セザルヲ得ザル所以ナリトス。

○第四十七病例 シヨ 二十才工女

約三週日以前頃ヨリ身神違和アリシモ強テ就業セリ然ルニ一昨日
ヨリ毎日午後二時頃ニ發熱シ三十八度八九分ノ熱ヲ呈シ且咳嗽頻
發スト

大正八年七月二十三日 診ス兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼
吸音弱シ脾腫大ス

診斷 間質性肺炎 瘧

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

苦味丁幾 四、〇 杏仁水 八、〇

橙皮舍利別 一〇、〇 水 二〇〇、〇

右一日三回二分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

七月二十五日 發熱ナシト右背全部ト左肩胛下隅以上トハ打音清
濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ハ少シク縮小スルガ如シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

七月二十七日 右肩胛間部棘以上ハ左肩胛上部トハ打音輕濁ロシ
テ呼吸音ハ兩背ノ全部ニ互リテ弱シ脾尚ホ腫大ス 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

七月二十九日 兩肩胛上部ハ濁音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾ノ腫大
ナシ

處方

鹽酸規尼涅 〇、五

健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包一日一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

八月一日 一昨日ヨリ就業セリ尙ホ少シク咳嗽アリト兩肩胛上部
ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛間部中央以上ニ於テ弱シ 内服
藥各前方

電氣膠樣水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

八月三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但兩肩胛上部
ノ濁性減ズ

處方 佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

健胃丸 前方

電氣膠樣水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月五日 今日ハ午後五時頃發熱セリト右肩胛上部ハ打音輕濁ニ
シテ呼吸音弱シ脾腫大ス

續々間質性肺炎之特殊療法

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包毎日一包頓服

電氣膠樣水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

八月七日 發熱ナシ左鎖骨下窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ
兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服藥各
前方ヲ與フ

電氣膠樣水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月九日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内
服藥各前方

電氣膠樣水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

八月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ
内服藥各前方

電氣膠樣水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十三日 昨夜ヨリ亦咳嗽アリト脾腫ナシ 依テ鹽酸ノ服用ヲ

休止シ佐氏煎劑健胃丸各前方ヲ與フ

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月十五日 昨日左季肋部ニ疼痛アリ昨夜發熱シ三十八度アリシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾亦腫大ス

處方

佐氏煎劑 健胃丸

各前方

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十七日 今日二時頃ヨリ發熱セリ咳嗽アリト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾臟ハ腫大シ盲腸部ハ打音輕濁ニシテ壓痛アリ

處方

稀鹽酸

二、〇 薑根丁幾

一、〇

沃度丁幾

十滴 杏仁水

八、〇

苦味丁幾

四、〇 橙皮舍利別

一、〇

メンマ水

一〇、〇 水

二〇、〇

右一日三回二分服

四二四

サロール

四、〇 健胃散

二、〇

右爲散六包一日三回二分服

電氣膠様水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

八月十九日 昨夜體温三十八度一分アリシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク盲腸部ノ壓痛亦ナシ 内服藥各前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十一日 其後ハ發熱スルコトナシ然シ少シク咳嗽アリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

鹽苦沃劑

前方

健胃丸

十二粒

右一日三回二分服

電氣膠様水銀

一、二五

右皮下ニ注射ス

八月二十三日 今日ハ咳嗽多シト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十五日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎劑(八、〇) 二〇、〇 苦味丁幾

三、〇

右一日三回二分服

健胃丸

前方

電氣膠様水銀

一、五

右皮下ニ注射ス

第四十八病例 サト 三十二才男

毎年夏季ニ下痢スル癖アリ先月末ニ腹痛シ爾來不快ナリシガ一昨日頃ヨリ亦下痢ヲ發シ額同上圖ニテ粘液便ヲ泄シ平素感冒ニ罹リ易ク且常ニ後頭部ニ重感アリト

大正八年八月八日 診ス右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 腹膜炎

處方

リチネ油

二五、〇

メンマ水

五、〇

右頓服

佐氏煎劑(八、〇) 二〇、〇 苦味丁幾

三、〇

メンマ水

一〇、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

四二五

八月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様水銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十九日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀

一、五

右皮下ニ注射ス

爾後來ラズ

右一日三回二分服

ドーフル氏散

一、〇

ザロール

四、〇

乳糖

二、〇

右爲散六包一日三回二分服

佐氏塗布劑

三、〇

右塗腹料朝夕下腹ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、一五

右皮下ニ注射ス

八月十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎依然タリ 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、三

右皮下ニ注射ス

八月十二日 便通ハ一日約一行トナレリ今朝ノ便ニハ粘液ナカリシ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ハ殆ト異常ナシ

鹽酸規尼涅 右一包量與二包毎日一包頓服 〇、五
電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 〇、二五

佐氏煎劑 前方 十二粒
健胃丸 右一日三回二分服

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 〇、五
八月十八日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ腹膜炎依然タリ 內服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四五
右皮下ニ注射ス

八月十四日 背部ニ異常ナシ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ 內服藥前方

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 〇、七五
八月二十日 背部ニ異常ナク腹部亦異常ナシ平素ハ體重十五貫二百目ナリト此日秤量スルニ二十四貫四百八十目アリタリ 內服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
右皮下ニ注射ス

八月十六日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 一、〇
八月二十四日 背部ニ異常ナシ下腹部ハ輕濁ナルモ壓痛ナシ 內服藥前方

佐氏煎劑(八、〇) 二〇〇、〇 硫酸苦土 三〇、〇
苦味丁幾 三、〇
右一日三回二分服

健胃丸 前方

八月二十六日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腸骨窩部ノ輕濁ナルヲ覺ユ然レドモ壓痛ナシ

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 一、〇
九月五日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ 內服藥各前方

佐氏煎劑(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇
右一日三回二分服

健胃丸 前方

電氣膠樣水銀 一、〇
右皮下ニ注射ス

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 一、〇
九月七日 患者云フ去四日香雲堂病院ニ診テヒシニびるけい反應ノ接種試驗ナセリト之ヲ檢スルニ輕キ陽性反應アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ左腹膜炎アリ

電氣膠樣水銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

鹽酸規尼涅 右一包量與二包毎日一包頓服 〇、五

八月三十日 背部ニ異常ナシ左腹膜炎アリ 內服藥前方

電氣膠樣水銀 右皮下ニ注射ス 二、〇
九月九日 右肩胛下隅以上ト左肩胛間部棘以上トハ共ニ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背ノ全部ニ於テ弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 內服藥前方

電氣膠樣水銀 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月一日 背部ニ異常ナシ左腸骨部ニ抵抗アリ 內服藥前方

電氣膠樣水銀 一、〇 腸室扶斯感作ワクチン 〇、一
右皮下ニ注射ス

電氣膠樣水銀 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月三日 背部ニ異常ナク腹部亦異常ナシ體重十四貫九百八十目アリ 內服藥前方

電氣膠樣水銀 一、〇
九月十一日 兩側ノ背部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ左腸骨窩部ハ打音共ニ

續々間質性肺炎之特殊療法

抵抗アリ壓痛アリ 内服藥前方

電氣膠様銀 二、〇 腸窒扶斯感作ワクチン〇、二

右皮下ニ注射ス

九月十三日 背部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ右背全部ト左肩胛下隔以上トニ於テ弱シ脾少シク縮小ス盲腸部ニ壓痛ナシ内服藥各前方

電氣膠様水銀 一、二五 腸窒扶斯感作ワクチン〇、三

右皮下ニ注射ス

九月十五日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 鹽規ノ服用ヲ休止シ佐氏煎劑健胃丸各前方ヲ與フ

電氣膠様銀 二、〇 腸窒扶斯感作ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

九月十七日 背部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ノ微弱ナリシハ稍恢復

第四十九病例 カキ 二十六才男工 (第四十一病例續出)

蓋キニ痲痺セル上下肢ノ機能ハ大ニ恢復シ七月一日以降就業セルモ尙ホ多少筋力ノ薄弱ヲ感ズルノ故ヲ以テ引續キ磷酸斯篤里規尼溼ノ注射及ビ感傳電氣療法ヲ行ヘリ

大正八年七月四日 胸腹部ニ異常ナシ

七月九日 患者ハ別ニ病患ヲ覺ヘズシテ就業ス之ヲ診スルニ右背ノ全部ト左肩胛間部中央以上及ビ左鎖骨下窩以上トハ打音輕濁ニ

ス脾腫ナク腹部亦異常ナシ 内服藥各前方

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

九月十九日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 蓋キニ微弱ナリシ所ノ背部ノ呼吸音ハ大ニ恢復ス 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 背部ニ異常ナク腹部亦異常ナシ 内服藥各前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

シテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

沃度丁幾 十滴 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別 一、〇、〇 メンタ水 一、〇、〇

水 二、〇、〇

三十七度五分アリ

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

苦味丁幾 四、〇 橙皮舍利別 一、〇、〇

水 二、〇、〇

右一日三回二分服

健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

鹽酸規尼溼 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 其後熱候ナシト背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 内服

藥各前方

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 内服藥各前方

九月二十八日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ

第五十病例 トト 二十六才學生

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 十三日以降休養シアリテ此日亦診テ左鎖骨下窩及ビ兩肩胛下隔以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ體溫

〇、三

打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ

感作腸窒扶斯ワクチン

右皮下ニ注射ス

九月十二日 背部ニ異常ナク脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛ナシ

〇、二

九月十三日 右手ヲ使フニ尙ホ疲レ易シト右肩胛間部中央以上ハ

打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ

感作腸窒扶斯ワクチン

今秋流行性感冒ニ罹リ爾來常ニ微熱アリテ常溫ニ復セズ且少シク咳嗽アリト

大正七年十一月三十日 診ス兩鎖骨上高右背全部及ビ左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

診斷 間質性肺炎
處方

特製連鎖狀球菌ワクチン注射スルコト次ノ如シ

十一月三十日〇、一五cc 十二月二日〇、二cc 四日〇、

四cc 六日〇、五cc 八日〇、六cc 十日〇、六cc

るえすらんヲ注射スルコト次ノ如シ

十二月十二日〇、二五cc 十四日〇、五cc 十六日〇、七

五cc 十八日〇、七五cc 二十日〇、七五cc 二十二日

一、〇cc 二十四日一、〇cc

十二月二十四日 背部ニ異常ナク體溫常度ニ復シ而シテ冬季休學ニ際セシヲ以テ其郷里ニ歸省セシム

大正八年二月二十二日 歸宅後間モナク感冒ノ氣味ニテ咽頭痛アリ爾來毎日晚時ノ體溫三十七度三分アリト診スルニ左鎖骨下高以上兩背ノ全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾

四、〇

圖三〇

右一日三回二分服

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、一五

右皮下ニ注射ス

二月二十四日 右背全部ト左肩胛下隅以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、三

右皮下ニ注射ス

二月二十六日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左ハ二肋間以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、四五

右皮下ニ注射ス

二月二十八日 昨夕體溫三十七度今夕體溫三十七度三分アリト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾ノ腫大ナシ 鹽酸規尼涅ヲ服用ニ休止シ佐氏煎劑ヲ與フ

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、六

右皮下ニ注射ス

三月二日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六 葡萄狀球菌ワクチン〇、一五

右皮下ニ注射ス

三月四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク呼吸延長ス

水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六 葡萄狀球菌ワクチン〇、三

右皮下ニ注射ス

三月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈ナリ呼吸延長ス

水藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六 葡萄狀球菌ワクチン〇、四五

右皮下ニ注射ス

三月十日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右背ニ粗烈ニシテ左背ニ微弱ナリ共ニ呼吸延長ス左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ

呼吸音粗烈ナリ

呼吸音粗烈ナリ

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 沃度加里

一、〇

苦味丁幾 四、〇

右一日三回二分服

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

佐氏塗布劑

〇、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

〇、二五

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

五月十二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈ナリ脾腫大ス 内服藥前方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

三月十四日 兩肩胛上部ト左第二肋間以上トハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗烈ナリ

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

三月十八日 二三日來晩時ノ體溫三十七度以上ニ昇ラズト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左肩胛上部ニ無響水漉音アリ脾腫ナシ 鹽酸規尼涅ヲ服用ヲ休止シ水藥前方ヲ與フ

ルエスチン

一、〇

右皮下ニ注射ス

三月二十二日 昨令體溫ハ朝三十六度二三分ニシテ夕三十六度八分位ナリト右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音少ク粗烈ナリ

ルエスチン

一、〇

水藥前方

ルエスチン

ルエスチン

一、〇

圖三一

右皮下ニ注射ス
三月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
三月三十日 背部ニ異常ナシ 水藥前方
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
四月一日 昨夜體溫三十七度一分今朝體溫三十六度八分アリシト
右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音少シク不純ナリ
處方

- 佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 撒里矢爾醃曹連 四、〇
- 食鹽 三、〇 苦味丁幾 四、〇
- ソルタ水 一〇〇、〇

右一日三回二日分服
電氣膠樣銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

四月三日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音少シク不純ナリ
水藥前方
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
四月五日 左肩胛上部左鎖骨下窩以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 水藥前方
電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス
四月七日 胸部ニ異常ナシ 水藥前方
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
四月九日 左鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ 水藥前方
電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス
四月十一日 左肩胛上部及ビ左鎖骨上窩ハ打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
四月十三日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 水藥前方
電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス
四月十五日 背部ニ異常ナシ 水藥前方
ルエスチン 一、〇

ルエスチン 一、〇
右皮下ニ注射ス

四月十七日 左肩胛上部及ビ左鎖骨下窩以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク且不純ナリ 水藥前方
電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス
四月十九日 胸部ニ異常ナシ 水藥前方
四月二十一日 胸部ニ異常ナシ 水藥前方
ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
五月七日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナキモ呼吸音少シク不純ナリ
六月一日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 四、〇
右一日三回二日分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二
右皮下ニ注射ス

六月三日 水藥前方ヲ與フ
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三
六月五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス
六月十七日 右肺炎約一指低下シ呼吸少シク延長ス 水藥前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス
六月十九日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
水藥前方
ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス
六月二十一日 右肺炎ハ約半指低下シ左腹膜炎アリ少シク下痢スト

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
右皮下ニ注射ス

六月七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五
右皮下ニ注射ス

六月九日 背部ニ異常ナシ 水藥前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
右皮下ニ注射ス

六月十一日 兩肩胛下隔ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右肩胛上部ニ無響水泡音アリ 内服藥各前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス
六月十五日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ
水藥前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス
六月十七日 右肺炎約一指低下シ呼吸少シク延長ス 水藥前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス
六月十九日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
水藥前方
ルエスチン 〇、七五

四三三

云フ

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 阿片丁幾

一、〇

苦味丁幾 四、〇 メンタ水

一〇、〇

右一日三回二日分服

佐氏塗布劑

三〇、〇

右塗腹料朝夕下腹ニ塗布ス

電氣膠糖銀

二、〇

六月二十三日 右肩胛上部ニ異常ナシ認メズ 水藥前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月二十五日 背部ニ異常ナシ左腹膜炎アリ 水藥前方

電氣膠糖銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方

六月二十九日 昨夕體溫三十七度今朝體溫三十六度九分アリシト

兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫シ大盲腸部

ハ打音ニ異常ナクシテ腹痛アリ

處方

四三四

稀鹽酸

二、〇

薑根丁幾

一、〇

沃度丁幾

十滴

苦味丁幾

四、〇

橙皮舍利別

一〇、〇

メンタ水

一〇、〇

水 二〇〇、〇

右一日三回二日分服

ザロール

四、〇

乳糖

二、〇

右分六包一日三回二日分服

感作腸壁扶斯ワクチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

七月一日 背部ニ異常ナシ脾腫大ス

處方

鹽苦沃劑

前方

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

感作腸壁扶斯ワクチン〇、五

〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月三日 胸部ニ異常ナシ脾尙々腫大ス 水丸各前方

感作腸壁扶斯ワクチン〇、七五

〇、七五

七月五日 一昨夕體溫三十六度八分昨夕體溫三十六度八分今朝體

右皮下ニ注射ス

九月十九日 晚時ノ體溫三十六度九分アリシト背部ニ異常ナク脾

腫亦ナシ 水丸前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

九月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月二十九日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前

方

電氣膠糖銀

二、〇

四三五

溫三十六度六分アリシト胸部ニ異常ナク脾腫亦ナク左脇骨高部

ニ少シク壓痛アリ 水丸各前方

感作腸壁扶斯ワクチン〇、七五

〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月七日 異常ナシ夏季休暇ナルヲ以テ歸國セシム

九月十三日 昨今亦晚時ノ體溫少シク高シト診スルニ兩肩胛間部

中央以上ト左鎖骨下窩以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大

ス

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾

四、〇

右一日三回二日分服

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、一五

右皮下ニ注射ス

九月十五日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 水丸各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、三

右皮下ニ注射ス

九月十七日 背部ニ異常ナシ 水丸各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、四

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス
十月一日 右肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ 水薬前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月三日 左鎖骨下窩及ヒ第二肋間ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ右肩胛間部中央以上ト左肩胛間部棘以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾亦腫大ス 水薬前方

感作腸壁扶斯ソクチン〇、二

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

十月五日 昨夜感冒ノ氣味ニテ體温三十七度アリ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左鎖骨上窩ハ打音ニ異常

第五十一病例

サセ

十六才男

昨年十月感冒ニ罹リ本年一月再ビ感冒ニ罹リ爾來健康ヲ害シ常ニ倦怠ヲ覺ル然ルニ十日程前惡寒ニ次テ高熱ヲ發シ次テ歩行時ニ脚部ニ重感ヲ覺ヘシヲ以テ醫藥ヲ加ヘシモ往治セズ昨夜體温ハ三十七度五分アリシト

大正八年四月十八日 診ス兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛下隅部附近ニ摩擦音様雜音アリ脾腫大シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ上下肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射少シク

ナク呼吸音弱クシテ亦無響水泡音アリ脾臟ハ尙ホ少シク腫大ス 水薬前方

感作腸壁扶斯ソクチン〇、四

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月七日 左胸ニ異常ナク脾腫亦ナシ 水薬前方

電氣膠様銀

二、〇

右皮下ニ注射ス

十月九日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 水薬前方

ルエスチン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月十一日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ

亢進ス

診斷 間質性肺炎 脾腫大 腹膜炎 多發性神經炎

處方 鹽酸リモナーテ

右一日三回二分服

一〇〇〇

鹽酸規尼涅

右一包量與四包朝夕頓服

〇、五

佐氏塗布劑

右朝夕下腹部ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ソクチン

〇、一五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼涅液

〇、二五

右臂筋内ニ注射ス

四月二十日 兩胸前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸及ビ斯篤里規尼涅ノ注射各前ノ如シ

特製連鎖狀球菌ソクチン

〇、三

右皮下ニ注射ス

四月二十二日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 脾腫大ス脚部ノ工合ハ大ニ宜シト 各前方

特製連鎖狀球菌ソクチン

〇、四

右皮下ニ注射ス

四月二十四日 三四日來盜汗アリト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ然シ濁性ハ少シク減ズ脾腫大ス 内服藥塗服藥部注射藥各前ノ如シ

特製連鎖狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

四月二十六日 諸症前ノ如シ 内服藥塗服藥部注射藥各前ノ如シ

續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水薬部注射藥各前方

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

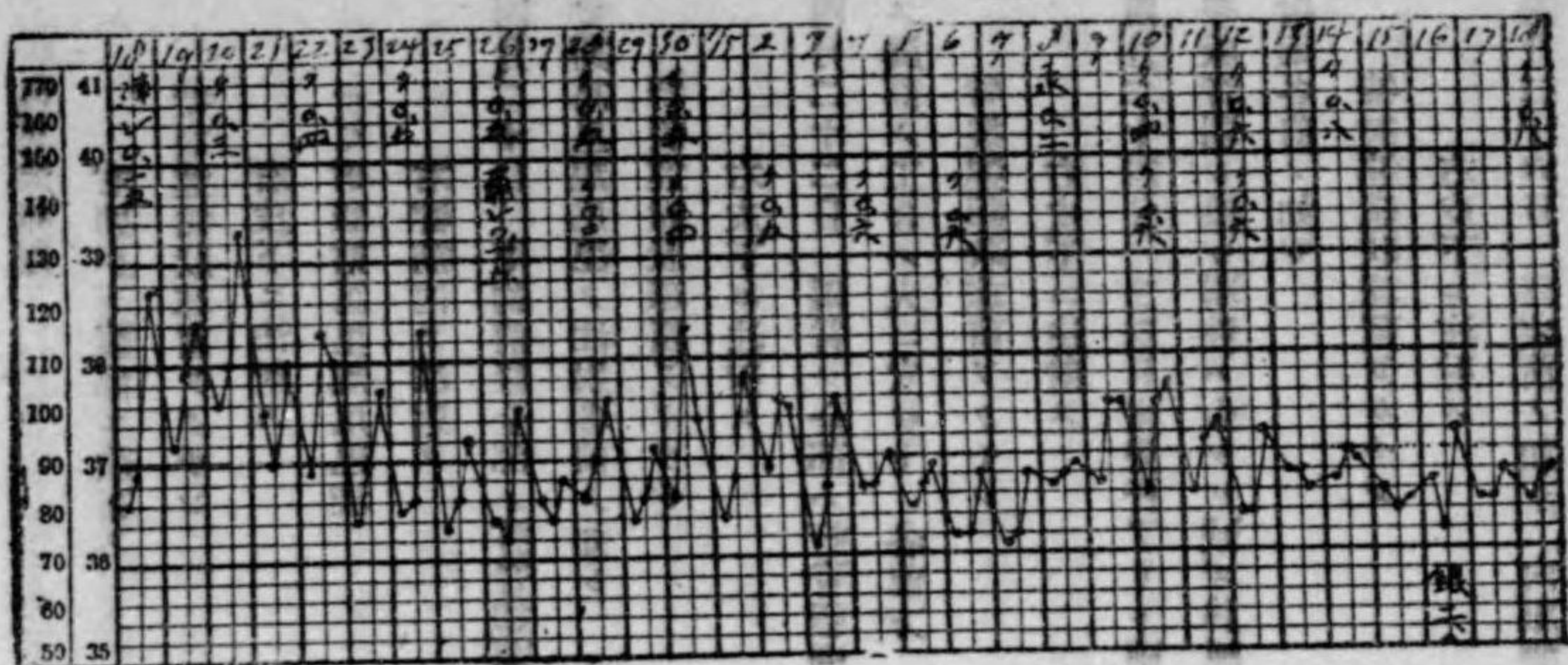
右皮下ニ注射ス

五月四日 右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

葡萄狀球菌ソクチン

〇、五

圖 八 十 第



各前方
 葡萄狀球菌ワクチン 〇、六
 右皮下ニ注射ス
 五月六日 兩肩胛上部及下部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 處方
 佐氏煎(四、〇) 一〇〇〇
 沃度加里 一、〇
 苦味丁幾 二、〇
 右一日三回分服
 葡萄狀球菌ワクチン 〇、六
 右皮下ニ注射ス
 五月八日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 水腫前方
 ルエスチン 〇、二

右皮下ニ注射ス
 五月十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腫大ス
 ルエスチン 〇、四 葡萄狀球菌ワクチン 〇、六
 右皮下ニ注射ス
 五月十二日 右背ノ全部ト左肩胛下部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水腫前方
 ルエスチン 〇、六 葡萄狀球菌ワクチン 〇、六
 右皮下ニ注射ス
 五月十四日 兩肩胛上部ト下部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腫大ス
 處方
 佐氏煎劑
 鹽酸規尼涅
 右一包量與二包毎日一包頓服
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス
 五月十六日 右背全部ト左肩胛下部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 兩背ノ全部ニ於テ弱シ腫大ス 水丸各前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

圖三八

五月十八日 右肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス

五月二十日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ尙ホ腫大ス 水丸各前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

五月二十三日 兩肩胛下隅以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ從來腫大ニ對シ鹽酸規尼涅ヲ與ヘシヨ效ナキ故ニ之ヲ休止ス 佐氏煎劑前方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス

五月二十四日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 水腫前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

五月二十六日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水腫前方
 ルエスチン 〇、八

讀々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス
 五月二十八日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水腫前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

五月三十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濕性ハ大ニ減ズ 水腫前方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス

六月一日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 水腫前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

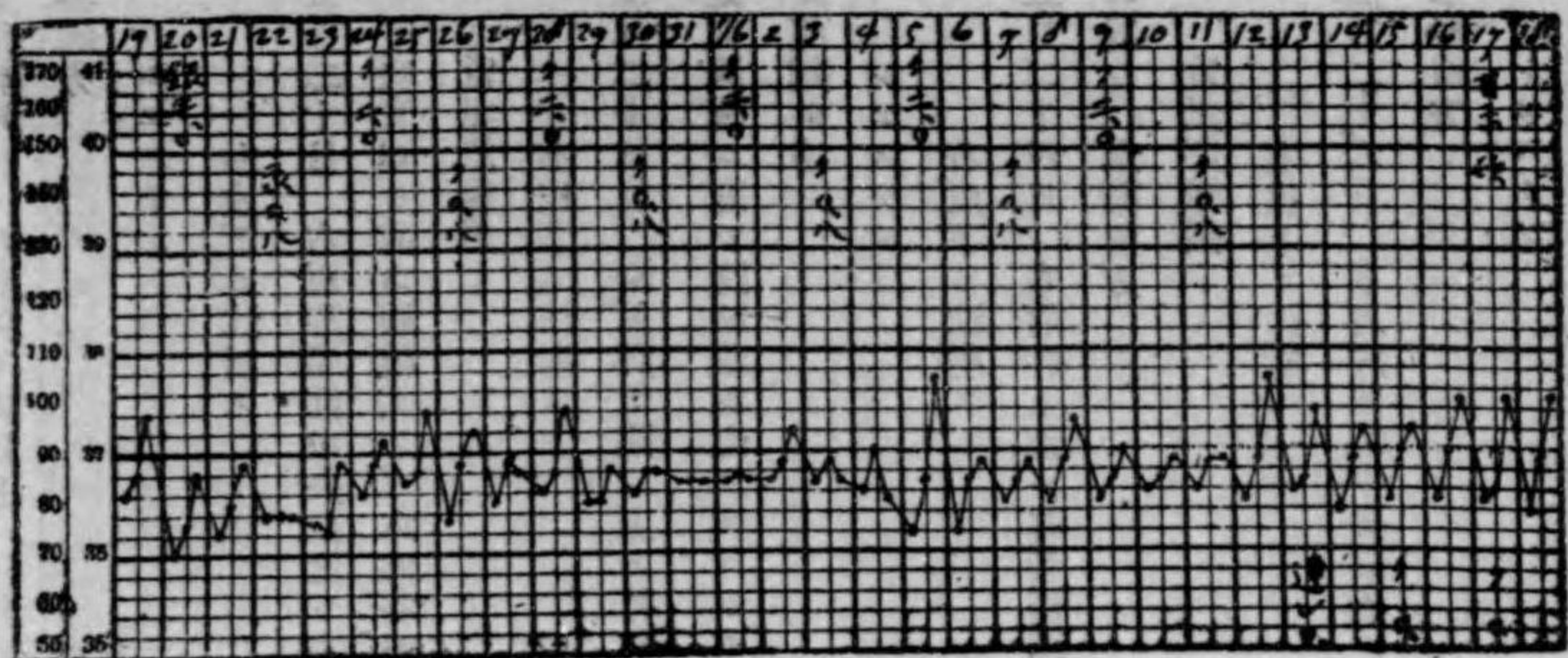
六月三日 背部ニ異常ナシ 水腫前方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス

六月五日 右肺炎ハ一指低下ス 水腫前方
 電氣膠機銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

四三九

水腫前

圖 九 十 第



方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス
 六月九日 背部ニ異常ナ
 シ 水藥前方
 電氣膠様銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 六月十一日 右肩胛上部
 ハ打音輕濁ニシテ呼吸音
 弱シ 水藥前方
 ルエスチン 〇、八
 右皮下ニ注射ス
 六月十三日 兩背ノ全部
 ハ打音輕濁ニシテ呼吸音
 弱シ 水藥前方
 特製連鎖狀球菌ワクチン
 ナン 〇、二
 右皮下ニ注射ス
 六月十五日 兩肩胛上部
 ハ打音輕濁ニシテ呼吸音

弱シ 水藥前方
 特製連鎖狀球菌ワクチン
 右皮下ニ注射ス
 六月十七日 背部ニ異常ナシ
 處方
 佐氏煎劑
 甘草 〇、七
 乳糖 〇、五
 右一包トナシ頓服
 特製連鎖狀球菌ワクチン
 右皮下ニ注射ス
 六月十九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水藥前方
 特製連鎖狀球菌ワクチン
 右皮下ニ注射ス
 六月二十日 背部ニ異常ナク脾臟ハ其腫大チ増シ官腸部ハ打音ニ
 異常ナクシテ壓痛アリ患者云フ頭痛スト
 處方
 稀鹽酸 一、〇 沃度丁幾 五滴
 薑根丁幾 〇、五 苦味丁幾 二、〇
 メンメ水 五、〇 橙皮丁幾 五、〇

四四〇

水 一〇〇、〇

右一日三回分服

ザロール 二、〇 乳糖 一、〇

右分三包一日三回分服

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、八

右皮下ニ注射ス

六月二十一日 頭痛ナシ背部ニ異常ナク脾臟大シ官腸部ニ壓痛アリ

水散藥各前方

六月二十三日 背部ニ異常ナク脾臟大シ官腸部尙ホ壓痛アリ 水

散各前方

六月二十四日 胸部ニ異常ナク脾臟尙ホ少シク腫大シ官腸部亦少シ

ク壓痛アリ 各前方

六月二十六日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾

腫及ビ官腸部ノ壓痛ハ尙ホ存ス

處方

鹽酸沃劑

前方

鹽酸規尼涅

〇、五

右一包トナシ毎日一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン

〇、四

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

六月二十八日 胸腹部ニ異常ナク認メズ

處方

稀鹽酸 一、〇

薑根丁幾 〇、五

苦味丁幾 二、〇

橙皮舍利別 五、〇

水 一〇〇、〇

右一日三回分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

六月三十日 胸部ニ異常ナシ 内服藥前方

七月四日 兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾臟大シ

官腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方

佐氏煎劑(八、〇) 二〇〇、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、二五 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

七月六日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾臟

大シ官腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 水藥前方

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、五 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

四四一

七月八日 背部ニ異常ナク腹部ニ異常ナシ脾腫大ス 水薬前方
 感作腸壁扶斯ヲクチン 〇、五
 右皮下ニ注射ス

七月十日 背部ニ異常ナシ脾腫大ス 水薬前方
 感作腸壁扶斯ヲクチン 〇、五
 右皮下ニ注射ス

七月十二日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 水薬前方
第五十二病例 ナ ト 四十二才男

四五日来不快ナリシカ業務ニ從事セリ然ルニ昨日悪寒ヲ次テ發熱アリ腹痛アリ咳嗽ノ頻發スルニ苦ミ嗜痰多シト
 大正八年八月二十二日 診ス胸部ニ異常ナク脾腫ハ腫大シ盲腸部ハ打音異常ナクシテ腹痛アリ體温三十八度九分

- 處方
- 甘菜 〇、七 乳糖 〇、五
 - 右一包トナシ頓服
 - 稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴
 - 薑根丁幾 一、〇 苦味丁幾 四、〇
 - 櫻皮舍利別 一、〇 杏仁水 八、〇
 - メンタ水 一〇、〇 水 二〇〇、〇
- 右一日三回二日分服

三十九度二分 内服薬前方

感作腸壁扶斯ヲクチン〇、五 特製連鎖狀球菌ヲクチン〇、一五
 右皮下ニ注射ス

八月二十五日 脾腫盲腸部ノ壓痛依然タリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ咳嗽嗜痰多シト體温三十八度 内服薬各前方
 感作腸壁扶斯ヲクチン〇、八 特製連鎖狀球菌ヲクチン〇、三
 右皮下ニ注射ス

八月二十七日 右肩胛部中央以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク盲腸部ノ壓痛亦ナシ體温三十七度一分鹽規ノ服用ヲ休止シ水散各前方ヲ與フ
 特製連鎖狀球菌ヲクチン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

八月二十九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ニ壓痛アリ體温三十七度五分 水散各前方ヲ與フ
 感作腸壁扶斯ヲクチン一、二 特製連鎖狀球菌ヲクチン〇、四

八月三十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ患者云フ夜間咳嗽多ク晝間モ横臥スレバ咳嗽アリ且喘鳴アリト(喘息) 水散各前方
 特製連鎖狀球菌ヲクチン 〇、五
 右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

感作腸壁扶斯ヲクチン 〇、五
 七月二十日 背部ニ異常ナシ轉地療養ヲ意味シテ歸國セシム
 九月十九日 診ス背部ニ異常ナシ

ザロール 四、〇
 健胃散 三、〇
 右分六包一日三回二日分服
 鹽酸規尼糖 〇、五
 右一包量與四包朝夕一包頓服

八月二十三日 咳嗽嗜痰多シト兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部打音異常ナクシテ腹痛アリ體温

九月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ盲腸部ニ壓痛ナシ患者云フ夜間咳嗽多シト
 處方
 鹽苦沃劑 前方 十二粒
 健胃丸 右一日三回二日分服 〇、五
 電氣膠機水銀 右皮下ニ注射ス

九月四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ夜間咳嗽多シト
 處方
 佐氏菌(八、〇) 二〇〇、〇 臭素加里 三、〇
 ストロファンツス丁幾二、〇 杏仁水 八、〇
 右一日三回二日分服 十二粒
 健胃丸 右一日三回二日分服 〇、七五
 電氣膠機水銀 右皮下ニ注射ス

九月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ患者云フ咳嗽減ズト 水丸各前方

減ズト 水丸各前方

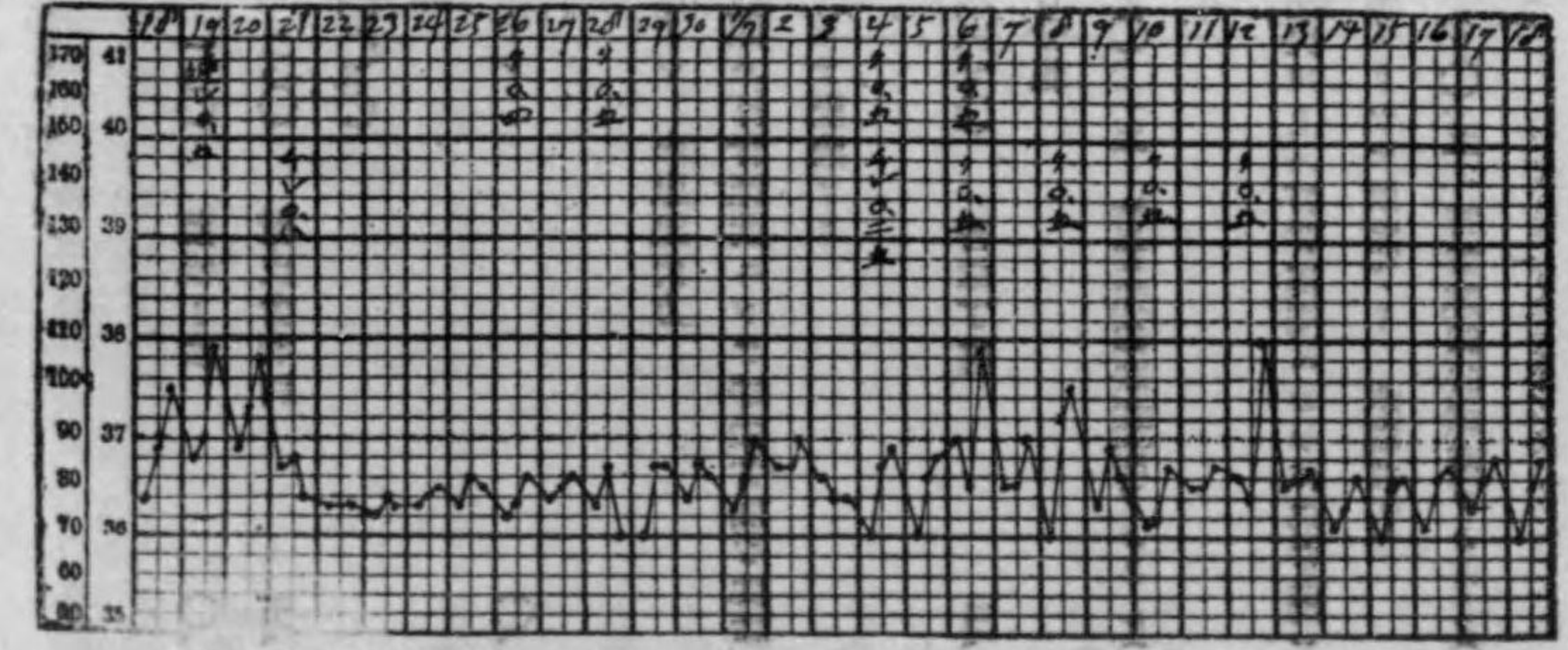


圖 十 二 第

圖四二

圖四三

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

二〇

九月八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性減ズ
水丸各前方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

〇、七五

九月十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

〇、七五

九月十二日 咳嗽少ナシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇〇 杏仁水

八、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

健胃丸

前方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

九月十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前方

電氣膠様水銀 缺品

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、二五

九月三十日 左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左前胸第二
肋間及ヒ鎖骨下窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音少シク不純ナリ
水丸各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

十月六日 昨今咳嗽ナシト左鎖骨上下窩ト兩肩胛間部棘以上トハ
打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク且呼吸延長ス 水丸各前方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

十月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前
方

ルエスチン

右皮下ニ注射ス

〇、七五

十月十三日 左鎖骨上下窩ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延
長ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前方

電氣膠様水銀

二、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

一、〇

九月十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右側ハ呼吸
延長ス 水丸各前方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

一、〇

九月二十日 氣分大ニ宜シク咳嗽少ナシト兩肩胛上部ハ打音輕濁
ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

九月二十二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛下隔
以上ニ弱シ 各前方

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

一、〇

九月二十六日 右肩胛間部棘以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシ
テ呼吸音弱シ

電氣膠様水銀

右皮下ニ注射ス

二、〇

九月二十八日 氣分宜シク咳嗽ナシト左第二肋間以上ト兩肩胛間部
ト三分一以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前方ヲ與フ

右皮下ニ注射ス

十月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 水丸各前
方

十月十九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大首
腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 内服藥各前方

ルエスチン 一、〇 感作腸壁扶斯ワクチン〇、二

右皮下ニ注射ス

十月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大シ
首腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 内服藥各前方

電氣膠様水銀 二、〇 感作腸壁扶斯ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

十月二十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾ノ腫大
ハナク首腸部ニハ尙ホ壓痛アリ 内服藥各前方

感作腸壁扶斯ワクチン〇、五 ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク首腸部ノ
壓痛ナシ

感作腸壁扶斯ワクチン〇、六 電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

以下省略ス

四四五

四四四

第五十三病例 シキ 二十一歳學生

昨年夏不明ノ高熱ヲ發シ四五日ニシテ治セリ其病名ヲ知ラズ其後
病感ナカリシモ時トシテ起立時ニ頭旋スルコトアリシ然ルニ本月
十四日ノ夕ニ急ニ惡寒ヲ覺エ次テ發熱セシヲ以テ檢温セシニ三十
八度五分アリ夜ニ入りテ三十九度一分ニ昇レリ爾來毎日午前ト午
後トニ惡寒アリテ次テ熱感ヲ生セリ主治醫ノ言ニ據レバ其體温ノ
狀況ハ次ノ如シ

十五日朝 三十八度六分 晝 三十八度五分
十六日朝 三十八度 晝 三十八度六分
夕 三十九度五分 夜 四十度二分
十七日朝 四十度 午前九時 三十九度五分
依テ入院治チ乞フト云フ

大正七年五月十七日 診ス兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸
音弱シ脾臟少シク腫大ス他ニ異常ヲ認メズ

診斷 間質性肺炎 脾腫

處方

佐氏煎(四、〇) 一〇〇、〇 苦味丁幾 二、〇
右一日三回分服
佐氏結列阿曹篤丸 六粒

右一日三回食後分服
鹽酸規尼涅 〇、五
右一包量 朝夕一包頓服
特製連鎖狀球菌ワクチン〇、一五
右皮下ニ注射ス
夜十二時體温三十九度九分アリ三日間便通ナシト依テ左方ヲ與フ

處方
甘汞 〇、七 乳糖 〇、五
右一包トナシ頓服

五月十九日 諸症依然タリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ
特製連鎖狀球菌ワクチン〇、三

右皮下ニ注射ス

五月二十日 前胸部ノ濁性ハ亡失セルモ呼吸音弱シ兩背全部ハ打
音輕濁ニシテ殊ニ兩肩胛上部ニ於テ濁性強ク呼吸音ハ兩背ノ全面
ニ互リテ弱シ脾臟ハ依然トシテ腫大シ右腸骨窩部ハ打音異常ナク
シテ少シク壓痛アルガ如シ今曉三時頃ニハ體温三十八度五分ニ降
レリト

處方

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 兩胸ノ前後全部ハ前日ニ比スレバ其濁性ヲ増シ呼
吸音亦其微弱ヲ増ス 内服藥ハ各前方ヲ與フ

感作腸室扶斯ワクチン二、〇

右皮下ニ注射ス

五月二十八日 諸症依然タリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

電氣膠糖銀 一、五

右皮下ニ注射ス

五月三十日 昨日來前胸部ニ濁音ナシ兩背全部ハ打音輕濁ニシテ

呼吸音弱シ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

電氣膠糖銀 一、五

右皮下ニ注射ス

六月一日 昨日晝頃ヨリ發汗多シト兩肩胛下隅以上打音輕濁ニシ
テ呼吸音弱シ脾臟大ス脈力少シク弱シ

處方

佐氏煎(四、〇) 實麥香利新浸(〇、五) 一〇〇、〇

ストロファンツス丁幾一、〇 單舍利別 五、〇

右一日三回分服

佐氏結列阿曹篤丸 六粒 樟腦 〇、三

乳糖 一、〇

續々間質性肺炎之特殊療法

感作腸室扶斯ワクチン一、六

大ス 内服藥各前方

五月二十四日 兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫

大ス 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六

右皮下ニ注射ス

五月二十三日 病狀依然タリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

大ス 内服藥各前方

五月二十二日 背部ノ濁性ハ少シク減ズルモ病狀依然タリ 内服

藥ハ各前方ヲ與フ

感作腸室扶斯ワクチン一、二

右皮下ニ注射ス

五月二十一日 病狀依然タリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

大ス 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、四五

右皮下ニ注射ス

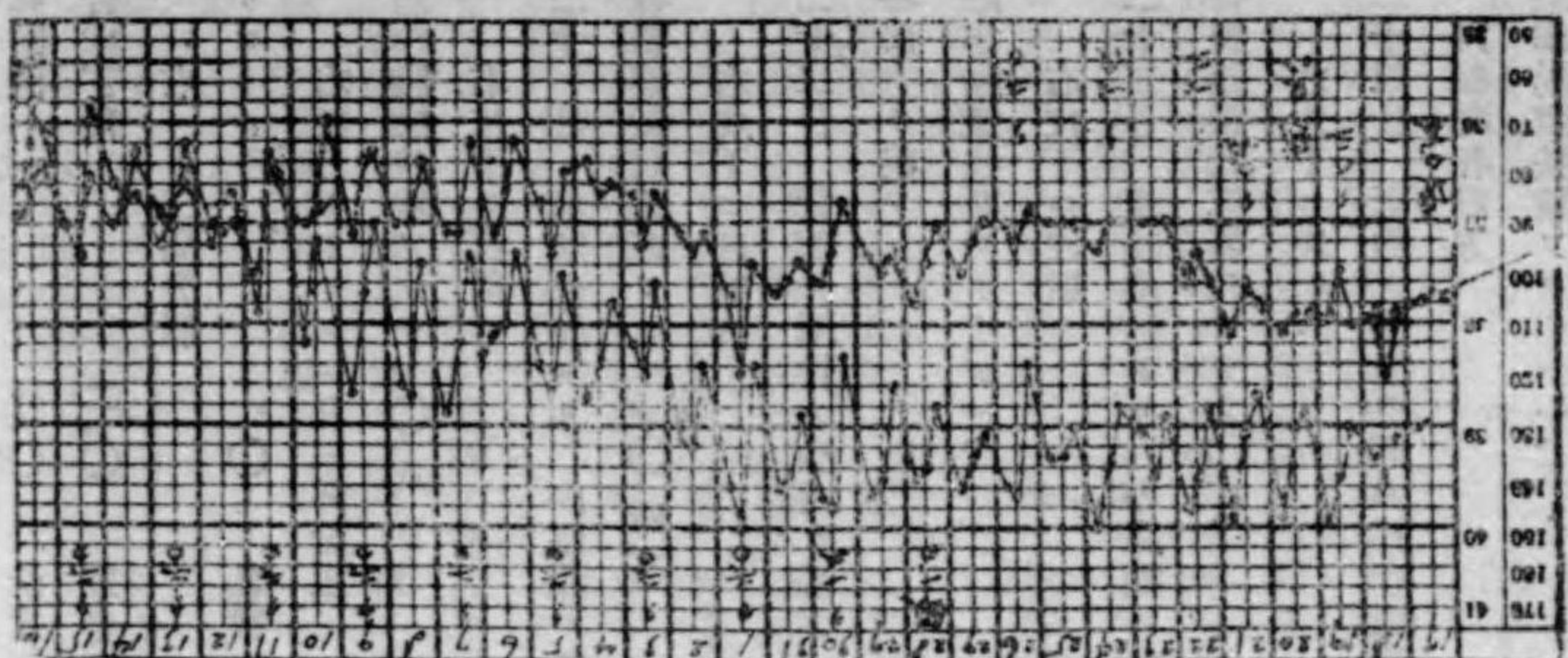
五月二十日 病狀依然タリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

大ス 内服藥各前方

感作腸室扶斯ワクチン〇、八

右皮下ニ注射ス

第二十一圖



右散六包トナ
 シ一日三回
 分服
 電氣膠様銀
 二〇〇
 右皮下ニ注射
 射ス
 晝頃惡寒アリ次テ
 體溫四十度ニ昇騰
 セリト
 處方
 鹽酸規尼涅
 〇・五
 右一包量朝
 タ一包頓服
 六月三日 背部ノ
 濁性ハ少シク減ズ
 ルモ尙ホ兩肩胛下
 隔以上ハ打音輕濁
 ニシテ呼吸音微弱

ナリ 内服藥ハ各前方ヲ與フ
 電氣膠様銀 二〇〇
 右皮下ニ注射ス
 一昨一日晝頃惡寒アリ今日亦晝頃惡寒アリ且足冷スルト云フ
 六月五日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛下部
 リ心臟ノ外側ニ互リ胸微ナル摩擦音アリ昨日ハ嘔氣アリシモ今日
 ハナシト脾腫大ス 内服藥各前方
 電氣膠様銀 二〇〇
 右皮下ニ注射ス
 六月七日 前胸部ハ打音異常ナキモ呼吸音弱シ兩背全部ハ輕濁ニ
 シテ呼吸音弱シ脈性佳良ナリ脾腫大ナシ
 處方
 佐氏煎劑 (四〇) 一〇〇〇 苦味丁幾 二〇〇
 右一日三回分服
 佐氏結列阿曹篤丸 六粒
 右一日三回分服
 電氣膠様銀 二〇〇
 右皮下ニ注射ス
 六月九日 昨夜ハ咳嗽多カリシ且發汗スト兩肩胛下隔以上ハ打音
 輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎劑 結列阿曹篤丸 各前方
 硫酸亞篤魯必涅丸 〇・〇〇〇五
 右臨臥時頓服

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月十一日 今朝ハ多量ニ盜汗アリシト兩肩胛間部中央以上ハ打
 音輕濁ニシテ呼吸音微弱ナルモ其濁性ハ少シク減セリ

處方

佐氏煎劑 亞篤魯丸 各前方

結劑 四號三個

右一日三回食後分服

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月十三日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 内服藥各 前方

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月十五日 尙ホ盜汗アリ背部ノ所見前ニ同シ内服藥各前方ヲ與
 フ

續々間質性肺炎之特殊療法

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月十七日 右肩胛間部中央以上ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシ
 テ呼吸音弱シ 内服藥ハ各前方ヲ與フ

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月十九日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左
 肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 佐氏煎劑結劑各前方
 ヲ與フ

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月二十一日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩
 背全部ニ於テ弱シ 佐氏煎劑結劑各前方ヲ與フ

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月二十三日 右肩胛間部上三分一以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音
 弱シ 佐氏煎劑結劑各前方ヲ與フ

電氣膠様銀 二〇〇

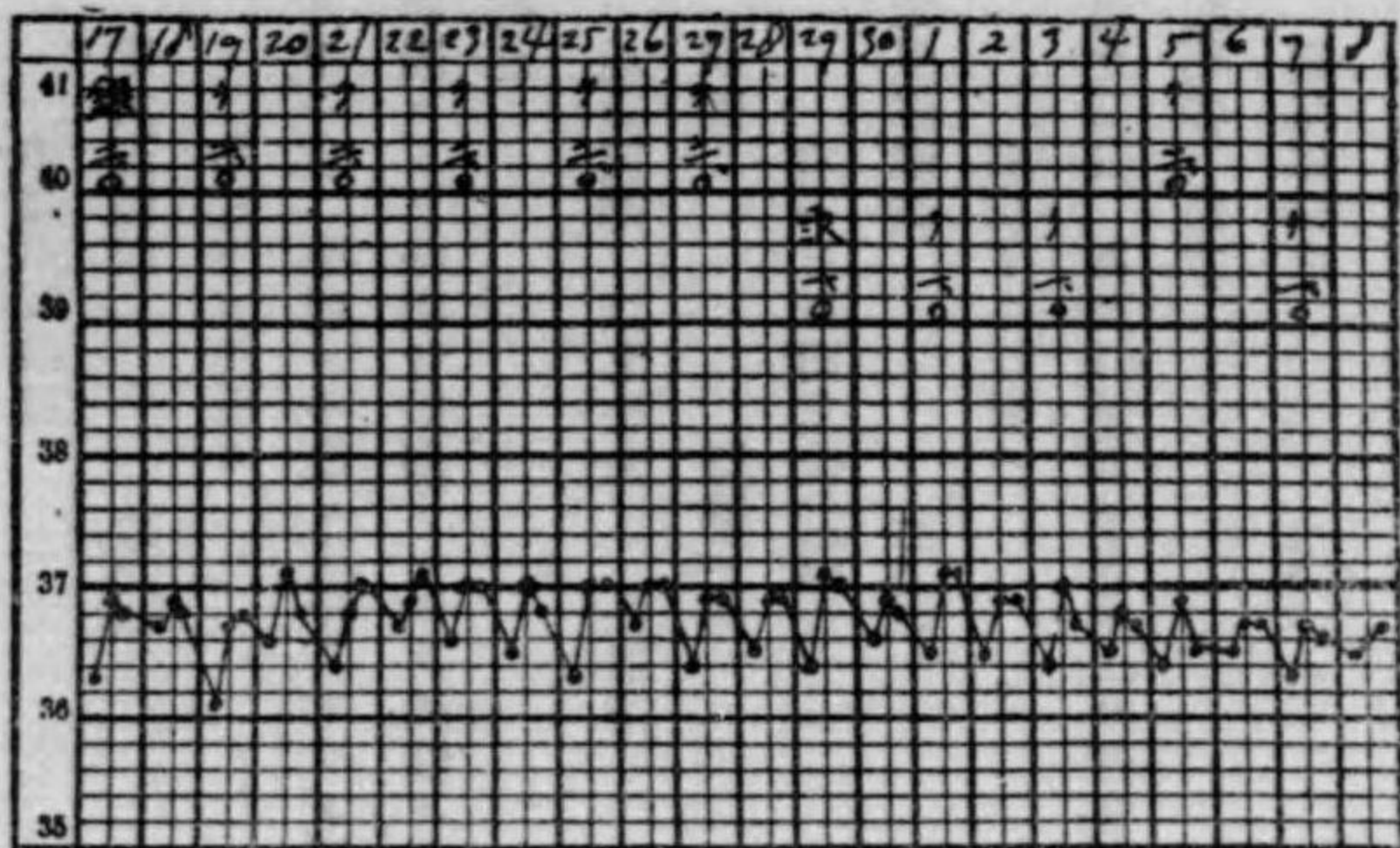
右皮下ニ注射ス

六月二十五日兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各

前方ヲ與フ

電氣膠様銀

二〇〇



各前方

鹽酸規尼涅

〇・五

右一包量 朝夕一包頓服

右皮下ニ注射ス

射ス

六月二十七日 兩

背ノ全部ハ打音輕

濁ニシテ呼吸音弱

シ内服藥各前方ヲ

與フ

電氣膠様銀 二〇〇

右皮下ニ注射ス

六月二十九日 兩

背全部輕濁ニシテ

呼吸音弱ノ脾腫大

ス

處方

佐氏煎劑

四五〇

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

七月一日 右肩胛下隅以上ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニ

シテ呼吸音弱シ 佐氏煎劑、結劑、鹽規各前方ヲ與フ

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

七月三日 右肩胛下隅以上ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニ

シテ呼吸音弱シ脾ノ腫大ヲ認メズ 佐氏煎劑結劑各前方ヲ與フ

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

七月四日 兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ打

音輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ(腹膜炎) 佐氏煎劑結劑各前方ヲ

與フ

處方

佐氏塗布劑 朝夕一回ツ、下腹部ニ塗布セシム

七月五日 兩肩胛間部中央以上ト打音輕濁ニシテ呼吸音弱

處方

佐氏煎劑 佐氏塗布劑ノ塗服 各ノ如シ

結劑

三號三個

右一日三回食後分服

圖 二 十 二 第

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月七日 右肩胛間部中央以上ト打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左背

ニ異常ヲ認メズ左腸骨窩部ノ腹膜炎前ノ如シ 内服藥塗腹藥各前

ト同シ

ルエスチン

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月九日 背部ニ異常ヲシ左腸骨窩部ノ腹膜炎依然タリ 内服藥

塗腹藥各前方

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月十一日 右肩胛上部打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腹膜炎依然

タリ内服藥塗腹藥各前方

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

七月十三日 右肩胛上部打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス左腹

膜炎依然タリ

第五十四病例 ヲマ 二十四歳男

先月初メヨリ深呼吸時ニ右胸痛アリ本月七日頃ヨリ少シク熱候ア

續々間質性肺炎之特殊療法

處方

佐氏煎劑 結劑 塗腹劑 各前方

鹽酸キニーネ 〇・五

右一包量 朝夕一包頓服

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月十五日 背部ニ異常ヲ認メズ 内服藥塗腹藥各前方

ルエスチン

一〇〇

右皮下ニ注射ス

七月十七日 背部ニ異常ヲ認メズ 内服藥塗腹藥各前方

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月十九日 背部ニ異常ヲ認メズ 内服藥塗腹藥各前方

電氣膠様銀

二〇〇

右皮下ニ注射ス

七月二十二日 退院シテ其郷里ニ歸レリ

リ而シテ漸次ニ身體ノ衰弱ヲ來セリ

四五二

大正八年七月十三日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ兩肋膜下腔ニ諸ホアリ左腸骨窩部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 診斷 間質性肺炎 腹水 腹膜炎
 處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 沃度加里 一、〇
 苦味丁幾 三、〇
 右一日三回二分服

健胃丸 十二粒
 右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇
 右塗腹料朝夕一回下腹ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五
 右皮下ニ注射ス

七月十六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス腹膜炎依然タリ
 處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方
 鹽酸規尼涅 〇、五
 右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス
 七月十八日 胸腹部ノ所見ハ前ト同シ 内服藥各前方
 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

七月二十日 倦怠及び眩暈アリテ歩行シ得ズ一日一回下痢アリト左背ニ異常ナク右背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
 處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 阿片丁幾 二、〇
 苦味丁幾 三、〇 メンタホ 一〇、〇
 右一日三回二分服

健胃丸 鹽規 各前方
 感作腸室扶斯ワクチン 〇、一 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

七月二十二日 昨日來下痢ナシト脈速ナリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク盲腸部ハ打音異常ナクシテ壓痛アリ
 處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇
 苦味丁幾 四、〇 橙皮舍利別 一〇、〇
 水 二〇〇、〇
 右一日三回二分服

健胃丸 鹽規 各前方

感作腸室扶斯ワクチン 〇、二 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

七月二十四日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛アリ左腸骨窩部ニ少シク壓痛アリ 内服藥各前方

感作腸室扶斯ワクチン 〇、三 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

七月二十六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾向ホ少シク腫大ス 鹽規ノ服用ヲ休止シ水丸各前方ヲ與フ

感作腸室扶斯ワクチン 〇、四 電氣膠樣水銀 〇、二五
 右皮下ニ注射ス

七月二十八日 右背ノ全部ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ハ少シク膨大シ殊ニ正中中部ニ壓痛アリ咳嗽時ニ腹痛アリ

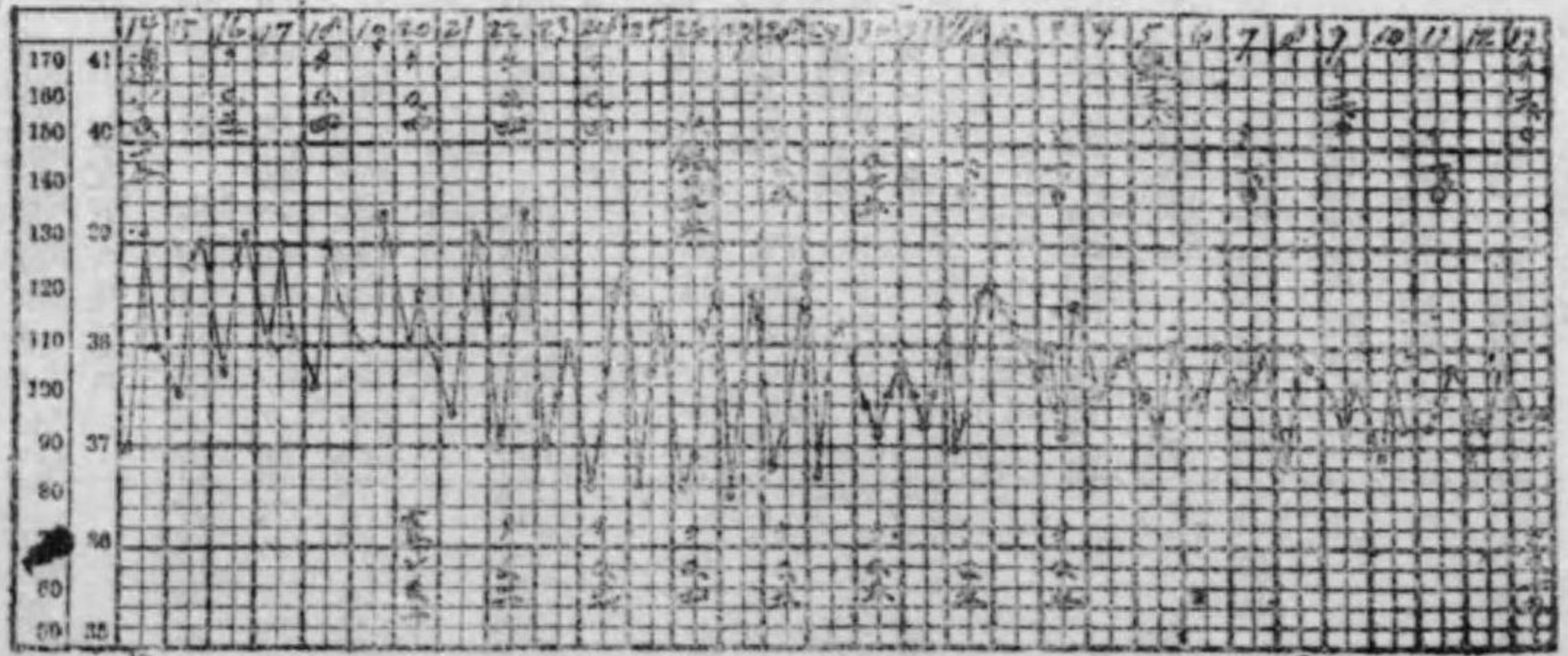
内服藥各前方
 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五 電氣膠樣水銀 〇、五
 右皮下ニ注射ス

七月三十日 兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾向ホ少シク腫大ス脾ノ下方ニ壓痛アリ 内服藥各前方

感作腸室扶斯ワクチン 〇、五 電氣膠樣水銀 〇、七五
 右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

圖 三 十 二 第



八月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾向ホ腫大ス水丸各前方
 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
 電氣膠樣水銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

八月三日 兩肩胛下部以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾向ホ腫大ス 内服藥前方
 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
 電氣膠樣水銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス

八月五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸

音弱シ脾腫ナシ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月七日 兩肩胛上部及ヒ兩鎖骨上窩ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ壓痛アリ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

八月九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十一日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 一、〇

八月十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス水丸各前方

感作腸空扶斯ワクチン〇、一

右皮下ニ注射ス

八月十五日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

四五四

感作腸空扶斯ワクチン〇、三 電氣膠様水銀 一、二五

右皮下ニ注射ス

八月十七日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ於テ弱シ脾腫ハ尙ホ少シク腫大ス 内服薬各前方

感作腸空扶斯ワクチン〇、四 電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月十九日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク且笛聲アリ脾腫大ナシ

處方

稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴

薑根丁幾 一、〇 苦味丁幾 四、〇

メント水 一、〇、〇 橙皮舍利別 一、〇、〇

水 二、〇、〇

右一日三回二分服

ザロール 四、〇 健胃散 二、〇

右分六包一日三回二分服

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

八月二十一日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服薬前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十三日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

八月二十五日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十七日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服薬各前方

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

八月二十九日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ 處方

佐氏煎(八、〇) 二、〇、〇 撒里矢爾酸曹達 四、〇

食鹽 三、〇 苦味丁幾 四、〇

メント水 一、〇、〇

右一日三回二分服

健胃丸 十二粒

續々間質性肺炎之特殊療法

右一日三回二分服

電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

八月三十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク且笛聲アリ 水丸各前方

電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

九月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス患者云フ平素體重ハ十三貫目餘ナリト此日秤量スルニ十二貫二百四十目アリシ 内服薬各前方

感作腸空扶斯ワクチン〇、三 電氣膠様水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月四日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服薬各前方

感作腸空扶斯ワクチン〇、四 電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

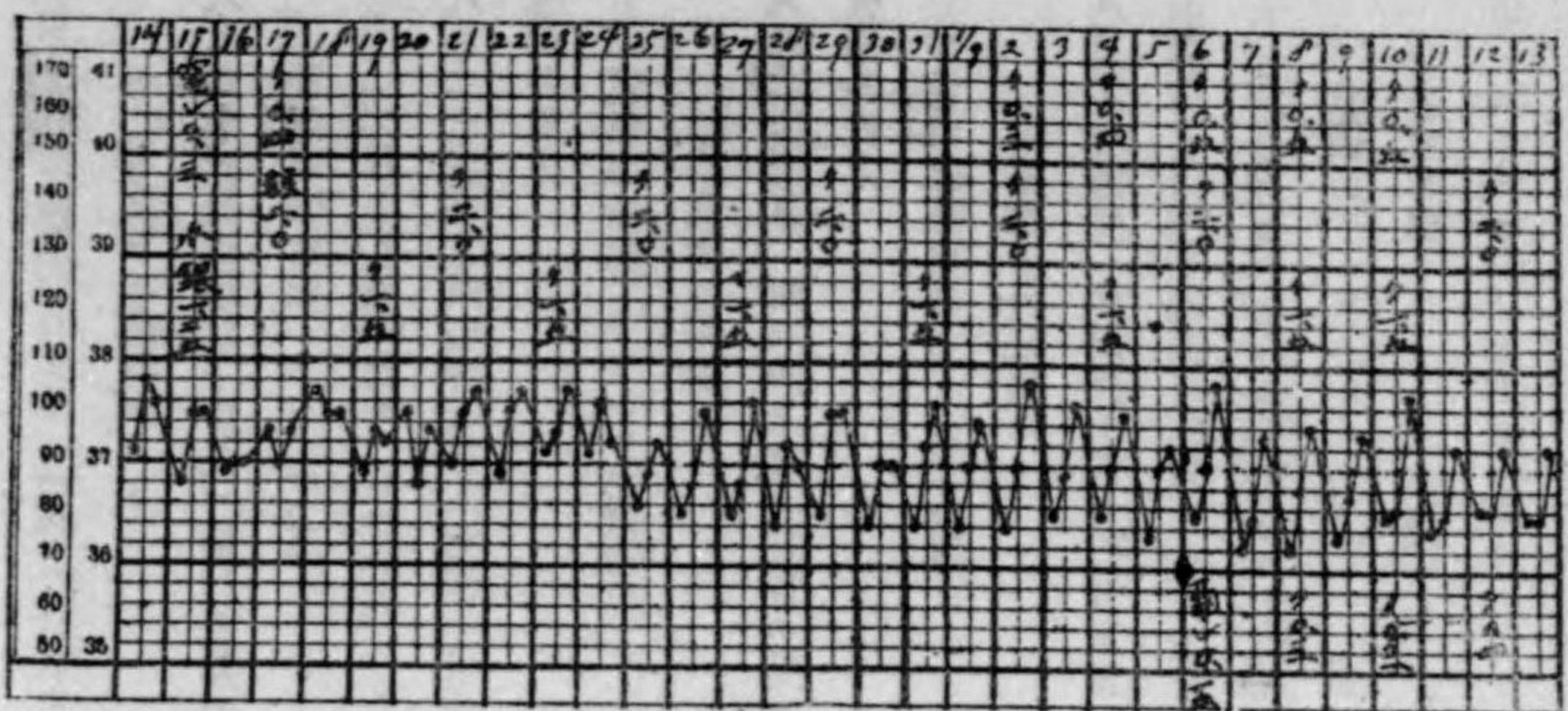
九月六日 兩肩ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服薬各前方

感作腸空扶斯ワクチン〇、五 電氣膠様水銀 二、〇

葡萄狀球菌ワクチン〇、一、五

四五五

圖 四 十 二 第



右皮下ニ注射ス
 九月八日 兩肩胛上部
 ハ打音輕濁ニシテ呼吸
 音弱シ脾尙ホ腫大ス
 内服藥前方
 感作腸空扶斯ソク
 チン 〇、五
 電氣膠様水銀 一、五
 葡萄狀球菌ワクチン 〇、三
 右皮下ニ注射ス
 九月十日 兩肩胛上部
 ハ打音輕濁ニシテ呼吸
 音弱シ但シ濁性ハ大ニ
 減ズ脾尙ホ少シク腫大
 ス 内服藥前方
 感作腸空扶ソクチ
 ン 〇、五

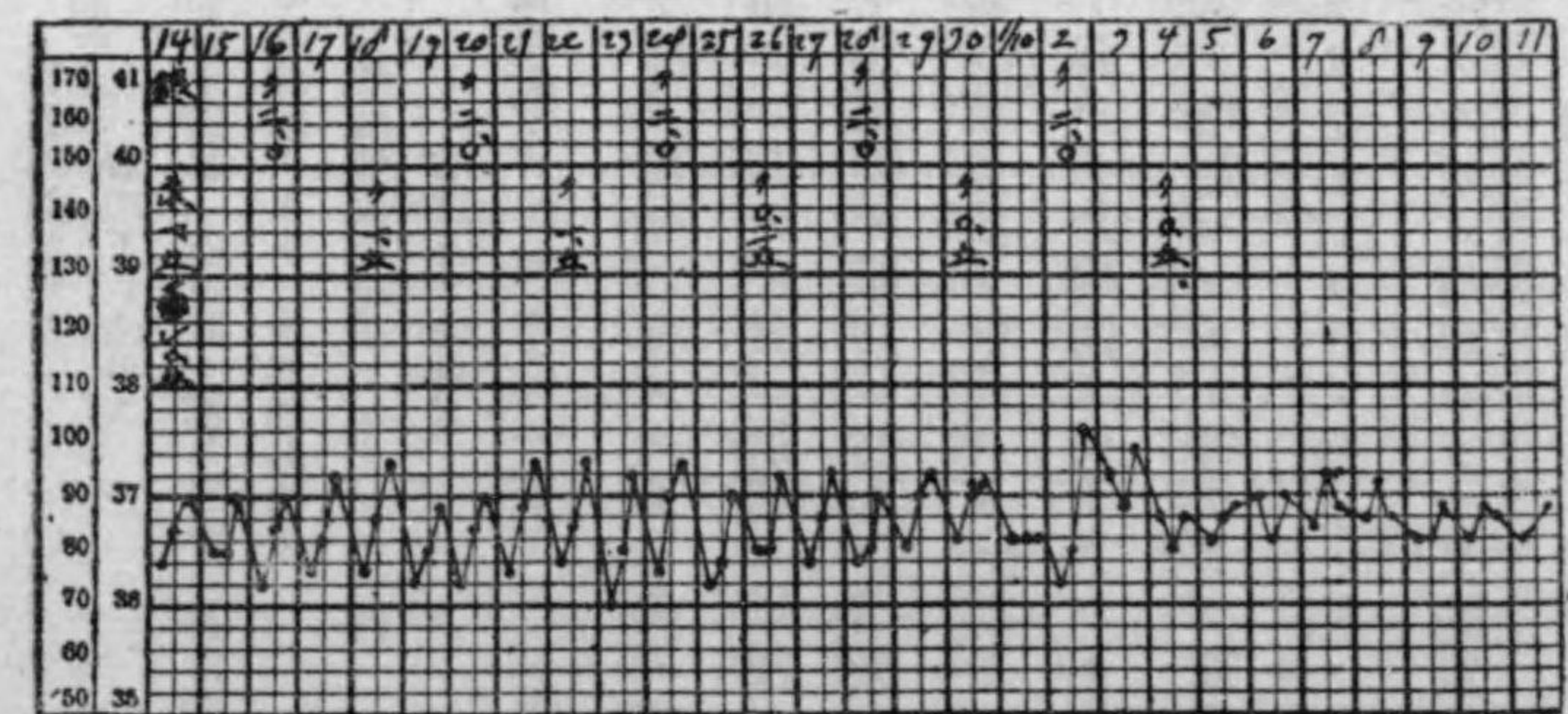
四五六

電氣膠様水銀 一、五
 葡萄狀球菌ワクチン 〇、三
 右皮下ニ注射ス
 九月十二日 兩肩胛間部棘以上ト左右鎖骨上窩部トハ打音輕濁ニ
 シテ呼吸音弱ク兩鎖骨上窩ニハ少許ノ笛聲アリ脾ノ腫大ハ無キガ
 如シ 内服藥前方
 電氣膠様水銀 二、〇 葡萄狀球菌ワクチン 〇、四
 葡萄狀球菌ワクチン 〇、三
 右皮下ニ注射ス
 九月十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ體重十二貫
 三百目アリ 内服藥前方
 電氣膠様水銀 一、五 葡萄狀球菌ワクチン 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 九月十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右側ニ笛聲
 アリ 内服藥前方
 電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 九月十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各
 前方
 電氣膠様水銀 一、五

右皮下ニ注射ス
 九月二十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音少シク粗雜ニ且
 呼吸少シク延長ス體重十二貫四百五十目アリ 内服藥前方
 電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 九月二十二日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方
 電氣膠様水銀 一、五
 右皮下ニ注射ス
 九月二十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥
 前方
 電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 九月二十六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥
 各前方電氣膠様水銀缺品ス
 ルエスチン 〇、二、五
 右皮下ニ注射ス
 九月二十八日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥
 各前方
 電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

圖 五 十 二 第



九月三十日 背部ニ
 異常ナシ 内服藥各
 前方
 ルエスチン 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十月二日 兩肩胛上
 部ハ打音輕濁ニシテ
 呼吸音弱シ 内服藥
 前方
 電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 十月六日 右肩胛上
 部ハ打音ニ異常ナク
 シテ呼吸音弱ク呼吸
 少シク延長ス患者云
 フ昨日來少シク感冒
 ノ氣味ナリト 内服
 藥前方
 ルエスチン 〇、五

四五七

右皮下ニ注射ス

十月八日 咳嗽アリ鼻水出ヅト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ且少許ノ乾性囉音アリ 内服藥各前方

ルエスチン ○七、五

右皮下ニ注射ス

十月十一日 尙ホ少シク咳嗽アリト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナシテ呼吸音弱シ尙ホ少シク咳嗽アリト 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

爾後來ラズ

以上ノ數例ニ示ス如ク間質性肺炎乃至肺癆患者へ其病初ヨリ既ニ脾腫ノ存スルアリ或ハ其治療中ニ脾腫ヲ來スコトアルハ敢テ稀少ナルニ非ズ故ヲ以テ斯病ノ治療ニ從事スルモノハ常ニ脾臟ノ狀況ニ對シ殊ニ注意セザル可カラザルモノタルハ言フ俟タズ然リ而シテ其脾腫タルヤ規尼涅ノ服用ニ據リテ消失シ吾人ヲシテ其ノ麻拉里亞ニ因由スルモノニ非ザルヤヲ思ハシムルモノアリ腸窒扶療法ヲ併用スルニ據リテ始メテ縮小シ心私カニ其腸窒扶スノ併存セルニ非ザルヤヲ疑ハシムルモノアリ而シテ其病因ノ何レタルニ拘ハラズ或ハ熱候ヲ増惡シ或ハ熱候ヲ頑強ナラシメ或ハ胸部ニ於ケル理學的變常ヲ増加セシムル等アリテ斯病ノ治療ニ大ナル障礙ヲ致スハ共同一ナリト雖モ就中腸窒扶療法ヲ行フニヨリテ治效アルノ病症ハ極メテ重要視ス可キノ問題ナリト謂ハザルヲ得ズ惟フニ腸窒扶スハ廣ク國民間ニ蔓延スル所ノ病症ニシテ又間質性肺炎ハ慢性ニ經過スル所ノ病症ナルヲ以テ假リニ間質性肺炎ノ高熱ヲ以テ發症シ同時ニ腸窒扶スノ併發ニテ其病形ヲ擾亂セシムルノ症ヲ控除スレバ本病患者ハ或ハ其發病ニ先チテ既ニ腸窒扶菌攜帶者タルモノアル可ク又ハ其經過中ニ腸窒扶菌ニ感染スルモ其固有ノ病型ヲ呈セズシテ經過スルモノアルナク可ク而シテ此等菌攜帶者ハ其攜帶菌ノ活動ニヨリテ或ハ微熱ヲ發シテ本病ノ熱候ニ添加シ或ハ其毒素ノ作用ハ肺ニ充血ヲ惹起シテ理學的變常ヲ増加セシムルコトアルハ之ヲ否定シ得ベキニ非ズ殊ニ奇ナルハ膠樣劑ノ注射療法ヲ續行スルノ後ニ於テ或ハ脾腫ト盲腸部ノ壓痛或ハ單ニ盲腸部ノ壓痛若クハ脾腫ノミヲ來シ其病狀ヲ増加シ而シテ腸窒扶療法ヲ施行スルニ由リテ治療スルニ據リテ見レバ此等膠樣劑殊ニ水銀膠樣劑ハ腸管内ニ滲漏シテ腸窒扶菌ヲ溶解シ而シテ斯ク發症セシムルモノナルヤモ亦知ル可カラズ夫レ然リト雖モ感作腸窒扶斯わくちんニ據リテ治療スル所ノ病症ハ皆悉ク腸窒扶スナルヤ又ハ其わくちんノ注射ニヨリテ化生スル所ノ療病素ハ他種ノ炎症ヲモ尙ホ治療セシムルモノナルヤハ未詳ニ屬スルモノナルヲ以テ縱令肺癆患者ノ經過中又ハ治療中ニ發スル所ノ或病徵ノ感作腸窒扶斯わくちんノ注射ニヨリテ治療スルコトアルモ之ニ據リテ直チニ其病候ノ腸窒扶スノ併存スルニ由リテ發セシモノナリト斷定シ得ザルモノナルヤモ亦知ル可カラズ吾人ハ唯之ヲ治スルヲ知得スルノミニテ即チ足ル

肺癆患者ニ感作腸窒扶斯わくちんヲ試用セントスルノ際ニ特ニ注意セザル可カラザルハ咯血其他ノ出血シ易キ傾向アルモノニ一時ニ多量ノわくちんヲ注射スル時ハ出血ヲ誘發スルヤヲ思ハシムルコトアルノ一事ナリトス左ニ其實驗二例ヲ掲クベシ

續々間質性肺炎之特殊療法

第五十五病例 タキ 三十四歳男

大正四年二月感冒ノ氣味ニテ常ニ背部ニ寒氣アリテ四月頃マテ持
續シ四月褐色痰ノ出テタルコトアリ然レドモ別ニ異常ヲ覺エザリ
シヲ以テ中々仕事シ中々遊ビ居レリ七月ニ至リ東京醫科大學ニテ
びるけい反應ヲ檢セシニ強度ノ陽性ナリシヲ以テ八月中旬北里養
生園ニ入院セシニ二月中旬始メテ咯血シ約二百ぐらむノ血量ア
リ其後二週間位ハ血痰アリシモ氣分ハ宜シカリシ而シテ翌五年一
月末日マテ在院セリ

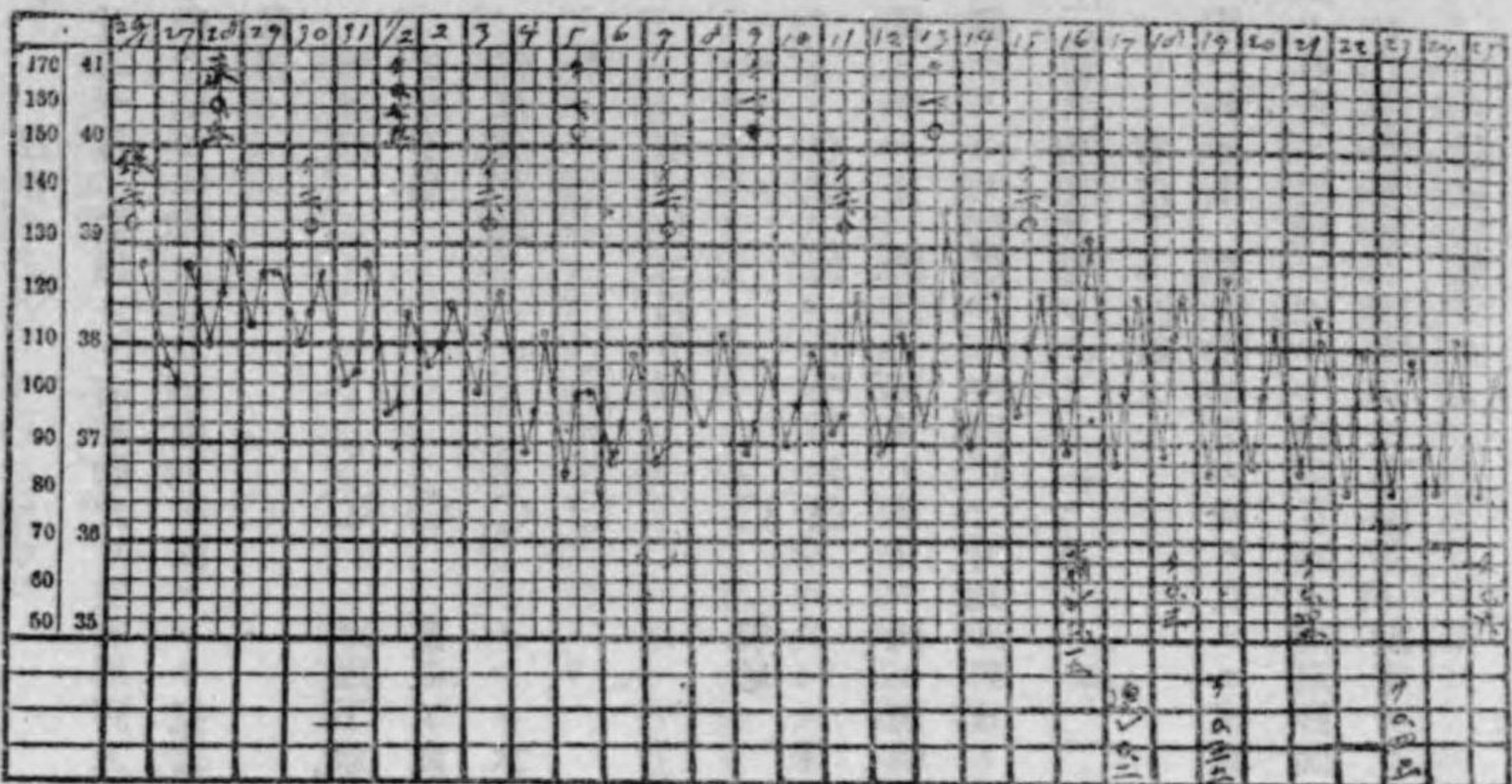
大正五年二月一日下痢一日ニ行位アルノ故ニ長興胃腸病院ニ入院
セシニ其十日ニ約二百ぐらむ許ノ咯血アリ其後約十日間位血痰ノ
リシ四月中旬マテ在院シ十八日北里養生園ニ歸レリ最初入院時ニ
注射療法ヲ行ヒタル時ニハ格別ノ自覺ナカリシモ再度入院後ハ注
射スル毎ニ快方ニ趨クガ如クノ自覺アリシ八月十日頃マテ在院シ
前後ヲ通シテ約八十回位ノ注射ヲ受ケ殆ド全治セルガ如クアリシ
ヲ以テ茅ヶ崎ニ轉地セシニ頑固ナル便秘ヲ起シ且盲腸部ニ疼痛ア
リシヲ以テ歸宅セシニ始メテ三十九度近クノ發熱アリシ故ニ復々
胃腸病院ニ入院シ胸腹共ニ病態ナキガ如クアリシヲ以テ十二月二
十一日退院シテ再ビ茅ヶ崎ニ趨ケリ轉地後ノ工合ハ宜シカリシ
大正六年二月九日夕食後甘酒ヲ飲ミシニ就臥後咯血スルコト三回

ニシテ約四百「グラム」ノ血量アリ約十日間位ハ血痰アリシ止
血後ハ却テ氣分ノ爽快ヲ感シタリ此際ニ高田病院ニテ右鎖骨下部
ニ直徑約一、五センチメートル大ノ空洞生ジタリト云ヘリ越テ十
月十四日一寸熱海方面ニ遊ビ歸途湯ヶ原ニテ咯血スルコト約二百
ぐらむニシテ血痰ハ約一週間位持續セシモ發熱スルコトナク経過
ハ佳良ナリシヲ以テ茅ヶ崎ニ歸リシモ爾後ノ経過ハ餘リ良好ナラ
ズシテ體力恢復セズ漸次ニ其衰弱ヲ增加セリ而シテ發病以後ノ體
温ハ最高三十七度八分ヲ超エシコトナカリシト

大正七年八月三十一日茅ヶ崎ヨリ歸リテ入院ス之ヲ診スルニ右鎖
骨下窩ハ少シク萎縮シ打音ハ異常ナク呼吸音ハ粗烈ニシテ少許ノ
水泡音アリ左鎖骨下窩及ヒ第二肋間ハ亦打音ニ異常ナクシテ呼吸
音粗烈ナリ背部ハ兩肩胛下隅以上ニ於テ打音輕濁ニシテ呼吸音弱
シ脾腫大シ左側腹ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ下腹部ニハ所々
ニ淋巴腺ノ腫大スルヲ觸知ス患者云フ體温ハ今日晝三十七度二分
夕三十七度八分ニシテ夕刻ニ褐色痰アリシト爾來加療シ十二月二
十日諸症輕快シテ退院セリ

大正八年一月十三日 昨今十町位歩行的ニ運動ヲナス時ハ其翌日
ハ體温三十七度五分位ニ昇騰スト之ヲ診スルニ胸部ニ異常ナク左

圖 六 十 二 第



續々間質性肺炎之特殊療法

側腹ハ輕濁リシヲ
抵抗アリ壓痛アリ
一月十五日 埼玉
縣二度栗山ニ遊ビ
シニ此日朝四時頃
ヨリ血痰アリ次テ
二回咯血セリト午
後之ヲ診スルニ右
鎖骨下窩及ヒ第一
肋間ハ打音ニ異常
ナク呼吸音粗雜ナ
リ兩背ノ全部ハ打
音輕濁ニシテ呼吸
音弱シ而シテ此日
午後二回十六日二
回十七日朝一回咯
血セリト咯血後三
十九度以上ニ發熱
セシモ溫度表紛失
セシヲ以テ之ヲ示

スコト能ハズ

一月二十六日 入院ス之ヲ診スルニ右第二肋間ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱シ右背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ爾後ノ経過ハ之
ヲ略ス

るえすちんヲ注射スルコト次ノ如シ

一月十七日〇、二五 cc 二十八日〇、五 cc 二月一日〇、
七五 cc 五日一、〇 cc 九日一、〇 cc 十三日一、〇 cc

電氣膠様銀ヲ注射スルコト次ノ如シ

一月二十三日二、〇 cc 二十六日二、〇 cc 三十日二、〇
cc 三日二、〇 cc 七日二、〇 cc 十一日二、〇 cc 十五
日二、〇 cc

るえすちんヲ注射スルコト次ノ如シ

三月三日〇、二五 cc 七日〇、五 cc 十一日〇、七五 cc
十三日一、〇 cc

五月十日〇、二五 cc 十四日〇、五 cc 十六日〇、七五 cc
十八日〇、七五 cc 二十二日〇、七五 cc 二十六日一、〇
cc

三十日一、〇 cc 六月三日一、〇 cc 七日一、〇 cc 十
日一、〇 cc 十五日一、〇 cc

電氣膠様銀ヲ注射スルコト次ノ如シ

五月二十日二、〇 cc 二十四日二、〇 cc 二十八日二、〇
cc

cc 六月一日二、〇cc 五日二、〇cc 九月二、〇cc +
三日二、〇cc

六月二十日 頭痛スト右前胸及ビ左右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ左側腹ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

處方

稀鹽酸 一、〇 沃度丁幾 五滴

苦味丁幾 二、〇 薑根丁幾 〇、五

橙皮舍利別 五、〇 メンマ水 五、〇

水 一〇〇、〇

右一日三回分服

ザロール 二、〇 乳糖 一、〇

右分三包一日三回分服

六月二十一日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ左側腹ノ所見亦前日ト同シ 内服藥各前方 感作腸空扶斯ワクチン 〇、八

右皮下ニ注射ス

六月二十三日 右側臥チナス時ハ直チニ咳嗽アリ喀痰アリト右前胸ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク兩肩胛間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛ナシ 内服藥各前方 感作腸空扶斯ワクチン 一、二

シテ呼吸音ハ兩肩胛間部中央以上ニ弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

六月二十九日 尙ホ血痰アリト

第五十六病例 ナニ 二十一歳男

一昨年三月羣丸炎ニ罹リ昨年八月頃ヨリ違和チ覺エ排尿中ニ血液ヲ混ズルコトアリ以之醫療チ加ヘシモ全治ニ至ラズシテ休養セリ爾來時々血尿ヲ泄スコトアリ昨今ハ少シク増症シ排尿毎ニ血液ヲ混ズ而シテ寒キ時ハ餘カニ血尿ヲ泄スガ如シ常ニ寒氣アリト

大正八年三月十七日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 腹膜炎 腎炎カ

處方 佐氏煎(ハ、〇) 二〇〇、〇 沃度加里 一、〇

苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

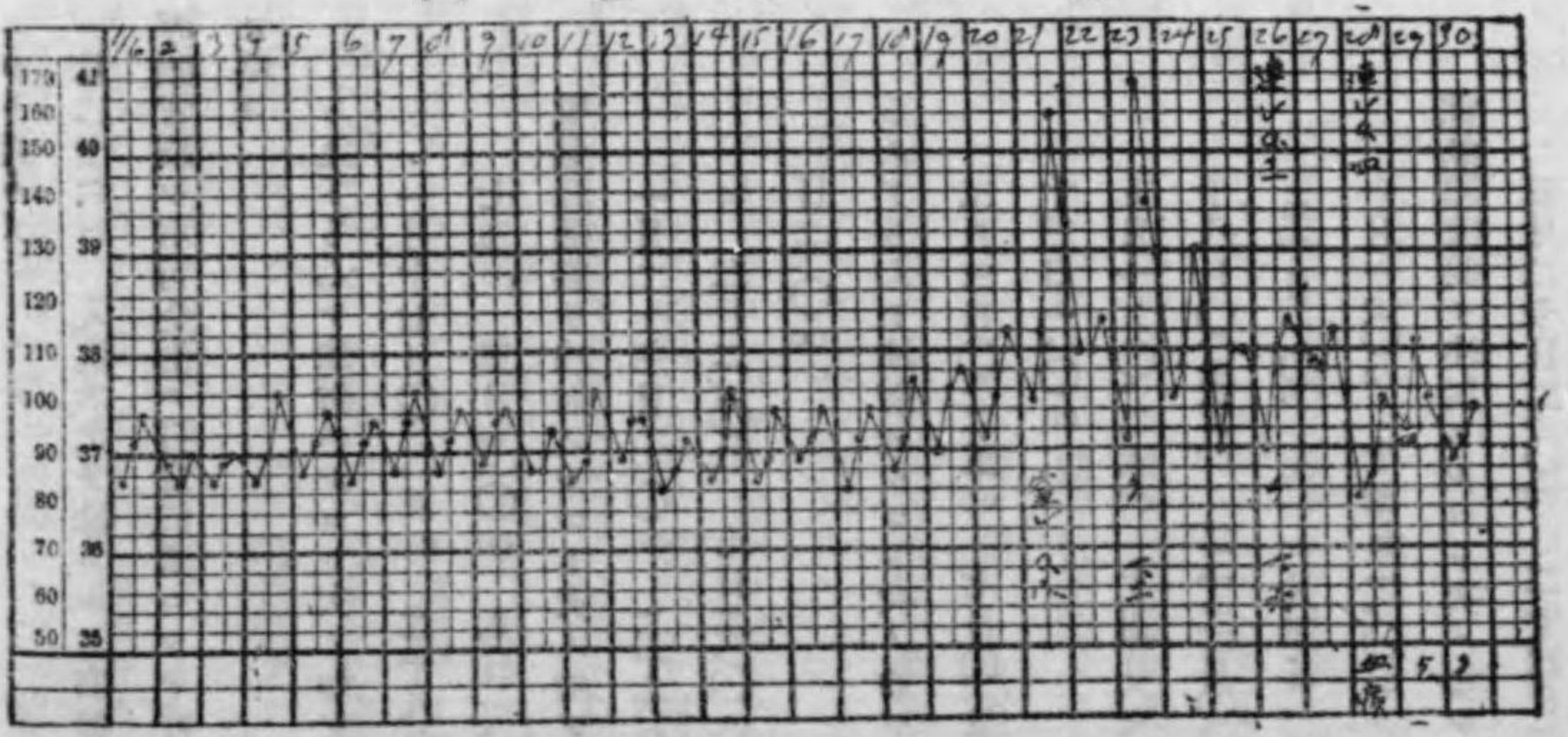
佐氏塗布劑 三〇、〇

右塗腹料朝夕下腹ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

續々間質性肺炎之特殊療法

圖 七 十 二 第



四六二

右皮下ニ注射ス

六月二十六日 昨夜ハ盜汗多カリシト右前胸部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方 感作腸空扶斯ワクチン 一、六

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

六月二十七日 昨夜十二時半頃ヨリ血痰アリト

六月二十八日 尙ホ喀痰ニ血點アリト前胸部ノ所見ハ前日ニ同シ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニ

六月三十日 尙ホ血痰アリト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥各前方 以下省略ス

右皮下ニ注射ス

三月十九日 患者云フ靜カニ居レバ尿色薄クナルモ動ク時ハ濃クナルト寒氣スルコト少ナシ 内服藥各前方 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

三月二十一日 歩行スルニ尿ニ血液ヲ混ズルモ以前ニ比スレバ血量少ナシ右背全部ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ 内服藥各前方 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

三月二十三日 從來ハ半時間乃至一時間位ニ尿意ヲ催シ排尿量少ナク且排尿時ニ疼痛アリシモ昨今ハ排尿ノ回数ヲ減シ排尿量ヲ増シ掛尿時ノ疼痛ナク且尿ニ混ズル血量減ズト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ 内服藥各前方

四六三

三月三十一日 尙ホ少シク寒氣アリ一昨日來血尿ナシト兩肩胛下
隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服藥各前方
以下ノ經過ハ中略ス但シ四月四日入院セリ

三月三十一日〇、七五cc 四月四日〇、七五cc 八日一、〇cc

三月三十一日〇、七五cc

葡萄狀球菌ワクチン注射スルコト次ノ如シ

三月三十一日〇、二五cc 四月二日〇、三三cc 六日〇、四cc

十日〇、五cc

電氣膠様銀ヲ注射スルコト次ノ如シ

四月十四日二、〇cc 十六日二、〇cc 十八日二、〇cc

二十日二、〇cc

葡萄狀球菌ワクチン注射スルコト次ノ如シ

四月二十四日〇、四cc 二十六日〇、五cc 二十八日〇、六cc

三十日〇、六cc

五月二日 右肩胛上部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱シ

處方 佐氏煎(四、〇) 一〇〇、〇 苦味丁幾 二、〇

右一日三回分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

三月二十五日 安靜ニナシ居レバ尿色澄ムコトアルモ動ケバ血液
ヲ混ズ而シテ一昨夜來少シク頭痛アリト兩肩胛下隅以上ハ打音輕
濁ニシテ呼吸音弱シ體溫三十七度六分脾腫大ス腹膜炎依然タリ

處方

佐氏煎劑 前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量朝夕一包頓服

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

三月二十七日 尿中ノ血量減シ氣分大ニ宜シト兩肩胛間部中央以
上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ下腹膜炎依然タリ 内服

藥各前方

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

三月二十九日 一昨日ハ歸宅後ニ血尿ヲ排泄セシコト一回アリシ
モ昨日ハ全ク血尿ナカリシト 内服藥各前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

葡萄狀球菌ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

五月四日 昨夜ヨリ血
尿アリト胸部ノ所見ハ
前日ト同シ 内服藥前
方

葡萄狀球菌ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

五月五日 尙ホ血尿ヲ
泄スモ以前ノ如ク血色
濃厚ナラズ時トシテ排
尿ノ閉止スルコトアリ

然レドモ以前ノ如ク排
尿時ノ疼痛ナシト兩肩
胛上部ハ打音輕濁ニシ

テ呼吸音弱シ下腹膜炎
アリ 内服藥前方

五月六日 尿色ハ薄ク

續々間質性肺炎之特殊療法

四六五

ナリ且排尿ノ間ヘルコトナシト兩肩上部ノ濁性ハ少シク減ズ

五月七日 左側腹ニ疼痛アリト尿色大ニ淡シ背部ノ所見ハ前日ノ
如シ脾腫大ス

處方 佐氏煎(五、〇) 一〇〇、〇 撒里矢爾酸曹達 二、〇

倉鹽 三、〇 苦味丁幾 二、〇

メンタ水 五、〇

右一日三回分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

五月八日 昨日來血尿ナシ 内服藥各前方

以下中略

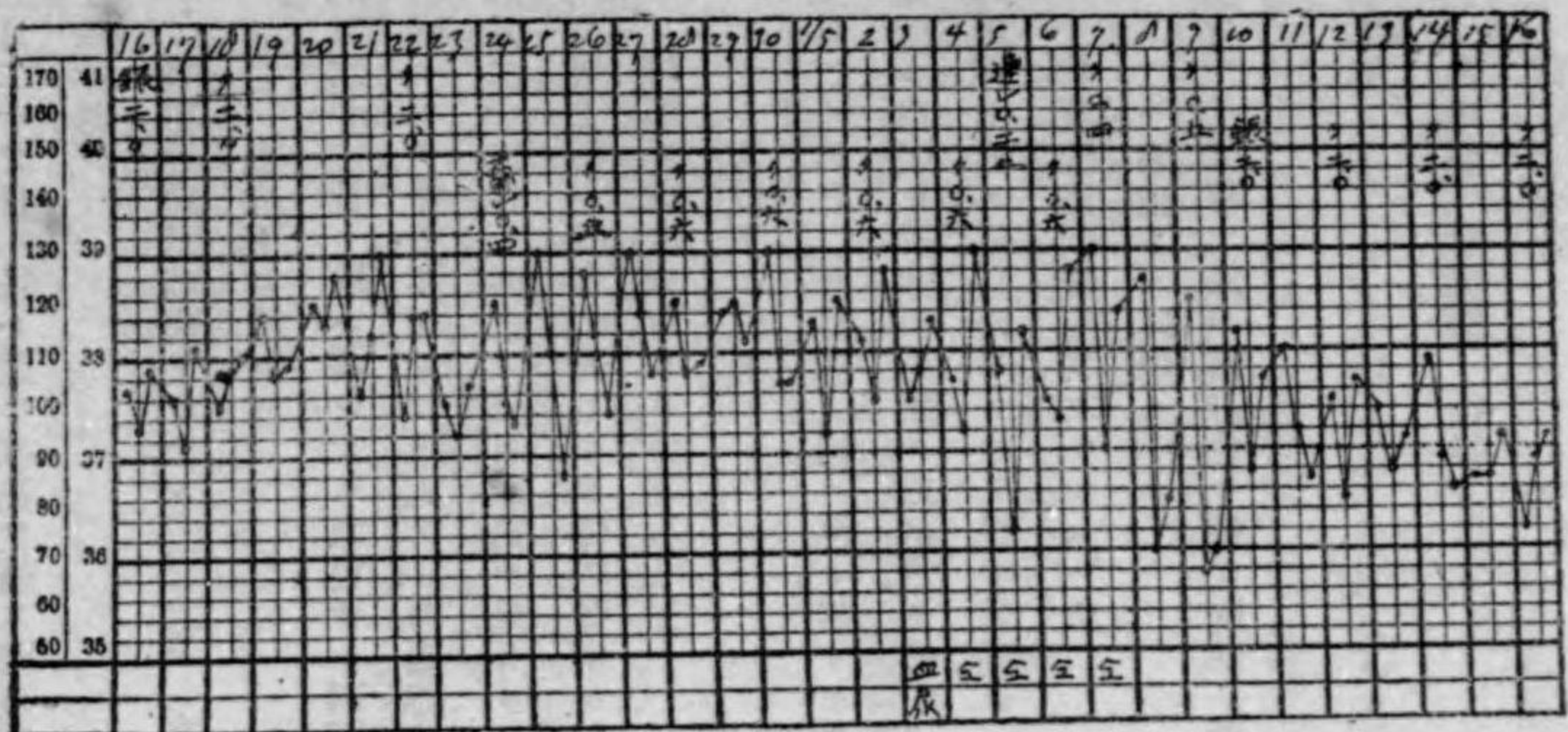
五月二十一日 昨夜ハ尿濁リ今朝ノ尿ハ少シク血紅色ヲ帶ブト兩
肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

處方 佐氏煎(五、〇) 一〇〇、〇 沃度加里 〇、五

苦味丁幾 二、〇

右一日三回分服

圖 八 十 二 第



續々間質性肺炎之特殊療法

五月二十二日 尿ハ微ニ紅色ヲ呈ス兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、二五 ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二十三日 尿ハ濁レルモ血色ナシ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服藥前方

五月二十六日 昨夜ノ尿ハ血色ヲ呈セシモ今日ノ尿ニハ血色ナシ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

五月二十八日 昨日朝ノ尿ハ澄ミ居リシモ徴兵検査ノ爲ニ下谷區役所ニ出頭シ排泄セル尿ハ血紅色ヲ帶ビタリ膀胱部ニ疼痛アリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥塗腹藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六

右皮下ニ注射ス

五月二十九日 尿ハ淡紅色ヲ帶ブ胸部ノ所見ハ前日ノ如シ脾腫大ス

處方

佐氏煎 塗腹藥 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量朝夕一包頓服

五月三十日 尿ニ血色ナシ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

以下中略

六月八日 昨夜ヨリ尿ハ亦少シク血色ヲ呈スト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

六月十三日 昨夜ノ尿ハ少シク血色ヲ帶ビシト兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服藥各前方

六月十九日 昨日晝過ぎヨリ尿ハ再ビ血色ヲ帶ブ排尿時ニ下腹ニ疼痛アリト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 佐氏煎劑塗腹劑各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六

右皮下ニ注射ス

六月二十日 尿ハ血紅色ヲ呈ス兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

處方

佐氏煎劑 佐氏塗腹劑 各前方

鹽酸規尼涅

右一包量朝夕一包頓服

六月二十一日 昨日ハ凝血ノ爲ニ尿閉ヲ起セシモ今日ノ尿ハ淡紅

色ニシテ通利宜シト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大ス 内服藥各前方

六月二十二日 昨夜八時頃ヨリ亦血尿ヲ來シ且一度尿閉セリ今朝亦再ビ尿閉スト依テ二回消息子ニテ排尿セリ

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

六月二十三日 今朝ハ自然ニ排泄セリ然レドモ氣分惡シト尿ハ淡紅色ナリ脾腫ナシ

六月二十四日 氣分宜シト尿ハ尙ホ淡紅色ヲ呈ス 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

夕刻尿閉ヲ起ス消息子ヲ試ミルモ挿入セズ

六月二十五日 昨夜來尿通ナク少シツツ血尿ヲ瀉下ス消息子ノ挿入ヲ試ミルモ膀胱括約筋緊縮シテ通セズ

六月二十六日 今朝ハ自然ニ少シツツ血尿ヲ通利ス下腹部ノ壓痛強シ

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

六月二十七日 昨夜亦尿閉ヲ來セシモ今朝凝血ヲ排泄シテヨリ尿通常ノ如シ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

續々間質性肺炎之特殊療法

六月二十八日 尿ハ血紅色ヲ帶ブルモ排尿ニ障礙ナシ本患者ハ施療以來脾腫アリ依テ試ニ感作腸壁扶斯ワクチンヲ注射ス

處方

稀鹽酸 一、〇 沃度丁幾 五滴

苦味丁幾 二、〇 薑根丁幾 〇、五

橙皮舍利別 〇、五 メンタ水 五、〇

水 一〇〇、〇

右一日三回分服

ザロール 二、〇 乳糖 一、〇

右分三包一日三回分服

感作腸壁扶斯ワクチン〇、八 特製連鎖狀球菌ワクチン〇、六

右皮下ニ注射ス

六月二十九日 脾少シク縮小ス胃腸部ニ壓痛ナシ感作わくちんの注射部ハ發赤ス兩肩胛上部兩鎖骨上高及ビ左鎖骨下高ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

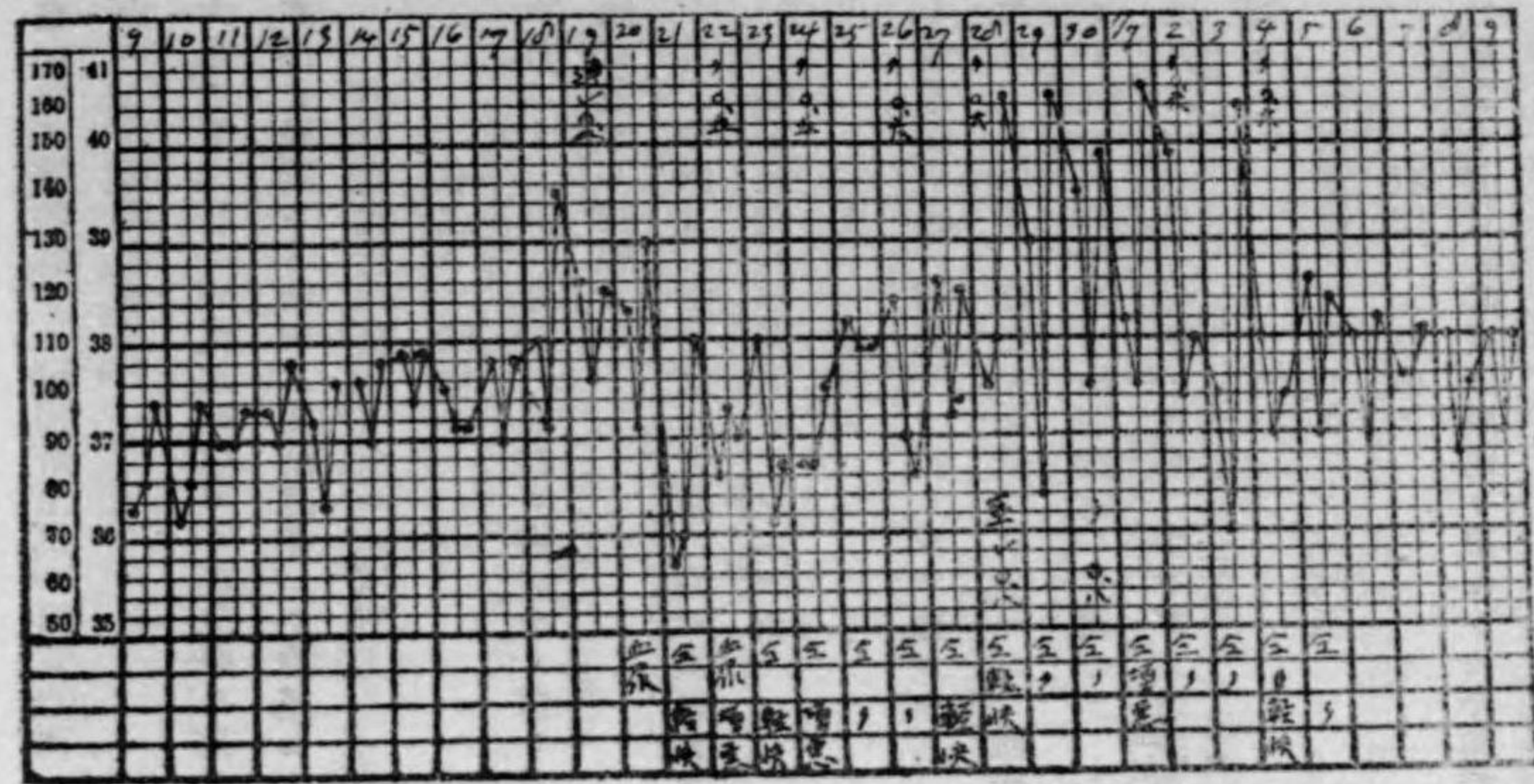
六月三十日 尿色ハ次第ニ淡シ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ハ少シク縮小ス 内服藥各前方

感作腸壁扶斯ワクチン〇、八

右皮下ニ注射ス

七月一日 昨日晝頃惡寒ヲ覺ヘ次テ熱感アリトシテ尿ハ尙ホ少シ

圖 九 十 二 第



ク血色ヲ帶フ兩肩
 脾上部ハ打音輕濁
 ニシテ呼吸音弱シ
 脾腫ナシ昨日感作
 わくちんヲ注射セ
 シ所ハ少シク發赤
 ス
 七月二日 昨夜ヨ
 リ尿ハ再ビ血色ヲ
 増ス左季肋背部ニ
 疼痛アリト兩肩脾
 上部ハ打音輕濁ニ
 シテ呼吸音弱シ
 處方
 佐氏煎(一〇、
 〇)一〇〇、〇
 苦味丁鹽
 二、〇
 右一日三回
 分服

麥角エキス丸 〇、六
 右分二包朝夕一包頓服
 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六 ルエスタン 〇、二五
 右皮下ニ注射ス
 七月三日 昨日正午頃ヨリ尿閉スタ方にてるニテ排尿セリ今
 朝ハ自然ニ少シク排泄ス兩肩脾上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱
 シ 内服藥各前方
 午後三時頃惡寒アリ次テ發熱セリ
 七月四日 昨夜十二時頃ヨリ尿閉シ今朝漸ク通利セリト尿ハ淡紅
 色ヲ呈ス兩肩脾間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
 處方
 佐氏煎劑 前方
 麥角エキス丸 〇、八
 右分二包朝夕一包頓服
 鹽酸キニーネ 一、〇
 右分二包朝夕一包頓服
 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、六
 右皮下ニ注射ス
 七月五日 尿色淡シ然シ夜分ノ排尿ハ血色増加スト右肩脾上部ハ
 打音抵抗アリ呼吸音弱クシテ呼吸延長ス左肩脾上部ハ打音輕濁ニ

シテ呼吸音弱シ脾腫大ス

七月六日 尿ニ血色ナシ左肩脾上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

間質性肺炎乃至肺癆患者ノ脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛又ハ單ニ脾腫ノミアリテ熱候ノ頑強ナル症ニ感作腸窒扶斯
 わくちんノ注射ヲ行フヤ多量ノわくちんヲ注射スル時ハ管ニ其體温ヲ高昇セシムルコトアルノミナラズ出血
 ノ傾向アルモノニ對シテハ局部ヲ充血セシメテ其出血ヲ誘發スルニ非ザルヤヲ疑ハシムルモノアルナリ然ル
 ニ實驗ノ他ニ於テハ這般ノ病者ニ其ノ初回ノわくちん注射ハ〇、一乃至〇、二五ccニシテ隔日ニ同量ヅツ増加
 シ〇、五乃至一、〇cc至リテ同量ヲ數回注射スレバ脾腫及ビ盲腸部ノ疼痛ハ亡シ熱候ノ下降スルコト少ナカ
 ラザルニ據リテ觀レバ這般ノ病者ヲ治療スルノ際ニハ多量ノわくちんヲ注射スルハ之ヲ禁忌シ常ニ微量ヲ用
 ヲベキモノナルヲ知ラザル可カラズ然レドモ發病ノ當初ニ於テ脾腫又ハ脾腫ト盲腸部ノ壓痛トヲ有シ高熱ヲ
 呈スル症ニハ多量ノわくちん注射ヲ試ミムルモ敢テ害アルモノニハ非ザルナリ

七月九日胃部ニ異常ナシ
 以下省略ス

第十一章 使用藥劑治效之酵素的作用ナルヲ思フ

微生物性疾病ニ對スル藥材ノ治療的作用ハ化學結合的作用ヲ以テ之ヲ理解シ得ベキモノニ非ザルガ故ニ須ラ
 ク酵素的作用ヲ以テ之ヲ論ズ可キモノナリトハ既ニ前章ニ於テ記述セシ所ナリト雖モ之レ唯一ノ推理タルノ
 ミニ過ギズシテ敢テ實在ニ之ヲ實驗シテ而シテ斯ク之ヲ論述セシニ非ズ然ルニ一患者ノ稍之ヲ立證スルニ足

續々間質性肺炎之特殊療法

ルヤヲ思ハシムルモノアリ記シテ以テ他日ノ一證左ト爲サント欲ス
第五十七病例 ヲリ 十七歳女

四七〇

昨今時々寒氣アリテ氣分惡シク且少シク腹痛アリト
大正八年一月七日 診ス兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ下腹部ハ打音輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ
診斷 間質性肺炎 腹膜炎
療法

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

一月七日〇、一五cc 十日〇、三〇cc 十二日〇、四〇cc 十六日〇、五〇cc

一月十八日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
るゑすちんヲ注射スルコト次ノ如シ

一月十八日〇、二五cc 二十日〇、五〇cc 二十二日〇、七五cc 二十七日〇、七五cc 二月二日〇、七五cc 六日〇、一〇〇cc 十二日一、〇〇cc 十六日一、〇〇cc 二十日一、〇〇cc

一月三十日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
電氣膠様銀ヲ注射スルコト次ノ如シ

一月三十日二、〇〇cc 二月四日二、〇〇cc 十日二、〇〇cc 十四日二、〇〇cc
二月八日 昨今衄血スルコト多シト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ殊ニ右肩胛上部ハ濁性強シ
處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 撒里矢爾酸曹達 四、〇

食鹽 三、〇 苦味丁幾 四、〇

右一日三回二分服

二月二十三日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
處方

佐氏煎(一〇、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 四、〇

右一日三回二分服

葡萄狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

三月二十二日〇、一五cc 二十四日〇、三〇cc 二十六日〇、四五cc 五二十八日〇、六〇cc 三月二日〇、六〇cc

三月四日 背部ニ異常ナシ
るゑすちんヲ注射スルコト次ノ如シ

三月四日〇、二五cc 七日〇、五〇cc 十日〇、七五cc 十二日一、〇〇cc

三月二十四日 背部ニ異常ナシ 休療

四月十六日 一昨夕惡寒アリテ發熱シ爾來熱候持續シテ存スト依テ診スルニ兩側ノ肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

四月十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ首腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方

甘朮 〇、七 フェナセチン 〇、五

右一包頓服

鹽酸リモナーテ 二〇〇、〇 沃度丁幾 十滴

メンタ水 一〇、〇

右一日三回二分服

四月十九日 諸症前日ニ同シ

感作腸壁扶斯わくらんヲ注射スルコト次ノ如シ

四月十九日〇、八cc 二十一日一、〇cc 二十五日一、四cc

四月二十二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ

續々間質性肺炎之特殊療法

首腸部ニ壓痛ナシ

特製連鎖狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

四月二十二日〇、四cc 二十四日〇、五cc

四月二十八日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ

處方

鹽沃劑 前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

つべるくるこきせいぢんヲ注射スルコト次ノ如シ

四月二十八日〇、一cc 三十日〇、二cc 五月二日〇、三cc

四月四日〇、四cc 六日〇、五cc 八日〇、五cc 十日〇、五cc

五月十四日〇、五cc 十六日〇、五cc 二十日〇、五cc

五月二十四日〇、五cc 二十八日〇、五cc 六月五日〇、五cc

九月〇、五cc 十三日〇、五cc 十七日〇、五cc 二十一日〇、五cc 二十五日〇、五cc

五月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

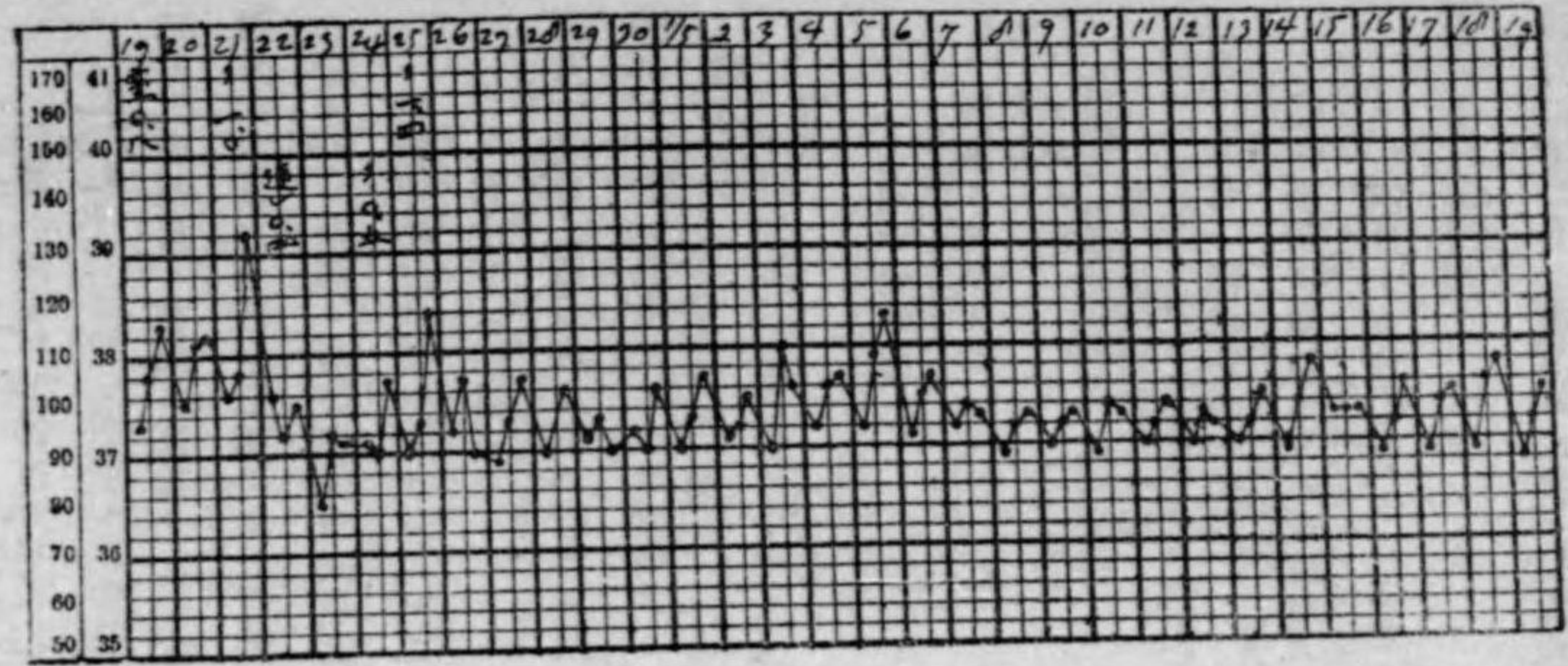
處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 撒里矢爾酸曹達 四、〇

食鹽 三、〇 苦味丁幾 四、〇

四七一

圖 十 三 第



メシタ水 一〇、〇
 右一日三回二分服
 五月十二日 兩肩胛上部ハ
 打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 内服藥前方
 電氣膠様銀ヲ注射スル
 コト次ノ如シ
 五月十二日、〇cc
 十八日、〇cc
 二十二日、〇cc
 二十六日、〇cc
 三十日、〇cc
 六月三日、〇cc
 七日、〇cc
 十一日、〇cc
 十五日、〇cc
 十九日、〇cc
 二十三日、〇cc
 五月十四日 兩音ノ全部ハ
 打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服藥前方

るみすちんヲ注射スルコト次ノ如シ

五月十四日、〇、二五cc 十六日、〇、五cc 二十日、〇、七五cc
 二十四日、〇、七五cc 二十八日、〇、〇cc 六月一日、
 〇cc 五日、〇cc 九日、〇cc 十三日、〇cc 十
 七日、〇cc 二十一日、〇cc 二十五日、〇cc 二
 十七日、〇cc

六月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

志賀感作結核菌わくちん五千倍液ヲ注射スルコト次ノ如シ

六月一日、〇、一cc 五日、〇、二cc 九日、〇、三cc 十三日
 〇、四cc 十七日、〇、五cc 二十一日、〇、六cc 二十五日
 〇、六cc 二十七日、〇、六cc

六月十七日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎劑 前方 四、〇

右一日三回二分服

六月二十二日 背部ニ異常ヲ認メズ然レドモ尙ホ微熱アリ脾腫大

ス 處方 佐氏煎劑 前方

圖 一 十 三 第



續々間質性肺炎之特殊療法

鹽酸規尼涅 〇、五
 右一包量與四包朝
 夕一包頓服
 六月三十日 背部ニ異
 常ナク微熱依然トシテ
 存ス脾腫大シ盲腸部ハ
 打音ニ異常ナクシテ壓
 痛アリ 佐氏煎劑前方
 ナ與ヘ左ノ注射ヲ行フ
 感作腸室扶斯ワクチ
 ン 〇、二五
 右皮下ニ注射ス
 七月二日 背部ニ異常
 ナシ脾腫大シ盲腸部ニ
 壓痛ナシ 内服水藥前
 方
 感作腸室扶斯ワクチ
 ン 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 七月四日 背部ニ異常
 ナシ脾腫大シ 内服水
 藥前方
 感作腸室扶斯ワクチ

圖 二 十 三 第



〇、七五
 七月六日 背部ニ異常ナシ
 脾腫大ス
 感作腸室扶斯ワクチン
 〇、七五
 七月八日 背部ニ異常ナク
 脾尙ホ腫大ス 内服水藥前
 方
 感作腸室扶斯ワクチン
 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 七月十日 背部ニ異常ナシ
 脾腫大シ 内服水藥前方
 感作腸室扶斯ワクチン
 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十月十二日 背部ニ異常ナ
 シ脾腫大ス
 處方
 佐氏煎劑 前方
 鹽酸規尼涅 〇、五
 右一包量與四包朝夕一

四七三

四七二

包頓服

感作腸室扶斯ワクチン〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月十四日 背部ニ異常ナク脾腫大ス 水丸各前方

感作腸室扶斯ワクチン〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月十六日 背部ニ異常ナク脾腫大ス 内服藥各前方

感作腸室扶斯ワクチン〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月十八日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 水丸各前方

感作腸室扶斯ワクチン一、〇

右皮下ニ注射ス

本患者ノ背部ノ皮下ニ生ゼシ所ノ乾酪様物質ノ如何ナル作用ニ基因シテ生ゼシモノナルヤハ不明ナルモ吾人ハ結核菌製劑ニ其疑ヲ挾マザルヲ得ズ何トナレバ從來多數患者ニ生ズらん連鎖狀球菌わくちん乃至電氣膠様銀ヲ略ボ同一ナル局部ニ注射セシニ拘ハラズ未ダ曾テ其注射部ニ乾酪様物ノ形成乃至切開ヲ要スル底ノ病變ヲ來セシモノニ遭遇セザレバナリ然リ而シテ膿瘍其他汚穢ナル創面ハ過酸化水素水ヲ以テ汚物ヲ溶解シ之ヲ清潔ナラシムルハ日常人ノ行フ所ノモノナリト雖モ由來健康ナル組織ハ過酸化水素水ノ爲ニ侵害セラレザルモノナルヲ以テ曾テ之ガ爲ニ健康ナル組織ノ侵蝕セラレシ例症ヲ聞知スルコトナシ然ルニ本患者ハ之ヲ用

七月二十六日背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 休養

本患者ハ感作腸室扶斯わくちんヲ除ケバ他ノ注射藥ハ皆悉ク之ヲ肩胛間部乃至肩胛下部ニ行ヘリ然ルニ其後右肩胛間部ノ下部ニ稍鷓卵ヨリ大ナル硬結物ヲ生ジ按壓スルニ微痛アリ患者ハ意ニ介セズ仕事セシモ局部ニ波動ヲ生ズルニ至リシヲ以テ之ヲ切開シ皮下ヨリ乾酪變性様ノ凝塊ヲ剔出シ尙ホ乾酪變性物ノ皮下ニ附着スルヲ以テ過酸化水素水ヲ以テ清拭シ且綿帶交換毎ニ過酸化水素水ヲ以テ清拭セリ數日ノ後ニ創面ハ清潔トナリシモ創ノ下部ヨリ更ニ左外下方ニ向ケ皮下ニ硬結ヲ生ジ消息子ヲ以テ檢スルニ囊狀ニ空洞ヲ生ゼリ依テ斜ニ約四センチメートル許切開セシニ單ニ空洞ノミニシテ清潔ナリ因テ防腐綿帶ヲ施セシニ漸次肉芽發生シテ治セリ但シ本患者ハ切開後右側臥ヲナセシト云フ

ユルヤ治療液ノ比較的ニ浸潤セザル所ノ脊柱側ハ何等ノ侵害ヲ蒙ムラズシテ癒合シ每常注射液ノ浸淫セシ所ハ次第二侵蝕セラレテ深ク囊狀ニ空洞ヲ形成セシニ據リテ見レバ蓋シ注射セシ治療液ノ銀若クハ水銀又ハ銀及ビ水銀ハ其注射部ノ組織ニ抱着シテ吸收ヲ免カレ且直接酸化醱酵素ノ作用ヲ亡失シテ存在スルノ際ニ偶々過酸化物ノ來ルニ會シ其酵素的作用ヲ喚起セラレテ一時ニ酸化作用ノ旺盛ヲ致スニ據リ健全ナル皮下結構ヲ其強力ナル酸化作用ニ拮抗スルコト能ハズシテ溶崩シ而シテ空洞ヲ形成セルモノト理解シ得ザルニ非ザルモノナル可シ然ラバ乃チ前キニ微生物性疾病ニ對スル殺菌的治療劑ノ作用ハ酵素的酸化作用ヲ有スルモノヲ撰擇セザル可カラザルモノナリト臆說セシハ敢テ架空ノ妄想ヲ以テ論ズ可キモノニ非ザルヤ明カナリ特ニ掲ゲテ以テ他日ノ資料トス

第十一章 肺病之電氣膠様銅療法

予ハ前キニ間質性肺炎乃至肺癆ニ對シ連鎖狀球菌わくちんノ注射療法ヲ行フヤ之ニ據リテ治スルノ病症アリ治セザルノ病症アリ其治セザルノ病症ニ對シ更ニ電氣膠様銀又ハ青酸々化汞ノ注射療法ヲ行フヤ之ニ據リテ復タ治スルノ病症アリ治セザルノ病症アリ其治スルノ病症ト雖モ比較的ニ長キ日子ヲ要シ未ダ其治法ノ完全ナルヲ語ルコト能ハズ之ヲ以テ電氣膠様銀ト青酸々化汞トノ混合療法ヲ行フヤ復タ治スルノ病症アリ治セザルノ病症アリ而シテ其治スルノ病症ハ之ガ治療日數ヲ短縮シ殆ド完成セルノ域ニ達セシムルヲ思ハシムルト

續々間質性肺炎之特殊療法

雖モ青酸化汞ノ不快ナル副作用ハ斯病ノ治療ニ惡影響ヲ與ヘテ之ガ使用ニ嫌惡ノ念ヲ生ゼシムルコト無キニ非ズ然ルニ適々大阪市國光製藥株式會社ハ電氣膠様水銀ヲ製出ナスコトアリ依テ之ヲ試用セシニ何等ノ副作用ヲ有スルコトナク其治效モ亦青酸化汞ニ劣ルコトナキヲ以テ大ニ治療上ノ便宜ヲ得タリト雖モ復タ之ニ據リテモ治セザルノ病症アリ故ニ更ニ國光製藥株式會社ニ請ヒ其試製品タル〇、五%電氣膠様銅ヲ試用セリ

第五十八病例

下腹張り且疼痛アルノ故ヲ以テ診チ乞フ

大正八年九月二十一日 診ス左右ノ全背部ハ打音輕濁ニシテ呼吸

音弱シ下腹部ハ少シク膨大シ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 腹膜炎

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌わくらんヲ注射スルコト次ノ如シ

八月二十一日〇、一五cc 二十三日〇、三cc 二十五日〇、

四cc

九月二十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡

音アリ腹部ノ病狀依然タリ 内服藥塗腹藥各前方

るんヲ注射スルコト次ノ如シ

九月二十七日〇、二五cc 二十九日〇、五cc 十月一日

〇、五cc 十月九日〇、二五cc 十一日〇、五cc 十三日

〇、七五cc 十五日〇、七五cc

十月十七日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱ク右肩胛上部

ニ無響水泡音アリ下腹部ニ異常ナク認メズ 内服藥前方

電氣膠様銅 二、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音

アリ 内服藥前方

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

右皮下ニ注射ス

十一月六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音

アリ 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月九日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月十九日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク無響

水泡音アリ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月二十二日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ殆ド健常

ニシテ無響水泡音アリ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二十五日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音ア

リ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十二日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ盲腸部ニ

壓痛アリ 水藥前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十四日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ左腸

骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

處方

佐氏煎劑 前方

佐氏塗布劑 三〇〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

ルエスチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十八日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ殆ド健常ニ

シテ無響水泡音アリ腹膜炎依然タリ 内服藥前方

電氣膠様銀 二、〇五

右皮下ニ注射ス

十月三十日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク無響水

泡音アリ 水藥前方

電氣膠様銅 〇、二五

十一月一日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ殆ド健常ニシ

テ無響水泡音アリ腹部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

十二月一日 胸部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月九日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音アリ

内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音アリ

内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

中略

大正九年二月三日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月五日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

二月十日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

二月二十日 背部ニ異常ナシ 休養

第五十九病例 ト ト 二十七歳男 (第五十病例續出)

大正八年十月十一日 背部ニ異常ナシニ電氣膠様銅ヲ注射ス

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日三回 二日分服

電氣膠様銅 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 背部ニ異常ナシ脾腫大ス 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、五

右皮下ニ注射ス

右皮下ニ注射ス

十月十九日 一昨夕體溫三十七度昨夕體溫三十六度七分アリシト

左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

十月二十一日 左鎖骨下窩以上左肩胛下以上ハ打音輕濁ニシテ呼

吸音弱シ脾腫ハ尙ホ腫大ス 内服藥前方

電氣膠様水銀 〇、五 感作腸室扶斯ワクチン 〇、七

右皮下ニ注射ス

十月二十三日 一昨夕體溫三十六度七分昨夕體溫三十六度八分ア

リシト兩肩胛下隔以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨窩部ハ

輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ脾腫大ス

處方

佐氏煎劑 前方

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹部ニ塗布ス

電氣膠様銅 一、〇 感作腸室扶斯ワクチン 〇、九

右皮下ニ注射ス

十月二十五日 一昨夕體溫三十六度五分昨夕體溫三十六度八分ア

リシト左肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

續々間質性肺炎之特殊療法

大正九年二月三日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月五日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

二月十日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

二月二十日 背部ニ異常ナシ 休養

十月十五日 左肩胛上部ハ打音短ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス患者

云フ一昨夕體溫三十六度九分昨夕體溫三十六度八分アリシト 内

服藥前方

電氣膠様銅 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月十七日 一昨夕體溫三十六度七分昨夕體溫三十六度九分アリ

シト左鎖骨下窩兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク

脾腫大ス右腸部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠様銅 〇、七五 感作腸室扶斯ワクチン 〇、三

處方

佐氏煎劑 前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

電氣膠様水銀 一、〇 感作腸室扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十七日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫

大ス 内服藥各前方

電氣膠様銅 一、二五 感作腸室扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月三十一日 二十八日夕刻ノ體溫ハ三十七度一分アリシト左肩

胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ少シク粗雜ナリ脾腫大シ腹膜炎

依然タリ 内服藥各前方

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月二日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音少シク弱シ腹部

ニ異常ナシ 佐氏煎劑前方ヲ與フ

電氣膠様銅 一、二五

右皮下ニ注射ス

十一月四日 背部ニ異常ナシ 佐氏煎劑前方

電氣膠樣水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月六日 背部ニ異常ナシ 佐氏煎劑前方

電氣膠樣銅 一、二五

右皮下ニ注射ス

十一月八日 一昨夕體溫三十七度昨夕體溫三十七度一分アリシト
左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音殆ド健全ニシテ無響水泡音アリ
内服藥前方

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ殆ド健全ニシ
テ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣銅 一、二五

右皮下ニ注射ス

十一月十二日 左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡
音アリ 内服藥前方

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十四日 一昨夕體溫三十七度アリシト背部ニ異常ナシ 内
服藥前方

電氣膠樣銅 一、二五

右皮下ニ注射ス

十一月十六日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十八日 左肩胛上部ハ異常ナク呼吸音ハ殆ド健全ナルモ少
許ノ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣銅 一、五

右皮下ニ注射ス

十一月二十日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ少シク不純
ニシテ無響水泡音アリ

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二十三日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銅 一、五

右皮下ニ注射ス

十一月二十五日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銀 〇、二

右皮下ニ注射ス

十一月二十七日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

以下省略

電氣膠樣銅 一、七

右皮下ニ注射ス

第六十病例 テ ヤ 二十一歳女

本月七日 出産後時々三十八度位ノ發熱アリ産科醫ノ治療
ヲ受ケ居リシニ一昨日惡寒ヲ以テ熱度上昇シ四十度ヲ呈セリ食慾
ハ不進ニシテ少シク咳嗽アリト
大正八年九月十九日 診ス右背ノ全部及ビ左肩胛上部ハ打音輕濁
ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ニ診時ノ體溫三十九度五分アリ患者ハ甚
シク衰弱ス

診斷 間質性肺炎 脾腫

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

杏仁水 八、〇 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別 一〇、〇 水 二〇、〇

右一日三回二日分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

九月二十一日 右肩胛下隅以上左肩胛上部打音輕濁ニシテ呼吸音
弱シ脾腫大ニ診時體溫三十八度 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 左鎖骨下窩第二肋間ハ打音ニ異常ナク大水泡音アリ
右肩胛間部中央以上左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾
腫大ニ右腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ患者ハ頭痛アリ咳
嗽多ク咳嗽時ニハ右腸音窩部ニ響テ痛アリト診時三十八度八分

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

沃度丁幾 十滴 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別 一〇、〇 杏仁水 八、〇

メンタ水 一〇、〇 水 二〇、〇

右一日三回二日分服

鹽酸規尼涅 前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四 感作腸窒扶斯ヲクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 咳嗽多シト兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ盲腸部ノ壓痛減ズ診時體溫三十九度五分

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五感作腸壁扶斯ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

九月二十六日

處方

鹽苦沃劑 前方

健胃丸

十二粒

右一日三回二日分服

九月二十七日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ盲腸部ハ打膈共ニ異常ナキモ咳嗽時ニ疼痛アリト診時體溫三十九度六分アリ癆初以來熱候頑強ニシテ且其狀況不明ナルヲ以テ家人ニ命ジテ檢温セシム

電氣膠様銀 一一〇

右皮下ニ注射ス

九月二十八日

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇

撒里失爾酸曹達

四、〇

食鹽

三、〇

杏仁水

八、〇

四八二

鹽苦沃劑

三、〇

メンタ水

一〇、〇

健胃丸 前方

右一日三回二日分服

九月二十九日 左鎖骨下窩第二肋間ハ打音ニ異常ナクシテ二三ノ大水泡音アリ兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ昨夕ノ體溫ハ三十九度アリシト

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左鎖骨下窩及ビ第二肋間亦打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月三日 氣分ヨロシ然レドモ一昨日來臍ノ近傍ニ疼痛アリト左鎖骨下窩及ビ第二肋間ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月五日 左鎖骨下窩第二肋間及ビ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

十月七日 左鎖骨下窩第二肋間及ビ兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニ呼吸音ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ水藥ヲ服スルト嘔氣アリ

電氣膠様銀 一一〇

右皮下ニ注射ス

十月八日

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇

苦味丁幾

三、〇

右一日三回二日分服

健胃丸 前方

十月九日 左鎖骨下窩第二肋間打音極メテ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ銳利ノ氣管枝音及ビ小水泡音アリ兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛下隅以上及ビ左肩胛上部ニ於テ弱ク且右肩胛上部ハ呼吸延長シ左肩胛間部ハ呼吸音粗烈ニシテ呼吸延長ス

ルエスチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月十一日 胸部ノ所見ハ前日ニ同シ

電氣膠様銀 一一〇

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎之特殊療法

續々間質性肺炎之特殊療法

四八三

鹽苦沃劑

三、〇

メンタ水

一〇、〇

健胃丸 前方

右一日三回二日分服

十月十五日 胃部ニ疼痛ナシト胸部ノ所見前日ノ如シ肝腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

ルエスチン

〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 左前胸第二肋及ビ鎖骨下窩ハ濁音ヲ呈シ呼吸音粗烈ニシテ氣管枝音及ビ二水泡音アリ左鎖骨上窩ハ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延長シ右鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ兩肩胛部間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右變濁部ニ弱ク左變濁部ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ昨夜胃部ニ疼痛アリ且下痢セリト肝臟少シク腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十三日 左前胸第二肋及ビ鎖骨下窩ハ濁音ヲ呈シ呼吸音粗烈ニシテ氣管枝音及ビ二水泡音アリ左鎖骨上窩ハ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延長シ右鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ兩肩胛部間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右變濁部ニ弱ク左變濁部ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ昨夜胃部ニ疼痛アリ且下痢セリト肝臟少シク腫大ス

ルエスチン

〇、五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 左前胸第二肋及ビ鎖骨下窩ハ濁音ヲ呈シ呼吸音粗烈ニシテ氣管枝音及ビ二水泡音アリ左鎖骨上窩ハ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延長シ右鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ兩肩胛部間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右變濁部ニ弱ク左變濁部ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ昨夜胃部ニ疼痛アリ且下痢セリト肝臟少シク腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十三日 左前胸第二肋及ビ鎖骨下窩ハ濁音ヲ呈シ呼吸音粗烈ニシテ氣管枝音及ビ二水泡音アリ左鎖骨上窩ハ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延長シ右鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ兩肩胛部間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右變濁部ニ弱ク左變濁部ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ昨夜胃部ニ疼痛アリ且下痢セリト肝臟少シク腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十三日 左前胸第二肋及ビ鎖骨下窩ハ濁音ヲ呈シ呼吸音粗烈ニシテ氣管枝音及ビ二水泡音アリ左鎖骨上窩ハ輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ呼吸延長シ右鎖骨上窩ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音粗雜ナリ兩肩胛部間中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右變濁部ニ弱ク左變濁部ハ粗烈ニシテ呼吸延長ス患者云フ昨夜胃部ニ疼痛アリ且下痢セリト肝臟少シク腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十五日 胃部ニ疼痛ナシト胸部ノ所見前日ノ如シ肝腫大ス

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 今日午前ニ惡寒アリシト左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ右肩胛上部ハ輕濁ニシテ呼吸音弱ク左背全部ハ輕濁ニシテ左肩胛上部ハ呼吸音弱ク無響水泡音アリ左肩胛間

電氣膠様銀

一一〇

右皮下ニ注射ス

部ハ呼吸音粗烈ニ左肩胛下部ハ呼吸音弱ク共ニ水泡音アリ昨日突然高熱ヲ呈シ脾腫ヲ認メザルモ規尼涅ヲ與ヘント欲シ頓服藥ヲ與フル旨ヲ告ゲンモ藥取ニ來タラザリシ

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十月十九日 咳嗽多シト左第二肋間以上及ビ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク一ノ水泡音アリ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク肝臟腫入ナシ

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十日

處方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇

杏仁水 八、〇 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別 一、〇、〇 水 二、〇、〇

右一日三回二日分服

健胃丸 前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

十月二十一日 胸部ノ所見前日ニ同シ

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月二十三日 一昨日四回昨日五回今日ニ回下痢セリト左鎖骨下窩第二肋間打音ニ異常ナク水泡音アリ兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ(腹膜炎)

處方

佐 塗布劑 三、〇、〇

右朝夕下腹ニ塗布セシム

電氣膠様銅 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月二十五日 左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニ少許ノ水泡音アリ兩肩胛下部以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大 臍附近ノ中腹部ハ打音ニ異常ナクシテ抵抗アリ壓痛アリ 内服藥各前方

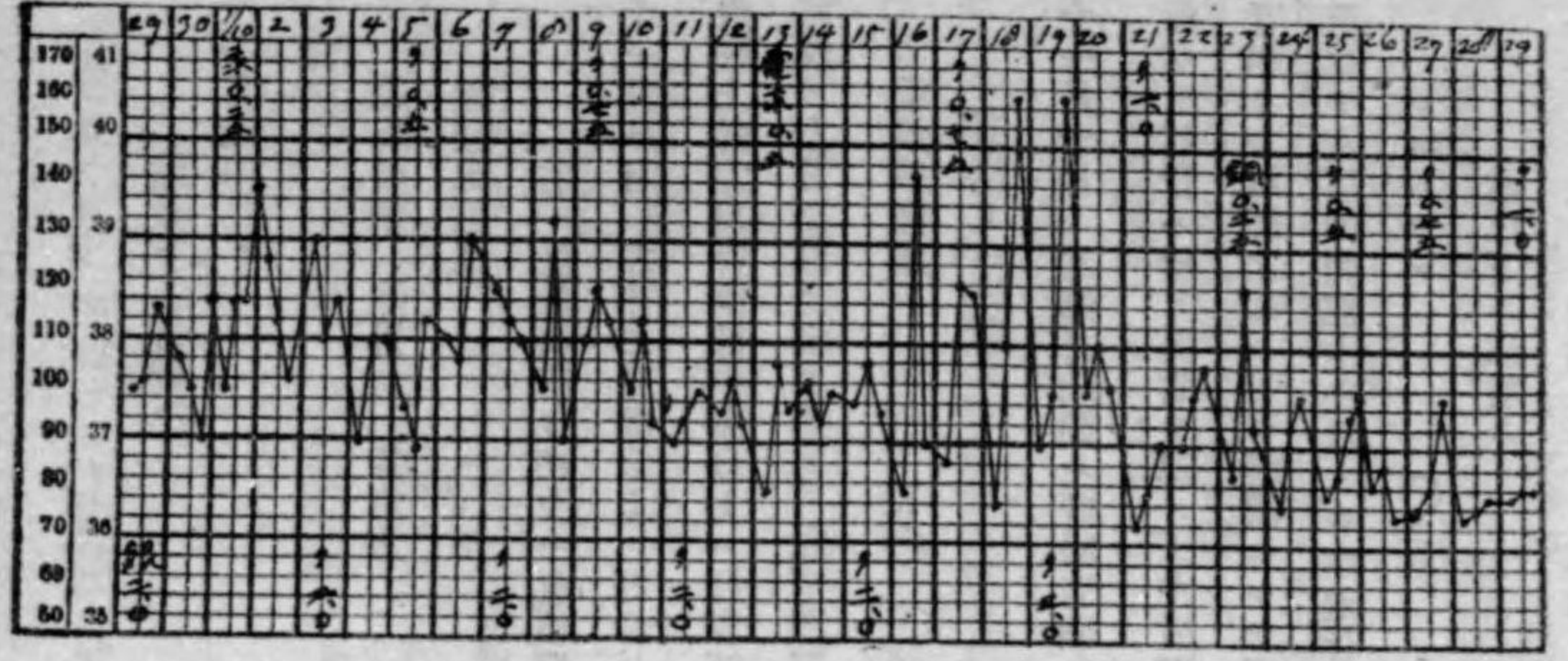
電氣膠様銅 〇、五

右皮下ニ注射ス

十月二十七日 左第二肋間以上打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク少許ノ水泡音アリ右肩胛上部及ビ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左側ニ少許ノ水泡音アリ脾腫ナク腹部亦異常ナシ

電氣膠様銅 〇、七五

第三十三圖



續々間質性肺炎之特殊療法

右皮下ニ注射ス

十月二十八日

處方

鹽苦合劑 健胃丸

各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包每

日一包頓服

十月二十九日 昨日ハ咳嗽多ク昨夜ハ盜汗多カリ

シト左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈ニシ

テ水泡音アリ右肩胛上部

ハ打音輕濁ニシテ呼吸音

弱ク無響水泡音アリ左肩

胛間部棘以上ハ打音輕濁

ニ左背全部ハ呼吸音弱ク

シテ水泡音アリ

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月四日 胸部ノ所見ハ前日ニ同シ 内服藥各前方

處方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月六日 左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛上部及ビ左背全部ニ弱ク

脾腫大ス 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十一月二日 左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ氣管枝音及ビ少許ノ水泡音アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ弱ク且左背ニ水泡音アリ

處方

佐氏煎(八、〇) 二、〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日二回二日分服

十一月二日 左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ氣管枝音及ビ少許ノ水泡音アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ弱ク且左背ニ水泡音アリ

處方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二日 左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ氣管枝音及ビ少許ノ水泡音アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ弱ク且左背ニ水泡音アリ

處方

佐氏煎(八、〇) 二、〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日二回二日分服

十一月四日 胸部ノ所見ハ前日ニ同シ 内服藥各前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月六日 左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛上部及ビ左背全部ニ弱ク

脾腫大ス 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十一月六日 左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛上部及ビ左背全部ニ弱ク

脾腫大ス 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

ルエスチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十一月七日

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

十一月八日 左第二肋間以上ハ打音ニ抵抗アリテ氣管枝音アリ右

肩胛上部左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛上
部及ビ左背全部ニ弱ク而シテ左肩胛間部中央以上ニ水泡音アリ

電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十日 左第二肋間ハ呼吸音弱ク左鎖骨下窩ハ氣管枝音アリ

而シテ打音ハ殆ド異常ヲ認メズ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸
音弱ク左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左背全部ニ於テ弱ク
而シテ左肩胛間部中央以上ニ水泡音アリ

ルエスチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

十一月十二日 夜間ニ少シク咳嗽アルモ喀痰ナシ食欲減ズト左第

健胃丸 鹽規 佐氏塗布劑ノ塗腹 各前方

電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十六日 昨夜二回今朝一回腹痛アリテ下痢セリト胸部ノ所
見ハ前日ノ如シ腹部ニ異常ヲ認メズ

電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十八日昨日四回今日三回腹痛アリテ下痢セリト左第二肋間
以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音ハ左肩胛間部中央以上ニ弱クシテ下腹ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓
痛アリ

電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二十日 昨日四回今日三回腹痛アリテ下痢セリト左第二肋
間以上ハ打音輕濁ニシテ氣管枝音アリ左背全部ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱ク水泡音アリ腹膜炎依然タリ

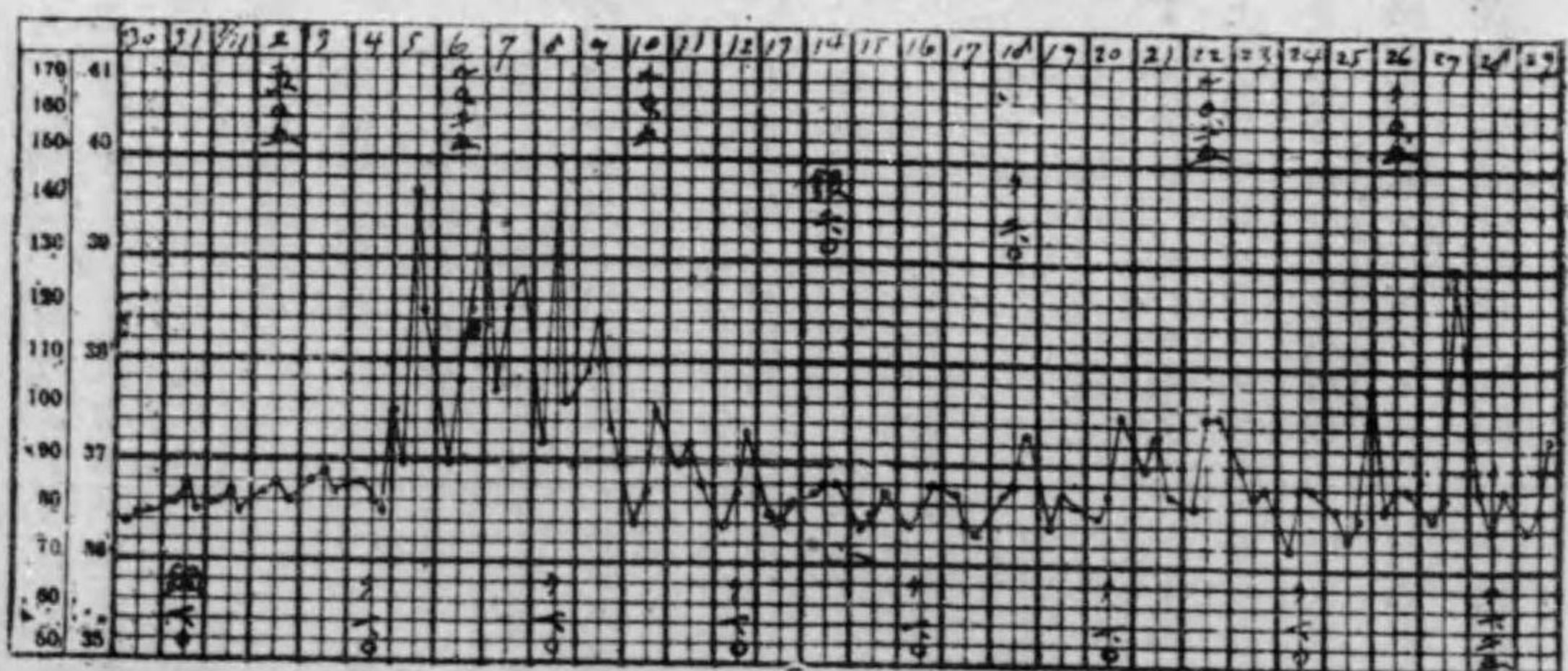
電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二十二日 下痢ナシト左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナクシ
テ氣管枝音アリ左肩胛上部ハ打音輕濁ニ呼吸音ハ左背全部ニ弱ク

續々間質性肺炎特殊療法

圖 四 十 三 第



四八七

而シテ左肩胛上部ニ水
泡音アリ腹部ニ異常ナ
キモ尙ホ佐氏塗布劑ヲ
塗布セシム 水劑丸劑
鹽規各前方
ルエスチン 〇、二五
右皮下ニ注射ス
十一月二十四日 左第
二肋間以上ハ打音輕濁
ニシテ氣管枝音及ビ有
響水泡音アリ左背全部
打音輕濁ニシテ呼吸音
弱ク水泡音アリ右肩胛
上部ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱シ患者云フ兩
三日來肛門ニ疼痛アリ
ト依テ檢スルニ肛門ノ
前壁ハ少シク腫脹發赤
シ之ニ觸ル、ニ疼痛強

四八六

二肋間以上ハ打音ニ異常ナクシテ氣管枝音アリ右肩胛部棘以上左
肩胛部中央以上ハ打音輕濁ニシテ右變濁部及ビ左背全部ニ弱ク水
泡音ナシ

處方

稀鹽酸

二、〇 薑根丁幾 一、〇

杏仁水

八、〇 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別

一〇、〇 水 二〇〇、〇

右一日三回二分服

健胃丸 鹽規 各前方

電氣膠樣銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十一月十四日 二三日來腹痛アリテ下痢スト左鎖骨下窩ハ打音ニ
異常ナクシテ氣管枝音アリ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱ク下腹ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ(腹膜炎)

處方

稀鹽酸

二、〇 阿片丁幾 二、〇

薑根丁幾

一、〇 苦味丁幾 四、〇

橙皮舍利別

一〇、〇 メンタ水 一〇、〇

右一日三回二分服

シ肛門周圍炎ノ初期ナルベシ

處方

佐氏煎(ハ、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾

三〇、〇

杏仁水 八、〇

右一日三回二日分服

健胃丸 鹽規 各前方

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹及肛圍ニ塗布セシム

電氣膠様鐵 一、〇、〇

右皮下ニ注射ス

十一月二十六日 患者云フ肛門ノ疼痛治セリト左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音及水泡音アリ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ粗烈ニ呼吸延長シ少許ノ水泡音アリ腹膜炎依然タリ肛圍ニ異常ナシ

ルヌエチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

十一月二十八日 左第二肋間以上輕濁ニシテ呼吸音弱ク水泡音アリ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左背全部ニ於テ弱シ左肩胛上部ニ水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様鐵 一、二、五

佐氏煎劑 鹽規 各前方

ドーフル氏散 一、〇 乳糖

一、〇

右散六包トナス一日三回二日分服

電氣膠様鐵 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月六日 左第二肋間以上輕濁ニシテ氣管枝音アリ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ左背ハ全部ニ於テ呼吸音弱シ昨日ハ下痢三回今日ハ下痢ナキモ下腹全部ニ腹痛アリト 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月八日 左鎖骨下高ハ打音輕濁ニシテ呼吸音粗烈氣管枝音アリ第二肋間ハ濁性ハニ減シ呼吸音弱シ右肩胛上部ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左右肩胛上部ト左肩胛下部トニ弱ク左肩胛間部ハ粗烈ニシテ呼吸延長、腹痛大ニ減ズルモ尙ホ少シク下痢ス腹膜炎依然タリ 内服藥各前方

電氣膠様鐵 〇、七、五

右皮下ニ注射ス

十二月十日 左鎖骨下高及ビ第二肋間ハ打音鼓調ヲ帶ビ氣管枝音及ビ水泡音アリ左肩胛上部ハ鼓性濁ニシテ左背全部ニ呼吸音弱ク右肩胛骨上部ハ打音ニ異常ナクシテ水泡音アリ尙ホ少シク下痢ス

續々間質性肺炎特殊療法

四八八

右皮下ニ注射ス

十二月二十日 左第二肋間以上ハ打音輕濁ニシテ氣管枝音及ビ水泡音アリ右肩胛間部練以上ト左背全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様鐵 一、〇 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月二日 左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽規規尼涅 〇、五

右一包量與ニ包毎日一包頓服

電氣膠様鐵 一、〇 電氣膠様水銀 〇、七、五

右皮下ニ注射ス

十二月四日 昨日來腹痛アリテ下痢シ昨日ハ三回今日ハ既ニ四回上圍セリ咳嗽ハ少ナク喀痰ハ多シト左第二肋間以上ハ打音ニ異常ナク氣管枝音アリ右肩胛間部中央以上ハ打音極メテ輕濁ニシテ呼吸音弱ク且ツ不純ナリ左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左腸骨高部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ(腹膜炎)

處方

ルモ自發痛ナシト、内服藥前方

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月十二日 左鎖骨下高及ビ第二肋間ハ打音短ニシテ少シク鼓調ヲ帶ビ有響水泡音ト氣管枝音トアリ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左背全部ニ弱シ 内服藥前方但シ鹽規ノ頓服ヲ休止ス

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月十四日 盜汗多シト左鎖骨下高ト第二肋間トハ少シク萎縮シ打音殆ト健常ニシテ少

第三十五圖



シク鼓性ヲ帶ブ而シテ鎖骨下高ハ呼吸音少シク粗烈ニシテ有響水泡音アリ第二肋間ハ呼吸音弱シ左肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸

四八九

音弱シ幽微ノ水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵

一、〇

右皮下ニ注射ス

第六十一病例

ト イ

二十一歳男

會社員

本年春徴兵検査ニ合格セリ從來病患ヲ覺ヘザリシニ本年五月九日ノ夜寒氣シ爾來殆ド發熱持續シ夕刻ハ大約三十八度以上ニ昇レリ且下痢アリ便通時ニ腹痛ナシ七月初メヨリ咳嗽アリ時々盜汗アリ發病ト共ニ左頸淋巴腺腫大シ且肩凝リシモ昨今ハ肩ノ凝ルコトナシ本日北里養生園ノ診ヲ受ケシニ右前膊ニ接種試驗ヲ施セリト大正九年八月二十日 診ス右胸部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ右背全部ト左肩胛間部下三分一以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背ノ全部ニ亘リテ弱シ脾腫大シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ

診斷 間質性肺炎 脾腫 腹膜炎 腸潰瘍?

處方

佐氏煎(四、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾

二、〇

右一日三回分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包朝夕一包頓服

四九〇

本患者ハ其後家事ノ都合ヲ以テ郷里ニ歸リ次テ赤十字長野支部病院ニテ死亡セリト云フ

佐氏塗布劑

右朝夕下腹部ニ塗布ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

八月二十二日 昨日養生園ニ行キ接種部ノ検査ヲ受ケシモ其結果ヲ聞カサリシト少シク發赤セリ右背全部ト左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ今朝一回下痢セリト 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

八月二十四日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

八月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ依然トシテ下痢ス 内服藥塗服藥各前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月二十七日 食慾進ミ肩凝ルト云フ此夜診スルニ兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大シ右肩胛部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ今朝一回下痢セリト

感作腸窒扶斯ワクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

八月二十八日 右背全部ト左肩胛間部棘以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ右肩胛部ノ壓痛減ズ今朝下痢一回アリシト

處方

稀鹽酸 一、〇 沃度丁幾 五滴

苦味丁幾 二、〇 橙皮舍利別 五、〇

薑根丁幾 〇、五 メンタ水 五、〇

水 一〇〇、〇

右一日三回食前分服

健胃丸 六粒

右一日三回分服

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

八月二十九日 兩肩胛部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾

腫々間質性肺炎特殊療法

腫大シ右肩胛部壓痛アリ今朝下痢一回 内服藥前方

感作腸窒扶斯ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

八月三十日 右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ今朝一回水様下痢アリシト脾腫大シ右肩胛部壓痛アリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、五

右皮下ニ注射ス

八月三十一日 昨夜十二時頃體温三十八度九分アリシト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ今朝一回下痢スト 内服藥前方

感作腸窒扶斯ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

九月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク右肩胛部ノ壓痛亦ナシ今朝下痢一回アリシト 内服藥前方

感作腸窒扶斯ワクチン 〇、六

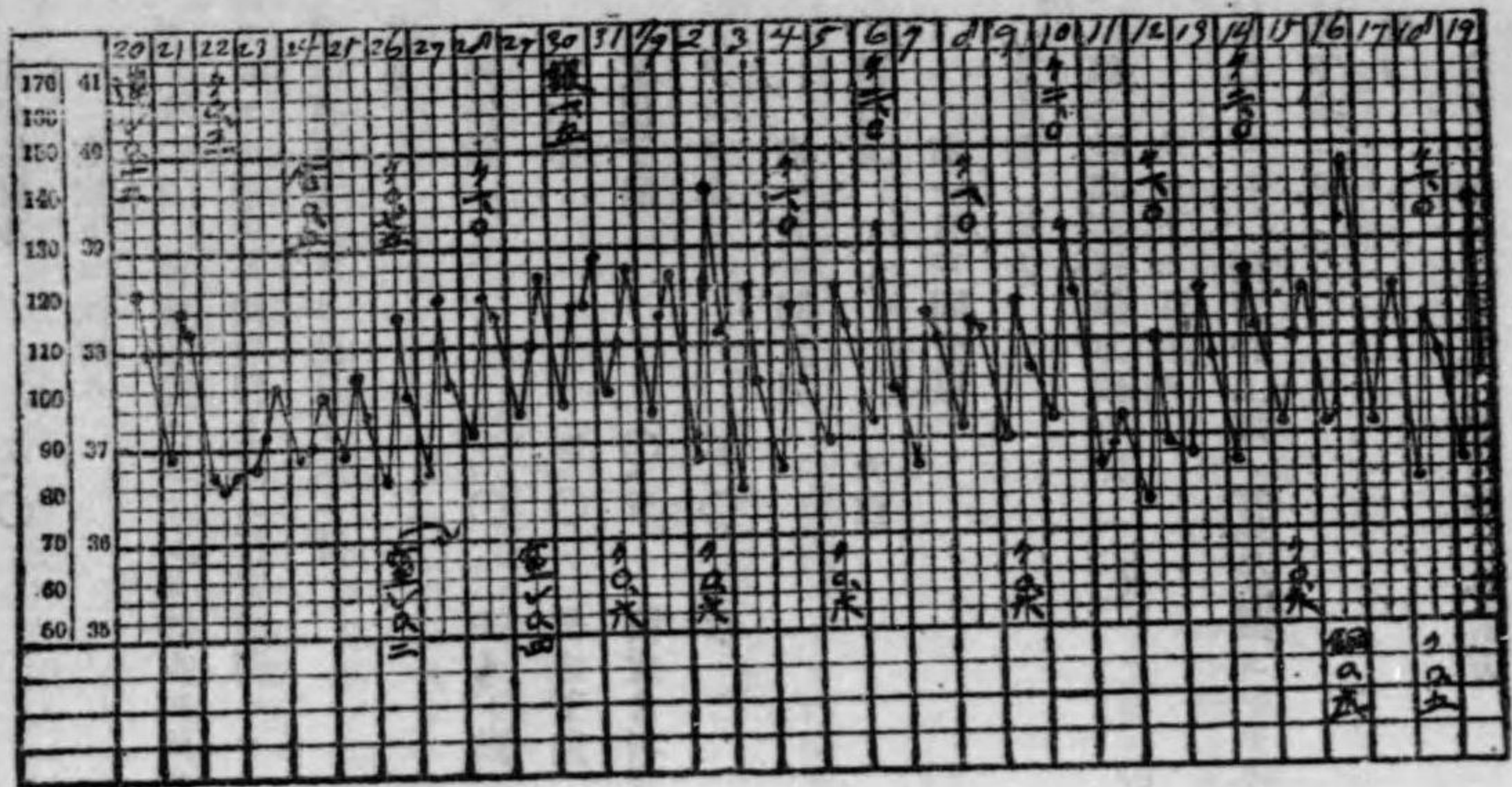
右皮下ニ注射ス

九月四日 昨夜ハ咳嗽多ク又盜汗多ク單衣二枚ヲ更ヘタリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ今朝一回下痢アリシト 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

四九一

圖 六 十 三 第



續々間質性肺炎特殊療法

九月十四日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス此日普通便一回 曠規ノ服用ヲ休止シ水散各前方ヲ與フ
電氣膠様銀 二、〇
右皮下ニ注射ス
注射ス
九月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス今朝下痢一回 內服藥各前方 感作腸室扶

斯ワクチン 〇、六
右皮下ニ注射ス
九月十六日 昨夜ハ咳嗽多カリシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ヲ檢スルニ臍ノ右側ト左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ腰痛アリ今朝下痢一回 內服藥前方
電氣膠様銀 〇、五
右皮下ニ注射ス
九月十八日 昨夜ハ咳嗽多カリシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ右側ハ濁性減ズ此日下痢一回普通便一回
處方
鹽苦沃劑 塗腹劑前方
佐氏煎(四、〇)一〇〇、〇 臭素加里 一、五
ストロファンツス丁幾 一、〇 杏仁水 四、〇
單舍利別 五、〇
右一日三分服
第二電氣膠様合劑 一、〇 電氣膠様銅 〇、五
右皮下ニ注射ス
九月二十日 昨夜ハ咳嗽少ナカリシ今朝少シク寒氣セリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛下隅以上ニ弱シ此日普通便一回 內服藥前方

右皮下ニ注射ス

九月五日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス昨夜盜汗多カリシト今朝下痢一回
處方
鹽沃劑 健胃丸 塗腹劑 各前方
硫酸アトロヒ子丸 〇、〇〇〇五
右一丸量臨臥時頓服
感作腸室扶斯ワクチン 〇、六
右皮下ニ注射ス

九月六日 昨夜ハ盜汗ナカリシモ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性少シク減ズ脾腫ナシ此日朝下痢一回其後下痢一回普通便一回 內服藥前方
電氣膠様銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

九月八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ此日普通便一回 內服藥前方
第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス
九月九日 今朝寒氣アリシト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス今朝下痢一回

處方

鹽沃劑 健胃丸 塗腹劑 各前方
鹽醃規尼涅 〇、五
右一包トナシ夕刻頓服
感作腸室扶斯ワクチン 〇、六
右皮下ニ注射ス

九月十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス此日下痢二回普通便一回
處方
鹽沃劑 曠規 塗腹劑 各前方
ザロール 二、〇 健胃散 二、〇
右散三包トナス一日三分服
電氣膠様銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

九月十二日 健時ノ體重ハ約十五貫七百目徵兵檢査時體重十三貫八百目ナリシニ本日朝秤量セシニ十二貫五百目ニ減セリト兩肩胛間部棘以上ニ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス此日普通便二回 內服藥塗腹藥各前方
第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十二日 昨夜咳嗽ナカリシモ昨夜來兩肩ニ疼痛アリ之ヲ指
壓スルニ亦痛アリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ體重十
二貫六百五十目アリ此日下痢一回

處方

稀鹽酸

一、〇

沃皮丁幾

五滴

杏仁水

四、〇

苦味丁幾

二、〇

薑根丁幾

〇、五

櫻皮舍利別

五、〇

メント水

五、〇

水

一〇〇、〇

右一日三回分服

健胃丸

右一日三回分服

六粒

塗腹劑 前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
今朝下痢一回

處方

鹽苦沃劑

健胃丸

塗腹劑 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量朝夕一包頓服

九月二十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性
少シク減ズ此日普通便一回 内服藥各前方

電氣膠樣銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ
今朝下痢一回 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ今朝下痢
一回 内服藥前方

電氣膠樣銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

九月三十日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫
ナシ今朝下痢一回鹽酸規尼涅服用ヲ休止シ内服藥前方ヲ與フ

電氣膠樣銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ左側へ濁
性少シク減ズ脾腫大ス此日普通便

フ腹部ニカブレ生シタルヲ以テ一時佐氏塗布劑ノ塗腹ヲ休止ス

電氣膠樣銀 一、二五

右皮下ニ注射ス

十月八日 昨日ハ

少シク感冒ノ氣味

ナリシト兩肩胛上

部ハ打音輕濁ニシ

テ呼吸音弱シ腹部

ニ異常ヲ認メズ昨

朝下痢一回此日普

通便一回 内服藥前

方ヲ與フ 〇、一%

電氣膠樣鐵水銀

〇、〇五%電氣

膠樣銀 三、〇

右皮下ニ注射

ス

十月十日 兩肩胛

上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ全ク脾ノ腫大ヲ認メズ脾ノ右側

ハ打音ニ異常ナク指壓スルニ少シク疼痛ヲ感ズルモノ、如シ下腹

處方

鹽苦沃劑

健胃丸

各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包朝夕一包頓服

十月二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク腹部

ニ壓痛ナシ今朝一回下痢セリト體重十二貫九百六十目アリ 内服

藥前方

電氣膠樣銀 一、二五

右皮下ニ注射ス

十月四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ昨日

普通便一回此日普通便一回 内服藥前方

電氣膠樣銀 一、二五

右皮下ニ注射ス

十月六日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ本患者ハ從來

右肺ノ下界ハ左側ニ比シテ約一橫指高カリシモ昨日來右肺ノ下界

下降シテ左右同一トナレリ惟フニ本患者ノ熱候ノ頑強ナリシハ肩

胛上部ノ異常ハ輕微ナルヲ以テ之ヲ其原因ナリト想像スルコトヲ

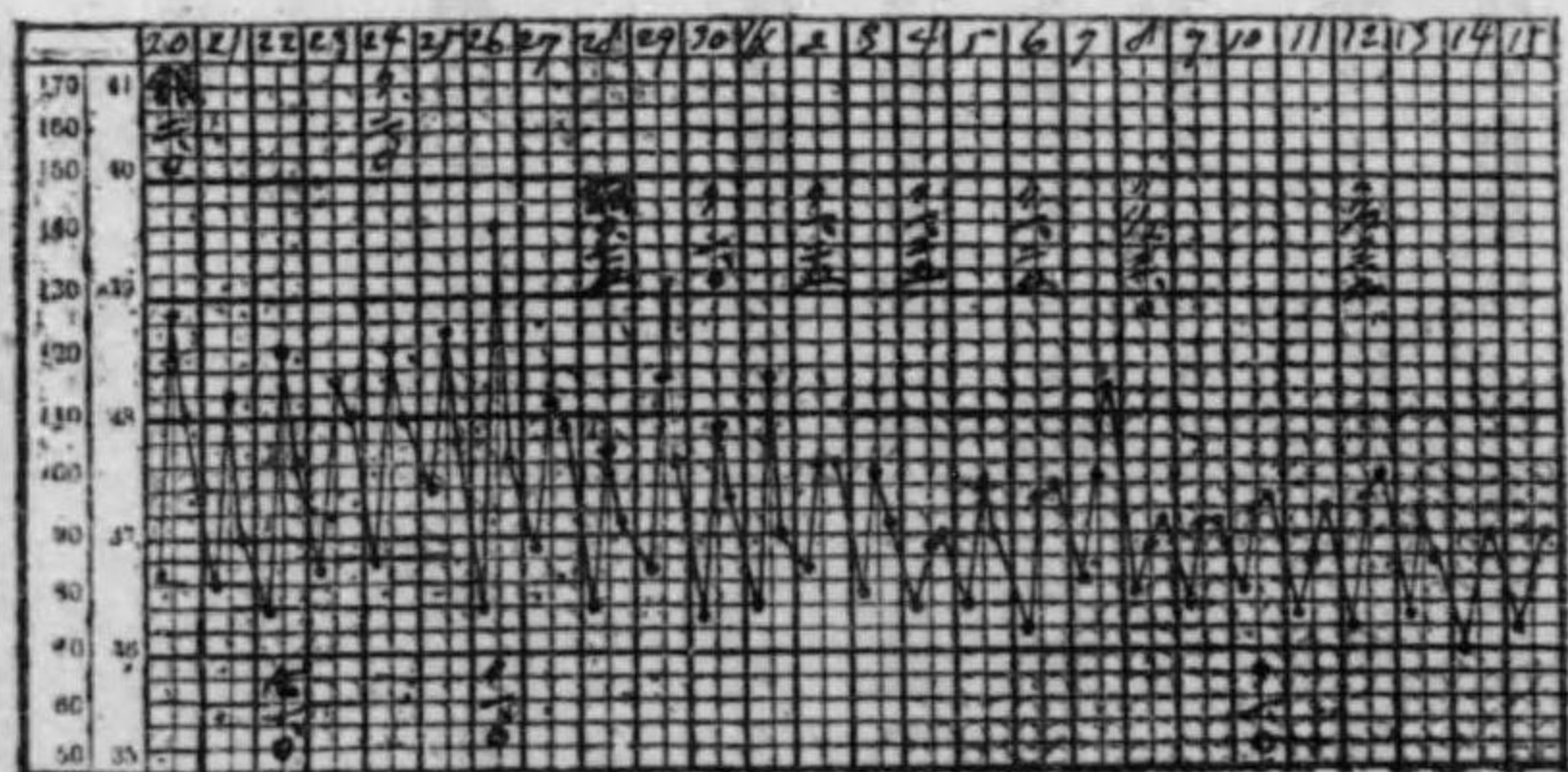
得ズ故ニ或ハ此右肺下部ノ變常ニ因セシモノニハ非ザルカ脾腫ナ

ク下腹ハ尙ホ輕濁ナルモ壓痛ナク臍ノ右側ハ打音ニ異常ナク限局

セル壓痛部アリ昨日普通便一回此日普通便一回 内服藥内方ヲ與

續々間質性肺炎特殊療法

第三十七圖



上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ全ク脾ノ腫大ヲ認メズ脾ノ右側
ハ打音ニ異常ナク指壓スルニ少シク疼痛ヲ感ズルモノ、如シ下腹

部ハ少シク輕濁ナルモ壓痛ナシ昨日普通便一回今朝普通便一回アリ
昨日夕入浴セシモ異常ナシ 内服藥前方ヲ與ヘ復ビ佐氏塗布劑ヲ
塗腹セシム

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月十二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ昨夜咳嗽多

カリシト昨日普通便一回本日普通便一回體重十三貫四百三十目アリ
鹽規ノ服用ヲ休止シ鹽苦沃劑健胃丸各前方ヲ與フ

〇、〇五%電氣膠樣銅三、五

右皮下ニ注射ス

以下治療中

間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル電氣膠樣銅ノ治療ノ記述ハ叙上ノ數例ニ止メ而シテ他ノ實驗例トヲ綜合シテ直
チニ結論ニ入ル可シ

一、電氣膠樣銅ハ既ニ其〇、二五〇ノ注射ニ據リテ患部ノ炎症ヲ增強セシムルコトアルモノナリ此故ニ之
ヲ病者ニ注射スルヤ其既存ノ病竈部ニ於テハ濁音界ノ増大ヲ致シ且之ニ準シテ或ハ呼吸音ノ減退ヲ來シ
或ハ水泡音ノ増加ヲ來シ或ハ水泡音ノ新ニ發生スルコトアリ加之ナラス時トシテハ從來理學的變常ノ存
セザリシ部ニ其注射後ニ新ニ濁音呼吸音ノ減弱乃至水泡音ヲ生スルコトアルナリ

二、電氣膠樣銅ハ斯病ノ炎症ヲ増加セシムルモノナルヲ以テ時トシテハ腹膜ノ潛炎在スルモノ又ハ腸壁ニ
潰瘍アルヤヲ思ハシムル所ノ症ニ於テハ往々其注射後ニ其所ニ自發痛、濁音、壓痛、抵抗ノ増加又ハ下痢
等ヲ來スコトアリ

三、電氣膠樣銅ハ斯ノ如ク本病々者ノ病竈部ノ炎症ヲシテ増悪セシムルモノナルヲ以テ斯病ニ他ノ膠樣製

劑ヲ以テ加療シ既ニ其浸潤症狀ノ亡失シテ治癒セルヤヲ思ハシムルニ至レバ試驗的ニ電氣膠樣銅ノ注射
ヲ行フベシ若シ其部ニ尙ホ炎症ノ遺殘スルニ於テハ炎症增強シテ再ビ理學的變常ヲ呈スルヲ以テ然ル時
ハ更ニ他ノ膠樣製劑ニ由リテ其炎症ヲ消散セシメ炎症消退スルニ至レバ復ビ電氣膠樣銅ヲ增量シテ注射
シ斯ノ如ク之ヲ反覆シ或多量ノ電氣膠樣銅ヲ注射スルモ毫モ理學的變常ノ發現セザルニ至レバ茲ニ始メ
テ其病竈部ノ炎症ノ粗ボ治療セルモノナルヲ思惟スルニ足ルモノナル可シ蓋シ吾人ノ日常行フ所ノ理學
的診查法タルヤ縱令巧手ト雖モ其肺ニ於ケル炎性浸潤ノ一定量ヨリ狭小又ハ非薄ナルニ於テハ之ヲ診知
シ得ベキモノニ非ザルヲ以テ其完全ニ治療スルヤ否ヤハ之ヲ檢知スルノ方法ノ現時ニ存在セザルニ於テ
ハ止ヲ得ズ爾ク電氣膠樣銅ノ斯病ニ對スル増強作用ヲ利用スルノ賢ナルヲ甘受セザル可カラザルモノナ
レバナリ然リト雖モ其理學的變狀ノ亡失タルヤ比較的ノ治療ニシテ完全ナル治療ト速丁ス可キモノニ非
ザルヲ以テ爾ク輕快セル後ト雖モ尙ホ或期間ハ其治療ヲ繼續セザル可カラザルモノナルハ勿論ナリトス

四、電氣膠樣銅ハ間質性肺炎乃至肺癆病者ノ炎性浸潤ヲ增強セシメ而シテ之ニ據リテ其浸潤ノ吸收ヲ促進
セシムルノ作用アルモノ、如シ此故ニ他ノ電氣膠樣製劑ヲ以テ加療スルニ浸潤症狀ノ頑強ニ存續スル症
ニ對シテハ須ラク電氣膠樣銅ヲ使用スベシ其治療ヲ促進スルモノナリ

五、電氣膠樣銅ハ斯病ノ或症ニハ其熱ヲ上昇セシムルコトアリ而シテ其熱ノ上昇タルヤヲ次テ來ル所ノ解
熱ノ準備ナルヤ予ノ未ダ知ラザル所ナリ然レドモ他ノ膠樣製劑ヲ以テ加療シ熱候頑強ニシテ解熱スルノ兆

ナキモノニ電氣膠様銅ヲ用ユルトキハ善ク之ヲ消散セシムルコトアルナリ故ニ這般ノ病者ニハ之ヲ試ミサル可カラザルモノナリト雖モ然レドモ絶對的ニ解熱作用ヲ呈スルモノニ非ズシテ尙ホ之ヲ用ユルモ解熱セザル所ノ病者アルナリ

六、間質性肺炎乃至肺癆病者ハ電氣膠様銅ニヨリテ發熱乃至炎症ノ増悪ヲ來スモノナルヲ以テ斯病ニ之ヲ用ユルニハ先ヅ微量ヨリシテ漸次ニ其微量ヲ増加スルヲ可ナリトス何トナレバ斯病ヲ治療スルノ要ハ發熱セシメズ又炎症ヲ強度ニ増悪セシメズシテ而シテ其病症ノ漸次ニ消退スルヲ以テ其治則ノ上乘ナルモノト爲ササル可カラザルモノナレバナリ

七、叙上ノ理由ニヨリ電氣膠様銅ハ斯病ノ治療ノ當初ニハ之ヲ用ヒズ他ノ膠様製劑ヲ以テ其病竈部ノ炎症ヲ或度ニ減退セシメ而シテ後ニ之ヲ用ユルヲ良トス

八、或人曰ク電氣膠様銅ハ其製劑ニ際シテ極メテ酸化シ易キモノナリト果シテ然ラバ之ヲ使用スルノ際ニハ其製品ノ性狀ニ注意セザル可カラザルモノナル可シ

第十三章 肺病之電氣膠様鐵療法

從來貧血病者ニ對シテハ其皮色ヲ健常ニ恢復セシムルノ目的ヲ以テ治療上ニハ主トシテ鐵製劑ヲ用ユルヲ規トセリ之ヲ以テ電氣膠様鐵ノ醫治的效能ヲ説明スルモノハ之ヲ他ノ化學的鐵製劑ト同視シ一般貧血病者ニ對

シテ之ガ治效アルモノナリト爲ス或ハ然ラン然レドモ由來血色素タルヤ純鐵ニ非ズシテ鐵ノ有機化セルモノナリ又一般電氣膠様製劑ノ性質タルヤ亞爾加里食鹽等ニ會フテ沈降セズ蛋白質ニ合フテ化合セズ之ヲ以テ無害ナリトハ彼等ノ説ク所ナリ故ニ此説明ヲ是ナリトシ而シテ之ニ從ツテ推論センカ一般電氣膠様製劑ハ其金屬ノ本性ハ縱令多少ノ毒性ヲ有スルモノナリト雖モ其既ニ膠様化シテ亞爾加里食鹽乃至蛋白質ニ合フテ變化セサルガ爲ニ之ヲ動物乃至人類ノ體內ニ致スモ其組織細胞ニ有毒作用ヲ呈スルモノニ非ズ從テ電氣膠様鐵モ亦此律ニ準シ動物乃至人類ノ體內ニ於テ其有機質ト結合スルノ性質ヲ缺如スルヲ以テ管ニ此等組織ニ無害ナルノミナラズ縱令血液中ニ飽滿セシムルモ有機化スルコト無キヲ以テ毫モ血色素ヲ化生スルモノニ非ズト爲ササルヲ得ズ然レドモ若シ之ニ反シ電氣膠様鐵ハ動物乃至人類ノ體內ニ於テ有機質ト化合シ血色素ヲ増量シテ而シテ其貧血病狀ヲ治癒スル所ノ實效アルモノナリセバ吾人ハ亦之ニ據リテ他ノ電氣膠様製劑モ同ジク動物乃至人類ノ體內ニ於テ有機化シ以テ其金屬固有ノ性質ヲ發現スルモノナリト推定セザル可カラザルノ理ナルニ非ズヤ蓋シ吾人ハ既ニ電氣膠様銀其他製劑ノ有機化セザルガ爲ニ吾人ノ組織細胞ニ對シテ無害ナルモノナリト爲スヲ確知シテ而シテ更ニ電氣膠様鐵ハ有機化セザルモ尙ホ血色素ヲ新生シテ貧血狀態ニ治效アルモノナリトノ矛盾ヲ解シテ理解シ得ルモノナルヤ之ヲ疑ハザルヲ得ザルモノナレバナリ然リ而シテ鐵ハ元來吾人ノ組織ノ構成成分ノ一ニシテ絶對ニ無害ナル可キモノナルヲ以テ電氣膠様鐵ノ吾人ノ體內ニ於テ有機化スルモ又ハ有機化セザルモ共ニ組織細胞ヲ害毒スルモノニ非サルガ故ニ其療病的ノ使用上ニハ敢テ支障アル

モノニ非ズト雖モ若シ其膠様製劑ニシテ毒性アル金屬ヨリ成ルモノナルニ於テハ其有機化スルト有機化セザルトハ利害ノ相反スルコト極メテ重大ナルモノナルヲ以テ吾人ハ之ヲ究盡シテ遺般ノ説明ニ矛盾スルコト無キヲ期セザル可カラザルモノタルハ勿論製藥業者ハ淺薄ナル臆想ヲ以テ其製品ノ治效ヲ解説セザランコトヲ望マザルヲ得ズ

抑貧血ニハ亡血ノ爲ニ血液並ニ血色素ノ減少スルモノト或疾病ノ爲ニ造血機能ノ減衰スルガ爲ニ血色素ノ減量スル所ノモノトノ眞性貧血症ト或疾病ノ爲ニ血管神經ノ衰弱ヲ起シ體表血管ハ其抵抗力ヲ減シ氣温ノ刺激ニ拮抗スルコト能ハズシテ其緊張ヲ増シ皮膚ノ流量ノ減ズルニ因リテ皮色ノ蒼白ヲ致シ所謂貧血ノ看ヲ呈スル所ノモノト或疾病ノ爲ニ流血中ニ白血球ノ夥シキ増加ヲ來シ赤白血球ハ健體ニ比シテ其數量ニ大差ナシト雖モ白血球ノ白色ノ爲ニ其紅色ノ稀釋セラレテ皮膚ノ蒼白色ヲ呈スル所ノモノトノ假性貧血病ト又恐クハ此二種ノ混合スル所ノ貧血症ノ三種アルヲ想像セザル可カラズ然リ而シテ其亡血等ノ爲ニ血色素ノ實際ニ減量セシ所ノ貧血症ニ於テハ血色素ノ化生ヲ資スルニ足ル可キ或特殊ノ食物乃至藥物ヲ攝取セシムルニ非ザレバ固ヨリ急速ニ之ヲ治スルコトヲ得ザルモノナル可シト雖モ若シ其貧血ニシテ或疾病ノ爲ニ造血機能ノ減衰スルカ又ハ血管神經官能ノ衰弱ヨリ假性貧血症ヲ來セシモノナルニ於テハ其疾病ヲ攻治シテ以テ造血機能ヲ健全ナラシメ若クハ血管神經官能ヲ健強ナラシムルニ於テハ縱令特殊ノ含鐵性ノ藥餌ヲ給與セザルモ亦容易ニ其皮色ヲ恢復セシムルコトヲ得ルモノタルヤ明ナル可シ然ラバ乃チ或貧血病者ニ電氣膠様鐵ヲ用ヒ其貧血症

狀ノ亡失スルコトアルモ之ヲ以テ直チニ膠様鐵ノ血色素ニ有機化シテ之ヲ増量セルモノナリト速了ス可キニ非ズシテ或ハ其貧血ノ原因タリシ所ノ疾病ノ之ニ據リテ治癒セシニ基クモノナルヲ否認シ得ヘキニ非ズ況ヤ或疾病ノ爲ニ貧血病狀ヲ呈スルモノハ縱令多量ノ含鐵性ノ藥餌ヲ與フルモ其原病ニシテ治癒セザルニ於テハ其皮色ノ恢復スルモノニ非ザルニ於テヤ吾人ハ之ヲ夫ノ肺癆病者ニ於テ證スルコトヲ得ルナリ
一般ニ電氣膠様製劑ハ其金屬ノ品種性質ヲ論ゼズ皆悉ク其酵素的作用ヲ以テ微生物性疾病ニ治效ヲ奏スル所ノ作用アルモノナルヲ推知スルニ足ル之ヲ以テ電氣膠様鐵ノ有機化シテ血色素ヲ増量スルモノナルヤ否ヤノ研究問題ハ始ラク之ヲ措キ他ノ電氣膠様劑ノ如ク間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル治效ノ如何ヲ驗知スルヲ以テ其急務ナリトス而シテ今實驗セシ一二ノ病例ヲ示スコト次ノ如シ

第六十二病例 ホイ 六十七歳女

從來喘息ノ辭アリ然ルニ四五日前ヨリ亦喘息ヲ發シ殊ニ夜間ハ咳嗽多キガ爲ニ就臥スルコトヲ得ズ右肩ヨリ肩胛間部ニ強クこりテ痛アリ微熱アリ食慾不進ナリト

大正八年十一月二十七日 診ス兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク且兩胸ニ少許ノ乾性囉音アリ他ニ異常ナシ皮温少シク高シ

診斷 間質性肺炎 喘息 處方

遠志煎(八、〇) 二〇〇〇 息素加里 三、〇

續々間質性肺炎特殊療法

ストロファレンツス丁幾一、〇 杏仁水 八、〇

單舍利別 一五、〇

右一日三回二分服

十一月二十九日 咳嗽少シク減ズト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體温三十八度四分 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

十二月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ患者云フ夜

間ノ咳嗽ハ少シク減少セリト診時ノ體溫三十八度 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、三

右皮下ニ注射ス

十二月三日 夜間ノ咳嗽ハ大ニ減ズト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體溫三十八度二分 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

十二月五日 背部ニ異常ナシ故アリテ内服藥ヲ休止ス其喘息症狀ノ緩解セル知ル可キナリ

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體溫三十七度

電氣膠様鐵 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十二月九日 體溫三十七度二分兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様鐵 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體溫

三十六度七分

電氣膠様鐵 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十二月十三日 背部ハ打音ニ異常ナシ然レドモ呼吸音尙ホ弱シ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月十五日 背部ニ異常ナシ然レドモ咳嗽ハ尙ホ少シク存ス蓋シ平素ノ咳嗽ナク食味ハ稍恢復セシモ食量ハ未ダ常ノ如クナラズト

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月十九日 食患尙ホ平素ノ如クナラズト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音微弱ナリ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十一日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十三日 背部ニ異常ナシ患者云フ氣分略ホ平素ノ如シト

第六十一病例 スキ 十八歳學生

以下省略ス

一昨廿七日夕體溫三十七度六分アリ爾來倦怠アリト

大正九年三月二十九日 診ス兩背ノ肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

ニシテ呼吸音弱シ

診斷 間質性肺炎

特製連鎖狀球菌ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

三月二十九日〇、一五cc 三十一日〇、三cc 四月二日〇、四五cc 四日〇、六cc

四月五日 兩肩胛部以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

四月六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様鐵 〇、五

右皮下ニ注射ス

四月八日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様鐵 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月十一日 兩肩胛間部上三分一以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク呼吸延長ス

電氣膠様鐵 一、〇

續々間質性肺炎特殊療法

四月十三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク右肩胛上部ニ無響水泡音アリ

電氣膠様鐵 一、二五

右皮下ニ注射ス

四月十六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音少シク弱シ

電氣膠様鐵 一、二五

右皮下ニ注射ス

四月十八日兩三日來氣分悪シクシテ輕熱アリ而シテ昨朝ハ三十七度二分昨夕ハ三十七度五分アリシト背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十日 今朝尙ホ微熱アリシト背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十四日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十七日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十九日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

第六十三病例 オシ 二十五歳男學生

約十日前ヨリ咳嗽アリ時々寒氣シ夕刻ノ體温ハ三十七度二分乃至三分アリ食慾不進ナリト

大正九年五月二十日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ兩肋腹下腔ニ滿水アリ

診斷 間質性肺炎 胸水

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁酸 三、〇

右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

五月二十二日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ右背ノ全部ト左肩胛上部トハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服

五月二日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月四日 背部ニ異常ナシ

電氣膠様鐵

右皮下ニ注射ス

藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月二十五日 氣分宜シト左鎖骨下高打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ兩鎖骨上高ト兩背ノ全部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

五月二十七日 右鎖骨上高ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱ク無響水泡音アリ左鎖骨上高ハ打音輕濁ニシテ無響水泡音アリ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク兩肩胛上部ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

五月三十日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠様鐵 〇、二五 電氣膠様水銀 〇、二五

右皮下ニ注射ス

六月二日 發熱咳嗽ナク食慾進ムト兩鎖骨上高ト兩肩胛上部トハ打音ニ異常ナク呼吸音弱ク且無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様鐵 〇、五 電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

六月六日 胸部ノ所見ハ前日ニ同シ 内服藥前方

電氣膠様鐵 〇、七五 電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月十一日 兩鎖骨上高及ヒ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左右鎖骨上高ト右肩胛上部トニ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様鐵 〇、七五 電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月十五日 左鎖骨上高ト兩肩胛下隅以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左肩胛上部ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様鐵 〇、七五 電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

六月十八日 兩鎖骨上高ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音アリ右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様鐵 一、〇 電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十日 兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠様鐵 一、〇 電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十七日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ右鎖骨上高ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音アリ 内服藥前方

從來使用セシ所ノ〇、一%ノ電氣膠様水銀製品セシテ左方ニ改ム

處方

〇、一%電氣膠様鐵 五、〇 〇、五%電氣膠様水銀一、〇

右混合其一、〇ccヲ皮下ニ注射ス

六月三十日 左右肩胛上隅以下打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ

電氣膠様鐵水銀合劑 一、二

内服藥前方

右皮下ニ注射ス

七月六日 兩肩胛間部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

七月十日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

七月二十日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

處方 (第二電氣膠樣鐵水銀合劑)

〇、一多電氣膠樣鐵 五、〇 〇、五%電氣膠樣鐵水銀二、〇

右混和シ其一、〇ccヲ皮下ニ注射ス

九月六日 見學ノ爲ニ七月三十一日九州ニ向テ出立シ兩三日目前ニ歸京セリト診スルニ兩鎖骨上窩及ヒ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左右鎖骨上窩及ヒ左肩胛上部ニ無響水泡音アリ肝腫大ス

處方

佐氏煎(入、〇) 二、〇〇〇 硫酸苦土 三、〇〇〇

苦味丁糖 四、〇

右一日三回食前半時二分服

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月八日 兩鎖骨上窩ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ左肩胛上部ハ濁性減シ無響水泡音ハ只左肩胛上部ニノミ存ス 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音アリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十四日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク右側ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月十八日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝尚ホ腫大ス 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、二五

右皮下ニ注射ス

九月二十四日 右鎖骨下窩ト第二肋間トハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク且右肩胛上部ニ水泡音アリ肝ノ腫大ヲ認メズ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

九月二十六日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛上部ハ打音ニ少シク鼓調ヲ帶アルニ似タリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

第六十四病例 ヤ コ 三十六歲會社員

昨年六月十二日執務中惡寒アリ次テ體温三十九度五分ニ上昇セリ

續々間質性肺炎特殊療法

九月二十八日 少シク感冒ノ氣味ナリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月三十日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、五

右皮下ニ注射ス

十月二日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音アリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、四

右皮下ニ注射ス

十月五日 胸部ノ所見ハ前ニ同シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、四

右皮下ニ注射ス

十月七日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 二、〇

右皮下ニ注射ス

尤モ從來少シク倦怠ヲ覺ユルコトアリタリ三日後ニ至リ左肋膜腔

ニ滲出液ヲ生ゼリトノ診定ナリ約一ヶ月就臥セシニ滲出液ハ吸收セリト八月房州ニ轉地シ九月歸京十二月十五日福井醫師ノ紹介ニテ順天堂醫院ノ藤浪博士ニ診ヲ乞ヘリ然ルニ其結果ハ次ノ如シ

一、右肺炎ヨリ第二肋骨ニ至ルマテノ間ニ肺炎ノ方ニハ強ク下方ニハ薄キ陰影ヲ見ル殊ニ肺炎ニ於テハ石灰化セルモノ點々トシテアリ

二、左肺炎ニ於テハ右者ニ比スレバ遙ニ淡キモ雲狀ノ陰影ヲ見ルモノアリ

三、左肺門腺ハ小鵝卵大ニ腫大セリ其間ニハ乾酪化セル小豆大ノモノ數ヤトシテ存在シ陳套ノモノナルヲ示セリ

四、肺門腺ハ拇指頭大トナリ左者ヨリモ陰影濃度ナリ

五、右肺ニハ一般ニ氣管枝加答兒ニ富メリ殊ニ下葉ニ於テ著シトス

六、右肋膜炎ハ治癒ノ狀ニアルモ横隔膜隅角ノ間ニ於テ僅ニ癒着アルモノ、如シ(殆ド治癒シタルモノナリ)

右ノ次第ニテ何レモ陳套ノ結核タルコト明カナリ 藤浪剛一
次テ本年一月沼津ニ轉地シ先月十五日同地ニテ感冒ニ罹リ約四日間發熱シ其際咳嗽アリ十日程前ニ下痢アリシ昨今ハ咳嗽ナキモ朝少許ノ喀痰アリ毎日夕刻ノ體温ハ三十七度一二分ナリト
大正九年四月二十一日 診ス右前胸全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音

弱ク兩背ノ全部亦打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ右背部分濁性少シク強シ體重十二貫二百目アリ

診斷 間質性肺炎

處方 佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁 三、〇

健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

四月二十三日 右前胸ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ右背全部ト左肩胛下隅以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛上部ニ無響水泡音アリ患者云フ右第五肋間部ニ自發痛アリト上下肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射少シク亢進ス 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三
右皮下ニ注射ス
一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
四月二十五日 一昨日惡寒アリ夕體温三十七度四分昨夕體温三十七度アリシト右前胸ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク右背全部ト

左肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背全部ニ於テ弱シ脾腫大ス

處方 佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼混 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス
四月二十八日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ脾腫ナシ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 〇、二五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス
四月三十日 兩胸ノ前後ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 〇、二五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

續々間質性肺炎特殊療法

弱ク兩背ノ全部亦打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ右背部分濁性少シク強シ體重十二貫二百目アリ

診斷 間質性肺炎

處方 佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁 三、〇

健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

四月二十三日 右前胸ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ右背全部ト左肩胛下隅以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛上部ニ無響水泡音アリ患者云フ右第五肋間部ニ自發痛アリト上下肢筋ニ握痛アリ膝蓋腱反射少シク亢進ス 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三
右皮下ニ注射ス
一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
四月二十五日 一昨日惡寒アリ夕體温三十七度四分昨夕體温三十七度アリシト右前胸ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク右背全部ト

右皮下ニ注射ス

五月四日 右前胸ハ打音極メテ輕濁ニシテ呼吸音弱シ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背ノ全部ニ於テ弱シ

處方 佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼混 〇、五

右一包量與二包毎日一服頓服

電氣膠樣水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス
五月六日 昨夕體温三十六度九分アリシ今日ハ痰少シク多シト兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス
五月十日 二三日來喀痰少ナシト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 〇、七五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

五〇九

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月十二日 兩胸ノ前後ハ打音ニ異常ナシ呼吸音ハ少シク恢復ス
ルモ尙ホ右背ニ於テ弱シ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月十四日 兩前胸ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク左鎖骨下高
ノ内側ニ無響水泡音アリ兩鎖骨上高ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱ク
無響水泡音アリ兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク上肩胛上部
ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月十六日 從來ハ午後四時頃ハ體温三十七度ニ昇リシモ昨日ハ
三十六年七分ナリシト胸部ノ所見ハ前日ニ同シ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月十八日 一昨日ハ夕體温三十七度二分アリシト兩胸ノ前後全
部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク右鎖骨下高ノ内側左鎖骨下高
及ビ第二肋間兩鎖骨上高ト右肩胛上部トニ無響水泡音アリ 内服
藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月二十日 兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱シ 水泡
音ナシ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

五月二十二日 兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音尙ホ
少シク弱シ 内服藥ハ佐氏煎劑健胃丸ヲ與ヘ鹽規ノ服用ヲ休止ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月二十六日 昨夜ハ膝關節ニ發汗セリ昨今ハ多忙ナル業務ニ耐
ヘ得ルヲ以テ健康ノ恢復セシテ自認スルモ尙少シク咳嗽アリ此咳
嗽アルガ爲ニ尙ホ其病體ナルヲ覺知ス而シテ從來ハ社務ノ劇シキ
後ニハ發熱スルノ傾キアリシガ昨今ハ大ニ活動スルモ更ニ發熱ノ
兆ナシト右胸第二第三肋間ノ胸骨ニ近接セル部ハ打音ニ異常ナク
シテ呼吸音不純ナリ右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ無響水泡音
アリ體重十二貫二百六十目アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月二十八日 昨日ハ體温三十七度二分ニ昇リシト右胸第二第三
肋間ノ胸骨ニ近接セル部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ兩
背ノ全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク且右肩胛間部中央ニ無
響水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月三十日 昨日體温三十七度二分ニ昇リシト胸部ノ所見ハ前日
ニ同シ但シ無響水泡音ナシ

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

六月一日 左鎖骨下窩及ビ第二肋間ハ打音異常ナクシテ呼吸音不
純ナリ右第二三肋間ノ内側ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音亦不純ナリ
兩背全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク而シテ右肩胛上部ニ無
響水泡音アリ兩鎖骨上高亦打音ニ異常ナク呼吸音弱クシテ無響水
泡音アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右皮下ニ注射ス

六月三日 一昨夜ハ注射部ノ疼痛ノ爲ニ熟睡スルコトヲ得ザリシ
結果ナルガ昨日ハ朝來熱感アリ午後四時ノ體温ハ三十七度八分ア
リシ然シ氣分ハ宜シカリシト兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナクシ
テ呼吸音弱ク右鎖骨上高ト右肩胛間窩以上トニ水泡音アリ體重
十二貫三百目アリ 内服藥前方

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十二日 昨今ハ時々腹痛ヲ起スコトアリト兩胸ノ前後全部ハ
打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ脾肝腫大ス

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

右皮下ニ注射ス

電氣膠様水銀 一、〇

健胃丸 十二粒

右一日三回二分服

鹽酸規尼涅

〇、五

右一日量與四包朝夕一包頓服

佐氏塗布劑

三〇、〇

右塗腹料 朝夕塗布セシム

電氣膠樣鐵

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十五日 右背ノ全部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ左背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肝腫大ス 内服藥各前方

電氣膠樣水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十七日 兩背ノ全部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ肝腫大シ左胸肩窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ(腹膜炎)佐氏煎劑健胃丸各前方ヲ與ヘ鹽酸規ニ服用ヲ休止ス

電氣膠樣鐵

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月十九日 諸症前ニ同シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

五一二

六月二十一日 左鎖骨下窩打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ兩背ノ全部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ肝腫大ナク腹部亦異常ヲ認メズ内服藥前方

電氣膠樣鐵

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十四日 兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ兩肩胛間部棘以上ニ水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣水銀

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十六日 昨日ハ體温三十七度四分ニ上リシト左鎖骨下窩打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ右前胸及ビ兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱ク兩肩胛間部中央以上ニ少許ノ水泡音アリ

佐氏煎(八、〇)

二〇〇、〇

沃度加里

一、〇

苦味丁鹽

三〇、〇

右一日三回二分服

健胃丸 前方

電氣膠樣鐵

一、〇

右皮下ニ注射ス

六月二十八日 呼吸音少シク恢復ス 内服藥各前方

電氣膠樣水銀合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

六月三十日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ但シ水泡音ハ只右肩胛上部ノミニアリ 内服藥各前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

七月二日 呼吸時ニ胸痛アリト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥各前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

七月四日 昨日ハ體温三十七度二分ニ上リシト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

七月六日 呼吸音少シク恢復ス但シ右肩胛上部ト呼吸音不純ナリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

七月八日 兩肩胛上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩胸ノ前後全部ニ弱シ 内服藥前方

續々間質性肺炎特殊療法

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

七月十日 兩胸ノ前後全部ハ打音ニ異常ナク呼吸音少シク現出ス但シ兩肩胛間部ニ少許ノ水泡音アリ 内服藥前方

電氣膠樣鐵水銀合劑 一、二

右皮下ニ注射ス

由來及つて光線ノ肺癆病者ニ對スル影像ハ幾何程度ニ其診斷的價值ノ存スルモノナルヤハ予ハ未ダ之ヲ知ラズト雖モ試ニ常識ヲ以テ之ヲ判ズレバ蓋シ吾人ノ視官ハ暗所ニ於テ全ク無力ナルモノナルヲ以テ一般ノ陰影乃至及つて光線ニ由リテ胸部ニ現出スル陰影ノ其本體ノ如何ナルモノナルヤハ之ヲ明視スルコト能ハザルモノナル可シ然レドモ夫ノ體內異物ノ如ク陰影ヲ檢知シ局部ヲ切開シ其異物ノ陰影ノ源ヲ明知シ得ルガ如ク胸部ノ透射後ニ直チニ胸腔内ヲ剖檢シ得ルノ便宜ヲ有スルモノナリトセバ之ニ據リテ肺組織乃至其附近ノ狀況ヲ目視シ陰影ノ源ヲ探知シ得ルベク數同之ヲ反覆スルニ於テハ其實驗的智能ハ或ハ陰影ヲ見テ直チニ其原因ヲ判識シ得ルノ域ニ達シ得ザルニ非ザルモノナル可シト雖モ現時ニ於ケル肺癆病者ノ剖檢タルハ皆死後ニ於テ行ハルモノナルヲ以テ若シ其透檢ト其死後トノ間ニ或日子ヲ經過セシモノナリトセバ其死後ノ剖檢ニ際シ現出スル所ノ胸腔内ノ病的變化ハ縱令

五一三

透見セシ當時ノ結果ト一致スルモノアルモ之ヲ以テ直チニ其透檢ノ當時ニ其所ニ存在セシ所ノ病的變化ナリト断定スルヲ許ス可キモノニ非ズシテ或ハ其透檢當時ノ病症ノ其後ノ經過中ニ次第ニ變化セル所ノ病電ナルヤモ亦未ダ知ル可ラズ然ラバ乃チ透檢者ハ本病者ノ死後ノ剖檢ニ據リテ育成セラレシ所ノ知識ヲ以テ斯病ノ陰影ヲ判識スルモノナルニ於テハ比較的ニ新鮮ナル病者又ハ斯病者ノ生存時ノ影像ニ對シ其死後ノ變化ヲ豫想シテ而シテ之ヲ判識スルノ弊ナキニ非ザルヤ人ヲシテ之ヲ疑ハシムルモ敢テ其理由ナキ

叙上ノ諸例ト他ノ實驗例トヲ綜合シテ左ノ結論ニ入ルヲ得ベシ

- 一、電氣膠樣鐵ハ間質性肺炎乃至肺癆ニ因スル所ノ熱候ヲ亡散セシムルノ作用アリ故ニ有熱病者ニハ必ズ之ヲ使用セザル可カラザルモノナリト雖モ他ノ膠樣製劑ト同ジク絕對的ニ解熱作用ヲ呈スルモノニハ非ズシテ復タ之ニ據リテ解熱セザル所ノ病症アルナリ但シ時トシテハ其使用ノ初メニ於テ却テ熱候ヲ増加シ弛張性ニ經過シ次第解熱スルコトアルヲ記セザル可カラズ
- 二、電氣膠樣鐵ハ間質性肺炎乃至肺癆病者ノ炎性浸潤ヲ消退シ且増殖セル結締織ヲシテ退行的治癒機轉ヲ催進スルモノナルガ如シ故ニ注射スル時ハ善ク之ヲ治癒セシムルモノナリトス
- 三、電氣膠樣鐵ヲ注射シ體內ニ於テ有機化シ而シテ血色素ヲシテ増量セシムルモノナリセバ間質性肺炎乃至肺癆病者ノ如ク貧血病狀ヲ呈スルモノ、治癒劑トシテハ蓋シ理想的ノモノナル可シト雖モ其體內ニ於

テ有機化スルハ大ニ疑ハザル可カラザルモノナリトス

第十四章 肺病ノ膠樣金療法

從來金製劑ノ內科的疾病ノ治療ニ使用セラレシモノハ格魯兒金那篤留謨ニシテ金ハ神ヲ養フモノナリトノ想像ノ下ニ主トシテ神経系ノ疾患ニ稀ニ用ヒタルニ過ギズ然レドモ格魯兒金那篤留謨ヲ服用スル時ハ攝護腺液及ビ精液ノ分泌減少乃至涸渴ヲ致シ陰萎ヲ來スモノナルヲ以テ他ノ腺體ノ分泌機能モ亦多少其障礙ヲ蒙ルモノナル可シ此故ニ電氣膠樣金ハ一般電氣膠樣劑ト同ジク其酵素の觸媒作用ハ微生物性疾病ニ治效ヲ奏スルノ理ナルハ或ハ之ヲ信ズルニ足ルモノナル可シト雖モ夫ノ電氣膠樣鐵ノ有機化シ以テ貧血色素ヲ増量シ之ヲ治スルノ作用アルモノナリセバ電氣膠樣金モ亦有機化シテ腺細胞ニ作用シ而シテ其分泌機能ヲ障礙スルコトアルヲ一考セザル可カラズ夫レ然リ電氣膠樣金ヲ單純ニ使用セシ所ノモノハ殆ド絶無ニシテ左ノ一例ノ如キモ中途ニシテ其使用ヲ中止セリ

第六十五病例 ヤ ツ 五十七才女

從來喘息ノ癖アリ然ルニ本月四日頃ヨリ亦喘息ヲ發シ少シク熱候アリ食ニ苦味アリテ進マズ爾來醫藥ヲ加フルモ徒治セズト
大正八年十二月十六日 診ス兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸弱張シ診時三十八度五分アリ

續々間質性肺炎特殊療法

モノニハ非ザルモノナル可シ然リト雖モ予ハ敢テ人ノ診斷ヲ批評スルモノニ非ズ故ニ藤浪博士ノ診斷ハ之ヲ是認シ而シテ其診斷ヲ基礎トシ遺般ノ病變ニ對シ本療法ノ如何ニ作用スルモノナルヤヲ知得スレバ頗ル興味アルモノナルヲ以テ本患者ノ診療ノ初メニ於テ治療後ニ幸ニ胸部ノ理學的變常ノ全ク亡失スルニ至レバ其際再ビ藤浪博士ノ檢診ヲ受ケ以テ其初回ノ影像ト比較セシコトヲ約セシモ爾來休養シテ其約ヲ履行セザルハ大ニ遺憾トナス所ナリトス因ニ云フ本患者ハ其後某會社ノ事務ニ元氣ニ從事シ居レリト聞ク

診斷 間質性肺炎 喘息 處方

佐氏煎(八〇) 二〇〇〇 臭素加里 三、〇
ストロアンツス丁液二、〇 杏仁水 八、〇

右一日三回二日分服

電氣膠樣金 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十二月十八日 咳嗽ハ夜間ニ多シト爾背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體温三十七度二分アリ 内服藥前方

電氣膠樣金 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月二十日 咳嗽ハ大ニ減セシモ動悸スルコト強シト兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣銅鐵水銀合劑 〇、二五 一%硝酸斯萬里規尼涅液 〇、三

右皮下ニ注射ス

十二月二十二日 咳嗽ハ大ニ減ズルモ尙ホ午前一二時ノ頃ニ少シク咳嗽ス左側ノ肩ニコリアリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠樣金 〇、七五 一%硝酸斯萬里規尼涅液 〇、三

右皮下ニ注射ス

電氣膠樣金ヲ單純ニ使用セシ治驗ハ乏シクシテ其作用ヲ論議スルノ資ナシト雖モ他ノ電氣膠樣劑ト併用セシ所ノ結果ニ基ケバ左ノ指定ヲナスコトヲ得ルナリ

一、電氣膠樣金ハ其製造者ノ言ニ據レバ敗血症ノ熱候ヲ亡散スルノ治效アルモノナリ故ニ間質性肺炎乃至

肺癆ノ熱候モ亦之ニ據リテ低減若クハ喪失スルコトアルモノナル可シト雖モ果シテ其有效量ヲ斯病ニ用ヒ得ルモノナルヤ疑問ナリ

二、電氣膠樣金ハ間質性肺炎乃至肺癆ノ炎症ヲ增強セシムルノ作用アリ而シテ輕症者ニ於ケル炎症部ノ増大ハ敢テ多大ナル障害ヲナスモノナルニハ非ザル可シト雖モ稍重惡ナル症ニハ其無害ナルヲ豫期スルコト能ハズ予ハ一回〇、五ccノ注射後ニ既存ノ濁性ノ增強ト水泡音ノ増加トヲ來シ且從來理學的變常ノナカリシ部ニ濁音ト水泡音トノ新生ヲ致シ次デ血痰ヲ喀出セルノ實驗アリ故ニ縱令解熱作用アルト説クモ輕々シク其大量ヲ用ユベキモノニ非ズシテ病症ノ輕重ニ由リテ其用量ヲ考究セザル可カラズ

三、電氣膠樣金ノ注射ニヨル肺ノ炎症々狀ノ增強ハ若シ膠樣金ノ病原菌ニ作用シ之ヲ溶崩スルニ因スル所ノ反應ナルモノナリセバ斯病ノ治療ニ大ナル望ヲ囑ス可キモノナルハ明カニシテ從テ病竈部ノ炎症ニ強キ反應ヲ呈セザルノ微量ヲ用ヒザル可カラザルモノタルモ亦知ルニ難カラザルナリ

四、電氣膠樣金ヲ間質性肺炎乃至肺癆病者ニ用ユル時ハ往々發熱ト共ニ脾腫ヲ來スコトアリ而シテ其脾腫發熱ノ規尼涅ニヨリテ亡失スルニ據リテ觀レバ之レ亦麻拉里亞ノ發作ヲ誘致スルモノナルガ如シ

五、電氣膠樣金ノ間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル作用ハ電氣膠樣銅ニ酷似スルモノナルヲ思ハザルヲ得ズ

第十五章 肺病ノ膠樣白金療法

續々間質性肺炎特殊療法

十二月二十四日 兩肩胛上部ハ打音短ニシテ呼吸音弱シ診時ノ體温三十七度四分 内服藥前方

電氣膠樣金 一、〇 一%硝酸斯萬里規尼涅液 〇、三

右皮下ニ注射ス

十二月二十六日 一昨日ハ夜一時頃發熱セリ動悸ハ少シク靜マリ昨夜ハ殆ド咳嗽ナカリシモ昨日來左肩ノこるコト甚シト爾背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾少シク腫大ス診時體温三十七度三分

處方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量四包ヲ與フ朝夕一包頓服

稀鹽酸 二、〇 苦味丁酸 四、〇

薑棧丁酸 一、〇 橙皮舍利別 一〇、〇

水 二〇〇、〇

右一日三回二日分服

以下省略

間質性肺炎乃至肺癆病者ニ電氣膠様白金ヲ試用セシハ左ノ一例ヲ有スルニ過ギズ
第六十六病例 ヲハ 二十五才女

約二十日程前ヨリ身體倦怠ヲ覺エ且腹痛アリト

大正九年七月十一日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱

シ腹部ハ殊ニ下部ニ於テ膨大シ輕濁ニシテ抵抗及ビ壓痛強シ患者

云フ腹重ク歩行時ニ響テ痛アリト

診斷 間質性肺炎 腹膜炎

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 沃度加里 一、〇

苦味丁幾 四、〇

右一日三回二分服

佐氏塗布劑 三〇、〇

右朝夕下腹部ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

七月十三日 職務ヲ辭シ此日入院ス右背全部ト左肩胛上部トハ打

音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タリ 内服藥前方ヲ與ヘ塗腹

劑前ノ如シ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

七月十五日 兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹膜炎依然タ

リ 内服藥前方

電氣膠様白金 〇、二

右皮下ニ注射ス

七月十七日 左鎖骨上窩ハ打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ背部

ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠様白金 〇、三

右皮下ニ注射ス

七月十九日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠様白金 〇、五

右皮下ニ注射ス

七月二十一日 兩肩胛棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ノ

病狀依然タリ 内服藥前方

電氣膠様白金 〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月二十三日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠様白金 〇、七五

右皮下ニ注射ス

七月二十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ノ病

狀前ト同シ 内服藥前方

電氣膠様白金 一、〇

右皮下ニ注射ス

七月二十七日 胸部ノ病狀前日ト同シ患者云フ腹痛大ニ減退スト

内服藥前方

電氣膠様白金 一、〇

右皮下ニ注射ス

七月二十九日 兩肩胛上部ハ打音ニ少シク鼓性ヲ帶フ呼吸音弱シ

腹部少シク縮小ス 内服藥前方

電氣膠様白金 一、二五

右皮下ニ注射ス

七月三十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ノ病

狀前ニ同シ 内服藥前方

電氣膠様白金 一、二五

右皮下ニ注射ス

八月二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背全部ニ亘リ

テ弱シ腹部ノ病狀依然タリ膠様白金注射後ニ胸部ノ病狀ハ減退セ

續々間質性肺炎特殊療法

第三十八圖



ルガ如キモ熱候依然ト

シテ存續スルヲ以テ之

ヲ休止ス 内服藥前方

第二電氣膠様鐵水銀

合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

八月四日 右前胸ハ打

音異常ナクシテ呼吸音

弱シ兩背ノ全部ハ打音

輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服藥前方

第二電氣膠様鐵水銀

合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

八月六日 右前胸ハ打

音異常ナクシテ呼吸音

弱ク兩肩胛上部ハ打音

輕濁ニシテ呼吸音弱シ

腹部ノ病狀依然タリ

内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背全部ニ弱シ
腹部ノ病狀依然タリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月十日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月十二日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月十四日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ但シ右肩胛上部ノ濁性減
ズ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月十六日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月十八日 兩三日來氣分大ニロソト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニ
前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 二、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛間中部
央以上及ビ左肩胛上部ニ弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十八日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥
前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 二、〇
右皮下ニ注射ス

八月三十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ右肩胛間中部
央以上及ビ左肩胛上部ニ弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月一日 昨日初メテ四五町距リクル處ヲ往復セシモ腹痛ナカリ
シト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左側ニ無響水泡音アリ
腹部ハ尙ホ少シク膨大シ打音ニ異常ナク抵抗尙ホ存スルモ腹痛
ナシ 内服藥ハ前方ヲ與ヘ腹部ニハ從前ノ如ク佐氏塗布劑ヲ朝夕
塗布セシム

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月五日 諸症前ノ如シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

シテ呼吸音ハ右背全部ト左肩胛上部トニ弱シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、五
右皮下ニ注射ス

八月二十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩背全部ニ弱
シ腹部ノ病狀依然タリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十二日 胸腹部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十四日 左鎖骨下高ハ打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ兩
肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク右側ニ無響水泡音アリ但シ
兩側共ニ濁性減ズ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十六日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月二十八日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

八月三十日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月一日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月三日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月五日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月七日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月九日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月十一日 左鎖骨下高ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ナリ
右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ニ弱シ 内服藥
前方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

第三十九圖



五二〇

右皮下ニ注射ス

九月七日 諸症前ノ如
シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合
劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月九日 胸腹部ノ所見
ハ前ノ如シ 内服藥前
方

電氣膠樣鐵 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月十一日 兩肩胛上
部ハ打音輕濁ニシテ呼
吸音弱ク右側ニ無響水
泡音アリ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀
合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

九月十三日 兩肩胛上
部ハ打音輕濁ニシテ呼

吸音弱シ 内服薬前方

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十五日 同上 内服薬前方

第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月十七日 同上 内服薬前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月十九日 同上 内服薬前方

電氣膠様銅 一、五

右皮下ニ注射ス

九月二十一日 同上 内服薬前方

第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十三日 同上 内服薬前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性少シク減ズ 内服薬前方

電氣膠様銅 一、七五

右皮下ニ注射ス

九月二十七日 胸部ノ所見ハ前日ノ如シ腹部ニ異常ナシ 内服薬前方

第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

九月二十九日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十月一日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月三日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

ナ與フ國光製藥株式會社製電氣膠様銅缺品ス依テ銅ふりぞゐるヲ代用ス

銅ふりぞゐる 三、〇

右皮下ニ注射ス

十月五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

第二電氣膠様鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

電氣膠様銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十月九日 背部ノ所見前日ト同シ 内服薬前方

〇、〇五%電氣膠様銅 三、五

右皮下ニ注射ス

以下治療中

電氣膠様白金ノ間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル治效ノ批判ハ之ヲ後日ニ譲リ單ニ叙上ノ治療例ノミニ付テ言ハバ電氣膠様白金ハ斯病ニ對シ多少解熱作用呈スルガ如シト雖モ本病者ノ熱候ノ下行セザリシ所以ノモノハ或ハ其使用量ノ少ナカリシニ因スルモノニハ非ザルカ然リ而シテ電氣膠様白金ニテ解行セザリシ熱候ノ電氣膠様鐵水銀合劑ノ注射ニ據リテ頓ニ亡散セシ所以ノモノハ勿論其混合膠様劑ノ解熱作用ニ因スルモノナル可シト雖モ亦曩キニ注射セシ所ノ電氣膠様白金ノ多少協働作用ヲ呈セシモノニ非ザルヤヲ思ハザルヲ得ズ而シテ這般ノ關係ニ付テハ更ニ他日ノ研究ヲ俟タザルヲ得ズ

第十六章 肺病ノ電氣膠様製劑混合療法

既ニ論ズルガ如ク一般膠様製劑ハ其膠様粒子ノ酵素的作用ヲ以テ治病ノ機ヲ營爲スルモノナリト雖モ製劑ノ品質ノ異ナルアルヤ其酵素的作用ニ差異アリ又病體ノ異ナルヤ其病症ノ同シカル可キモノニ非ズ此故ニ電氣膠様製劑ヲ以テ間質性肺炎乃至肺癆病者ヲ治療スルヤ甲ニ據リテ治スルモノアリ治セザルモノアリ乙ニ由リ

續々間質性肺炎特殊療法

テ治スルモノアリ治セザルモノアリ甲乙ヲ併用スルニ依リテ其治癒ヲ催進シ其經過ヲ短縮スルモノアリ甲又ハ乙ニ頼リテ治セザル所ノ病症ノ甲乙ヲ併用シテ始メテ治スルモノアリ之ヲ以テ甲乙乃至丙丁ヲ混合シテ用ユル時ハ或ハ其治癒ノ佳良ナル可キヲ想像スルハ蓋シ自然ノ要求タルモノナル可シ然リ而シテ從來此考案ニ基キテ試用セシモノニ左ノ數種アルナリ

第一合劑

處方

國光製藥株式會社製〇、一%水銀エレクトロイド

二分

同 上 製〇、一%銅エレクトロイド

一分

中央化學研究所製〇、一%鐵エモリゾール

二分

右混和

第二合劑

處方

中央化學研究所製〇、〇二五%金エモリゾール

一分

同 上 製〇、一%鐵エモリゾール

二分

櫻木合資會社製〇、〇五五%銀エレクトロゾール

二分

右混和

第三合劑

處方

國光製藥株式會社製〇、一%水銀エレクトロイド

三分

同 上 製〇、一%銅エレクトロイド

二分

處方

中央化學研究所製〇、一%鐵エモリゾール

三分

櫻木合資會社製〇、〇五五%銀エレクトロゾール

二分

右混和

其後ニ至リ國光製藥株式會社ヨリ試製品タル〇、五%ノ電氣膠様水銀ヲ贈與セラル、アリ依ツテ左ノ合劑ヲ製シ爾來主トシテ其實驗ノ用ニ供セリ蓋シ其合劑一、〇〇〇中ニハ從來使用セシガ如ク〇、一%ノ膠様水銀一、〇〇〇ヲ含有スルノ比ナレバナリ

第六合劑

處方

國光製藥株式會社製〇、五%水銀エレクトロイド

一分

同 上 製〇、一%エレクトロイド

一分

中央化學研究所製〇、二五%金エモリゾール

一分

同 上 製〇、一%鐵エモリゾール

一分

櫻木合資會社製〇、〇五五%銀エレクトロゾール

一分

右混和

其後中央化學研究所ニ於テ電氣膠様白金ヲ製出スルアリ依テ試ミニ左ノ合劑ヲ使用ニ供セリ

續々間質性肺炎特殊療法

第七合劑

- 國光製藥株式會社製 〇、五の水銀エレクトロイド 十分
- 同 上 製 〇、一の銅エレクトロイド 八分
- 櫻木合資會社製 〇、〇五五の銀エレクトロイド 八分
- 中央化學研究所製 〇、一の鐵エモリゾール 八分
- 同 上 製 〇、〇二五の金エモリゾール 八分
- 同 上 製 〇、〇二五の白金エモリゾール 八分

右混和

因ニ云フ國光製藥株式會社事務金澤藥學士井上廉太郎氏ノ談ニヨレバ電氣膠樣製劑ハ其品質ノ異ナルニ據リテ電氣性ニ陰陽ノ別アルヲ以テ其使用ニ際シテ混和ス可キモノナリト故ニ膠樣劑ノ各種ヲ混合スルニ際シテハ沈澱ヲ生ズルヤ否ヤニ注意セサル可カラズ

第六十七病例

タノ 二十歳男 畫師
 五六年前ニ兩肩痛ミ且時々腹痛アリ久シク伊豆ノ某海岸ニ轉地シ居リ兩三日間ニ歸京セリ昨今尙ホ肩凝リ時々發熱盜汗アリト
 大正九年三月二十二日 診ス兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク兩肩胛下部ニ多數ノ水泡音アリ脾腫大ス

診斷 間質性肺炎 脾腫

處方 佐氏煎劑 健胃丸 各前方
 右一日三回二日食前分服 苦味丁酸 三、〇

健胃丸 十二粒

右一日三回食後二日分服

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

三月二十四日 前胸部ニ異常ナシ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ然レドモ水泡音ナシ脾腫ナシ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

右皮下ニ注射ス

三月二十六日 兩背ノ所見ハ前日ニ同シ然シ濁性大ニ減ズ

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與二包毎日一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

三月二十八日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

讀々間質性肺炎特殊療法

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量與四包朝夕一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

三月三十日 兩背ノ所見ハ前日ト同シ脾腫大ス 内服藥各前方

第六電氣膠樣合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

四月一日 兩鎖骨上窩及ヒ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク兩鎖骨上窩ニ無響水泡音アリ脾腫ナシ

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

鹽酸規尼涅 〇、五

右一包量四包朝夕一包頓服

第六電氣膠樣合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

四月三日 兩鎖骨上窩ト左肩胛上部トハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ弱クシテ無響水泡音アリ體重十一貫六百目アリ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月五日 兩鎖骨上窩ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱

處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

五二七

ク兩鎖骨上高及左肩胛上部ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月七日 兩鎖骨上高ハ打音ニ異常ナクシス無響水泡音アリ 鹽規ノ服用ヲ休止シ佐氏煎劑及健胃丸ヲ與フ

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月九日 胸部ニ異常ナシ内服藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十一日 兩鎖骨上高及ヒ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニ呼吸音弱ク呼吸延長シ兩鎖骨上高ト左肩胛上部ニ無響水泡音アリ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十三日 左鎖骨上高ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニ呼吸音弱ク左鎖骨上高ニ無響水泡音アリ 内服藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十五日 兩肩胛上部ト左鎖骨上高トハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク左鎖骨上高ニ無響水泡音アリ 内服藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十五日 胸腹部ノ所見日前ニ同シ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十七日 背部ニ異常ナシ脾腫大シ盲腸部ニ壓痛アリ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十九日 頭痛スト云兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ナルモ呼吸音ハ殆ド異常ナシ脾腫大シ下腹部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ 處方

佐氏煎劑 健胃丸 各前方

佐氏塗布劑

右下腹部ニ塗布ス

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月一日 胸部ニ異常ナシ 内服藥塗腹藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

第六十八病例 イ コ 四十一歳男會社員

往年腸空扶斯ニ罹患シ又瘧ニ罹リシコトアリ從來胃弱アリテ時々水液ヲ吐スルコトアリ然ルニ兩三日來少シク熱候アリ腹痛アリ解

續々間質性肺炎特殊療法

吸音弱ク左鎖骨上高ニ無響水泡音アリ 内服藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十七日 左鎖骨上高ハ打音異常ナク呼吸音弱ク無響水泡音アリ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音アリ内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月十九日 左鎖骨上高ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十一日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

四月二十三日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ體重十一貫八百目アリ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月五日 兩肩胛部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左鎖骨上高ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 内服藥塗腹藥各前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月七日 右肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ腹部ニ異常ナシ 内服上前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月九日 背部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月十一日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

五月十三日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠様合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

熱劑ヲ服スルモ依然トシテ存スト

大正八年十一月九日 診ス兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱

シ但シ兩肩胛下隅以下ハ清水アリ脾腫大シ左腸骨窩部ハ輕濁ニシテ抵抗アリ壓痛アリ體溫三十八度二分

診斷 間質性肺炎 胸水 脾腫 腹膜炎

廣方

稀鹽酸 二、〇 薑根丁幾 一、〇
苦味丁幾 四、〇 橙皮舍利別 一〇、〇

水 二〇〇、〇
右一日三回二日分服

健胃丸 十二粒
右一日三回二日分服

鹽酸規尼涅 〇、五
右一包量與四包朝夕一包頓服

佐氏塗布劑 三〇、〇
右朝夕下腹部ニ塗布セシム

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五
右皮下ニ注射ス

十一月十一日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク腹膜炎依然タリ診時體溫三十七度五分 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三
右皮下ニ注射ス

五三〇

十一月十三日 右肩胛上隅以下ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク腹膜炎依然タリ診時體溫三十六度五分

處方

佐氏煎(一、〇) 二〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇
右一日三回二日分服

健胃丸 十二粒
右一日三回二日分服

鹽酸規尼涅 〇、五
右一包量與二包毎日一包頓服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
右皮下ニ注射ス

十一月十五日 右背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五
右皮下ニ注射ス

十一月十七日 右背ノ全部及ビ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン 〇、二五
右皮下ニ注射ス

十一月十九日 右肩胛下隅以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱

十一月二十九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣銀 〇、二五 電氣膠樣銅 〇、二五
右皮下ニ注射ス

十二月一日 右鎖骨上下窩及ビ右肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 〇、五 電氣膠樣銅 〇、五
右皮下ニ注射ス

十二月三日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ兩肩胛上部ハ呼吸音弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣水銀 〇、五 電氣膠樣銅 〇、五
右皮下ニ注射ス

十二月五日 食慾大ニ進ムト兩鎖骨上窩及ビ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠樣銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

十二月七日 昨日ハ少シク熱候アリシト右第三肋間以上ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音不純ニ且第三肋間ニ無響水泡音アリ兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ左肩胛上部ト右背全部トニ弱シ 内服藥各前方

五三一

シ 内服藥各前方

ルエスチン 〇、五
右皮下ニ注射ス

十一月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛下隅以上ニ弱シ腹部ニ異常ナシ 佐氏煎劑健胃丸ヲ與ヘ鹽酸規ニ服用ヲ休止ス

ルエスチン 〇、七五
右皮下ニ注射ス

十一月二十三日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

十一月二十五日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

ルエスチン 〇、七五
右皮下ニ注射ス

十一月二十七日 少シク咳嗽アリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ少シク鼓性ヲ帶フ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣銀 二、〇
右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

電氣膠樣水銀 〇、七五 電氣膠樣銅 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月九日 左第二肋間以上打音異常ナクシテ呼吸音不純ナリ左鎖骨上高ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩鎖骨上高ト兩背全部トニ弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣金銀鐵合劑 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十二月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣銅 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十二月十三日 右第二肋間ハ打音ニ異常ナク呼吸音不純ニシテ無響水泡音アリ右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音ハ兩肩胛上部ト兩鎖骨上高トニ弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣金銀鐵合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月十五日 右第二肋間打音ニ異常ナク呼吸音不純ニシテ無響水泡音アリ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣銅 〇、七五 電氣膠樣水銀 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十二月十七日 少シク盜汗アリト胸部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥各前方

電氣膠樣金銀鐵合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月十九日 胸ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥各前方

電氣膠樣銅鐵合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

十二月二十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ但シ濁性大ニ輕シ 内服藥各前方

電氣膠樣銅鐵合劑 〇、七、五

右皮下ニ注射ス

十二月二十三日 兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

電氣膠樣銅鐵合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十五日 背部ニ異常ナシ 内服藥各前方

電氣膠樣銅鐵合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十八日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥各前方

藥前方

第六電氣膠樣合劑 〇、五

十二月三十日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

大正九年一月三日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音少シク弱シ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月六日 左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音ハ弱クシテ且不純ナリ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月十日 背部ニ異常ナシ 患者云フ從來體重ノ最モ重カリシ時十五貫五百五十目アリ昨年末ハ減シテ漸ク十三貫目ナリシガ昨日秤量セシニ十三貫六百二十目アリシト 内服藥各前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月十二日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

續々間質性肺炎特殊療法

右皮下ニ注射ス

一月十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月十六日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銅 〇、二五

右皮下ニ注射ス

一月十八日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十二日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

電氣膠樣銅 〇、五

右皮下ニ注射ス

一月二十六日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十八日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

電氣膠様劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

一月三十日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月一日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月三日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月五日 右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

第六十九病例 ヤシ 二十二歳女 (第四病例續出)

大正七年十月二十六日 昨日來感冒ノ氣味ナリト依テ之ヲ診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

第六電氣膠様劑

右皮下ニ注射ス

一月七日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月九日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月十一日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月十四日 背部ニ異常ナシ 内服薬前方

第六電氣膠様劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

以下省略

大正八年一月十九日 近來毎日午後ニ發熱スト依テ之ヲ診スルニ兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

るんちんチ注射スルコト次ノ如シ

一月十九日 〇、二五 cc 二十一日 〇、二五 cc 二十七日 〇、二五 cc

二月一日 〇、七五 cc

二月一日 〇、〇 cc 六日 〇、〇 cc 十二日 〇、〇 cc 十六日 〇、〇 cc

二月四日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

電氣膠様水銀チ注射スルコト次ノ如シ

二月四日 〇、〇 cc 八日 〇、〇 cc 十日 〇、〇 cc

二月十四日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方

佐氏煎(八、〇) 二〇〇、〇 苦味丁液 三、〇

右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、三

右皮下ニ注射ス

二月十八日 昨夜體温三十八度アリシト兩肩胛棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ濁性減ズ 内服薬前方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、四

右皮下ニ注射ス

二月二十二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服薬前方

處方

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右肩服

〇、五

特製連鎖狀球菌ワクチン〇、五

右皮下ニ注射ス

三月四日 昨今依然トシテ晩時ノ體温ハ三十七度三分下ラズト

兩肩胛間部上三分一以上ハ打音輕濁ニシテ右側ハ呼吸音粗烈左側

ハ呼吸音微弱ニシテ水泡音アリ

四月二日 引續キ夕刻ノ體温ハ三十七度三分乃至五分ノ間ヲ昇降

スト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ右肩胛下隅以上ハ呼吸音微弱ニ

左肩胛上部ハ呼吸音少シク粗烈ニシテ無響水泡音アリ

五月二日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ微熱

依然トシテ存ス

六月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ微熱依然トシ

テ存ス

六月七日 昨日來體温少シク高ク昨日ハ朝三十六度四分晝三十七

度三分夕三十七度七分今朝三十八度一分晝三十七度七分夕三十八

度二分ナリト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ肺腫大シ首

脇部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方

アスピリン 〇、五

六月八日 諸症前日ニ同シ脉結滯ス此日體溫朝三十七度二分晝三十七度二分夕三十八度五分ニシテ夜ニ入りテ三十九度六分ニ達セリト

處方

稀鹽酸 一、〇
 沃度丁幾 十滴 苦味丁幾 四、〇
 メンタ水 一〇、〇 水 二〇、〇
 右一日三回二分服
 ザロール 四、〇 乳糖 二、〇

右爲散六包一日三回二分服

感作腸壁扶斯ワクチン〇、八 一多磷酸斯篤里規尼涅液〇、三
 右皮下ニ注射ス

六月九日 此日體溫朝三十九度三分晝三十八度七分夕三十七度二分

六月十日 脉結滯ス背部ニ異常ナシ脾腫大シ盲腸部ニ壓痛アリ此日體溫朝三十七度六分晝三十七度六分夕四十度アリシト 内服藥各前方

感作腸壁扶斯ワクチン二、二 一多磷酸斯篤里規尼涅液〇、三
 右皮下ニ注射ス
 六月十一日 脉結滯ス脾腫大シ盲腸部ニ壓痛アリ此日體溫朝三十

六度五分乃至八分夕三十七度五分乃至七分ナリ

感作腸壁扶斯ワクチンヲ注射スルコト次ノ如シ

六月二十八日〇、八 cc 三十日一、〇 cc 七月二日一、〇 cc
 四日〇、七五 cc 六日〇、七五 cc 八日〇、七五 cc 十日
 〇、七五 cc 十二日〇、七五 cc 十四日〇、七五 cc 十六
 日〇、七五 cc 十八日〇、七五 cc

七月十八日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ

中略

十月七日 兩三日來感冒ノ氣味ナリト兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク無響水泡音アリ

電氣膠様銅 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月九日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ左ニ無響水泡音アリ

電氣膠様銅 〇、五

十月十一日 胸部ノ所見前日ト同シ

電氣膠様銅 〇、七五

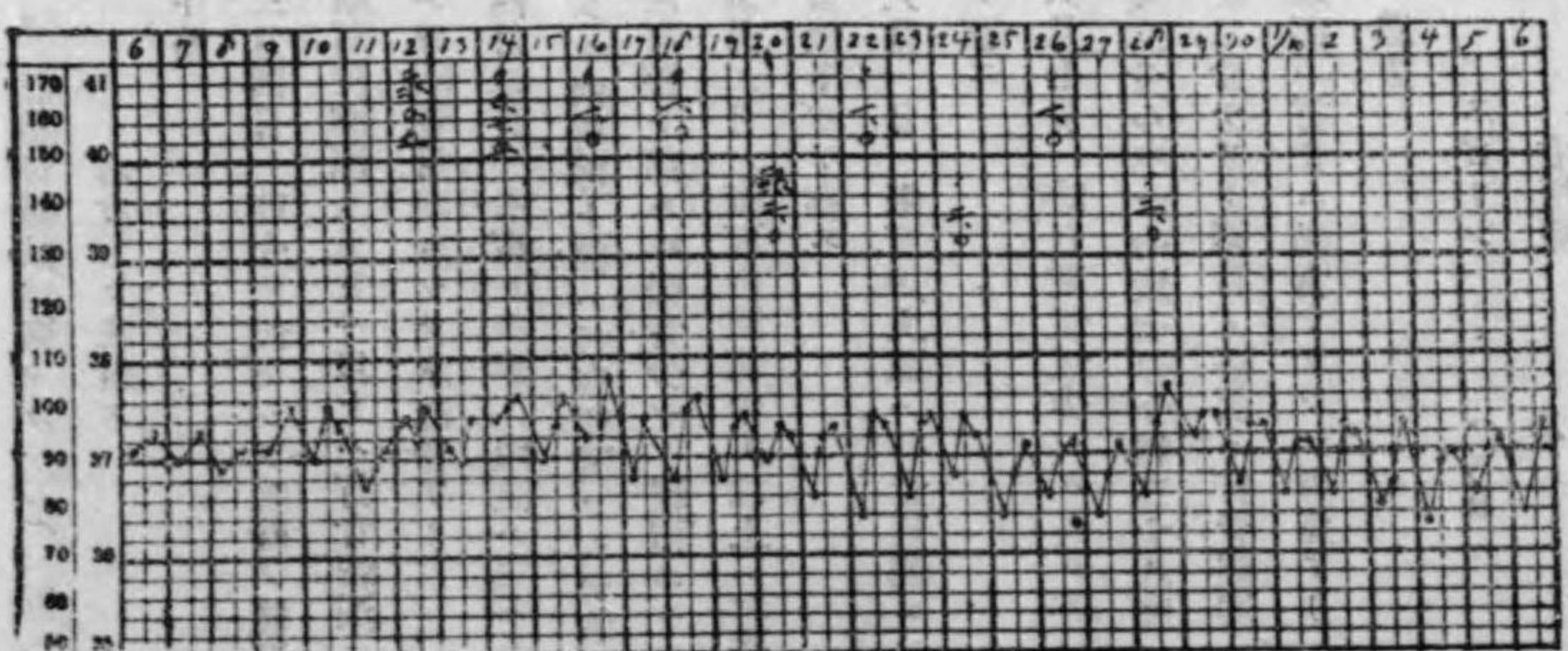
右皮下ニ注射ス

十月十三日 依然トシテ微熱存スルモ以前ノ如ク氣分惡シカラズト胸部ノ所見前日ト同シ

電氣膠様銅 一、〇

腹々間質性肺炎特殊療法

圖 十 四 第



五三六

八度二分晝三十七度二分夕三十六度七分アリシト

六月十二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク殊ニ左側ハ右側ニ比シテ弱シ脉結滯

シ脾腫大シ盲腸部ハ尙ホ少シク壓痛アリ此日體溫朝三十六度五分晝三十六度五分夕三十六度五分アリシ 内服藥各前方

中略

六月二十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ復々脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常

ナクシテ壓痛アリ而シテ昨今ノ體溫ハ朝三十

右皮下ニ注射ス

十月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ナルモ濁性少シク減ズ呼吸音ハ右ニ微弱ニ左ニ粗烈ニシテ且左ニ無響水泡音アリ

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月十七日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク共ニ無響水泡音アリ

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月十八日 胸部ノ所見前日ニ同シ

電氣膠様水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十月十九日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク左ニ無響水泡音アリ

電氣膠様銅 一、〇

右皮下ニ注射ス

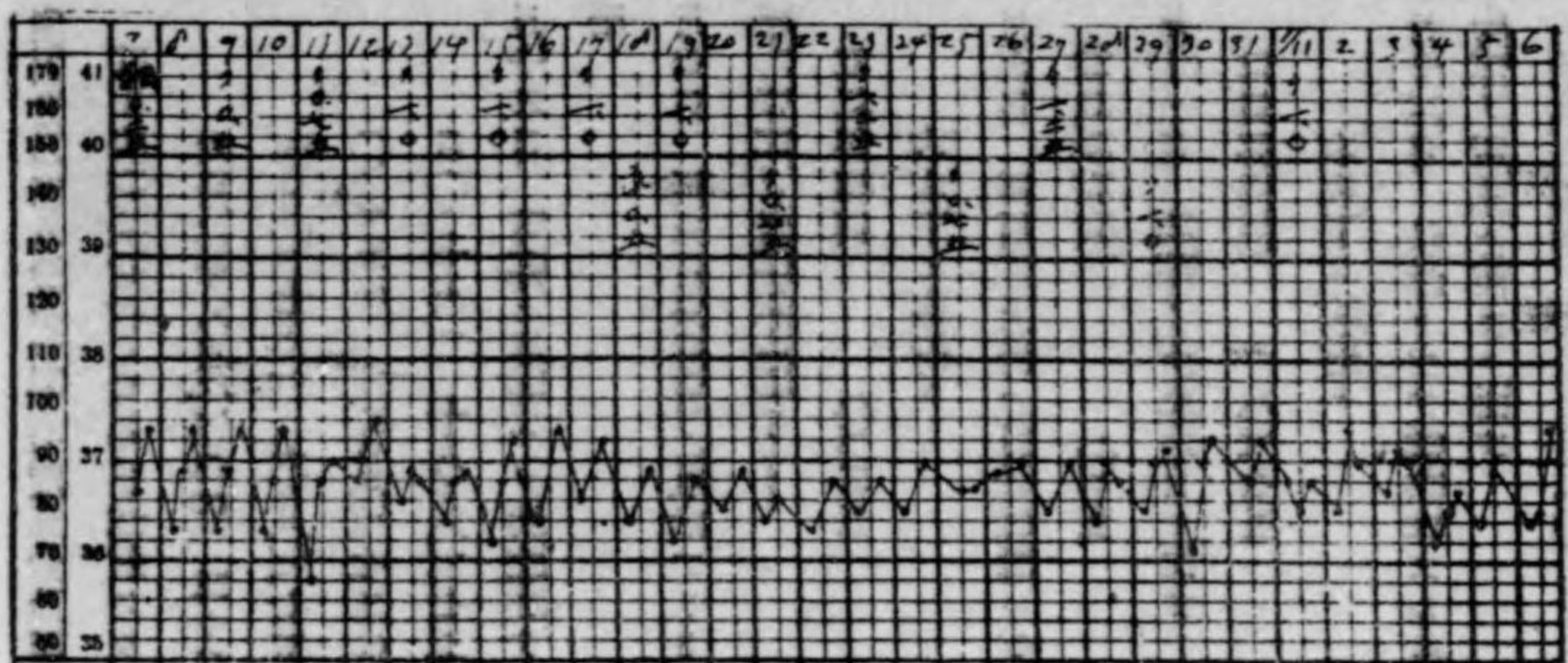
十月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左ニ無響水泡音アリ

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

五三七

圖 一 十 四 第



十月二十三日 兩肩
 胛上部ハ打音輕濁ニシ
 テ呼吸音弱ク水泡音ナ
 シ
 電氣膠様銅 一、二五
 右皮下ニ注射ス
 十月二十五日 兩背ノ
 全部ハ打音輕濁ニシテ
 呼吸音弱シ
 電氣膠様水銀 〇、七五
 十月二十七日 背部ニ
 異音アリ
 電氣膠様銅 一、二五
 右皮下ニ注射ス
 十月二十九日 兩肩胛
 上部ハ打音輕濁ニシテ
 呼吸音弱シ
 電氣膠様水銀 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月一日 兩背ノ全

部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛上部ニ無響水泡音アリ
 電氣膠様銅 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左
 肩胛上部ニ無響水泡音アリ
 電氣膠様銅 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十一月十二日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左肩胛上
 部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク且不純ナリ
 電氣膠様銅 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十一月十五日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 電氣膠様銅 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月十八日 右肩胛上部及左肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニ
 シテ呼吸音弱ク右肩胛間部中央以上ニ笛聲アリ
 電氣膠様銅 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十二日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ左ニ無
 響水泡音アリ

五三八

電氣膠様銅 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十五日 背部ニ異常ナシ
 電氣膠様銅 一、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十八日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 電氣膠様銅 一、二五
 右皮下ニ注射ス
 十二月一日 背部ノ所見ハ前日ト同シ
 電氣膠様水銀 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月三日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 電氣膠様金 〇、二五
 電氣膠様水銀 〇、二
 右皮下ニ注射ス
 十二月五日 兩肩胛上部ハ打音 濁ニシテ呼吸音弱シ
 電氣膠様銅 一、二五
 電氣膠様水銀 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十二月九日 背部ニ異常ナシ
 電氣膠様金 〇、二五
 電氣膠様水銀 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 電氣膠様水銀 〇、七五
 右皮下ニ注射ス

第六電氣膠様特殊療法

電氣膠様銅 一、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十四日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
 第二電氣膠様合劑 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十六日 兩肩胛上部ハ打音ニ異常ナク右側ハ呼吸音弱ク左
 側ニ笛聲アリ
 第二電氣膠様合劑 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ左肩胛上部
 ハ呼吸音粗烈ニシテ無響水泡音アリ他ノ變濁部ハ呼吸音弱シ
 第六電氣膠様合劑 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月二十一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左ニ笛
 聲アリ
 第六電氣膠様合劑 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十二月二十四日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左側ニ
 無響水泡音アリ
 第六電氣膠様合劑 一、〇

五三九

右皮下ニ注射ス
十二月二十六日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ水泡音
ナシ

第六電氣膠糖合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス

第七十病例 オヨ 十九歲學生

約一週日前ヨリ感冒ノ氣味ニテ咳嗽アリシガ二十九日午前六時頃
ニ咯血アリ次テ七時ト九時頃トニ咯血アリ咯血ノ總量約一合位ア
リシト越テ三十一日午後一時頃更ニ咯血アリ爾來咯痰ニ血液ヲ混
ジ今ニ止マズ本日醫師ハ「アドレナリン」ノ皮下注射ヲ行ヘリト
大正八年十一月三日 診スルニ兩胸ノ前後全部ハ打音輕濁ニシテ
呼吸音弱シ脈力弱シ
診斷 間質性肺炎

處方
實斐多利新浸(一、〇)一〇〇〇ストロファンツス丁液 一、〇
杏仁水 四、〇 單舍利別 七、〇
右一日六回分服
鹽酸モルロネ 〇、〇一 乳糖 一、〇
右爲三包一日三回分服

十二月二十九日 背部ニ異常ナシ
第六電氣膠糖合劑 一、〇
右皮下ニ注射ス
以下省略ス

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五
右皮下ニ注射ス

十一月五日 兩側ノ前胸部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱ク兩背
ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
處方

佐氏煎(四、〇)一〇〇〇 杏仁水 四、〇
苦味丁液 二、〇
右一日三回分服
健胃丸 六粒
右一日三回分服
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
十一月七日 一昨日來血痰ナシ起座スルト眩暈アリ夏季休暇前

リ脚氣ニ罹リシト兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ上
下肢筋ニ握痛アリ 内服藥各前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
十一月八日 夜分ニ咳嗽多シト兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸
音弱シ脾腫大ス
處方

佐氏煎(四、〇)一〇〇〇 臭素加里 一、五
ストロファンツス丁液 一、〇 杏仁水 四、〇
單舍利別 五、〇
右一日三回分服

健胃丸 前方
鹽酸規尼混 〇、五
右一包量與二包朝夕一包頓服

十一月九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
内服藥各前方
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
十一月十一日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ
内服藥各前方

續々間質性肺炎特殊療法

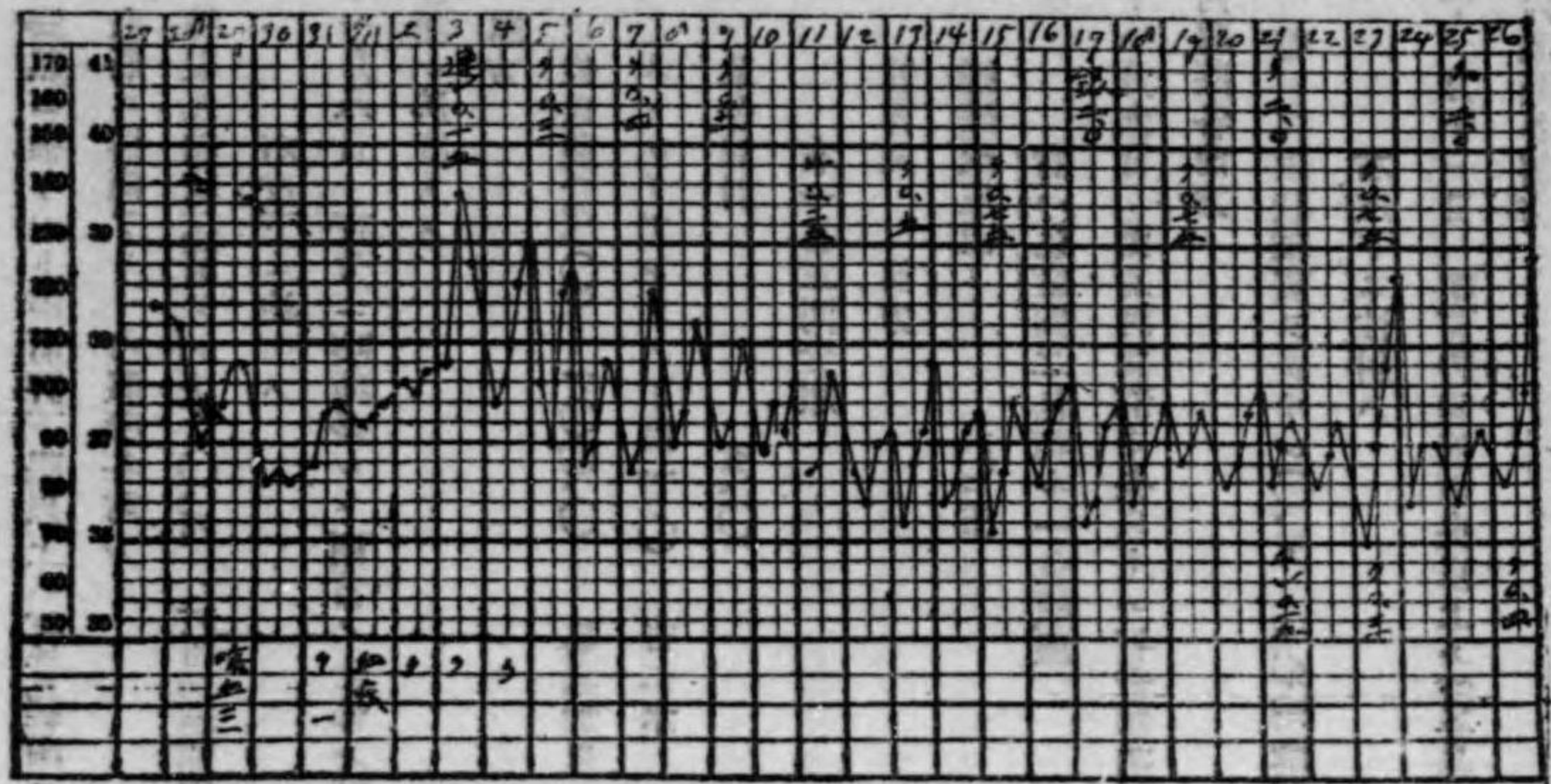
ルエスチン 〇、二五 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス
十一月十三日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ
鹽規ノ服用ヲ休止シ
佐氏煎健胃丸各前方ヲ與フ
ルエスチン 〇、五 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス

十一月十五日 背部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方
ルエスチン 〇、七五 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス

十一月十七日 背部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥各前方
電氣膠糖 二、〇 一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三
右皮下ニ注射ス

十一月十九日 盜汗アリト脈結滯ス兩背ノ所見前日ト同シ脾腫大
ス
處方
實斐多利新浸(〇、五)一〇〇〇 ストロファンツス丁液 一、〇
單舍利別 五、〇
右一日三回分服
健胃丸 前方

圖 二 十 四 第



鹽酸規尼理 〇、五
 右一包量朝
 夕一包頓服
 ルエスチン 〇、七五
 一%硝酸斯篤
 畢規尼理液 〇、三
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十一日
 兩背ノ全部ハ打音
 輕濁ニシテ呼吸音
 弱シ脾腫大ス内服
 藥各前方
 電氣膠樣水銀 二、〇
 感作腸壁扶斯ヲ
 タチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス
 十二月二十三日 發汗アリト背部ノ所見前日ト同シ脾腫大ス
 處方
 實斐液劑 健胃丸 各前方
 硫酸アトロロ子丸 〇、〇〇五
 右臨臥時頓服
 ルエスチン 〇、七五 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、三
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十五日 兩肩胛下隔以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾
 尚ホ少シク腫大ス
 處方
 佐氏煎(四、〇) 一〇〇、〇 苦味丁糖 二、〇
 右一日三回分服
 健胃丸 亞篤魯丸 各前方
 電氣膠樣水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服
 藥各前方
 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、四
 右皮下ニ注射ス

十一月二十七日 背部ノ所見ハ前日ト同シ脾腫ナシ内服藥各前方
 ルエスチン 〇、七五
 右皮下ニ注射ス
 十一月二十九日 背部ノ所見ハ前日ト同シ 内服藥前方
 電氣膠樣水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 十二月一日 背部ノ所見ハ前日ト同シ
 電氣膠樣水銀 〇、二五 電氣膠樣銅 〇、二五
 右皮下ニ注射ス
 十二月三日 右肩胛下隔以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服
 藥前方
 電氣膠樣水銀 〇、五 電氣膠樣銅 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月五日 右背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ス 内服
 藥前方
 電氣膠樣鐵 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ス 内
 服藥前方
 電氣膠樣水銀 〇、七五 電氣膠樣銅 〇、五

右皮下ニ注射ス
 十二月九日 右背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
 内服藥前方
 電氣膠樣鐵 〇、七五 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、二
 右皮下ニ注射ス
 十二月十一日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
 内服藥前方
 電氣膠樣水銀 〇、七五 電氣膠樣銅 〇、七五
 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、四
 右皮下ニ注射ス
 十二月十三日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス
 内服藥前方
 第三電氣膠樣合劑 〇、二五 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十五日 右背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ
 内服藥前方
 第三電氣膠樣合劑 〇、五 感作腸壁扶斯ヲクタン 〇、五
 右皮下ニ注射ス
 十二月十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナシ
 内服藥前方

續々間質性肺炎特殊療法

第六電氣膠樣合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十二月十九日 右肩胛間部上三分ノ一以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク左肩胛上部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱クシテ一二ノ水泡音アリ脾腫ナシ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十二月二十一日 右背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス内服藥前方

感作腸空扶斯ワクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

注射後一時間位ヲ經テ寒戰ニ次テ發熱セリト

十二月二十三日 右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス脈不正ニシテ力弱シ

處方

佐氏煎劑 前方

硝酸斯篤里規尼涅丸 〇、〇〇六

右一日三回二分服

感作腸空扶アクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス 注射後寒戰アリ

五四四

十二月二十五日 右肩胛上隅以下ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス内服藥前方

感作腸空扶斯ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

十二月二十七日 兩鎖骨上高ト兩肩胛上部トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾ノ腫大ハ消失ス

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月二十九日 兩肩胛上部ハ打音異常ナクシテ呼吸音弱シ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十二月三十一日 胸部ノ所見ハ前日ト同シ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

大正九年一月三日 右背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月五日 背部ニ異常ナシ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月七日 背部ニ異常ナシ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一月九日 背部ニ異常ナシ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

三月二十三日退院歸國ス

右皮下ニ注射ス

一月十一日 背部ニ異常ナシ内服藥前方

第六電氣膠樣合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

中略

以上數例ニ示スガ如ク諸種ノ電氣膠樣合劑ハ間質性肺炎乃至肺癆病者ヲ治スルノ效アルガ如クナリト雖モ他ニ於テハ這般ノ合劑ニテハ毫モ治セザル所ノ病症アリ而シテ其治セザル所ノ病症タルヤ其病症ノ重惡ナルハ勿論ナリト雖モ吾人ハ其病症ノ重惡ナルガ爲ニ之ヲ不明ナリトシテ傍觀ス可キニ非ズ既ニ從來殆ド不治ナルガ如クニ人ヲシテ思ハシメシ所ノ肺癆病者ハ短日間ニ本療法ニ據リテ治スルアリ故ニ本療法ニ據リテ治セザル所ノ病症モ或ハ其病症ヲ精査シテ發熱ノ原ヲ索メ或ハ電氣膠樣製劑ヲ撰擇シ或ハ電氣膠樣製劑ヲ混用スルノ分量ヲ按排シテ其宜シキヲ得ルニ至レバ或ハ其不治ナル所ノ病症ヲシテ可治ナル病症ト爲シ得ルモノナルヤモ亦知ル可カラズ吾人ノ難治ノ病者ニ對シ向後ニ究ム可キハ叙上ノ諸點ナリトス然リ而シテ這般ノ混合劑ヲ使用スルニ當リテヤ從來ノ電氣膠樣製劑ノ含有量ノ稀薄ニシテ各種ノ電氣膠樣製劑ノ有效量ヲ合一スルハ其注射量ノ多クシテ皮下ノ使用ニ不便ヲ感ズルコト尠ナカラザルノ一事ナリトス故ニ製藥業者ニ對シ五倍乃至十倍ノ濃厚ナル電氣膠樣製劑ヲ供給セラレンコトヲ希望セザルヲ得ズ

第十七章 慢性腸窒扶斯二因スル間質性肺炎

既ニ第二編窒扶斯様疾病ノ章下ニ於テ論ゼシ如クニ間質性肺炎ハ雷ニ其經過中ニ窒扶斯様疾病ニ罹患スルヲ免カル、コト能ハザルノミナラズ或ハ其急性發作ト共ニ窒扶斯様疾病ヲ併發スルアリ或ハ窒扶斯様疾病ハ其發病ノ早期ニ於テ間質性肺炎ヲ併發スルアリ之ヲ以テ肺ニ理學的變常ヲ呈スルアリテ脾臟ノ腫大乃至脾腫ト盲腸部ノ壓痛トヲ併存スル所ノ病者ヲ診スル時ニハ常ニ先ヅ窒扶斯療法ヲ施シ之ニ據リテ其脾ノ腫大ト盲腸部ノ壓痛トヲ亡失セシメ而シテ後ニ若シ肺ノ炎症ニシテ遺殘スルアレバ更ニ之ニ向テ加療スル時ハ其治療容易ニシテ而シテ其治療ノ速カナルハ蓋シ治病ノ真諦ヲ獲得セルヤヲ誇ルニ足ルモノニシテ且今春流行狀ニ發生シ世人ノ目シテ以テ流行性感胃乃至流行性感胃性肺炎トナセシ所ノ熱性病モ亦叙上ノ治則ニ據リテ加療スレバ短日内ニ之ヲ全癒セシメ得ルモノナルコトヲ驗シ得タリ故ニ窒扶斯様疾病ハ或ハ自ラ間質性肺炎ヲ惹起シ或ハ他ノ間質性肺炎ニ協働的病因タルコトアルヲ以テ間質性肺炎患者ヲ診療スルニ際シテ深ク之ニ留意セザル可カラザルモノタルハ既ニ瞭カニシテ敢テ重複シテ記載スルノ要ナキガ如シト雖モ然レドモ茲ニ論述セント欲スル所ノ病症ハ大ニ之ト其趣ヲ異ニスルモノナリトス

又本編ニテハ前キニ脾臟ノ腫大ト題シ間質性肺炎乃至肺癆患者ニ電氣膠様水銀乃至他ノ水銀劑ヲ以テ加療スルヤ數々脾腫若クハ脾腫ト盲腸部ノ壓痛トヲ來シ體温ハ之ト共ニ多少上昇シ而シテ感作腸窒扶斯わくちんノ微量ヲ注射スレバ容易ニ脾腫乃至盲腸部ノ壓痛ノ亡失スルト共ニ其熱候ノ下降スルコトアルヲ以テ斯病ノ治

療中ニハ常ニ脾腫ニ注意セザル可カラザルモノナルコトヲ論ジタリキ然リ而シテ這般ノ脾腫乃至發熱ハ人爲的ニシテ即チ間質性肺炎乃至肺癆病者ニシテ偶々腸窒扶斯菌攜帶者ナル時ハ電氣膠様水銀ハ腸管内ニ移行シ該菌ヲ溶解シ發病素ヲ化生シ而シテ其發病素ノ腸壁ヨリ吸收セラル、時ハ爾ク脾腫ト體温ノ上昇トヲ發スルモノナルヲ思ハシムルモノニシテ吾人ハ之ニ據リテ所謂腸窒扶斯ナル病症ハ腸窒扶斯菌ノ腸管内ニ於テ溶解スルニ因リテ發スル所ノモノナルヲ理解スルニ足ルト共ニ所謂保菌者ニ於テハ其攜帶スル所ノ腸窒扶斯菌ハ常時ニ於テハ宿主ニ無害ナルモノ一朝其菌ノ多少ノ溶解スル或作用ノ偶發スルニ於テハ復タ多少ノ有害作用ヲ呈スルモノナルヲ知得セシムルニ足ルモノナリト謂フヲ得ベシ

所謂腸窒扶斯ナル病症ハ從來一般ニ之ヲ急性傳染病ナリトナシ急性ニ發病シ略ボ定型的ノ病狀ト經過トヲナシ時トシテハ多少其病狀ノ異ナルモノアリト雖モ概ネ急性ノ經過ヲ以テ治ニ歸シ而シテ一ビス病ヲ經過セシモノハ稍完全アル免疫性ヲ獲得スルヲ以テ爾後再ビス病ニ罹患スルモノハ殆ド稀中ノ稀ナルガ如ク二人ヲシテ思ハシムルモノナリトス之ヲ以テ始メヨリ腸窒扶斯菌攜帶者ナルカ又ハ一ビス病ヲ經過シ而シテ後ニ其保菌者タリシモノハ縱令其保有スル所ノ腸窒扶斯菌ハ病原性ヲ有スルモ宿主ハ之ガ爲ニ茶毒セラレ、コトナク無害ニ經過スルモノナリトハ亦確ク世人ノ信ゼシ所ノモノナリトス然ルニ間質性肺炎ニ對スル水銀劑ノ加療ハ全然其所信ノ誤謬ナリシヲ證明セラレ且間質性肺炎乃至肺癆病者ニ對スル治療的研究ノ進ムニ從ヒ這般ノ所信ハ亦全然破壊セラレテ其誤謬ナリシヲ自覺スルト共ニ新ニ慢性腸窒扶斯及ビ之ニ因スル間質性肺炎ノ確

實ニ存在スルモノナルコトヲ認識セザルヲ得ザルニ至レリ乞フ一二ノ病例ヲ示サン
第七十一病例 サセ 十七歳男 商家小僧

大正九年一月三日 年賀ノ爲ニ來ル昨年九月健康診査ヲ行ヒシ際
ニハ無病ナリシニ此日顔貌惡キヲ以テ診セシニ兩背ノ全部ハ打音
輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大スルモ盲腸部ニハ壓痛ナシト云フ昨
年十二月十三日頃感冒ノ氣味ナリシガ二十九日初メテ醫ノ診ヲ受
ケ四日間服藥セリ昨今何等病苦ヲ感セズト依テ主家ニ暇ヲ乞ヒ
月七日入院セシメタリ

診斷 間質性肺炎脾腫

處方

佐氏煎(八〇) 二〇〇、〇 苦味丁鐵 三、〇

右一日三回二分服

感作腸空扶斯アクチン〇、二 第三電氣膠糖合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

一月九日 病狀依然タリ 内服藥前方

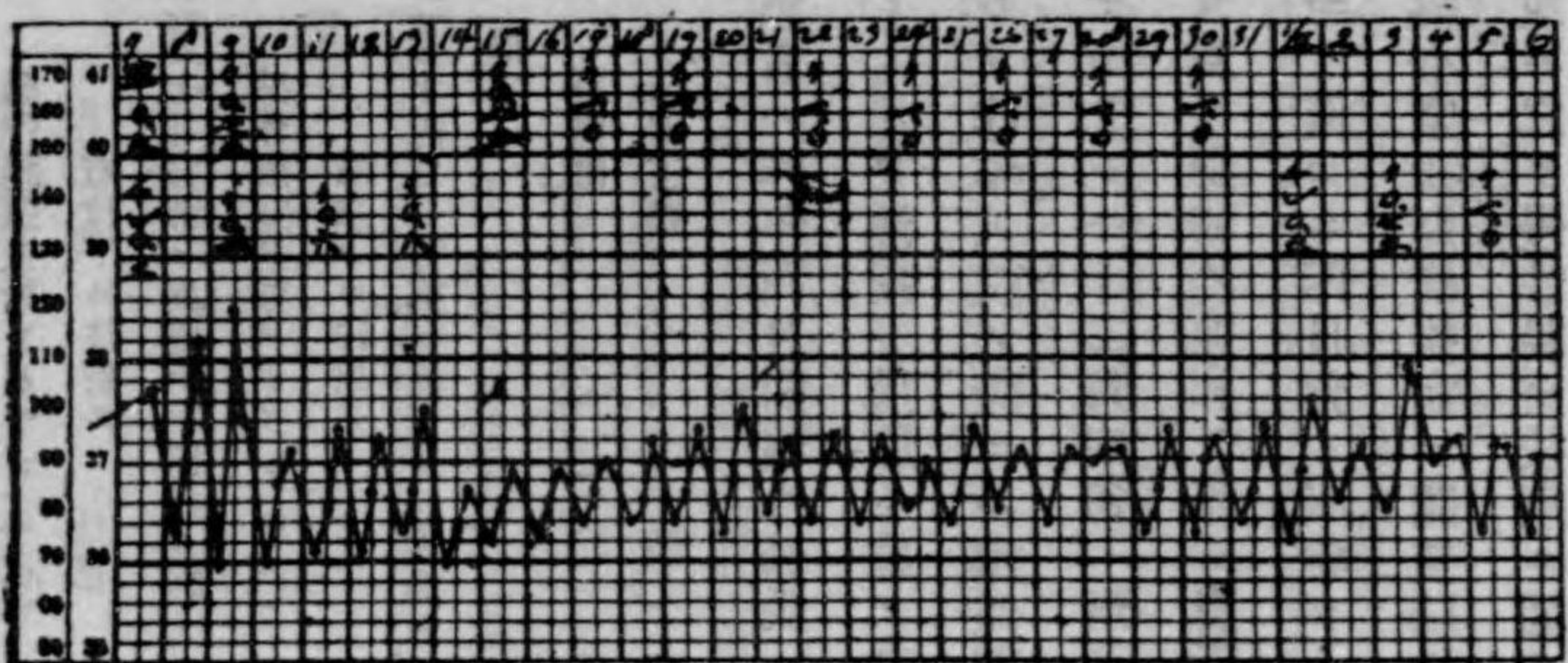
感作腸空扶斯アクチン〇、四 第三電氣膠糖合劑〇、七五

右皮下ニ注射ス

一月十一日 病狀依然タリ 内服藥前方

感作腸空扶斯アクチン〇、六

圖 三 十 四 第



續々間質性肺炎治療法

第三電氣膠糖劑

一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十四日 背部ニ

異常ナシ 内服藥前方

第三電氣膠糖劑

一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十六日 兩胸ノ

前後全部ハ打音輕濁ニ

シテ呼吸音弱シ 内服

藥前方

第三電氣膠糖合劑

一、〇

右皮下ニ注射ス

一月二十八日 背部ニ

異常ナシ 内服藥前方

第三電氣膠糖合劑

一、〇

右皮下ニ注射ス

圖 四 十 四 第



一月三十日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾亦腫大ス
内服藥前方

第三電氣膠糖劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月一日 兩背ノ全部

ハ打音輕濁ニシテ呼吸

音弱シ脾腫大ス 内服

藥前方

感作腸空扶斯アク

チン 〇、五

右皮下ニ注射ス

二月三日 兩背ノ全部

ハ打音輕濁ニシテ呼吸

音弱シ脾腫大ス 内服

藥前方

感作腸空扶斯アク

チン 〇、七五

右皮下ニ注射ス

二月五日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾尙々腫大ス
内服藥前方

チン

感作腸室扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月七日 背部ニ異常ナシ脾尙ホ腫大ス 内服藥前方

感作腸室扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月十四日 背部ニ異常ナシ脾尙ホ腫大ス

處方

稀鹽酸

二、〇 苦味丁幾

沃度丁幾

十滴 薑根丁幾

一、〇

二月二十一日 退院歸宅セシム

五五〇

橙皮舍利別

一〇、〇 メンタ水

水 二〇、〇

右一日三回二分服

感作腸室扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス

二月十六日 背部ニ異常ナシ脾尙ホ少シク腫大ス 内服藥前方

二月十八日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 内服藥前方

二月二十日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ 内服藥前方

本患者ハ昨年四月間質性肺炎ニテ入院セシコトアリ(第五十一病例参照)其際ニモ治療ノ末期ニ感作腸室扶斯
わくちんヲ注射シ脾腫ト肺ノ理學的變常トヲ亡散セシメシコトアリタリ依テ思フニ本患者ハ室扶斯菌攜帶者
ニシテ昨年入院ノ際ニハ水銀劑ノ使用ニヨリテ脾腫ト肺ノ理學的變常トヲ起シ九月歸京セシ際ニハ胸部ニ異
常ナカリシモ十二月中旬ニ至リ或不明ノ原因ハ其保有スル所ノ室扶斯菌ヲシテ多少ノ病原作用ヲ誘起セシメ
シガ爲ニ身神ノ違和ヲ來シ患者ハ之ヲ感冒ナリト自覺スルモ敢テ就臥スル底ニアラザルヲ以テ加療セズ月末
ニ至リ僅カニ四日分ノ服藥ヲナシ而シテ予ノ許ニ來リテ脾腫ト間質性肺炎ノ存在スルヲ發見セラル、ガ如キ
ハ縱令室扶斯様疾病ニ間質性肺炎ノ併發セシモノナリト爲スモ尙ホ病狀ノ一般腸室扶スト異リテ緩慢ナリシ
ハ或ハ之ヲ慢性腸室扶スニ因ラル間質性肺炎ナリト推定シ得ベキモノニハ非ザルカ

第七十二病例 サイ 八十五歳女

大ナル既往ハ之ヲ略ス從來健康ナリシニ昨今數々肩ノ凝テ訴ヘ且
時々發熱スルコトアルモ年齢ノ爲ナルカ之ヲ自覺スルコト少ナキ
ヲ以テ一日三回檢温スルコトニ定メシモ時トシテ檢温スルヲ嫌フ
テ應ゼザルコトアリ故ニ其意ニ任セテ務メテ檢温スルコトトナシ
メ從來便秘ノ癖アリ

大正八年一月十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

一月十九日 背部ノ所見ハ前日ニ同シ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三五

右皮下ニ注射ス

一月二十日 昨夜ハ數回下痢シ且便ニ血液ヲ混セリト兩背全部ハ
打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ
壓痛アリ

處方

稀鹽酸

二、〇 苦味丁幾

沃度丁幾

十滴 薑根丁幾

橙皮舍利別

一〇、〇 メンタ水

一〇、〇

續々間質性肺炎特殊療法

第五十五圖



右一日三回二分服

ザロール

四、〇 吐根阿片散

乳糖 二、〇

右散六包トナシ

日三回二分服

感作腸室扶斯ワク

チン

〇、七五

右皮下ニ注射ス

一月二十二日

昨日わくちん注射

部ハ發赤ス右肩胛

下隅以上ハ打音ニ

少シク抵抗アリ呼

吸音少シク弱シ脾

腫ナク盲腸部ニ少シク壓痛アリ下痢ナシ

處方

五五一

右朝夕下腹部ニ塗布ス
六月六日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾ハ腫大シ右季肋部ニ壓痛アリ

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二
六月八日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾ハ腫大シ右腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方
稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴
苦味丁幾 四、〇 薑根丁幾 一、〇
橙皮舍利別 一、〇、〇 メンキ水 一、〇、〇
水 二、〇、〇

右一日三回二分服
ザロール 四、〇 乳糖 二、〇

右散六包トナス一日三回二分服
鹽酸キニーネ 〇、五

右一包量朝夕一包頓服
感作腸空扶斯ワクチン 〇、七五

右皮下ニ注射ス
六月九日 右肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾ハ腫大シ右腸部ハ打音ニ異常ナクシ 壓痛アリ

ア、内服藥各前方
感作腸空扶斯ワクチン 一、三
右皮下ニ注射ス
六月十八日 背骨ニ異常ナク脾腫ナク右腸部ニ壓痛アリ 内服藥各前方
六月二十日 同上
六月二十一日 背骨ニ異常ナク右腸部ニ尙ホ壓痛アリ脾亦腫大ス

處方
鹽沃合劑ザロール劑 各前方
鹽酸キニーネ 〇、五
右一包量與二包毎日一包頓服

以下中略
七月二日 亦肩ノこるノ訴ニ依テ診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

處方
稀鹽酸 二、〇 苦味丁幾 四、〇
赤酒 三、〇、〇 薑根丁幾 一、〇
橙皮舍利別 一、〇、〇 水 二、〇、〇

右一日三回二分服
特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

五五三

ザロール 四、〇
乳糖 二、〇
右散六包トナス一日三回二分服

感作腸空扶斯ワクチン 一、〇
右皮下ニ注射ス

一月二十四日 右腸部ハ尙ホ少シク壓痛アリ内服藥各前方
感作腸空扶斯ワクチン 一、〇

右皮下ニ注射ス
一月二十六日 内服藥各前方ヲ與フ

一月二十八日 背骨ニ異常ナク右腸部壓痛ナシ
三月一日 背骨ニ異常ナシ 以下中略

大正八年六月五日 四月三日以降ハ檢温セザリシニ此日晝頃少シク吐アリ次テ下痢シ腹痛アリ依テ檢温セシニ三十九度二分アリト取り敢ヘズ左方ヲ與フ

處方
鹽酸キニーネ 〇、五
右一包量與四包朝夕一包頓服

佐氏塗布劑
鹽酸キニーネ 〇、五
右一日三回二分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三五
右皮下ニ注射ス

六月十日 脾腫ナク右腸部ハ尙ホ壓痛アリ
處方
鹽沃合劑ザロール劑 各前方
鹽酸キニーネ 〇、五
右一包量毎日一包頓服

感作腸空扶斯ワクチン 一、〇
右皮下ニ注射ス

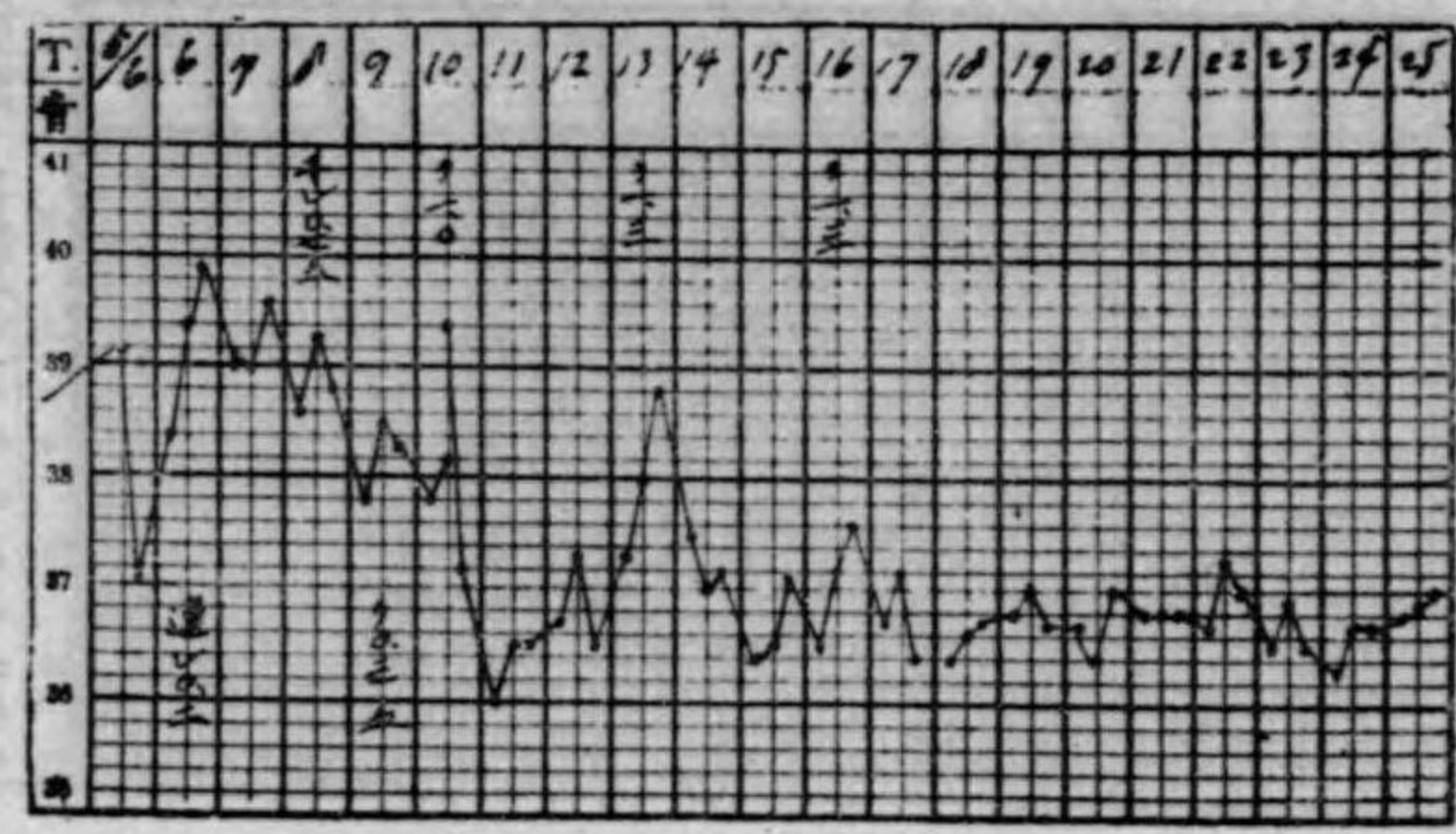
六月十三日 背骨ニ異常ナク脾腫ナシサレド右腸部ニハ尙ホ壓痛アリ鹽規ノ服用ヲ休止シ水散各前方ヲ與フ

感作腸空扶斯ワクチン 一、三
右皮下ニ注射ス

六月十六日 背骨ニ異常ナク脾腫ナシサレド右腸部ニハ尙ホ壓痛

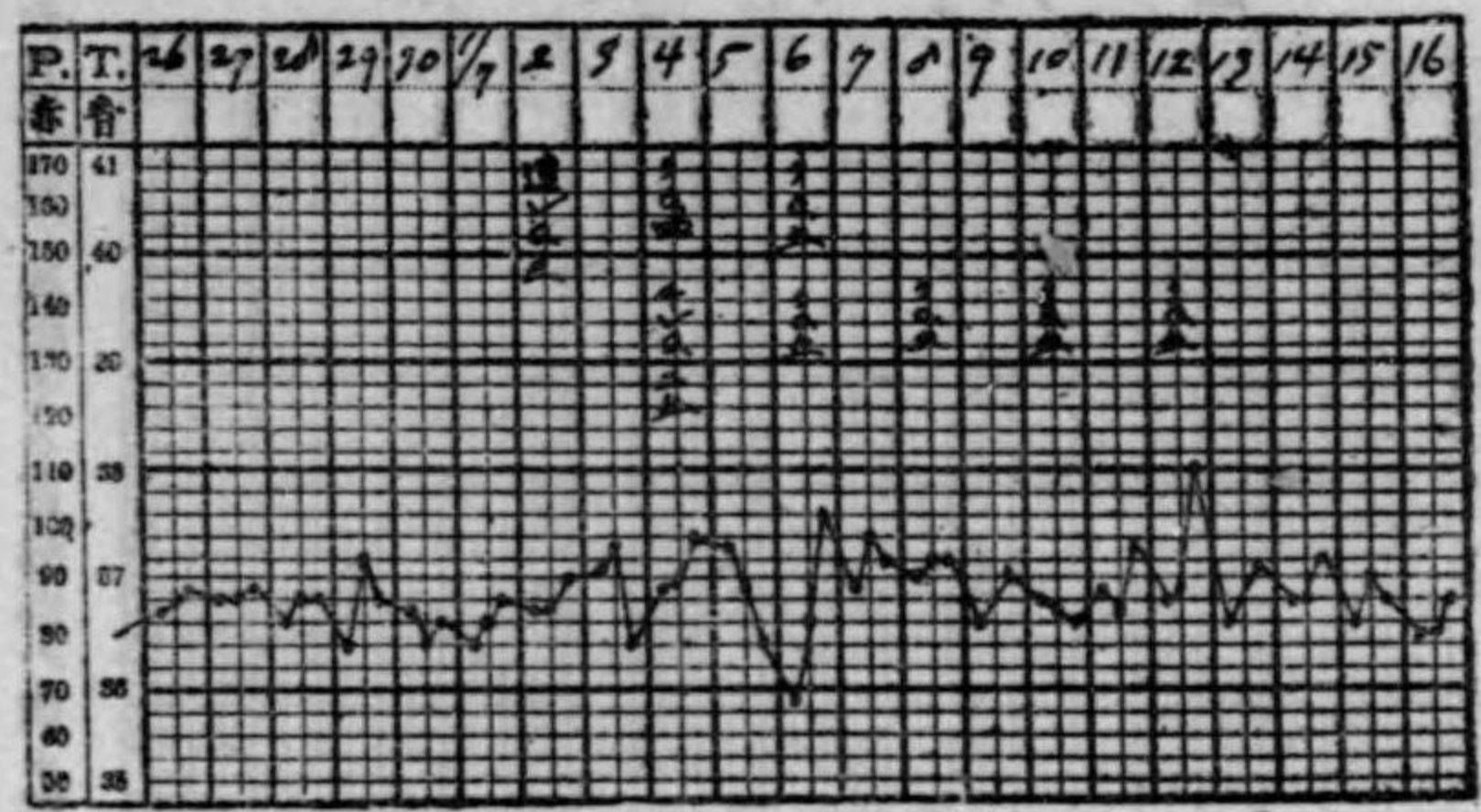
續々間質性肺炎特殊療法

圖六十四第



右皮下ニ注射ス
六月十六日 背骨ニ異常ナク脾腫ナシサレド右腸部ニハ尙ホ壓痛

圖七十四第



七月四日 右背全部ト左肩胛間部中央以上トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大ス

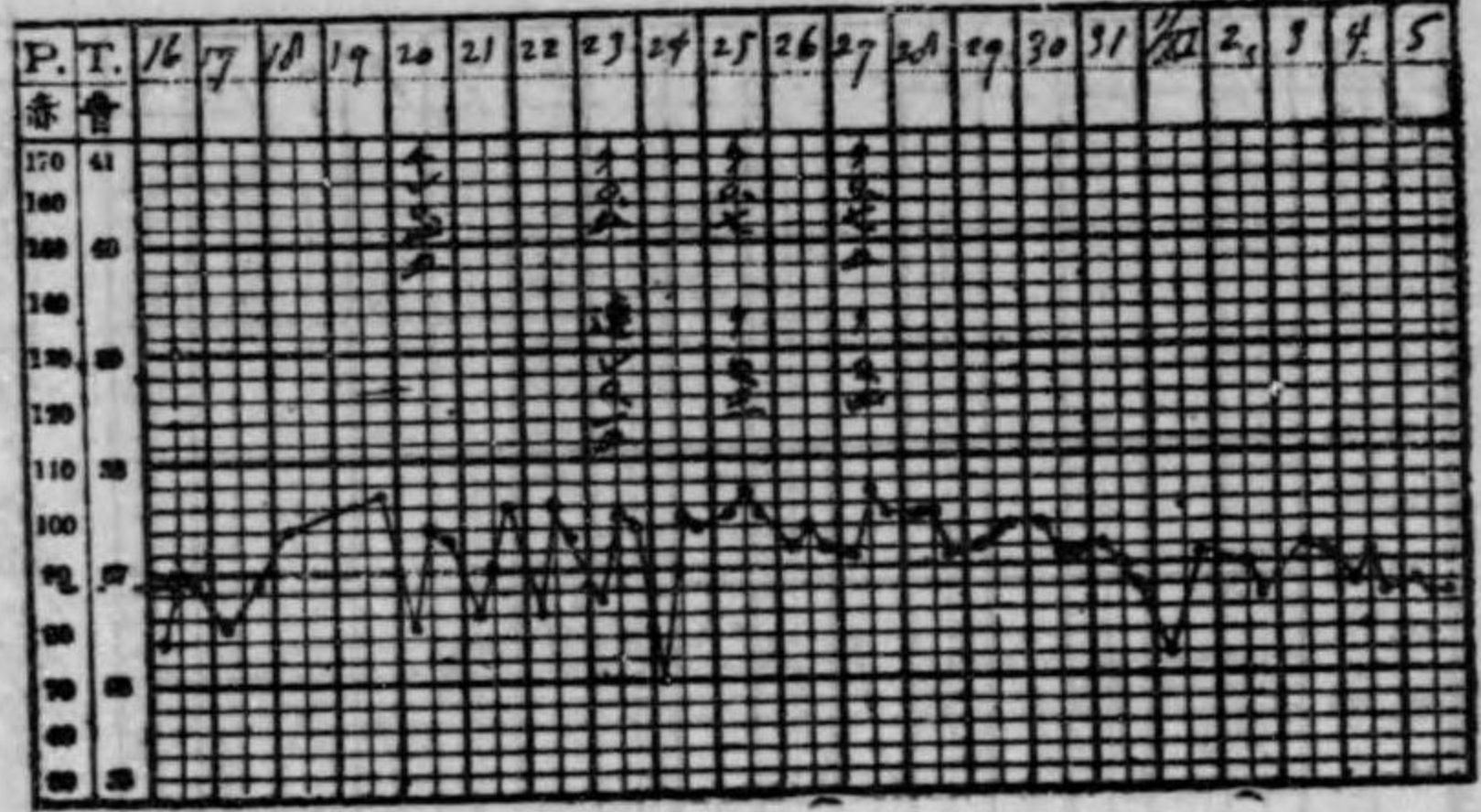
右皮下ニ注射ス

處方

- 鹽苦合劑 前方
- ザロール 四、〇
- 乳糖 二、〇
- 右散六包トナス一日三回二分服
- 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、二五
- 右皮下ニ注射ス
- 七月六日 背部ニ異常ナシ脾腫尙ホ存ス 内服藥各前方
- 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、五

五五四

圖八十四第



十月二十三日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大シ

右皮下ニ注射ス

感作腸室扶斯ワクチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月二十七日 兩背全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫ナク盲

讀々間質性肺炎特殊療法

- 盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ内服藥前方
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
- 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五
- 右皮下ニ注射ス
- 十月二十五日 兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナク呼吸音弱シ脾腫ナク盲腸部ノ壓痛亦ナシ内服藥前方
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、七
- 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、三

- 右皮下ニ注射ス
- 七月八日 背部ニ異常ナシ脾腫尙ホ存ス 内服藥各前方
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
- 右皮下ニ注射ス
- 七月十日 背部ニ異常ナシ脾腫尙ホ存ス 内服藥各前方
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
- 右皮下ニ注射ス
- 七月十二日 背部ニ異常ナシ脾腫亦ナシ 内服藥各前方
- 感作腸室扶斯ワクチン 〇、五
- 右皮下ニ注射ス
- 七月十四日 背部ニ異常ナシ脾腫亦ナシ 以下中略
- 大正八年十月二十日 昨日來寒氣アリ鼻水出テ頭痛咳嗽アリト依テ診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ
- 處方
- 稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴
- 苦味丁幾 四、〇 薑根丁幾 一、〇
- 橙皮舍利別 一、〇、〇 メンタ水 一、〇、〇
- 水 二〇〇、〇
- 右一日三回二分服

腸部ニ壓痛ナシ 内服藥前方

感作腸室扶斯ワクチン 〇、八 特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

十月二十九日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月三十一日 兩肩胛間部以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音微弱ナリ 内服藥各前方

電氣膠樣水銀 〇、五

右皮下ニ注射ス

十一月二日 兩背ノ全部ハ打音ニ異常ナクシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月四日 兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

電氣膠樣水銀 二、〇

右皮下ニ注射ス

十一月六日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

五五五

電氣膠様水銀 〇、七五

右皮下ニ注射ス

十一月八日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ内服藥前方



電氣膠様水銀 二、〇
 右皮下ニ注射ス
 十一月十日 右肩
 脚上部ハ打音輕濁
 ニシテ呼吸音少シ
 ク粗烈ナリ脾少シ
 ク腫大ス 内服藥
 前方
 感作腸室扶斯ヲ
 クチン 〇、二五
 右皮下ニ注射ス
 十一月十二日 背
 部ニ異常ナク脾腫

圖 九 十 四 第

ナシ 内服藥前方

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

五五六

十一月十七日 背部ニ異常ナシ 以下中略

十二月四日 頃日来不正ノ熱候アリ此日診スルニ兩肩胛下隅以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方
 稀鹽酸 二、〇 苦味丁幾 四、〇
 薑根丁幾 一、〇 橙皮舍利別 一〇、〇
 水 二〇〇、〇

右一日三回二分服

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

十二月六日 兩肩胛上隅以下ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ノ壓痛少シ減ズ 内服藥前方

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、四特製連鎖狀球菌ヲクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

十二月八日 兩肩胛上隅以下ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫既

ニ亡失シ盲腸部ノ壓痛モ亦ナシ 内服藥前方

十二月十二日 背部ニ異常ナシ 内服藥前方

十二月十四日 背部ニ異常ナシ

斯ノ如ク本病者ハ其一年間ニ數々不正ノ發熱ヲ致シ且發熱ト同時ニ肺ニ理學的變狀ト脾臟ノ腫大及ビ盲腸部ノ壓痛トヲ呈シ而シテ感作腸室扶斯わくらんヲ注射スレバ這般ノ諸症ハ多クハ亡失ス過去既ニ然リ未來モ亦斯ク發病スルモノナルヲ豫期スルヲ得ベシ然ル若キハ之ヲ慢性腸室扶斯ニ因スル間質性肺炎ト診定シ得ザルニ非ザルモノナルカ從來小兒及ビ老人ノ腸室扶斯ハ非定型性ノモノアルヲ説ク故ニ又叙上ノ病症ハ或ハ之ヲ老人性腸室扶斯ト爲シ得ベキガ如シト雖モ然レドモ壯者ニシテ尙ホ之ニ類スルノ症アルナリ老人性腸室扶斯ヲ以テ論ズベキモノニ非ザルヤ瞭カナリ

第七十三病例 ス イ 二十八歳男 農

昨今少シク倦怠ノ感アリト

大正九年六月十日 診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

處方

稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴
 苦味丁幾 四、〇 薑根丁幾 一、〇
 橙皮舍利別 一〇、〇 メンタ水 一〇、〇
 水 二〇〇、〇

右一日三回二分服

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、二、五

續々間質性肺炎特殊療法

右皮下ニ注射ス

六月十二日 胸腹部ニ異常ヲ認メズ

七月二日 昨今亦少シク倦怠アリト診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音微弱ナリ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常フクシテ壓痛アリ 鹽苦沃劑前方ヲ與フ

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

七月五日 諸症前ノ如シ 鹽苦沃劑前方ヲ與フ

感作腸室扶斯ヲクチン 〇、五

右皮下ニ注射ス

五五七

七月七日 胸腹部ニ異常ナシ

八月二十六日 昨今少シク倦怠ヲ覺ユト診スルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ 鹽苦沃劑前方ヲ與フ

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、二五
右皮下ニ注射ス

第七十四病例 カマ 二十歳女 農

本年一月中旬頃ヨリ晩時ノ體温三十七度二三分アリ且腹痛アリテ一日四五回ノ下痢アリ下痢ハ五月頃治セシモ七月頃ヨリ頭重アリ肩凝リ腰痛アリテ往再治セズト

大正九年九月十五日 診ス右背ノ全部ト左肩胛上隅以下トハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ腹部ニ異常ナシ

診斷 間質性肺炎

處方

佐氏煎(八、〇)ニ〇〇、〇 苦味丁幾 三、〇

右一日三回二日分服

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五

右皮下ニ注射ス

九月十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ兩

八月三十日 胸腹部ニ異常常ナシ

九月二十五日 二日前ニ少シク熱感アリ爾來倦怠去ラスト診ズルニ兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱ク脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナク壓痛アリ 内服藥前方

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、二五特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、一五
右皮下ニ注射ス

側ノ脾腸筋ニ握痛アリ患者云フ足たるしト 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、二

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、三

右腎筋内注射

九月十九日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱キモ濁性少シク減ズ脾腫大ス 内服藥前方

特製連鎖狀球菌ワクチン 〇、四五感作腸壁扶斯ワクチン 〇、四

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、四五

右腎筋内ニ注射ス

九月二十一日 背部ノ所見ハ前ニ同シ脾腫大ス 内服藥前方

内服藥取方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、四

右腎筋内注射ス

九月二十七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、四

右腎筋内ニ注射ス

九月二十九日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

内服藥前方

電氣膠樣鐵 〇、五

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、四

右皮下ニ注射ス

十月一日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 内服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

續々間質性肺炎特殊療法

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 〇、五

右皮下ニ注射ス

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、五

右腎筋内ニ注射ス

九月二十三日 背部ノ所見ハ前ト同シ脾腫大ス

處方

稀鹽酸 二、〇 沃度丁幾 十滴

苦味丁幾 四、〇 薑根丁幾 一、〇

橙皮舍利別 一〇、〇 メンタ水 一〇、〇

水 二〇〇、〇

右一日三回二日分服

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 〇、七五

右皮下ニ注射ス

感作腸壁扶斯ワクチン 〇、六

右皮下ニ注射ス

一%硝酸斯篤里規尼混液 〇、五

右腎筋内ニ注射ス

九月二十五日 兩肩胛間部中央以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ

十月三日 兩肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 服藥ハ前方ヲ與フ國光製藥株式會社電氣膠樣銅製品ス不得止銅片もりぞーるヲ用ユ製品ニ甚シキ相違アリ

銅片もりぞーる 二、五

右皮下ニ注射ス

十月五日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 內服藥前方

第二電氣膠樣鐵水銀合劑 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月七日 兩背ノ全部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 內服藥前方

電氣膠樣鐵 一、〇

右皮下ニ注射ス

十月九日 兩肩胛間部棘以上ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ 內服藥前方

〇、〇五電氣膠樣銅 一、五

右皮下ニ注射ス

十月十日 少シク頭痛スト脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛強シ

感作腸室扶斯ワクタン 〇、二五

右皮下ニ注射ス

十月十一日 右肩胛上部ハ打音輕濁ニシテ呼吸音弱シ脾腫大シ盲

右皮下ニ注射ス

十月十四日 臍ノ少シク上方ニ自發痛アリ且歩行スレバ響テ痛ミ

アトト背部ニ異常ナク脾腫大シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

感作腸室扶斯ワクタン 〇、五

右皮下ニ注射ス

十月十五日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシ肝腫大ス

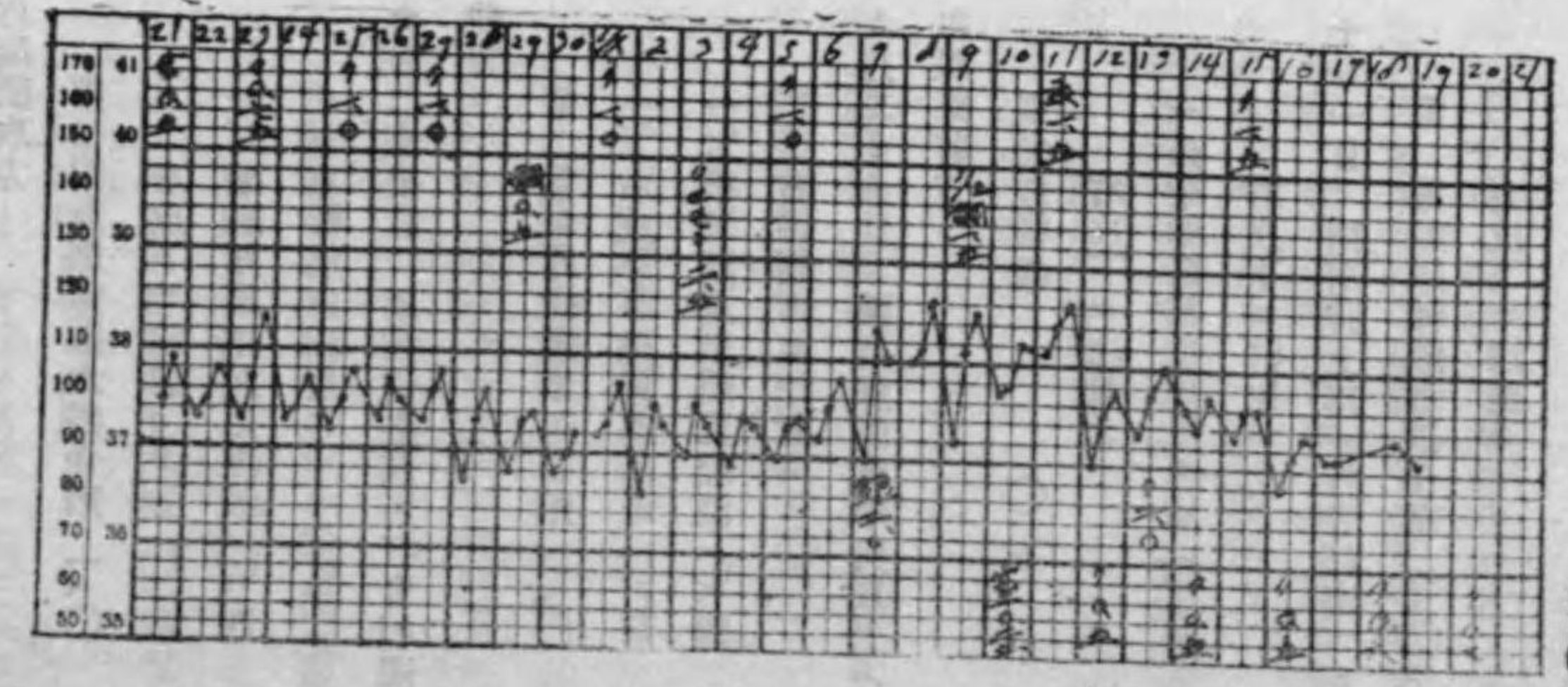
處方

鹽苦沃劑 前方

斯ノ如ク脾臟ノ腫大ト共ニ背部ニ理學的變常ヲ呈シ其際無熱ナルアリ多少ノ熱候ヲ伴フアリ而シテ感作腸室扶斯わくちんノ皮下注射ニ由リテ諸症容易ニ亡失シ須臾ニシテ復タ反覆發症ス爾ク感作腸室扶斯わくちんノ皮下注射ニ據リテ治癒スル所ノ症狀ハ假令腸室扶斯タル定型的ノ症狀ヲ呈セザルモ現時ノ細菌學的知識ニテハ吾人ハ之ヲ腸室扶スト認定セザル可カラズ然レドモ其反覆シテ發症スルニ據リテ觀レバ蓋シ腸室扶スノ免疫ナルモノハ從來世人ノ信ゼシガ如クニ確實ナル免疫性ノ成立スルニ非ズシテ一ビ腸室扶斯病ヲ經過スルカ又ハ然ラズシテ所謂保菌者タルモノニ於テハ或未知ナル機會ニ由リテ其攜帶スル所ノ腸室扶斯菌ハ發病原ヲナシ而シテ爾ク非定型的ノ病症ヲ發起スルコトアルヲ思ハシムルモノニシテ之ヲ夫ノ定型的ノ急性症ニ對比スレハ吾人ハ之ヲ慢性腸室扶斯乃至慢性腸室扶斯ニ因スル間質性肺炎ナリト爲サザルヲ得ズ果シテ然ラバ這

續々間質性肺炎特殊療法

圖 十 五 第



五六〇

腸部ニ壓痛アリ 內服藥前方

〇、一電氣膠樣水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

十月十二日 背部ニ異常ナク脾腫亦ナシサレ

ト盲腸部ハ尙ホ壓痛アリ

感作腸室扶斯ワクタン 〇、五

右皮下ニ注射ス

十月十三日 兩背ノ全部ハ打音極メテ輕濁ニシテ呼吸音ハ右背全部

ト左肩胛間部中央以上

トニ弱シ盲腸部ハ打音ニ異常ナクシテ壓痛アリ

內服藥前方

電氣膠樣鐵 二、〇

佐氏煎(八、〇) 二〇〇〇

苦味丁 三、〇

右一日三回二分服

〇、一電氣膠樣水銀 一、五

右皮下ニ注射ス

十月十六日 背部ニ異常ナク脾腫ナク肝腫大ス

感作腸室扶斯ワクタン 〇、六

右皮下ニ注射ス

以下治療中

鹽苦沃劑

前方

般ノ病症ハ縱令如何ナル病型ヲ爲スト雖モ一ビ之ヲ腸窒扶斯ナリト診定スルニ於テハ當然法規ニ從ツテ之ヲ處置セザル可カラザルモノナル可シ然レモ實際ニ其病者ノ情況ヲ觀察スレバ或ハ無熱ナルアリ或ハ其熱候ニ介意セズ日常ノ業務ニ從事スルアリ或ハ多少ノ熱候ノ久シク繼續スルモ管ニ其熱型ノ不定ナルノミナラズ所謂待期的治療ヲナサザルアリ故ニ如何ニ法規ニ忠實ナルモノト雖モ之ヲ其法規ノ下ニ拘束シ得ルモノナルニハ非ザル可シ況ヤ這般ノ症ノ顯著ナル肺癆病徴ノ下ニ潜在スルアリ又肺癆ノ治療的線作ノ結果トシテ終症スルアリ又單ニ腦神經衰弱症狀ノミヲ訴フルモノアルニ於テヤ吾人ハ之ヲ急性腸窒扶スト同一シテ之ニ其法規ヲ適用スルコト能ハザルニ苦マザルヲ得ズ茲ニ於テカ吾人ハ他ノ理由ト共ニ夫ノ法定傳染病中ヨリ腸窒扶ヲ控除スルノ至當ナルヲ高唱セザル得ス

腸窒扶斯病ヲ法定傳染病中ヨリ控除ス可キノ論

國家乃至爲政者ノ法律ヲ制定シ之ニ據リテ或種ノ傳染病ヲ限リテ國民ニ特殊ノ責任ヲ負擔セシムル所以ノモノハ抑如何ナル理由ノ存在スルモノナルヤ吾人ハ未ダ立法者ノ辯明ヲ聽取セザルヲ以テ之ヲ詳知スルニ非ズト雖モ其病症ノ狀況ニ據リテ觀察スレバ其傳染力ノ強盛ナルト其治法ノ不備ナルトハ蓋シ這般ノ疾病ノ發生ヲシテ可及的一小部ニ限局セシメテ而シテ之ヲ滅盡セント欲スルニ因スルモノナル可シ
由來微生物性疾病ハ一般ニ傳染性ヲ有スルモノナリト雖モ其傳染力タルヤ微弱ナルモノアリ強烈ナルモノアリ又其病勢タルヤ輕キモノアリ重キモノアリ而シテ其傳染力ノ微弱ナルモノタルヤ必ズシモ其病症ノ輕キニ

非ス一ビ之ニ罹患スレバ管ニ容易ニ治療セザルノミナラズ甚シキハ死ニ至ルマデ尙ホ治セザルモノアリ其傳染力ノ強烈ナルモノタルヤ必ズシモ其病症ノ重キヲ期ス可キニ非ズシテ輕易ニ經過スルモノ亦敢テ少ナキニ非ズ此故ニ特ニ或種ノ傳染病ヲ法定セシ所以ノモノハ其病症ノ輕重ヲ以テ區別セルモノニハ非ズ其傳染力ノ強烈ナル病症ハ若シ病者ノ監視ニシテ周到ナル用意ヲ缺クニ於テハ其病毒ハ四圍ニ散亂シ而シテ之ガ爲ニ或ハ屋内傳染ヲ致シ或ハ一部落乃至一郷ニ傳播シ甚シキハ一郡乃至國內ニ蔓延シテ其慘害ノ豫測スルコト能ハザルニ因スルモノナルハ敢テ茲ニ詳述スルコトヲ要セズシテ既ニ明カナリト雖モ然レドモ一昨年來多大ノ勢力ヲ以テ流行狀ニ發生シ世人ノ目シテ流行性感胃ト爲セシ所ノ病症ノ如キハ其傳播力ハ猛烈ニシテ少時ニ國內ニ蔓延シ其病勢ハ重惡ニ陥リ易スクシテ之ガ爲ニ死ニ歸セシモノ敢テ少ナカラザリシハ其慘害ノ甚シキ決シテ法定傳染病ニ讓ルモノニ非ズト雖モ流行ノ反覆シテ來ルニ拘ハラズ之ヲ法定傳染病中ニ編入セザルニ據リテ觀レバ所謂法定傳染病ヲ設定セシ所以ノモノハ蓋シ人爲ヲ以テ其病毒ノ蔓延ヲ防ギ病者ヲ局地ニ制限シ得ルノ病症ニ對スル豫防方策ヲ講ズルモノニ過ギズシテ人力ヲ以テ其流行ヲ阻止スルコト能ハザルノ病症ニ向テハ之ヲ根治スルコト能ハザルモノナルヲ告白スルモノト謂ハザルヲ得ズ
夫レ人體ハ疾病ノ器ナルヲ以テ終生ニ互リテ病ヲ免ガルルハ殊ド絶無ナルモノナル可シ而シテ其疾病タルヤ病症ニ輕重アリ治療ニ難易アリ此故ニ其病症ハ輕微ナルモ之ヲ治スルノ藥餌ニシテ缺如センカ病者ハ絶ヘズ之ガ爲ニ安寧ヲ災害セラレテ復タ重患タルヲ失ハズ之ニ反シ其病症ハ重惡ニシテ之ガ爲ニ死ニ歸スルコト尠

ナカラザルモノト雖モ一朝治法ノ發見セラレテ其病初ニ之ヲ施セバ容易ニ除病シ得ルモノナルニ於テハ吾人ノ安泰ヲ害スルコト少ナキヲ以テ雷ニ輕病ニ屬セシム可キモノナルノミナラズ縱令傳染力ノ強盛ナル疾病ト雖モ從テ感染スレバ隨テ之ヲ治癒シ得テ既ニ其法定傳染病タルノ資格ヲ喪失スルモノナルヲ思ハザル可カラズ況キ輕キ病症ヲ以テ經過スルモ尙ホ完全ナル免疫性ノ成立スル所ノ疾病ナルニ於テハ一ビ之ニ輕ク罹患セシムルヲ以テ傳染性疾病ニ對スル豫防法ノ上乘ナルモノト爲ス可キモノナルニ於テヲヤ然ラバ乃チ傳染病ヲ法定セシ所以ノ原理ヲ考究スレバ單ニ傳染力ノ強烈ナルノ故ノミヲ以テ之ヲ論ズ可キモノニ非ズシテ寧ロ其治術ノ不備ナルハ其治病ノ遷延ヲ致シ治病ノ遲延ハ或ハ病者ヲ死ニ歸セシメ或ハ傳播ノ機會ヲ大ナラシメテ個人及ビ公衆ヲ慘毒スルコト甚大ナルヲ以テ爾ク之ヲ法治スル所以ノモノナリト斷定セザルヲ得ザルナリ所謂傳染病ニハ國內ニ恒存スルモノト恒存セザルモノトノ二種アリ今其國內ニ恒存スル所ノ傳染病ニ就テ傳染力ノ強弱ト病勢ノ輕重トヲ比較スレバ蓋シ腸窒扶斯ハ其尤者タルモノナル可シ此故ニ從來法定傳染病中ニ於テ殊ニ重視セラレシ所以ノモノハ敢テ謂ナキニ非ザルナリ然レドモ仔細ニ之ヲ考究スレバ夫ノ腸窒扶斯ハ其病毒タルヤ殊ド全國ニ瀰蔓シ都鄙ヲ論ゼズ其病原ノ深在スルヲ以テ隨時各地ニ於テ散在性ニ發生シ且縱令其傳染力ハ強烈ナリト爲スモ其傳播タルヤ多クハ屋内若クハ一二ノ部落ニ局セラレ夫ノ輸入傳染病ノ開港市街ニ發生シ次デ全國ニ蔓延スルガ如ク其原發セル病毒ヨリ國內ノ大流行ヲ來セルハ殆ド絶無ニシテ且腸窒扶斯菌攜帶者ハ全國民ヲ通シ極メテ多數ナルハ之ヲ否認シ得ヘキモノニ非ザルヲ以テ縱令法律ヲ以テ其病者ヲ

拘束シテ病毒ノ散亂スルヲ防止シ得ルト爲スモ斯病ノ發生ヲ抑止シ得ルモノニ非ザルハ明カニシテ既ニ法定傳染病タルノ資格ニ缺クル所アルハ之ヲ爭フ可キニ非ズ況キ斯病ニ對スル治法ハ既ニ發見セラレテ病初ニ之ヲ用ユレバ容易ニ之ヲ治癒シ得ルコト夫ノ感冒性鼻加答兒ニ比スルモ猶易々タルガ如キノ觀アルモノナルニ於テヲヤ從テ發生スレバ從テ治癒シ從テ傳染スレバ從テ瘳了セシメ得ルハ茶飯事ニシテ其病者ヲ害セズ其社會ヲ毒セザルノ底ニ至リテハ既ニ法律ヲ以テ其病者ヲ拘束セサル可カラザル所以ノ理由ハ全然亡失セシモノト謂ハザルヲ得ズ加之ナラズ從來間質性肺炎ノ急性發作時乃至今春流行ノ世人ノ所謂流行性感胃ニ於テ腸窒扶斯様疾病ノ併存スルモノ少ナカラザリシニ拘ハラズ其病狀ノ既定ノ腸窒扶斯タルノ病型ニ異ナルガ爲ニ世人ニ注意セラレザルアリ又夫ノ肺癆者ハ腸窒扶斯様疾病ノ併存スルガ爲ニ其熱候ヲ擾亂セラルルコト少ナカラザルモ亦世人ニ認識セラレザルアリ然レドモ其治病ニ支障アルヲ見ズ且又間質性肺炎乃至肺病患者ニ酸素的療法ヲ行フヤ往々發熱脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛ヲ起シ感作腸窒扶斯わくちんノ注射ニ據リテ此等諸症ノ亡失スルアリ然ル如キハ人爲的ニ攜帶菌ヲ溶崩セシメ而シテ斯ク腸窒扶新様病症ヲ惹起セシメモノナルヤヲ思ハシム況キ又慢性腸窒扶斯タルヤヲ思ハシムル所ノ病症ハ決シテ稀少ナルモノニ非ザルニ於テヲヤ其感作腸窒扶斯わくちんニ據リテ治癒スル所ノ病症ハ皆悉ク腸窒扶斯ナルヤ或ハ又他ノ病症モ之ガ作用ニヨリテ治スルモノナルヤノ斷定ハ姑ラク之ヲ舍キ傳染病ニ關スル法規ヲ勵行スルノ意味ニ於テハ苟クモ其腸窒扶斯タルヤヲ思惟スル所ノ病症ハ固ヨリ其法規ニ從ハザル可カラザルモノナリト雖モ爾ク之ヲ遵法センカ醫師及ビ國

民ハ其煩ニ堪ヘザル可ク假リニ國民ハ之ニ堪ユルト爲スモ國家ハ曾ニ其負擔ニ堪ヘザルノミナラズ之ニ據リテ利スル所ハ殆ド無ナルモノナル可シ何トナレバ這般ノ病者ハ恐ラクハ腸窒扶斯菌攜帶者ニシテ其攜帶菌タルヤ當時ハ無害ナルモ或機ニ際會スルアレバ病原作用ヲ生ジ而シテ宿主ヲシテ發病セシムルモノナルヲ以テ國家ハ多大ノ設備ヲナシテ之ヲ健人ヨリ隔離スルモ其攜帶スル所ノ菌ヲ殺滅スルノ治法ヲ有スルナキニ於テハ一生之ヲ拘束スルモ尙ホ足ラサルモノナル可シ然ル若キハ縱令富豪ナル國家ト雖モ恐ラクハ能ク之ヲ遂行シ得ルモノナルニ非ザル可シ故ニ若シ其法定ニシテ發病者ヲ拘束シ治癒者ヲ解放シテ攜帶菌ヲ願ミザルモノナルニ於テハ其菌攜帶者ハ多數ニ其發病者ハ頻繁ニシテ而シテ其治法ハ既ニ完備スルヲ以テ朝ニ拘束シテ夕ニ解放スレバ國家ハ其送迎ニ忙殺セラレテ剩ス所ハ唯是レ煩雜ナル手數ノミニシテ何等ノ幸福タモ之ヲ國民ニ附與スルモノニハ非ザル可シ是レ則チ廣ク國內ニ蔓延スル所ノ傳染性疾病ハ法律ノ力ヲ以テ其發生ヲ防止シ能フモノニ非ザルヲ説カザルヲ得ザルト共ニ夫ノ腸窒扶斯病ハ之ヲ法定傳染病中ヨリ控除セザル可カラザル所以ノ理ナルヲ唱道セザルヲ得ザルナリ

然リト雖モ腸窒扶斯病ハ尙ホ現時ニ於テ國內恒在性法定傳染病中ノ魁ヲナシ其罹病者ノ多キト其經過ノ長キト其死亡者ノ少ナカラザルトハ蓋シ個人乃至國家ニ對シ有形乃至無形ノ損害ヲ及ボスコトノ多大ナルハ周知ノ事實ニシテ公衆衛生上之ヲ法治スルニ非ザレバ其被害ノ擴大ス可キハ敢テ推知スルニ難カラザルモノナルガ如シ此故ニ之ヲ法定スル復タ敢テ惡キニ非ザルモノナル可シ然レドモ腸窒扶斯ノ爾ク猖獗ナル勢ヲ以テ發

生スル所以ノ理ヲ追究スレバ蓋シ斯病ハ其傳染力ノ強烈ナルノ故ノミヲ以テ之ヲ論ズ可キニ非ズ又其病毒ノ廣ク國民間ニ浸淫スルノ故ノミヲ以テ之ヲ斷ズ可キニ非ズ何トナレバ縱令斯病ノ病毒ハ普ネク國內ニ散布シ且其傳染性ハ旺盛ナリト雖モ既ニ合理的治法ノ發見セラルルアルヲ以テ斯病ノ發生ノ當初ニ於テ之ニ加療スレバ其病症ハ容易ニ治癒シテ決シテ現時ノ如ク之ガ爲ニ其被害ヲ蒙ル可キモノニ非ザレバナリ然ルニ其然ラザル所以ノモノハ蓋シ國民ノ疾病ニ對スル智力ノ乏少ナルハ其病初ニ一般病狀ノ輕微ナル間ハ之ヲ輕視シテ願ミズ漸ク重惡ノ症狀ヲ呈スルニ至リ始メテ診療ヲ求ムル弊ノ多少其病勢ヲ重カラシメ其治療ヲ困難ナラシムルノ傾キナキニ非ズト雖モ之レ唯些少ノ原因ヲナスノミニ過ギスシテ敢テ之ニ據リテ其被害ヲ大ナラシムル所以ノモノニハ非ザル可シ

惟フニ現代ノ醫人ノ腸窒扶斯ニ對スルヤ一般ニ其早期診斷ハ困難ナルモノナリト斷定シ病初ハ之ヲ不明ノ熱性病トナシテ加療シ漸クニシテういだる氏反應ノ現出スルノ時期ニ至ルヤ或ハ之ヲ檢シ又ハ其病症ノ重惡トナルニ至ルヤ茲ニ始メテ之ヲ腸窒扶斯ト斷定スルモノアリ或ハ此際ニ至ルモ尙ホ之ヲ不明ノ病症ナリト爲スモノアリ此故ニ縱令合理的療法ノ發見セラルルアルモ其腸窒扶斯タルヲ診定セラルルノ時ニ際シテハ既ニ加療ノ時期ヲ失スルヲ以テ縱令之ヲ用ユルモ其治效ノ不確實ナルヲ免カレズ之ヲ以テ自然ノ療能ニ一任シテ之ガ治癒ヲ期待スルヤ其經過ハ長クシテ時ニ不良ノ轉歸ヲナスモノアルナリ之レ則チ斯病ヲシテ其慘毒ヲ逞フセシムル所以ノ最大原因タラスンバ非ズ然ラバ乃チ腸窒扶斯ニ對スル合理的療法ハ既ニ完成スルモ其治效

タルヤ斯病ノ早期ニ於テ尙ホ未ダ腸ノ病變ノ甚シカラザルニ際シ之ヲ用ユルニ非ザレバ其確實ナル治效ヲ期スルコト能ハザルモノナリセバ醫人ハ之ヲ其早期ニ診療スルニ努メザル可カラザルモノナル可シ然ルニ現時ノ醫識ニテハ其早期診斷ハ抑不可能ナルモノナルカ若シ夫レ絶對ニ不可能ナルモノナリセバ國民ハ從來ノ施政ノ下ニ其法治ニ從ハザル可カラザルモノナル可シト雖モ若シ其早期診斷ノ不能タルヤ爲サザルガ故ニ能ハザルモノナリセバ醫人ハ其ノ職責トシテ其技術ヲ鍊磨シ其知見ヲ豊富ナラシメ而シテ後ニ之ヲ爲シテ其不能ヲ變ジテ之ヲ可能ニ爲サシメザル可カラザルモノナルト同時ニ國家ハ其爲政ノ責任トシテ國內ノ醫師ヲ指導シテ其知識ノ涵養ニ努メ其爲シ得ザリシ所ノモノヲシテ能ク之ヲ爲シ得ルニ至ラシメ而シテ醫師ノ技術ノ未熟ナルガ爲ニ來ス所ノ國民ノ不幸ヲ除去スルニ務メザル可カラザルモノナルニ非ズヤ醫ノ技術ノ未熟ナルガ爲ニ容易ニ治癒スル所ノ疾病ヲ治癒シ得ザルノ結果トシテ今ニ尙ホ腸窒扶斯ヲ法定傳染病ニ屬セシムルモノナルニ於テハ所謂其本ヲ治メズシテ其末ヲ治ムルモノニシテ國民ハ此不合理ナル負擔ニ堪ヘ得ベキモノニ非ザルナリ吾人ハ一日モ速カニ腸窒扶斯ヲ法定傳染病中ヨリ除去スルコトヲ望マザルヲ得ザルナリ

第十八章 本療法ノ顛

以上數章ニ於ケル論述ニ據リテ間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル酵素的療法ノ大要ハ略ボ之ヲ盡シタルガ如シト雖モ敢テ之ヲ以テ其治法ノ完結セルモノト爲スニハ非ズシテ唯予ノ實驗セル治績ノ一般ヲ示スノミニ過ギザ

ルナリ然リ而シテ其電氣膠樣劑ノ斯病ニ對スル治驗ニ至リテハ僅カニ既成ノ二三ノ製品ニ止マリテ悉ク之ヲ究メタルニ非ズ且他ノ金屬若クハ之ニ類スル所ノ物質ニシテ尙ホ未製ノモノノ少ナカラザルアリ又本病患者ニシテ本療法ニ由リテ除去スルコト能ハザル熱候ノ存スルアリ此故ニ其治驗ノ如キハ纔カニ其門ニ至リシニ過ギズト雖モ這般ノ製劑ノ斯病ニ對シテ卓越セル治效ノ存在スルヲ認識シ得タルト一般ニ電氣膠樣劑ハ其原料タルノ物質ニ差別アリ雖トモ其治效ヲ奏スルノ原理ニ至リテハ皆同一ニシテ唯其物質ノ性質ノ異ナルニ由リテ其酵素的作用ノ性質ニ多少ノ差異アルノミナルモ均シク斯病ニ治效アルモノナルヲ知得セルトハ蓋シ動ス可カラザルノ結果ナルヲ以テ若シ尙後ニ於テ或ハ其主成ノ膠樣製劑ノ治效ヲ考查シ或ハ膠樣製劑ノ其働作用ヲ驗知シテ其如何ニ配合シテ使用ス可キモノナルヤヲ知得スルニ至レバ蓋シ堂ニ升ルコトヲ得ルモノナルヲ所期シ得ザルニ非ザルモノナル可シ夫レ燈臺ニ於ケル一道ノ光明ハ能ク航海者ヲシテ暗夜ニ其航路ヲ知得セシメ而シテ之ヲ指導シテ之ヲ其彼岸ニ到達セシムルモ其航ス可キノ海路ハ之ヲ彼等ノ知能ノ撰擇スル所ニ委セザル可カラズ然ラバ乃チ本書ニ於ケル所ノ叙述ハ斯病ノ治療上ニ一大新路ヲ開拓シ而シテ其進ム可キノ針路ヲ教示スルモノナルモ之ヲ其實際ニ應用スルノ機知ニ至リテハ之ヲ讀者各自ノ知能ニ一任セザル可カラザルモノナルヲ以テ從テ多少其成績ノ異ナラザルヲ得ザルハ蓋シ免カルコト能ハザルモノナル可シト雖モ皆其治病ノ彼岸ニ到達セシメ得ルニ至リテハ蓋シ航海者ノ燈光ニ比スルコトヲ得ベキモノナルカ

本書ハ研究ノ順次ニ從ヒ其結果ニ據リテ執筆セルモノナリ今ヤ改メズシテ之ヲ梓行ス之ヲ以テ多少其記述ノ

複雑ニ陥ルアリテ其療病的主旨ノ一貫ヲ缺キ若シ燈光ノ判明ナラザルニ於テハ或ハ航ス可キノ針路ヲ認識シ難キノ難歎ナキニシモ非ザルモノナル可シ此故ニ重複ヲ厭ハズ更ニ茲ニ間質性肺炎乃至肺病ニ對スル所ノ本療法ノ顛末ヲ説述セント欲ス敢テ蛇足ヲ添ヘルモノニ非ザル可シ

抑間質性肺炎乃至肺病患者ハ其病狀複雑ナルモノナルヲ以テ一律ニ之ヲ概説スルコト能ハズト雖モ無熱病者ト有熱病者トノ二種ニ就テ其治法ノ大要ヲ叙述スレバ即チ大約之ヲ理解スルニ足ル可キモノナルヲ信ズ要ハ自究自得スルニアルナリ

其〇。熱候ナキ間質性肺炎乃至肺癆患者ニ對スル治則

一、本病患者ハ脾ノ腫大ノ併存スルモノ少ナカラズ而シテ這般ノ患者ハ本療法ヲ行フニ當リ體温ノ上昇ヲ來シテ其治療ヲ妨害スルモノナルヲ以テ之ガ治療ヲ開始スルニ際シテハ先ヅ其腫大ヲ減退セシメザル可カラズ然リ而シテ其脾腫タルヤ二種アリテ一ハ規尼涅ニ據リテ消失シ一ハ腸窒扶斯療法ニ頼リテ亡失スルモノナルモ其無熱病者ノ脾腫タルヤ多クハ麻拉里亞ニ因スルモノナルヲ思ハシムルモノナルヲ以テ先ヅ試ミニ規尼涅ヲ投與ス可シ

處方

鹽酸尼規涅

〇、五

右一包量朝夕一包頓服

二、肺ニ於ケル病變ノ極メテ輕微ナルモ其部位廣クシテ且脾腫ノ併存スルカ又ハ脾腫ト胃腸部ノ壓痛トヲ併存スル時ハ規尼涅ノ服用ヲ併用スルカ又ハ單獨ニ感作腸窒扶斯わくちんノ皮下注射ヲ試ム可シ而シテ感作腸窒扶斯わくちんハ這般ノ病者ニハ多量ニ注射スルヲ要セザルモノナルヲ以テ先ヅ〇、二cc乃至〇、二五cc比ヲ注射シ而シテ隔日ニ同量ヲ増加シテ三四回注射ス可シ但シ喀血アルモノ又ハ出血シ易キモノニハ注意シテ注射スルヲ要ス而シテ其脾腫ノ容易ニ消退セザルカ又ハわくちん注射ニ據リテ消失スルモ次デ再現スルモノニハ該わくちんヲ注射スルト同時ニ沃度ヲ服用セシメ且或期間ハ持續シテ之ヲ服用セシメザル可カラズ

處方

稀鹽酸

二、〇

沃度丁幾

十滴

苦味丁幾

四、〇

薑根丁幾

一、〇

橙皮舍利別

一〇、〇

薄荷水

一〇、〇

水

一〇〇、〇

右一日三回食事前半時二日分服

三、間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル先備的療法トシテハ連鎖狀球菌わくちんノ皮下注射ヲ行フベシ而シテ之ニ據リテ其肺ニ於ケル理學的變常ハ或ハ全然ニ亡失スルアリ或ハ大ナル部分ハ消失シテ一小部分ノ遺殘

續々間質性肺炎特殊療法

スルコトアリ或ハ一小部分恢復シテ大部分ノ貽殘スルモノアリ或ハ其理學的變常ハ頑トシテ毫モ變化セザルモノアルナリ

連鎖狀球菌わくちんハ予ノ石神傳染病研究所ニ依頼シテ製造セル特製わくちんカ又ハ星製藥株式會社第二號液ヲ左ノ比例ニ隔日ニ注射スベシ

注射第一回〇、一五^{cc} 第二回〇、三^{cc} 第三回〇、四—〇、四五^{cc} 第四回〇、五—〇、六^{cc}

注射療法ニヨリテ治癒スル所ノ肺ノ炎症ハ即チ連鎖狀球菌性肺炎ナルヲ知ルニ足ルベシ

四、間質性肺炎乃至肺癆患者ニシテ脾腫及ビ盲腸部ノ壓痛ノ併存スルモノニハ連鎖狀球菌わくちんト共ニ感作腸窒扶斯わくちんヲ注射スルヲ便ナリトス即チ左ノ如シ

注射第一回

連鎖狀球菌わくちん 〇、一五 感作腸窒扶斯わくちん 〇、一

右混和注射ス

注射第二回

連鎖狀球菌わくちん 〇、三 感作腸窒扶斯わくちん 〇、四

右混和注射ス

注射第三回

連鎖狀球菌わくちん 〇、四乃至〇、四五 感作腸窒扶斯わくちん 〇、六

右混和注射ス

注射第四回

連鎖狀球菌わくちん 〇、五乃至〇、六 感作腸窒扶斯わくちん 〇、六乃至〇、八

右混和シ注射スルカ又ハ胸部ノ前後二個所ニ注射スベシ

五、間質性肺炎及ビ肺癆患者ノ内服藥トシテハ最モ佐氏煎劑及ビ結劑ヲ可良ナリトナス然レドモ叙上ノ藥品ヲ有セザルカ又ハ結劑ヲ飲用シ得ザルモノニハ結劑何曹篤若クハ其製劑ヲ與フ可シ結劑阿曹篤製劑中ニテハ最モ炭酸ぐあやこーるヲ可良ナリトス

六 斯病ニ連鎖狀球菌わくちんノ注射療法ヲ行フ時ハ往々突然ニ發熱ヲ來シ而シテ從來存セザリシ脾腫ノ現出スルコトアリ然ル如キハ常ニ必ズ其麻拉里亞ニ因スルモノナルヲ想像スルニ足ル故ニ通規トシテ規尼涅ヲ投與ス可シ容易ニ解熱スルモノナリ由來發熱ハ病者ニ不安ヲ懷カシムルモノナルヲ以テ其注射療法ヲ行フノ期間ニ於テ若シ脾腫ノ顯出スルアレバ其發熱ニ先デ規尼涅ヲ投與シテ之ヲ防止スルヲ賢ナリトス之ヲ以テ本治療中ニハ常ニ脾腫ノ有無ヲ診査スルヲ怠ル可カラズ

七、間質性肺炎乃至肺癆ハ其經過中ニ恐ラクハ其毒素ノ作用ニ因スル續發症トシテ種々ノ病症ヲ併發スルコトアルモノナリ而シテ一般ニ其續發症狀トシテ常ニ來スモノハ衄血、咯血、喘息、瘵咳、胸水、腹膜炎、肝

臟腫大、月經過多若クハ子宮出血、稀ニ子宮筋腫多發性神經炎、腦神經衰弱、精神異常、蛋白尿、糖尿及ビ
 皮疹等ナリ故ニ本病者ヲ治療スルニ際シテハ此等諸症ニ對スル治療ヲ兼テ行ハザル可カラザルモノニシ
 テ既ニ叙上ノ治療例中ニ其一、二ヲ記述セシト雖モ其詳細ハ既著肺癆病論ニ論述セシヲ以テ之ヲ省略シ唯
 胸水ト咯血ノミニ就テ少シク之ヲ記述セントス然リ而シテ亦之レ肺癆ノ一分ナリト雖モ這般ノ續發症狀
 モ從來肺癆乃至肺結核ノ治療研究者ノ此等續發症狀ノ治療ヲ閉却セルハ予ノ解スルヲ得ザル所ナリス
 八、本病患者ハ其經過中ニ往々片側又ハ兩側ノ肋膜下腔ニ水液ヲ瀦溜スルコトアリ這般ノ水液ハ肺ノ上部
 ニ於ケル炎症ノ當該被覆肋膜ニ波及シ滲出機ヲ生ゼシメ而シテ其部ニ滲出セル水液ノ流注シテ下位肋膜
 ニ瀦溜セシモノニシテ即チ胸水タルナリ故ニ胸水ト同ジク移動性ニ富メルハ之ヲ滲出性肋膜炎ノ滲液ヨ
 リ區別スルコトヲ得ベシト雖モ由來該液タルヤ炎症性ノ滲出液ナルヲ以テ若シ久シク其部ニ瀦溜スルニ
 於テハ或ハ其部ニ發炎セシメ或ハ肺組織ヲ壓迫シテ其彈性ヲ減少セシメ而シテ其移動性ヲ亡失セシメテ
 滲出性肋膜炎ト區別シ能ハザルニ至ルモノナキヲ保ス可カラズ之レ從來陳舊肋膜炎乃至結核性肋膜炎ト
 診定セラレシモノナリトス然リ而シテ這般ノ水液ハ腸ノ上位ノ炎症ヲ消褪セシメテ其滲出ヲ防止スレバ
 自然ニ容易ニ吸收セラルルモノナルヲ以テ舊時ノ治療ノ如ク撒曹又ハ沃剝等ヲ要セズ單ニ連鎖狀球菌
 ぐらんヲ注射スレバ速カニ亡失スルモノナリトス
 又肋膜ニ癒着アルヲ思ハシムルノ症ニ於テハ上胸部又ハ前胸部ニ瀦水ヲ來スコトアリ然ル時ハ普通ノ本

病者ト異ナリ該部ノ濁性ノ濃厚ナルニ據リテ之ヲ想像シ得ベク又時トシテハ胸部ノ皮下若クハ腋窩等ニ
 流注スルコトアルナリ

九、斯病ノ病初ニ來ス所ノ血痰乃至咯血ハ縱令反覆シテ之ヲ來スコトアルモ畢竟肺ノ炎症部ニ於ケル組織
 間溢血ナルヲ思ハシムルモノナルヲ以テ敢テ怖ル可キモノニ非ズ故ニ其出血ニハ患者ヲ安靜ナラシメ而
 シテ必要アレバ咳嗽ト精神トヲ鎮靜ナラシムルノ目的ヲ以テ輕量ノ莫爾比涅ヲ投與ス可シ某書ニ記スル
 ガ如ク此際多量ノ莫爾比涅ヲ用ユル時ハ或ハ血管ヲ擴張セシメテ却テ止血ノ目的ニ反戾スルモノナルヲ
 思ハザル可カラズ

處方

一〇 鹽酸莫爾比涅液

1.0

右皮下ニ注射ス

組織間ノ溢血ニ對スル止血ノ要ハ局部ノ充血乃至炎症ヲ減退セシムルニ在ルナリ故ニ最モ佳良ナルハ連
 鎖狀球菌ぐらんノ注射ナリトス然レドモ若シ其出血後ニ發熱スルカ又ハ精神的打撃ノ爲ニ心臟ノ衰弱
 ヲ來シ脈搏頻數ニシテ且脈力ノ微弱ナル時ハ小循環ニ鬱血ヲ惹起セシメ而シテ其出血ヲ助成スルノ嫌ヒ
 ナキニ非ザルモノナル可シ此故ニ這般ノ病者ニ對シテハ叙上ノ作法ヲ施スト同時ニ實答利斯ヲ投與シ
 且脈數ヲ減少セシムルガ爲ニ斯篤里規尼涅ヲ用ユベシ從來藥物學者ハ實答利斯ヲ以テ咯血ニ禁忌ス可

續々同質性肺炎特殊療法

キモノナリト説クト雖モ之ニ止血的藥物作用ノ解説ノ誤認ニ基ク所ノ空論ナルヲ以テ實地治療醫ハ之ヲ奉遵セザル可カラザル要ノ存スルモノニハ非ザルナリ

處方

實菱答利斯浸 (一、〇—二、〇)

一〇〇、〇

ストロファンツス丁幾

二、〇

杏仁水

八、〇

單舍利別

一〇、〇

右一日三回乃至六回二日分服

一〇硝酸斯篤里規尼涅液〇、三乃至〇、五cc

右皮下ニ注射ス

出血頑固ニシテ容易ニ止血セズ而シテ若シ脾腫ノ存在スルモノナル時ニハ規尼涅ヲ試ム可シ生理的食鹽水ノ皮下注射亦著效アリ

之ヲ要スルニ輕微ノ血痰乃至咯血ハ特殊ノ治療ヲ用ユルヲ要セズ患者ヲ安臥セシメ咳嗽ヲ鎮靜セシメ而シテ單ニ連鎖狀球菌わくちんヲ注射スルノミヲ以テ之ヲ治スルニ足ルモノナリ

十、間質性肺炎乃至肺癆ノ新鮮ナル症ハ連鎖狀球菌ニ因スル炎症若クハ腸窒扶斯菌ニ因スル炎症又ハ此二種ノ炎症ノ混合セルモノナルガ故ニ其病初ニ於テハ單ニ此等わくちんノ注射ノミヲ以テ之ヲ治療セシム

ルコトヲ得ルニ足ルモノナリト雖モ既ニ其然ラズシテ已ニ他ノ混合傳染ヲ致セシモノニ於テハ其混合傳染ニ因スル炎症ハ此等わくちんノ治效ノ及ブベキモノニ非ザルヲ以テ更ニ之ニ對スル所ノ消炎的治療法ヲ索メザルベカラズ然リ而シテ此等混合傳染ノ如何ナル性質ノモノナルヤハ之ヲ他ノ研究者ニ一任セザルベカラズト雖モ之カ治療劑トシテハ電氣膠樣劑ヲ以テ最モ優秀ナルモノト爲サ、ルベカラズ

十一、斯病ニ連鎖狀球菌わくちんヲ注射スルコト四五回ナル時ハ之ニ因ル所ノ炎症ハ消退シ他ノ混合傳染ニ因ル所ノ炎症ハ依然トシテ遺殘シ而シテ其遺殘スル所ノ肺ノ理學的變常ハ多クハ叙上ノわくちんノ注射ニ據リテハ治療セザルモノナルヲ以テ之ガ消炎症トシテハ電氣膠樣劑ヲ用ユベシ而シテ電氣膠樣劑劑タルヤ皆悉ク其膠樣粒子ノ酵素的作用ヲ以テ其發炎原タル所ノ微生物ヲ溶崩セシメテ之ガ治效ヲ呈スルモノナルヲ以テ諸劑殆ド其治效ヲ同フシ唯其製劑ノ品質ノ異ナルニ據リテ多少其治效ニ差異アルノミニ過ギザルモノナルガ如シ

十二、電氣膠樣劑ノ原料タルヤ其品類ハ甚ダ多クシテ既成ノ製品ハ僅カニ其一部分タルノミニ過ギズ此故ニ未來ニ於テ如何ナル製品ノ供給サル、モノナルヤハ之ヲ豫知ス可キニ非ズ然レドモ其製劑ニシテ毫モ有機化スルコトナク唯單ニ酵素的作用ノミヲ營爲シテ吾人ノ體內ヲ謝出スルモノナリトセバ如何ナル品質ノ製劑ト雖モ皆悉ク之ヲ斯病ニ用ヒテ其治效ヲ期待スルニ足ルモノナルヤ明カナル可シ然レドモ若シ其製劑ニシテ多少有機化スルノ傾向アルモノナリセバ其品質ノ特殊ナル作用ハ吾人ノ組織細胞ニ有害作

續々間質性肺炎特殊療法

用ヲ呈スルナキヲ保ス可カラズ之レ臨床家ノ注意セザル可カラザルノ件ナリトス

十三、既成ノ電氣膠様劑ニシテ主トシテ斯病ノ實驗ニ供セシモノハ銀、水銀、銅、鐵ニ過ギズ而シテ此等膠様劑ノ臨床ノ實驗ハ既ニ上章ニ説述セルガ如クニシテ之ヲ概言スレバ其品質ハ異ナルト雖モ其治效ハ略ボ同一ニシテ之ヲ單獨ニ用ユルヤ之ニ因リテ治スルノ病症アリ之ニ由リテ治セザルノ病症アリ其治スルノ病症ト雖モ或ハ比較的ニ治療日數ノ長キヲ要スルモノアリ之ヲ以テ或ハ一二ノ製劑ヲ交代ニ注射シ或ハ三四ノ製劑ヲ混合シテ注射セシニ幸ニシテ其加療日數ハ單味ノ注射ニ比シテ短縮シ得ルモノナルヲ知得セルト共ニ其單獨ノ注射ニテハ治癒セザル所ノ病症モ亦之レニ據リテ治效アルノ利ナルモノタルコトヲ窺知スルヲ得タリ然レドモ尙ホ之ニ據リテ治セザル所ノ病症アルハ未ダ本療法ノ徹底的ニ完成セルモノト稱スルコトヲ得ザル所以ナリトス此故ニ尙後ニ本療法ノ研究ヲ試ミント欲スルモノハ其既知及ビ未知ノ膠様劑ヲ如何ニ使用スルヲ以テ斯病ノ治療ニ最モ有利ナルモノナルヤヲ研鑽スルニ在ルナリ蓋シ微生物性疾病ノ病原體ヲ吾人ノ體內ニ於テ溶崩スルハ唯酵素的作用ノ一アルノミナレバナリ

十四、電氣膠様水銀若クハ化學的水銀劑ハ斯病ニ著效アリ然レドモ其治療中ニ往々發熱ヲ致シ發熱ト共ニ脾腫若クハ脾腫ト盲腸部ノ壓痛トヲ來スコトアルハ本病者ノ治療中ニ其經過ヲ擾亂スル所ノ最モ不快ナル偶發症ナリト謂ハザルヲ得ズ然リ而シテ這般ノ偶發症ノ感作腸室扶斯わくらんノ微量ノ注射ニ據リテ亡失スルニ由リテ觀レバ蓋シ水銀ハ腸管内ニ於テ腸室扶斯菌ヲ溶崩スルノ作用ヲ有シ而シテ這般ノ病者

ハ恐ラクハ腸室扶斯菌攜帶者ニシテ而シテ其所用ノ水銀劑ノ腸管内ニ至ルアレバ即チ之ガ爲ニ其攜帶菌ノ溶解セラル、ニ由リテ斯ク發症スルモノナルヲ思ハザルヲ得ズ上章本病者ニ慢性腸室扶斯ノ併存スルコト少ナカラザルモノナルヲ叙説セシニ想到セバ爾ク之ヲ解説スルモ敢テ不當ノ言辭タルニハ非ザルモノナル可シ

十五、電氣膠様銀ハ斯病ノ理學的變常ヲ治スルノ作用ハ恐クハ微弱ナルガ如シ然レドモ之ヲ電氣膠様水銀ト交代ニ用ユル時ハ其治效ヲ増強スルモノナリ

十六、電氣膠様銅ハ斯病ノ炎症ヲシテ増悪セシムルモノナルガ如シ此故ニ肺ニ於テハ其患部ノ廣袤ヲ増シ濁性ヲ濃厚ナラシメ且從來存セザリシ水泡音ヲ新生セシメ或ハ既存ノ水泡音ヲ増加セシメ又腹膜炎ノ潜在スルモノ若クハ腸潰瘍アルヲ思ハシムルモノニ於テハ或ハ濁音壓痛抵抗ノ増加等ヲ生ゼシメ或ハ自發痛、下痢等ヲ發セシムルコトアルナリ而シテ這般ノ病狀ハ膠様銅ノ或病原體ニ作用シ其反應トシテ炎症ヲ増強セシムルニ因スルモノナルカ又ハ直接ニ發炎セル組織ヲ刺戟シ以テ其炎症ヲ増悪セシムルモノナルヤハ予ノ未ダ知ラザル所ナリ

電氣膠様銅ハ爾ク病竈部ノ炎症ヲ増悪セシムルモノナリト雖モ間質性肺炎乃至肺癆ノ他ノ膠様劑ノ注射ニ對シ浸潤症狀ノ頑強ニ存續スル際ニハ他ノ膠様劑ニ併用シテ電氣膠様銅ヲ注射スル時ハ其浸潤症狀ノ消退ヲ催進スルノ效アルモノナリ但シ此際ニハ始メハ微量ヲ注射シ而シテ徐々ニ微量ヲ増加シテ注射

シ若シ膠様銅ノ注射ニ由リテ浸潤症狀ノ増悪ヲ致スアレバ他ノ膠様劑ヲ以テ其炎症ノ膠様銅注射時ノ狀況若クハ其以上ニ消退スルニ至ルニ非ザレバ再ビ膠様銅ノ注射ヲ行フベカラズ然レドモ其重惡ノ症ニ於テハ發熱スルガ爲ニ之ヲ使用シ得ザルコトアルナリ

電氣膠様銅ハ斯病ノ炎症ヲ刺戟シ之ヲ増悪セシムルノ性アルモノナルヲ以テ吾人ハ之ヲ利用シ此作用ニ據リテ間質性肺炎乃至肺癆患者ノ肺ノ病竈部ノ治療セシヤ否ヤヲ檢知スルノ用ニ供スルコトヲ得ルモノナルガ如シ何トナレバ本病者ニ他ノ治療ヲ施シ漸クニシテ其理學的變常ノ亡失シテ健常ニ復セシヤヲ思ハシムルニ至ルモ唯之レ其炎症部ノ狹小セシ比較的治療タルニ過ギザルモノニシテ敢テ其全治セルノ徵タルニ非ズ蓋シ吾人ノ日常ニ用ユル所ノ所謂理學的診査ナルモノハ一ノ限度アリテ或廣袤ヨリ狹小ナルカ又ハ或厚徑ヨリ菲薄ナル所ノ病的變化ハ打音及ビ呼吸音ニ變化ヲ呈セザルモノナルヲ以テ吾人ハ之ヲ診知シ得ルモノニ非ザレバナリ此故ニ其診斷の能力以外ニ狹小セル病變ヲ診知スルノ方策トシテ膠様銅ノ〇、五cc乃至〇、七五cc乃至二、〇ccヲ這般ノ病者ノ皮下ニ注射スルニ若シ從來存セシ患部ニ再ビ理學的變常ノ現出スルニ於テハ明カニ狹小ナル炎症ノ存在セシヲ示スモノナルヲ以テ更ニ之ニ加療シ次デ理學的變常ノ亡失スルニ至レバ亦膠様銅ヲ注射シ斯ノ如クニシテ膠様銅ヲ注射スルモ毫モ理學的變常ノ發現セザルニ至レバ略ホ其炎症ノ治療セシモノナルヲ假想スルニ足ルモノナル可シ然レドモ其治療タルヤ尙局部ノ微弱ナル炎症ノ潜伏スルコトナキヲ保スルコト能ハザルモノナルヲ以テ引續キ或期間ハ其治療

ヲ重ネ且其全治ヲ思ハシムルモノト雖モ休療後或期間ハ之ヲ監視スルノ要アルモノナル可シ

本病者ニ電氣膠様銅ヲ用ユル時ハ時トシテ發熱ト共ニ脾臟ノ腫大ヲ來スコトアリ而シテ這般ノ發熱脾腫ハ規尼涅ノ服用ニ據リテ亡失スルヲ觀レバ蓋シ其麻拉里亞ニ因スルモノナルヲ思ハザルヲ得ズト雖モ麻拉里亞ト銅劑トノ間ニ如何ナル關係ノ存スルアリテ爾ク發症セシムルモノナルヤハ不明ナリ

十七、電氣膠様鐵ハ斯病ノ炎症ヲ消退セシムルノ作用ノ稍確實ナルヲ思ハシムルモノナルヲ以テ電氣膠様水銀及ビ電氣膠様銅ト共ニ蓋シ斯病治療上ニ最モ有用ナルモノナル可シ加之ナラズ若シ膠様製劑ニシテ多少有機化スルコト製造者ノ説ク所ノ如キモノナリセバ頻繁ニ貧血症狀ヲ伴フ所ノ斯病ノ治療劑トシテハ蓋シ理想的ノモノナリト謂ハザルヲ得ズ

十八、電氣膠様金及ビ白金ハ所謂膠様合劑トシテ斯病ノ治療ニ使用セリト雖モ之ニ關シテハ未ダ知ル所アラズ

十九、電氣膠様劑ヲ斯病ノ治療ニ用ユルニハ其有效價ノ最低量ヲ隔日ニ注射スルヲ良トス何トナレバ急性ノ疾病ハ之ヲ急速ニ治療セシメザル可カラザルノ目的ヲ以テ多少ノ反應症狀ハ之ヲ豫期シテ或ハ一回又ハ二三回ニ或多量ヲトリテ之ヲ靜脈内ニ注入セザル可カラザル要ノ存スルモノナルハ之ヲ知ルニ難カラザルモノナル可シト雖モ斯病ノ如キ慢性病ニ於テハ既ニ體組織ノ抵抗力ノ衰弱ヲ致スアリ肺組織ハ其慢性炎症ノ爲ニ自然ノ治療機能ノ減退シ且増殖セル間質結締織ハ一定ノ時日ヲ經過スルニ非ザレバ之ガ退

行的治癒機轉ヲ營爲スルモノニ非ザルナリ故ニ之ヲ治癒セシムルニハ用藥以テ漸次ニ其體組織ノ抵抗力ヲ恢復セシムルト同時ニ其炎症部ノ充血ヲ減退シ次第ニ其炎症ヲ亡失セシメテ以テ癒痕様ノ治癒ヲ催進セシムルモノニ非ザル可カラズ然ルニ之ニ反シ若シ藥力ヲ以テ患部ノ炎症ヲ增強セシメンカ其炎症ノ強劇ナルニ於テハ間質結締織ノ腫脹シテ肺胞ヲ壓迫スルニ因スル呼吸面積ノ減少乃至細小氣管枝粘膜ノ腫脹ニ因スル氣道ノ狹窄又ハ閉塞ハ更ニ小循環ノ血行障礙ヲ誘發シテ胸内若悶呼吸困難ヲ來シ甚シキハ粟粒結核様ノ症狀ヲ呈スルニ至ルモノ亦無キニシモ非ザルモノナル可シ予ハ一回這般ノ病者ヲ實驗セシコトアルナリ況ヤ其反應ニヨル體溫ノ昇騰ハ管ニ病者ヲ苦惱セシムルモノナルノミナラズ其治療ニ恐怖ノ念ヲ生ゼシムルノ不利アルモノナルニ於テヤ一週乃至二週ニ一回ノ注射的反應ナリセバ又或ハ之ニ耐ヘ得ルモノナル可シト雖モ短日間ニ之ヲ反覆スルニ於テハ患者ハ能ク之ニ堪ヘ得ルモノニハ非ザルナリ此故ニ一時ニ多量ノ藥材ヲ注射スルハ其治療ニ利スル所ナク假令適量ト雖モ之ヲ血行内ニ致シテ其作用ヲ急劇ナラシムルモ復タ其治療ニ益スル所ナキモノナリ由來治病ノ要ハ速效ヲ尊ブ可キモノナル可シト雖モ其遲速タルヤ病症ニ據リテ之ヲ定メザルモノナル可シ之ヲ以テ斯病ノ如ク其經過ノ極メテ慢性ニシテ且從來ハ殆ド其治療ノ困難ナリシ所ノモノニ於テハ固ヨリ其遲速ヲ論ズ可キモノニ非ズシテ既ニ其治療ノ當初ヨリ之ガ治療ニハ相當ノ日子ヲ要スルモノナルヲ豫メ覺悟セシメザル可カラザルモノナルヲ以テ多量ノ藥汁ヲ使用シ急速ニ其治效ヲ收メント爲ス可キモノニ非ザルナリ況ヤ之ガ爲ニ危險ヲ來スコト

アルヲ豫期シ能ハザルモノナルニ於テヤ之ヲ以テ本療法ハ其微量ヨリ注射シ始メ徐々ニ増量シテ而シテ其有效價ノ最低量ヲ隔日ニ皮下ニ注射シ以テ或有效量ノ藥汁ヲ其體液内ニ飽滿セシム可ク之ヲ期セザル可ラザルモノタルナリ然ルニ現時市上ニ存スル膠様製劑ハ刺戟性强クシテ皮下注射トシテハ佳良ナラズ此故ニ吾人ハ夫ノ保護膠質劑ヲ改良シテ其刺戟性ヲ減少セシム可ク之ガ研究ニ從事セラレンコトヲ製藥者ニ望マザルヲ得ザルナリ

廿、電氣膠様製劑ハ其動物試驗ノ結果ニ據レバ動物乃至人體ニハ全然無害ナリト然レドモ由來動物試驗タルヤ管ニ人獸ノ其性質ヲ異ニスルノ故ヲ以テ其結果ヲ同一視ス可キモノニ非ザルノミナラズ夫ノ動物試驗タルヤ之ヲ健獸ニ行ヒ吾人ノ之ヲ治療上ニ用ユルヤ常ニ必ズ之ヲ病者ニ於テス假リニ人獸其性ヲ同フスト爲スモ健疾ノ別ルル所ハ其相隔ルコトノ遠キヤ必ズシモ其結果ノ同一ナルヲ期シ得ベキモノニ非ズ況ヤ吾人ハ其個體ニ於テ性質ヲ異ニシ所謂特異質ノ存スルアルハ既知ノ事實ニシテ其病者ニ於テハ既ニ病毒ノ爲ニ神身ノ衰弱ヲ致シ組織細胞ノ抵抗力ノ減衰ハ亦其個體ニ於テ相同ジカラザルモノナルニ於テヤ故ニ膠様製劑ハ假令動物ニ於テハ無害ナリト爲スモ之ヲ輕信シテ吾人ノ病體ニモ復タ無害ナリト爲ス可キモノニ非ザルナリ而シテ予ハ一回體質ノ薄弱ナル十六歳ノ男子ニ混合膠様劑一、〇ccヲ注射シ皮下溢血、衄血、腸出血、急性腹膜炎ニ類スル病狀急性貧血及ビ全身浮腫等ヲ來シ終ニ心臟痲痺ニテ死ニ歸セルノ實驗アリ然ル若キハ血球溶崩症ニ非ザルヤヲ疑ハシム又膠様製劑ノ注射後ニ稍強キ腹痛ヲ起セシ

二例アリ而シテ其腹痛ノ如キハ何ニ因セシモノナルヤハ不明ナルモ兎ニ角膠様製劑ハ絶對的ニ無害ノモノニ非ザルヲ豫知セザル可カラザルノ要アルナリ故ニ其治療時ニ際シテハ常ニ患者ノ狀況ニ注意セザル可カラザルモノナルト共ニ其用量ニモ亦注意セザル可カラズ殊ニ衰弱セル病者ニ於テ然リトス

廿一、從來某治療劑ハ初期肺癆ノ何ぶろせんニ治效アリシト報告スルモノ少ナカラズ這般ノ治效ハ肺癆患者ノ病狀ヲ如何ナル狀況ニ全治又ハ輕快セシメシモノナルヤハ自ラ之ヲ檢知セザルヲ以テ不明ナルモ從來肺癆ノ治療ヲ期待スルニ病竈部ノ周圍ニ石灰ヲ沈着セシメ堅壁ヲ以テ健康組織ト遮斷シ假令結核菌ハ其堅壁内ニ生存スルモ病毒ヲシテ健康組織ヲ毒スルコトヲ得ザラシムルコト猶ホ夫ノ孤立結核ノ如クニ至ラシムルニ在ルヲ説クモノナルガ如シ夫レ其治肺癆劑ノ治效ニシテ初期肺癆ノ浸潤症狀ヲ亡失セシムルコト能ハズシテ之ヲ貽殘シ而シテ漠然トシテ豫期スルコト能ハザルノ石灰沈着ヲ自然ノ一方ニ望ムモノナリセバ縱令其治效ハ一般症狀ノ亡失若クハ輕快ヲ致シ且其外貌ヲ恢復シテ佳良ナラシムルモ真正ナル意味ニ於テ之ヲ治療セルモノナリト認ムルコト能ハズ恰モ家屋ヲ修繕スルニ當リ其腐朽セル土臺乃至柱棟ニ加工セズシテ其四壁ヲ美ナラシムルモノト擇ブ所ナキニ非ズヤ修治ハ即チ修治ナル可シト雖モ唯之レ一時ヲ糊塗スルノミ須臾ニ災害ノ却テ舊時ニ倍スルアルナリ況ヤ其白ぶろせんニ治スルコト能ハザルモノナルニ於テヲヤ斯病ハ縱令難治ト雖モ其初期ノ病症ニ於テハ悉ク之ヲ治シ得ルモノニ非ザレバ以テ完全ナル肺癆療法ト爲ス可キモノニ非ザルナリ

廿二、肺ニ於ケル炎症ノ治療ハ通規トシテ其浸潤症狀ヲ全然ニ亡失セシメテ理學的診法ニ據リテハ之ヲ知得スルコト能ハザル底ニ恢復セシム可キモノナリ之レ完全ノ治療タルナリ然リト雖モ其炎症ノ慢性ニ經過セシ程度ニ據リテハ間質結締織ノ増殖ニ強弱アリ或ハ組織ノ崩壞ノ之ニ伴フアリテ其病狀ノ等シカラザルハ其治療ノ必ズシモ同ジカル可キモノニ非ズト雖モ要スルニ増殖ノ輕微ナルモノ、治療ニ於テハ容易ニ浸潤症狀ノ亡失シ而シテ縱令患胸ニ萎縮ヲ來スモ癥痕様ノ治痕ヲ徵知シ得ベキモノニ非ズ其増殖ノ稍重惡ナルモノ、治療ニ於テハ之ガ癥痕ノ收縮ヲ營爲セシムルニハ縱令之ガ督勵ニ努ムルモ相當ナル加療日數ヲ要スルハ自然ノ約束ニシテ幸ニシテ浸潤症狀ノ亡失スルニ至ルモ或ハ癥痕收縮ノ結果トシテ細小氣管枝ノ擴張ヲ來スアリ若シ癥痕症狀ノ過大ナルニ至リテハ其理學的變常ハ全然ニ亡失セシメ得ベキモノニ非ズ況ヤ空洞症狀ノ之ニ隨伴スルコトアルモノアルニ於テヲヤ此故ニ重惡ナル病症ニ於テハ臨床上ニ其全治ヲ證明スルハ困難ナルモノアリト雖モ初期ノ病症ニ於テハ臨床ニ其完全ナル治療ヲ知得スルコト敢テ難キニ非ザルベシ

廿三、間質性肺炎乃至肺癆ニ對スル本療法ハ輕微ノ症ニ於テハ病者ノ約百ぶろせんニ其患部ニ治療ヲ留メザル底ニ完全ニ治療スルコトヲ得ルモノナリ故ニ初期ノ無熱病者ニ於テハ其治法ノ完成セルヲ誇ルニ足ルベシ然レドモ重惡ノ症ニ於テハ必ズシモ其全治ヲ期スルコトヲ得ズ殊ニ體力ノ衰憊セルモノニ於テハ既ニ其體組織ニ恢復力ノ耗盡セルモノナルヲ以テ縱令肺ノ病狀ハ輕快スルノ傾キアルモ其轉歸ヲシテ